カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十円

我らの主イエズス・キリストの御降誕と一九五八年の新年を謹んでお祝い申し上げます

激動する国内、国外の情勢にゆすぶられて、息つくひまもない程に、あわただしく一年を過してきたわたくしたちの前に、また新しい年がへめぐつて参りました。

時勢の激しい混乱と、公私の生活の複雑さのために、自分をかえりみるいとまのないわたくしたちも、この年のきれ目を利用して、静かに自分のゆくてと今いる状態とを観察してみたいものであります。

わたくしたちを取りかこむ事件が余りにも多く、余りにも重大なのに目を奪われ、心をまひさせられているために、自分たちの心の中の空虚さに気ずかなくなつているのを恐しく思うのであります。この世の中に起るすべてのものは、時の流れと共に消え去つてゆくものでありますが、わたくしたちの魂は、外の変化とは逆に、永遠に向つてますます成長し続けるべきものであります。

このような激変の中に迎える新年であればこそ信仰の光に照らされて、ゆるぎなき希望を保ちつつ、遂には永遠の御国に入るにふさわしいものとなれますよう、福岡、宮崎両教区の信者諸子、本紙愛読者の皆様の上に、天主様の祝福を贈ります

一九五八年一月元日

福岡司教
宮崎教区長　ドミニコ深堀　仙右衛門

永久聖体礼拝　一月

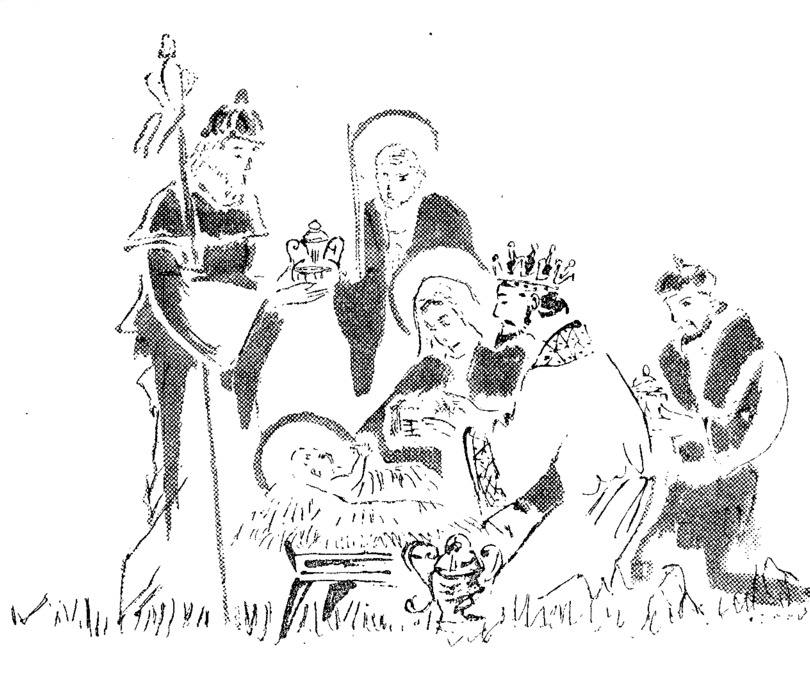
第一日曜	サン・モール会
第二日曜	大名町教会
第三日曜	門司教会
第四日曜	カリタス会（宮崎） 宮崎教会 大牟田教会

祈禱の使徒会　―一月―

〔一般の意向〕　全キリスト教徒の一致のため。

〔布教の意向〕　日本におけるキリスト教の理解のため

〔布教委員会の意向〕　信者の家庭特に新信者の家庭における信仰生活の向上と聖化のため。



地のもろもろの王は幼児を拝まん

世の光

神への希望

今次世界大戦の終り頃、ドイツ秘密警察によるユダヤ人狩りを巧みに逃れて、知人宅の屋根裏に約二年を過したアンネら八人の受難記は、それから十年ほどたつた今日の全人類の象徴か縮図のように思われ、興味本位では読み過せないものを含んでいる。そして十三四才のもつとも変り易い頃の少女が、感じたままに記していつたその日記は「人生はいかに生くべきか」という永遠の問に対する、むつかしい理論や説明以上に、勝れた答えを提供しているようにも見えるのである。

今我々がさらされている不安とは、もう形のない莫然たる将来への恐れでなくて〃いつもノドにナイフを突きつけられているような生活〃の不安である。

わたしは隠れ家にいるわたしたち八人を、黒い雨雲にかこまれた青空の一片のように思えて仕方がありません。わたしたちのいる円い、はつきり区分された場所は、今のところまだ安全です。けれども、雲がだんだんわたしたちの周りに寄つてきて、迫りつつある危険からわたしたちを隔てている円は、次第に狭まつて来ます。そして現在わたしたちは、危険と暗黒にひしひしと取囲まれているため、必死になつて逃げ口を探し求めながら、お互にぶつかり合つています。

このように一瞬にして最悪の事態が起り得るような状態におしこめられて、一体どういう日常生活が可能なのであろうか。それでも尚、人生は美しいもの、希望し得るもの、そこから何か期待することができるものなのであろうか。

暗黒に閉じこめられたアンネにとつても、世界がもとの状態に復するとは想像できなかつたし、戦後について語つても、それは決して実現することのない空中の楼閣のようなものであつた。

彼女は時々過去の楽しかつた日々のことを考えて、心をまぎらそうとするが、それが自分を救う道でないこと、今必要なことは現実を離れることでなく、むしろ日一日の生活から目を離さないこと、そして非現実なことに期待するのではなくて、超現実なものにこそ最後の希望をおくことを徐々に悟つてゆくのである。

彼女はベルが長く鳴つただけで「すぐ真青になり、恐怖のためにお腹が痛み出す」ほどの少女でありながらも、自分の生活を決してみじめなものにしないように努めた、その精神力には心を打たれるものがある。五体に迫りくる恐怖に圧倒されそうになつても、人生に対する病的な悲観主義には一歩も譲歩しない。「わたしはまだ生命を愛し、自然の声を忘れず、まだすべてについて希望をもつています」

現実生活に対するこれほど確固たる努力と信念があるからして、彼女が超現実的なもの―神に対して単純、素朴な希望を表わしても少しも不自然に見えないのである。自分の無力を知つて、神に祈り、神に奇蹟を願つても、それが非現実的なものに対する少女の夢とは映らない。

アンネに於ては、一切を支配し給う神に対する希望と、自分の責任である現実に対する期待とが渾然一体となつて生きており、彼女の厳しい生活をうるおしているのである。

● ● ●

キリスト信者が口にする希望―超自然的望徳とは、神に対する能動的な希望の力をいう。それは超現実的な神に対する信仰に基づくものである。

所が我々はこの宗教的な希望に関して、根本的な誤りを抱いていることが多いのである。例えば神が私を扶け給うと期待するのは、私が望むことが、望むままに実現することを期待するものであるかのように思い勝ちである。利己的人間中心的な期待は排除されねばならない。

また神に希望するとは、現実の人間生活から離れることではない現実に絶望して神に駈けよるのは人間のために神を利用しようとする冒瀆的態度というべきである。また同様に、限りあるはかない人間の生活であるとはいえ、神に命ぜられた日常生活に不忠実でありながら、神にのみ希望すべきというのも、実は大きな誘惑の罠であるのに気付かないことがある。

神は我々と同じ姿をとり、同じ苦しみを味うことによつて、不安におののく人類に希望を吹きこむことがお出来になつたのである。

〃恐るること勿れ、そは我人民一般に及ぶべき大いなる喜びの福音を汝等に告ぐればなり。今日汝等のために救主生れ給えり〃

我々が口にする信仰や希望は、プラトニツクなものであつてはならない。現実の生活は余りに厳しく絶望への誘惑も強まつている。だからこそ、神に対する希望を現実の中に生かさねばならないのである。

（深堀　敏）

各地区布教会活動状況

唐津地区

十二月八日に第三回布教委員会を開き、各教会の最近の活動状況報告、クリスマスの準備などについて話し合つた。

❶一般的活動

唐津教会では毎月一回布教会を開く外、病院の訪問、虹の松原学園（少年矯正所）で幻燈を見せたりして成果をあげている。呼子教会では、町で最初の音楽会を開いて反響を呼び、秋の運動会には保育園と信者の合同運動会を催し、未信者多数が参加して、教会に対する認識を新たにし、又町役場に働きかけて「赤い羽根募金」に協力するようになつた。地区内の三教会でアンケート七千枚を配布して大部分を回収することができた。

❷クリスマス運動

唐津教会では市内にポスターを掲示し、リーフレットを会員全体の手で配布した。他の教会も同様の活動を行つている。唐津教会では又、廿四日晩に未信者を招いて映画、幻燈の会を催す。

❸地区布教会の規約の確立を急ぐことを決定。

筑後地区

十二月一日午後二時より委員会を開き、クリスマス運動について協議。

❶各教会でポスター、リーフレツト、ウインドポスターを購入し大牟田教会は市内と柳川市内に太刀洗教会は北野と小郡に、本郷教会は甘木市一円に、久留米教会は筑後、八女、久留米の各市内に貼付すること。ポスターの下部に各教会所在地クリスマス行事予定を記す。

❷柳川市でクリスマスを盛大に祝うこと。地区全体が協力して柳川婦人会館で廿五日午後四時からミサを行う。

❸一般新聞にクリスマスに関する記事を記載して貰うよう交渉する。折込みを入れる。

❹ルルド百年祭開催の件

教区主催の行事にも参加するが筑後地区布教会としても独自に来年五月頃記念祭を催す。具体的には一月十二日に決定する。

福岡地区

各教会信者の手を通じて、ポスター五百枚、リーフレット三千枚ウインドポスター五百枚を配布、貼付。

お礼

十二月十五、廿二の両日曜日に福岡市内信者の皆様に貧困者救援をお願いいたしました所、司教様はじめ大名町、地行町、西新町、浄水通、箱崎の各教会および訪問童貞会より、総額一四、六〇〇円と古着四〇〇点を寄附して頂きました。皆様の寛大な御協力に対しまして厚く御礼申し上げます。

聖ヴインセンシオ・
ア・パウロ福岡協議会

神学講座のお知らせ

一、日　時　一月十一日より毎週土曜日二月下旬までの予定
午後二時―四時
一、会　場　福岡双葉学園
一、資　格　カトリック信者希望者
一、会　費　二五〇円
一、科　目
秘蹟論（川口康頼師）
聖会史（深堀　敏師）

問合せ先
福岡市浄水通三九司教館
深　堀　　敏

一月

一日（水）わが主イエズス・キリストの御割礼の祝日

救いの年は、キリストの割礼と命名によつて明ける。割礼とは、救世主を出すべきユデア人が、天主との約束のしるしとしてなした洗礼の象徴的前表であつた。イエズスはこの影の如き旧約の儀式に対し、真理に輝く光明をもつて決定的意義を与えた。それは我等を一切の不義より贖つて、己が為に浄め給わんが為であつた。

五日（日）イエズスの御名の祝日

天使によつて名づけられ〃救世〃を意味するイエズスの御名の前には、勝利を得た天使聖人のみならず、地獄のものすら自らの敗北の前に膝をかがめるのである。「願わくは、此の世に於てその聖なる御名を尊敬し奉るわれらに、天に至りて主を見奉る幸福を味わしめ給え」

六日（月）わが主御公現の祝日

救世の主を求めて東方から遙々と訪ねて来た三人の博士達は、現世の栄誉をほしいままに享受しているヘロデ王と、ベトレヘムの片隅にひそとかくれている永遠の主の前に対立させられる。彼等は信仰の星の光に導かれて、誤る事なく真理の道を選んだ。斯て全世界の前に救は輝き出る。

七日（火）教区司祭月例集会の日

「観よ、主宰者なる王は来る」

十二日（日）御公現後第一の主日―聖家族の祝日

家族の平和と秩序は、神なるイエズスが人なるマリアとヨゼフに従われた様に権利によつてではなく、愛と謙譲の精神によつて保たれる。

十三日（月）我主イエズス・キリストの受洗記念日

「これぞ、我が心を安んぜる、我が愛子なる」公生活の始、受洗を機会にイエズスの使命は公現される。救世の業をうけつぐべき我等にも、洗礼はその資格を与うる為の必須条件である。

十八日（土）聖ペトロがローマに教座を定めた記念日

廿五日迄、信仰の一致の週間として教皇権を否定し、信仰を歪めた者達が唯一の牧者の下に帰一せん事を悪う。

十九日（日）御公現後第二の主日

カナの婚宴でキリストは水をブドー酒にかえて己が神性を公現された。我々は単なる人間と生れ、キリストに於て神の子と変化された。我等の上になされたこの偉大な業を公言することなくして救いはあり得ない。

廿一日（火）聖アグネス童貞殉教者

廿五日（土）聖パウロ改心の記念日

キリストの迫害者サウロは、ダマスマ途上一瞬にして異邦人の使徒として改心する。

廿六日（日）御公現後第三の主日

今日、キリストは罪人及び異邦人の救いとして自らを現わされる。神は、我々が罪をもつて捨てる事がない限り神から捨て給うことはない。

田川教会で堅振

廿九日（水）聖フランシスコ・サレジオ司教博士証聖者

最も怒りつぽい性格を、天主の愛によつてたぐいまれな柔和な性質と変えた。

「信心生活の入門」「神愛論」の著者

卅一日（金）聖ヨハネ・ボスコ証聖者

サレジオ会の創立者、教育家の保護者

創立廿五周年を祝う

＝宮崎カリタスの園＝

宮崎市吉村町沖の原のカリタスの園では、去る十八日（水）深堀司教の御臨席を仰いで創立廿五周年記念祝典を盛大に挙行した。

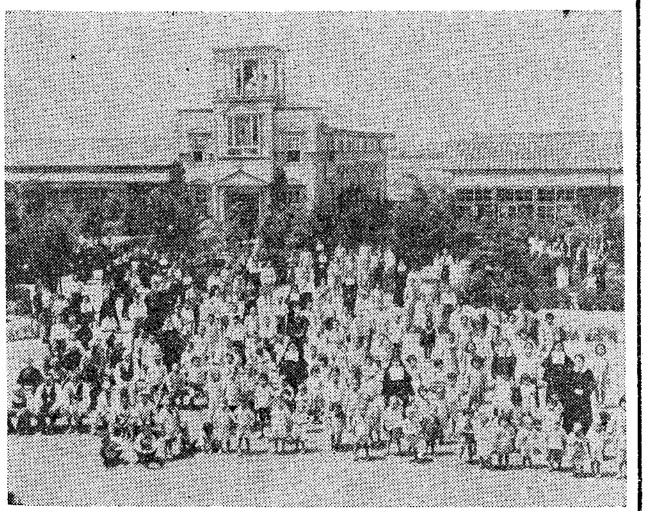
その日午前七時十五分から感謝の司教ミサが献げられローマ教皇聖下の掩祝が授けられたのち、十時から記念式典がくり展げられた来賓席には司教の他に県知事代理県、市の会議長、サレジオ会管区長が列び、宮崎教区の全司祭と修道者、園の出身者、功労者関係者ら約百三十名が列席した。

来賓祝辞につづいて、出身代表者として長崎教区の田中千代吉師、在園者代表として奈良種次郎さんが謝辞をのべた。創立者で初代院長、現在同園の理事長となつているアントニオ・カオリ師は、感激にうちふるう声で創立当時の困難を回顧したあと、一途に天主と隣人の愛に生きた職員、恩人達に対し、切々たる感謝の意を表明し、列席者一同は今更のようにカトリツク愛徳事業の偉大さに心打たれた。

社会福祉法人カリタスの園のそもそもの起りは、昭和四年当時宮崎教会の主任であつたカオリ師（サレジオ会員）が廿人程の若い女性に、貧困者を援けることを勧めた所、全員一致して協力を申出で、数ケ月後には四十名以上に霊的物的援助を与える程になつた。この成功を見て師は、より確実に援助を続けるために養老院設立を思い立つた。こうして昭和七年沖の原に一五〇〇坪を購入し、十二月十八日落成式を行つたのである。

以来廿五年間、副院長リピアベラ師（現東京江戸のサンタマリア教会主任）長船タキさん他数十名の女性達（殆んどが修道女）顧問の栗田喜久馬氏夫妻、医師の神戸美和・十四郎両氏の親子二代の奉仕、その他に幾多の協力者によつて着実な発展をとげ、現在では沖の原だけで養老院（三十名）養護施設（一二〇名）乳児院（三〇床）保育所（一一〇名）診療所を運営しているが（建物総坪数は一五七四、四六坪）創立以来収容した人員延数は百万を遥かに突破している。職員数は七十名で全部が修道女又はその志願者である。

カリタスの園に働いているカリタス修道女会は、昭和十四年一月創立されたもので、マリア長船院長に続いて現在の総長はモニカ檜田千代童貞、宮崎修道院長はカンヂダ橋本童貞であるが、会としては、東京、大阪、別府、甲府、松本、鎌倉、韓国（二ケ所）などで社会事業を行つている。近い中に奄美大島、南米にも進出する予定である。



（写真左上は創立者カオリ師、下は現院長カンヂダ橋本童貞、右はカリタスの園の全員）

築上郡築城に仮聖堂

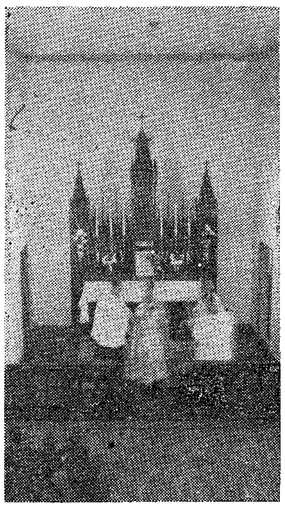
福岡県築上郡築城村一帯には、三百人余りの信者があつて、三粁離れた新田原教会（主任グロージヤン師―パリ外宣会）に所属しているが、この程四五坪の仮聖堂が完成して十二月一日朝深堀司教によつて祝別され、大天使聖ミカエルに奉献された。

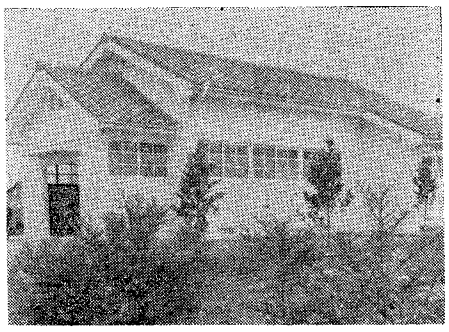
聖堂建築の計画は昨年から始まり、信者の小畠氏所有の七五〇坪の山林が購入され、次いで今年春八幡煉獄援助姉妹会の旧修院家屋八〇坪が、用材として譲与された。自分たちの聖堂建立に燃え立つ地元信者は、家業をなげうつて、毎日百五十名づつ勤労奉仕し、老婆までが古材から釘をぬく仕事に精出した程であつた。一般未信者も村内にカトリツク教会の出来たことを喜び、将来の布教には大きな希望がかけられている。

毎日曜日のミサは、近くの女子トラピスト修道院附のトマス高島師によつて捧げられる。

湯川教会も祝別

小倉市湯川のカトリツク教会（主任ラグレーブ師―パリ外宣会）では、今まで保育園を併用した仮聖堂であつたが、戸畑教会の四十坪の旧聖堂をそのまま譲り受けて運搬し、内外ともに美しく塗りかえて、築城聖堂と同じ日に、深堀司教によつて祝別され、聖フランシスコ・ザベリオに奉献された。式には北九州地区の司祭八名と長崎県出身ばかりの地元信者が参列したが、前湯川教会主任で、本教会を三年前に戸畑に建てた現飯塚教会主任ベニエ師の顔も見られた。





（写真右は湯川教会内部、左は築城聖堂外観）

平手むめ女史

扶助会本部から表彰

教皇公使閣下の表彰を受けて生涯最上の佳き日を迎えよろこぶ一老婆がいた。

去る十月十九日、別府教会聖別式のために来別された公使閣下から表彰をうけた平手むめ女史である。

平手むめ女史は埼玉県の産で現在七十四才、三人の娘を修道院に送つている。今回の表彰はその奉献を賞するためである。

平手モニカ童貞は現在東京の赤羽星美学園で縦横に活躍し、平手エリザベツタ童貞は静岡の星美学園で教壇に立ち、平手マリア童貞は別府明星学園で高校生の指導に励んでいる。

当日、明星学園の新聖堂祝別式、ミサ後、公使閣下の歓迎があり、表彰式が行われた。フルステンベルグ公使はイタリアのキリスト信者扶助会本部から送られた表彰状および金メダルを女史のふるえる手に渡した。

金メダルはドン・ボスコの母マンマ・マルゲリータの像を浮彫にした美麗なものである。

表彰状は神に最大の犠牲を惜しげもなく捧げたことを讃えた伊太利文である。

（写真は前列左から平手むめ女史、深堀司教、キリスト信者扶助会日本管区長、後列、モニカ、エリザベツタ、マリア童貞）

◇

◇

福岡大神で叙品式

福岡サン・スルピス大神学校では、十二月廿一日聖トマスの祝日に、深堀司教司式の叙品式が行われ、左の九師がそれぞれ聖品に叙せられた。

上三段聖品　小平卓保（鹿児島）
下二段聖品　七田善次（福岡）
〃　平松一夫（長崎）
〃　川添　猛（〃）
〃　下川英利（〃）
〃　田中伊三郎（〃）
〃　山内　豊（〃）
〃　山本辰男（〃）
剃髪　鵜野恭年（福岡）

歳末扶け合い運動

カトリツク諸学校で活潑に協力

福岡教区内のカトリツク系諸学校では、他の一般諸団体に率先して毎年歳末扶け合い運動を実行して学生に応じた愛徳の実践に励んでいるが、本年度の活動状況については、左のような報告があつた。

戸畑明治学園

全校生徒が早くから小遣いを倹約し、父兄から贈られた毛布、衣類などの物資に、クリスマスのよろこびと慰めの手紙を添えて各処を訪問した。

女子中学生の一部は戸畑市立養老院に贈物をして、クリスマスの劇、紙芝居、聖歌などで慰問。

残余の女子中学生と女子小学生は門司の天使育児園に、男子の中・小学生は八幡の聖小崎育児園を訪問。高校生は八幡市立乳児園にミルクを持参して奉仕したが、全高校生はその他に全国癩病院に、クリスマス・カードと心をこめたお見舞の手紙を送つた。

熊本信愛女学院

中・高校部では、クリスマスを記念する文化祭を十二月十四、十五の両日に行つたが、この機会に宗教部が中心になつて一般来観者及び生徒から募金を行い、又校内に設けてある愛の雫の箱（小遣いを節約して慈善のための寄附をおさめるもの）に集つた金額を加えて、熊本日日新聞社に四千円、熊本天使園と少年の町に各々千六百四拾円づつを心をこめて贈つた。

小学部は、衣科、図書など五百点に千四百八拾円をそえて、NHKに届けた。

八代白百合学園

小百合会の宗教部を中心に、全生徒と父兄が協力し、小遣いを節約して各自廿円以上と、古着その他の物品を学校に持ちよつたが、養老院二ケ所から約五十名を講堂に招待して、幼稚園児、生徒のクリスマス劇で慰め昼食とプレゼントを供した。

養護施設少年寮にいる三十七名の子供たちに、衣類、日用品、文房具、お菓子などを生徒が持参して慰問、療養所や数ケ所の病院を見舞つて、宗教書、日用品などを贈り、最寄りの貧困家庭約二十世帯に、寄附された物品を分配して援助し喜ばれた。

福岡雙葉学園

中学一年生から高校二年生までの生徒は、福岡社会館、新生明寮、しいのみ学園、百道母子寮、藤崎母子寮、大濠愛児園、名香野自由労務者託児所、吉塚、馬出の貧困家庭など恵まれない人々を訪問して、自分たちで集めた衣類や日用品、お菓子などを老人、子供たち一人一人に配つた。そして劇や紙芝居をやつて見せ、幼児の食事の世話までしてあげた。奄美大島の教会には現金一万円をプレゼントし、長崎、佐賀、熊本各県の孤児院などに衣類、学用品などを送つた。

幼稚園々児と高校三年生は、福岡養老院の老人と新開寮のろうあ学校生徒たちを招き、講堂で歌や劇を披露。高校一年生の一部は、福岡市南公園動物園の園内掃除を行つた。

泰星学園

廿四日或る自動車会社から自動車一台を借りて宣伝カーに化粧変えし、クリスマスの啓蒙のため、市内をくまなく巡回した。その途次、大濠愛児園、福岡育児院、国立筑紫病院の小児科などを慰問して、お菓子を配り、各所に寄附。この寄附金は全校生徒が加入している一水会に毎月集められた金額を当てた。

本郷教会の鐘の聖別

福岡県三井郡太刀洗町出身のブラジル在留邦人によつて、本郷教会に寄附された鐘の聖別式は、去る廿三日午前十時より深堀司教によつて行われた。久しく途絶えていたアンゼラスの鐘が再び筑後平野にこだましている。

▼レジオ短信▲

熊本クリアの年次総会

熊本クリアの年次総会は、十二月八日（日）正午から熊本手取教会で開かれたが、カラン・グローガン、オドノフー、フイツシヤー師ら指導司祭出席のもとに、熊本市内（三プレシデイウム）八代、人吉、大江、崎津、水俣（近日中の設立予定）から七五名の会員が参加して大盛況を呈した。

クリア一年間の活動を反省した後、新年度の目標を討議し、次で聖堂でロザリオを誦え、説教と聖体降福式に与つたが、三時から、会員相互の親睦を深めるために演芸会を催した。独唱、コーラス、ドラマ、踊り、人形劇、音楽クイズなど多彩なプログラムで、五時和やかな雰囲気のうちに散会した。

謹賀新年

福岡司教
宮崎教区長　深堀仙右衛門

福岡教区　福岡邦人地区

司教館附　平田勇
深堀敏
堤要吉
平山高明
大名町教会　伊東誠二
山川辰幸
浄水通教会　平田惣五郎
地行町教会　平田正喜
岩永薫
蓑島教会　牧山藤房
西新町教会　青木功
高宮教会　ルカ
ゴラ
那珂町教会　バーレツト
吉塚教会　ヴイユヌーブ
牧山重光
箱崎教会　ベリボー
古賀教会　ハー
ワード
二日市教会　青木保
今村教会　糸永一
糸永武男
本郷教会　村岡久義
久留米教会　棚町正刀
金松敏
田川清美
大牟田教会　川口清
畠山七郎
呼子教会　山田成章
馬渡島教会　木村義巳
小神学校　畑原富雄
川口康頼

佐賀ミラノ外国宣教会地区

佐賀教会　ロツキ
マグリー
ガザルデイ
唐津教会　スワノーニ
伊万里教会　ルツチ
鳥栖教会　サルヴイ
鹿島教会　ムラトリ

北九州パリー外国宣教会地区

八王子教会　ドルエ
門司教会　モーゼ
小倉教会　トクベフ
アルチユス
湯川教会　ラグレヴ
戸畑教会　バスチ

「われに従え」⑦
良心とキリストの招き
深堀 敏

❶ われわれが道徳的な善を行うには、自由と善悪の知識と良心と、この三つの根本的な力を必要とする。良心は善を行うことを魂の内部から命令する。その命令、要求の堅実さとデリケートさの程度を見れば、各人の道徳的レベルを測ることができる。

良心とは、いま現になすべきこと、さけるべきことについて実際的な知識を与えるだけでない。今この方につくか、その反対につくか、そのとり方に、私の救霊かまたは滅びがかかつているということを、切実に感じさせるような心の叫びを発する能力である。

聖アウグスチヌスは、それに神学的な説明を加えて、神の光に奥深くまで照らされた心は、われわれを、最高の目的である神の方におし進めることを止めない—人は神を愛し、善なるものを愛するためにつくられたのであるから—この内部な力、それが良心であるといつている。

更に心理的な説明によれば、良心とは、霊的性質を具えたものの自己防衛または自己保存の本能のようなものである。

知覚がある具体的な事柄について、善か悪かを判断しても、意志がこの明白な指示に反抗すると、魂は自己分裂に苦しむのである。絶対的な善にて在し、真理にて在す御者に一致していない限り、魂は不安定の悩みと分裂の苦しみを医すことができない。

魂をこの一致の安全圏に導こうとする能力、別言すると、魂を分裂から守ろうとする霊的な自己保存の本能が良心である。

❷ 良心の特徴である命令的な力は、冷やかな抽象的な原理からくるものではない。善を要求する声の背後に、生ける何者かがいることが感じられる。

良心の問題はただ倫理学の面からのみ取扱わるべきでなく、宗教的な見地からこそ観察さるべきである。

イエズス、キリストによる超自然的啓示と、聖霊のお働きによつて、われわれの良心には、自然的な能力のほかに、超自然的な能力が注がれ、キリストの言葉と模範にわれわれを結びつけ、聖霊のインスピレーションに素直に従わせるようにする。

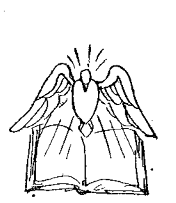
良心は神の直接の声ではない。しかし日常の個々の事件を通して神の意志を充分に認め、心の奥底にささやき給う御者の声を、きき分けることができる。しかも良心が正しい判断を下し得るために、信仰の不謬の教えが、教会の権威のもとに与えられる。

❸ キリストの招きと良心。

われわれを招き給うキリストの御声は、聖寵のもとに活動している良心にひびいてくる。良心はキリストの招きを受信する器官である。

御言にて在すキリストが、良心を育成し給う。キリストの導きなくしては、良心は炎なきローソク言葉なき声となつてしまう。キリストこそ良心の光にて在す。

みんなのための聖書
(18)
神の国の福音



貧しき者に

〃私は貧しい者によい便りを宣べるためにつかわされた〃（ルカ四ノ一八）

貧しい者とは、物質的に貧困な者、更に宗教的な態度によつて、神の御前に愛と信頼をもつて身を屈め、他人に対して謙遜を実行する者、また、恵まれない境遇にある者に、愛と柔和をもつて奉仕する者、どのような試練にもまれようと、信頼と喜びをもつて耐えしのぶ者のことを指しています。

イエズスは、聖霊に生かされたこの貧しい者に福音を宣べようとして、来臨されたのであります。

ですから柔和なメシアたるイエズスは、予言者によつて告げられた通り、貧しい者によい便りを宣べるために、御自身も貧しい者として現われ給うのであります。イエズスは小さき者の救主であり、彼等が誰よりも先に、イエズスを喜んで迎え入れたのであります。〃心の貧しい者は幸なるかな、天国は彼等のものなればなり〃

福音とは

福音とは、宗教的には幸いなメッセージ、よきおとずれ、喜びと繁栄と勝利と生命のメッセージを意味します。

イザヤ予言者は既に〃平和の福音を宣べる者の足は、山の上にて美しからん〃と述べています。イザヤは、流謫の苦しみをなめている人々に、平和と救い、全地をくまなく治め給う神の統治を告げています。天の光栄の王が、地を治め、小さき者、迫害される者、へり下れる者に、恩恵を施すことを知らせるのです。

しかしこの主はまた、自ら苦しみを負つて小さき者を救うメシアであり、民を幸福に導くために、その罪の償を果すメシアなのであります。ですから、福音とはキリスト以前には、救いと勝利を固く希望させる喜びの前触であつたのです。

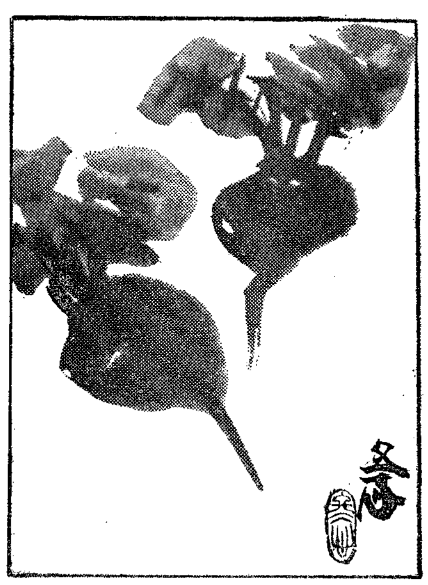
聖書以外では福音とは、王家にかかわる喜びの知らせ、戦争の勝利や王子の誕生のような祝事の知らせ、またその喜びのために神に捧げられる感謝の献物などを意味しておりました。

キリストの福音

キリストが宣べ伝え給う福音は以上に述べた二つの意味を含んでいます。それは貧しい者、虐げられた者を恵む王なる神、王なるキリストの慰めと生命の到来のおとずれであります。キリストは王者の資格をもつて来り給い、霊的王国を建設し給うのです。従つてキリストの福音は、実に王国の福音、神の王権確立の告げ、または宣言に他なりません。

洗者ヨハネは宣教の始めに〃汝等改心せよ、神の国は近ずけり、人皆神の救を見ん〃と告げ、キリストも〃時は満ちて神の国は近ずけり、汝等改心して福音を信ぜよ〃と叫んでおられるのです。

神の御国はこの時樹立されて世の終りまで完成への道を続けるのです。キリストの第二の再臨の時に、全く新らしい紀元が始まり小さき者が神の審きの庭で、公けに光栄の祝福をうけて永遠の御国に迎えられるのです。これこそ永遠の福音が宣べられる時なのであります。（黙示録十四ノ七参照）



元朝吟

元朝の海を見たくて一人になる　牧泉
六年目の元日こども椀四つ列び　蛙草
元旦や思ひ出うすき風邪に臥し　恵女
元朝や訪はるゝまゝの老となり　冬心

世界一周を終えて
平田 勇

はからずも、この度、ある知人の厚意によつて、三ケ月と二日で世界一周旅行をすることが出来た。

漫然と見物して廻つたのではなくて、ローマの信徒使徒職大会参加と、聖地巡礼が主な目的で、それに世界に於けるカトリツクの教勢視察を兼ねた世界一周である。三ケ月位で欧米のカトリツク活動状況視察とは、大それたことではあるが、小さな機会をも逃がさずそれを捉えようとしたことは確かである。

アメリカでは、米国、メキシコカナダ、西欧では、英国、伊太利仏蘭西、独逸、瑞西、エジプト、ジヨルダン、リバノン等十数ケ国五十数ケ都市に立寄つた。

メキシコ市の信者の熱心さには感心させられた。ガダルペの聖母出現の巡礼地、その他五つの教会を普通の日に訪問したが、どの教会でも多くの信者が祈つている姿に接することが出来た。

司祭修道者が外では聖衣を着るのを、法律で禁ぜられている国であるとはいえ、信者の信仰は生きているという感じを受けた。ガダルペの信者の膝まづき歩行の巡礼は特に感概深く見た。

そして誰がつけたか、ガダルペの聖母像の下に「日本の改宗を神に取次ぎ給え」との祈願の金属板が附してあつたのには、異国の空でひとしお祈りを新たにした。

米国の各市では、信者の熱心な応接に心を打たれ、教会は充分活気に溢れているのを見た。

欧州では、瑞西、独逸、仏蘭西など多数の婦人が、かぶりものを被つていないのに反し、米国ではほとんど例外なしに守つているのは、日本と同様である。かぶりものをかぶらない者はイタリーでも見られないことはない。アラブ地区の普通の婦人がほとんどすべてかぶりものをふだんの外出中にもつけているが、その点から教会堂内での被りもののことが理解出来るように思う。

イタリーの多くの教会では日曜日のミサといえども、一杯になつた教会を見たことがない。時間の関係や、小さい教会が方々にあつて、ミサが多くの場所で捧げられる点もあろうが、さびしい感じがした。

独逸や、瑞西の教会はその点、仏蘭西や伊太利よりもはるかに、活気をおびていると思う。

フライブルグのカテドラルを、日曜日にのぞいてみたら、席が足りないで立つてミサに与つているものが多く、信者一同が全部でミサ中歌を歌つている姿など、実にうるわしいものがあつた。

日本では、信者が共同で声を合せて祈りをしているのをどの教会でも見る事が出来るが、欧州でミサ後の祈りの外、声を合せて祈つている姿を見ることが出来たのはトリノの コトレンゴ と、ドン・ボスコの遺骸のあるサンタ・マリア・アウクシリアトリチエの教会だけであつた。（続）

九大でレコード・コンサート

九大カトリツク研究会と九大レコード・コンサート部共催で、去る廿一日（土）午後一時より同文学部第一教室に於て、クリスマス・レコード・コンサートが開かれた。解説は福岡小神学校長畑原富雄師で参加者約四十五名。曲目は左の通り。

モツアルトの戴冠式ミサ、グレゴリアン聖歌、ベルリオーズのキリストの幼年時代。

永遠の都さして

永遠の都さして我等は今日の旅を行く。

イスラエルの民は天主より与えられた案内者モイゼに引率されて住馴れたエジプトの国を発つて約束されたわが安住の地カナアンに入つた。

しかしカナアンに入るまでには四十年の旅を行かねばならなかつた、その間沙漠と荒野、嶮山深谷を渡りいばらの中、異国人との戦、盗族の難、恐ろしき猛獣の危険、風雨寒暑の災害、食料の欠乏、病者死者などの心配殊に行先き知らぬ民の精神的不安苦悩は想像に余りあるものがあつた。しかし彼等はかかる内外の艱難苦悩不安にゆすぶられながらも案内者モイゼの上にかけた信頼とわが安住の地への希望には微動だになく四十年の闘さして旅したカナアンの地に入り得たのである。

それより二千有余の歳月は一年一年を区切つて流れ去り流れ来つた。世はその姿と共にたえず移り変り、流転の軸の上を巡りつづけている。変化と流転の世の中に生くる人類はまた同じく無常不安の今日の旅を行つている。但人類は「永遠の都」さして今日を行く旅人なのだ。しかもそのさして行く永遠の都は何処なのか我等これを知らず何人が我等にその在所（ありか）を告げ我等をそこに案内するであろう？それはモイゼにあらず世の智者賢者王者にあらず実に永遠の都の王者世の救いのためにその王座より世に降り給うた天主の御子イエズス・キリストなのだ。

全人類 の憧 がまた一人一人の心が時代と世紀と歳月の流れを通じてさして行く永遠の都は王者天主の御子イエズスの手中にあり、之に至る道は又天主の御子にして人なるイエズス・キリストその者であり「我は道なり」そこに導く案内者はまたイエズス・キリスト その 者である。然り旧約のイスラエルの民が案内者モイゼに従つて進み以つてカナアンの地に入つたように新約の我等は人類の案内者イエズス・キリストにより之に従い進んでこそわがさして行く永遠の都天の御国に入らしめられるのである。

されど永遠の都さして行く旅なる人生は沙漠荒野であり変化でありその途上我等は一日一日と内外色々の艱難苦悩、戦、誘惑、わが永遠の生命に付ての不安は旅ゆく心身を襲いつづけて寸時の安息もあらしめられないのが常であり、安定なき深い憂の種である。

殊に現代の科学の進歩に伴う物質主義機械文化より来る危険な思想、世 界観の 変遷など、わがさして行く「永遠の都」への歩みをまどわし心ゆすぶるものの多い中に一つの年を送り新たに迎ゆる年の元旦の心に改めて永遠の都さしてゆく信仰の旅路に永遠を刻むわが一里塚を固く打ち立て案内者イエズス・キリストに今年 をゆく旅を 托しよう。

熊本コロンバン外国宣教会地区

若松教会
八幡門田町教会
黒崎教会
水巻教会
直方教会
飯塚教会
田川教会
行橋教会
新田原教会
聖小崎育児園
手取本町教会
健軍教会
琵琶崎教会
八代教会
人吉教会
水俣教会
玉名教会
隈府教会
本渡教会
大江教会
崎津教会
サンスルピス大神学校
トラピスチス修道院
パウロ会

ラバルタ
デシヤンブ
ボア
ドラビー
プルトー
ドレル
ベニエ
ボンカス
デノアイエ
グロージヤン
ルリエ
ハンタ
コインル
カライン
フイツシヤー
レオ
黒川 博
志村
グリーン
グローガン
クリーフイン
モラハン
ドノフー
ロイリー
クリーリー
ドウーリー
ラプラント
平田 三 郎
ツルデル
ラベル
イエル
ノウ
カズレ
高島 トマス
チリオ

宮崎教区ザベリオ外国宣教会地区

宮崎教会
田野教会
高鍋教会
日南教会
日向教会
都城教会
延岡教会

ダニエリ
バルビニ
向井 有吉
ピッチー
リ
デイナポリ
ヤン
タルチオ
ペルリニ

サレジオ会地区

大分教会
別府教会
大貞教会
中津教会
日田教会
杵築教会
佐伯教会
臼杵教会
坂市教会

デルフォルジュ
カスチリオーニ
チエケッチ
金子 賢之助
カルデイロ
リボヴイオ
マンガネリ
秋元
セッキ
マガ
ロレンチ

雑詠

佐藤風声

寒灯のおびえる如く揺れて居り
岸壁のガス灯鈍く時雨降る
霜柱ざくざく踏んで早やミサへ
教理終え少女月光の中帰る
未信者の瞳馬槽の主を見つめ
（聖夜祭にて）

霊験

T・A生

夏目漱石の「猫」の中に、隣の三絃琴の御師匠さんの家の三毛が死んで、御坊様を呼び供養してもらう所がある。あまり簡単にお経がすむので、お師匠様が心配して尋ねる。

「これだけでございますか」

「えゝ、きゝめのある所をちよいとやつておきました。何、猫ですから」

この「きゝめのある所をちよいと」という考え方は、今の時代に最も要求されている事の様に思われる。二十世紀後半に於ける、ダイヂエスト文化の華は、ただでも売れ行きがよいといわれる週刊紙を更に増刊し、近くは総合雑誌まで、週刊紙の形式をとろうという声に至つている。万事は簡略をもつて尊しとする世の中である。

本屋の棚には近頃「早わかり」といつた表題をもつものがやたらに多い。又之が売れるから不思議である。普通の常識で三年はかかる基礎知識を、僅か一月でやつてのけようという早業に、現代人はまさに天才的だと敬服するより他に方法もない。

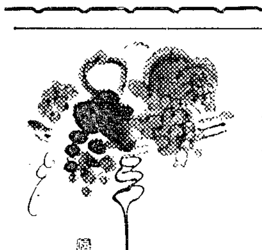
問題はこの事柄を、魂の内奥に迄及ぼす無茶さ加減にある。

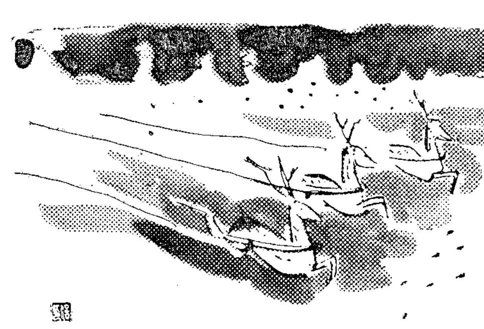
直ぐに病気が癒る、忽ちお金がもうかる、商売が繁昌するといつたききめがある所を望んで、なるべく手数のかからない宗教を有難がるものが山程いる。

我々にとつては宗教が生活であり、全生命を貫く根本の原理である。誠の信仰の為には生命をも殉ずるという様な事柄は程遠くすら考えられるのではないだろうか。

この様なものに、一年以上の求道期間、一週一度の公教要理、そして日曜日のミサへの出席などは考えただけでも、うんざりするだろう。宗教を帽子につけたバラ色のアクセサリー位にしか考えない者にとつて、就職の為に半生を費しても、聖人になる為に一時間をかける事は思いも及ばぬ冒険と感じられるに違いない。

現代、声を大にして叫ばれる生活の簡素化、その簡略化した精神迄もが、皮相な見解にうわすべりして、もつとも魂の奥深いところまで、ちよいときききめのある所で片づけてしまう。反省する余地もない魂は、遂に人間を失格したものだとさえいえる。





詩

元日の朝

元日の朝、それはすべてがすがすがしく
そうごんな感じがする。
なぜかしら！　家の前の庭木も、格子も、
そして水道の水まで
昨日と同じなのに、
お正月の朝は、こんなに新鮮に見え
すがすがしく感じる。
なぜかしら。
私が何もかも、お正月だと云う頭の中の
カーテンを通して見るからなのかしら。
自分の感じ方一つで、昨日と、今日と、
こんなに違うんだわ、
追羽根の音、玄関の花、
ラジオの放送、柿の木、
家の前を、通る人の足音、
電車の音
すべてが、新しく眼にうつり、耳に感じる。
そして皆、それが私に希望を、ささやいている。
あゝ　それが神様なのかしら？

（一三才　澪子）

大谷崎のことども

ベルナルド

現今の日本の作家の中で、大の字をつけて自他ともに許されるのは、一人谷崎のみであるが、彼の数ある業蹟の中でも、その全貌を知るには、陰翳礼讃、文章読本春琴抄の三書に止めを刺すのではなかろうか。日本の古典的美論ともいうべき陰翳礼讃、卑しくも日本語の文章について云々するものには必読の書と思われる文章読本。正宗白鳥をしてこれほどの傑作を世に出したからには、もう暫く休養してもよいと云わしめた春琴抄、これらのものは、いずれも批評家の定説となつた秀作のみとはいえないのであるが、それにしても彼の病的な面ではなく、その駘蕩たる面を評論、作文、小説の三方面から十分に味到させるにたるものがある。

一体源氏物語は日本人の中でもその全編を通読した人は何人あるだろうかといわれるものであるが、それをまる三ケ年の日子を貸して全く万事を放擲し――その間猫と庄造と二人のおんなを書いただけである――現代語訳にすることにのみ専心した精進ぶりは、出版社の要求に応じて書きなぐる作家とは全く類を異にする、何ものかがあるように思われる。しかも五十才の時の訳にあきたらず、昭和二十六年から再び三ケ年かかつて改訳を試みたのは、よほど古典に対する畏敬がない限りできないことであつて、池田亀鑑が紫女以後の第一人者といつても決して過褒ではないだろう。

この谷崎について興味ある話がある。永井荷風は谷崎を初めて認めて三田文学に激賞の辞をよせ、若き彼を狂喜させた人である。この荷風が谷崎を批難したのに対し彼は早春雑記に次のように述べている。

私は荷風氏が「近頃谷崎君は少し大家になり過ぎたね」と云つておられるということを誰かから聞いた。その言葉が本当とすれば、氏はどういうつもりで云われたか知らないが、私に取つてはまことに痛い一言である。私のところには又氏の昨今の「狂態」について種々の悪評をもたらすものがあり「荷風は本当に気が変になつているらしいですよ」などと云つて来る者が二三人に止まらず、氏のさまざまな奇矯な行動が伝えられて来るけれども、私には氏がそういう脱線行為に出る心持ちもよく分るのであつて、決して狂人だとは思わない。氏の近頃の行為や服装は、稍々晩年の辻潤に似て来たが辻潤はただ奇抜なだけで、何の才能も持ち合せない怠け者に過ぎなかつたので、素より荷風氏と同日の談ではない。氏が狂人でない何よりの証拠は、中央公論正月号の「買出し」を見るがよい。私は六年も七年もかかつてようやく「細雪」のようなものをまとめ上げたが、氏がさり気なく書き捨てた僅々十五枚足らずのこの短編には、何とこの作者の五十年に亘る芸術的鍛錬が底光りを放つているではないか。としつぺがえしをしている。何という謙遜なしつぺがえしであろう。落ち目になつた荷風といささかも衰えをみせぬ谷崎と。

私は谷崎の凡百の小説よりも、この一言葉に云いしれない深い感動を禁じえないのである。

それにしても谷崎に対して惜しみても尚あまりあるものは、彼には欲望の美化はあつても純化がないということである。この点が、彼が好きなだけに私にとつては一層物足りなく、　残念に思われるのである。

上智大学教授
哲学博士
H.エルリン・ハーゲン
好評発売中！
信仰入門
若き人々におくる永遠の恩寵
東京神田
宮本町10
春秋社
振替東京
24861

◇ぶつくがいど◇

カトリック史要論

小野　孜著

カトリック教会史としては、古くはヨツト・マルクスの史料基督教会史浦川司教の提要カトリツク教会史、新しくはヨハネス・ラウレス師のキリスト教的ヨーロツパ史、ロルツの教会史クセジユ文庫のデユロゼル著カトリツクの歴史がある。それらのいずれもが翻訳ないしはそれに類したものであるのに対してこの書の特色は日本人の西洋史専門家の手になるという点である。

凡そ歴史は客観的な叙述を意図しながらも、著者の史観や国籍又その著述の目的等によつて、随分大きな相違があることは人の知るところである。同じナポレオンを取扱つても、フランス人とドイツ人ではその観方の如何に異なることか。又それは同じカトリツク教会史たるロルツとデユロゼルの著を比較しても、思い半ばにすぎるものがあることを感ぜられるだろう。

日本人には西洋の歴史を比較的公平に観ることができる利点があるし、又日本人という観点から西洋の歴史を観る時には、わが国に於て誤り伝えられて一種の偏見ともなつている事項や、特に関係の深い一連の事項を取扱う時など、西洋人の著になるものとは、おのずと繁簡の箇所が違わなければならないのは当然のことであろう。その点に於て、この書はわが国のカトリツク教会史研究に礎石を置いたものといえよう。

著者の強味はこの方面に於けるずぶの玄人だということである。学生の頃から、教授連の偏見にみちた西洋史の講義を聞き痛憤やる方なく、正しい歴史の認識を切願し、そしてカトリツク教会史の知識なしには、西洋の歴史は理解できないというモツトーの下に、わが国歴史界の盲点となつていた分野に、孜々として研究の業を積まれて今日に至つた。一念凝つて出来たのがこの書である。しかし著者も断つているように、この書はあくまで概説書であつて、特殊研究の書ではない。その点物足らなく思われる箇所もないではないが、この程度のものすらわが歴史学界に今までなかつたことを思えば、これの発刊は大いに慶賀すべきであろう。

ヴアチカン公会議はイタリア軍のローマ市侵入の直前、又普仏戦争勃発寸前の不安な日々の中に、枢機卿を初め数百名の聖職者が集つて開かれたのである。「この困難な時代に於て神のより大いなる光栄、信仰の純粋性……」これが公会議開催の目的としてかかげられた。しかし会議は、外部の圧力があつた上に、複雑な外交関係がからみ又時代思想の立場から教義を解釈する学者も出て、非常に難行した。それにもかかわらず会議は着々続けられ、聖書、聖伝及び史実に根底をおくという確信をえて、一八七〇年七月一八日遂に絶対多数の賛成の下に、教皇不可謬性の信仰箇条が、ピウス九世によつて裁決されたのである。実に普仏戦争開始の前日という打電乱れとぶ最中であつた。

同書二四八頁から抜萃したこの一文を取り出してみても、著者が如何に教会史を一般史と関連してとらえているかがよく首肯されよう。この書の中で特に興味深く思われる箇所は、宗教改革にあらずしてプロテスタントの派生という見出しではじまる近世史と、中世初期の蛮族の強化及西方修道会の活動の項である。索引はやや不備であるが、附録として教会博士、公会議、歴代教皇、主要国君主の一覧表が添えられていることは便利である。深堀司教様の序文にもある通り、信者のみならず、広く一般の有識者特に歴史及社会の教育に携わる者に、大いに参考になる一書として推奨する所以である。

（中央出版社三五〇円）（K）

最近我が国で封切りされた
映画「菩提樹」の原作
マリア・アウグスタ・トラップ著
国超えて歌う一家
—トラップ家族合唱団の物語り—
B6判　一九六頁
価一五〇円　〒20
中央出版社

アーサー・タン著
川田周雄款
ユニバーサル文庫10
光に向つた窓
—イエズスと聖フランシスコとそして私—
新書判
価一〇〇円
中央出版社

曽川　朗訳
ルイーズという名の婦人
▼愛徳修道会の創立者ルイーズ・ド・マリアツクの伝記▼
価，180円
ドンボスコ社

好評再刊
人間
エルネスト・エロー著　¥160.〒30
エローは、鋭い眼光で照らし出した人間の赤裸々な姿を心憎いまでにわれわれの前に押し出してくれた。人生、学問芸術の三部に分けて人間を追求した名著!!
中央出版社

改訂口語訳新約聖書
聖福音　一〇〇円　〒25
聖福音（使徒行録をふくむ）一五〇円　〒30
新約聖書　三〇〇円　〒40
ドン・ボスコ社

カトリツク書籍
一般良書
典礼用品
御絵・コンタツ
聖パウロ書院
福岡市万町電停前
電④—四五八八

カトリック

深堀司教認可
発行所 福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人 深堀 敏

定価 一部 十円

【ルルド百年祭 司教教書】

喜んで自発的に犠牲を実行せよ

一九五八年二月十一日は、聖母マリアがフランス、ピレネー山中の一寒村ルルドにおいて、一少女ベルナデツタにお現われになつてから百年の記念日であります。教皇聖下は、昨年九月八日フランスの司教達に教書を送つて、本年二月十一日より来年二月十一日までをルルドの聖母の年と定め、聖母の御出現は、全教会の上に深い意味があるので、この記念祭をよく行うように、全聖職者、全信者を激励なさいました。

聖年の間、世界各国からルルドに巡礼する人は、一千万に近いと予想されています。我々はこの幸いに皆が皆、あずかるわけには参りませんので、せめては精神的巡礼をなして聖母のもとに集り、聖母がベルナデツタに、またベルナデツタを通じて我々に伝え給うたメツセージとお勧めを実行し、以て聖母に尊敬と信心、讃美とを捧げたいものであります。

百年祭の意義

そもそもルルド御出現の聖母のメツセージは、罪人の改心のための祈りと償いへのお勧めで、特別な人や国や時代を目指したものではなくて、全時代、全人類に与えられたものであります。それから一世紀をすぎた今日、人類は科学の進歩と共に、現世的、唯物論的思想、道徳的には堕落と腐敗におちいり信仰上の危険な誘惑、迫害などにさらされ、人類、滅びかたすかりかの分離点に立たされている今日、御出現百年記念祭に遭遇した我々は、教皇聖下を通じて新らたにせられる聖母のメツセージを、まず各自が自分で身に行う実行、教会と一致のもとに行われる記念祭に協力し、あずかることによつて、マリアが天主の御母にて在す御身分と、その讃美すべきわけとを、教外者にまで知らせるよう努めねばなりません。

聖母信心の理由

聖母に対する信心は、何と云つても、聖母が天主の御母にて在す比類なき御身分に対する深い尊敬にもとずくものであります。この御位の故にこそ、聖母は永遠より三位一体の天主に選まれ、御子イエズス・キリストの十字架上の御功徳の予知によつて、被造物中ただ一人、原罪の汚れなく宿り給い、そしてイエズス・キリストの救世の玄義に親しく交わり給うのであります。聖母のこうような御身分と、それにふさわしい聖徳を歎想すればする程、聖母に対するまことの信心は深くなつて参ります。

如何に祝うべきか

ルルド御出現の百年記念は、この基礎的信心のもとにおいて、教皇聖下の御言葉にもありますように霊的、超自然的に祝わるべきものであります。

教皇聖下は、廿五年前に、前教皇ピオ十一世聖下がルルドの司教に宛てられた書簡中に、申された御言葉をそのままに引用して、この点を繰返えし強調し、この記念の年をどのように具体的に記念すべきかを示されました。

それはまず、我々ひとりびとりが、悔悛の秘蹟によつて心を清め熱心にミサ聖祭にあずかり、信仰深く聖体を拝領することであります。我々が天主のみ旨と聖母のお望みにかなう方法としては、実にこれ以上にすぐれたものはありません。云うまでもなく、聖体こそはキリスト信者の生活の中心であり、原動力であります。聖体の秘蹟によつてこそ、我々の信仰生活に必要な一切の聖寵が授けられ、多事多難な人生を力と慰めを以て包む、超自然的愛が湧かされるからであります。

償の業の実行

更に、聖母がルルドの洞窟で汚れなき少女にお現われになつたときにも、ただ熱心に祈るだけでなく自発的に、喜んで痛悔と償の業を実行するようにと、繰返えし訴えておられます。

しかるに考えてみれば、我々の毎日の生活は、境遇の如何を問わず、苦しみの連続であり、人と人との交わりにつきものの、感情的あつれきから生ずる色々の不愉快があり、信者としては、自己のうちにおける情慾と世間の誘惑に対する、絶え間なき戦があります。即ち聖ヨハネが申しました「肉の慾、目の慾、生活の誇り」（ヨハネ第一書二ノ十六）を制御し、これに打勝つて、生命への道を正しく進んでゆくためには、どれ程つらい戦いを続けなければならないかは、皆よく知っている所であります。

全世界の罪の償のため

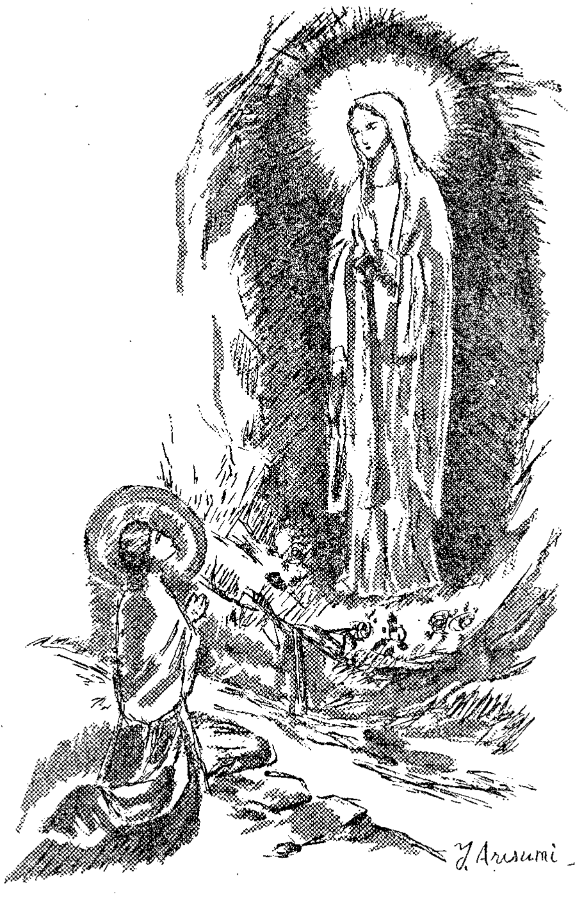
聖母は、これら大小様々の犠牲と苦しみを、まず自分の罪の償いとして耐えしのび、捧ぐべきことを幾度も御要求になつておられます。前後十八回にわたる御出現の間に、痛悔という言葉ほど、御口から繰返えし洩れ出た言葉はありません。そして痛悔と償いの業を自分のためばかりでなく、他人のため全世界において犯される数限りない罪のために、捧げるようにお望みになつているのであります。されば聖母の子たる我々は、聖母と共に十字架のもとに立つて救主の死の因となつた人類の罪を、少しでも我々の身において償うよう心掛け、実行に励むべきでありましよう。

聖母の年への準備

右に申し述べましたように、祈りと秘蹟、犠牲と償い、これが聖母聖年中、特に実行してゆくべき我々の理想であります。福岡、宮崎両教区の司教、司祭、修道者、信者は、聖母に対する純なる愛において一つになり、聖母によつてキリストに結ばれ、キリストによつて御父天主に結ばれ、御父と御子との間の愛にて在す聖霊によつて我々一同も、一なる天主のうちに一ならしめられたいものであります。「我等も一なるが如く、彼等も一ならんことを」（ヨハネ十七ノ廿二）。これがために、両教区において我々は或は教会で、或は家庭において、或はまた個人的に聖母に対する信心を励みましよう。そしてこの霊的な準備の上に御出現日である二月十一日の夜、各地区毎に適当な方法で、聖母ローソク行列と記念ミサ聖祭を挙行いたしたいと思います。これによつて我々両教区は教皇聖下の御精神のもとに一致して、聖母聖年を意味深く記念することができ、またルルドの聖母のみ旨にもかなうことができます。

原罪なくして宿り給いし天主の御母聖マリア、我々のこのささやかな志と行事を祝し給わんことを

一九五八年一月六日
我主の御公現の大祝日に
福岡司教・宮崎教区長
ドミニコ 深堀仙右衛門



我は原罪なくして宿りし者なり

世の光

神の協力者

聖母マリアの御出現の事実は、教会の歴史のなかに決して稀有の出来事ではない。その有名なものを拾いあげて、年代順に列挙してみると、まず一二五一年にカルメル会の司祭シモン・ストツクに対するもの（カルメル山の聖母）、一五三一年にメキシコでヂエゴと呼ばれる若い百姓男になされたもの（ガダルペの聖母）、一六四七年にはフランスのラウスで少女ランキユレルが聖母の御出現に会つたことが認められている。

十九世紀に入ると聖母の特愛はフランスに集中された感がある。一八三〇年にはフランスの首都の真中で修道女カタリヌ・ラブーレに御出現があり、更に南仏サレツトで一八四六年、二人の子供に悲しみの聖母のメツセージが伝えられ、一八五八年二月十一日に今年その百年祭を祝うルルドの聖母の御出現があり、更に下つて一八七一年には、同じくフランスのポンメンで希望の聖母の御出現があつて、普仏戦争の終末が告げられている。一八七六年にはフランスのペルヴオアゼンにも、そして一九一七年にはわれわれに最も新しい御出現が、ポルトガルのフアチマで三人の牧童に対して行われている。この他にも欧州には教会から公けに承認された、有名な御出現の数は十指に余るほどある。

聖母の御出現は教会にとつても異常なことである。この異常性のほかに、すべての出現に共通して感じさせられることは、出現を受けた人々、即ち聖母のメツセージを伝える使命を課せられた魂が、世間的常識を見事に裏切るようなものだということである。ルルドの聖母の視幻者として一躍世の脚光を浴びるようになつたベルナデツタにしても、およそジヤーナリストをいたく失望させるばかりの無知で病身の田舎娘にすぎない。マリアに選ばれた者は殆んど全部が「貧しき者」ばかりである。

聖母が出現なされたこと、そして上からのメツセージが伝えられたことは、傲慢なるものには侮辱とさえ考えられるが、それに劣らず、世間に通用する尺度で測れないような者が、その仲介者に立てられたことは、名誉と人気を生命とする人々にはどうにも我慢のできない取立てと見られるだろう。

聖母の御出現は、超自然が自然に干渉する一つの形式であるが、一体に神が人間の世界に働きかけ給うに当つては、その全能の御力の故に、われわれの側からの協力を要し給わない筈である。しかし普通に神は、人のために働き給う時には人の協力を求め、人を通じて徐々に御自分の計画を発現してゆかれる。ただ神の御望みの仲介に選ばれた者が、意識して自由に愛をもつて神の御手に協力することを御要求になるのである。

神が御自分のプランを押し進めてゆかれるのに、人間または自然物を利用なさるということは、廻りくどいやり方とも考えられる。その顕著な例は、人を神の子とするのに、水と言葉をもつてし（洗礼の秘蹟）罪の赦しを得させるためにわざわざ司祭に犯した罪を告白させることなど、或は人を救うために三十三年間も神が人間の生活を送り給うたことなど、信仰よりも常識で超自然のことを割切ろうとする者には、確かに滑稽なことばかりである。

神のこの常套手段は、聖母御出現にもそのままに受けつがれている。聖母が出現なさること自体が首肯できないし、重大な伝言をなさるのであれば、もう少しましな者を選んで、もつと迅速に、権威ある者の如くに語らしめればよかつたろうにと気を廻したくなる。

こういう心配は人間の救済という超自然的働きの一面をしか知らない者の取越し苦労である。人を救うことは神の全能の御力によつてのみ出来ることであり、まことに一瞬にして成されても不思議ではない。しかし実際には、神が人間を救うには、人間的方法を採用し、物質的なものを通じて霊魂に働きかけ、永遠的なものを時間的なものの中に表わすことを望み給うのである。

この「手間取り」は全能なる神にふさわしくないように見える。が神は御自分の能力をあきら様に表出しするよりも、人間の本性に順応した手段で人を救うことをよしとされるのである。

全能なる神の協力者になるためには、世間に受けられるようなタレントの集積が必要なのではない。神の恩召しにまず自分が忠実であるような、愛と謙遜の持主たることである。【深堀 敏】

二月

一日（土）煉獄援助修道会で誓願式（司教司式）

二日（日）七旬節の主日

「死の悲しみ我をかこみ、陰府の苦しみ我をめぐれり」我主の御復活を準備する痛悔の期間に入る。聖会は罪とその結果を記憶して、我々が改心もて救に至る事を想う。

三日（月）童貞聖マリア御潔めの祝日

御降誕後、四十日目に御主は聖母の手をもつて御自らを神殿に於て御父天主に捧げ給うた。聖母も御主の深い謙遜に一致し、罪なき身を恰も罪ある如く潔められるのを望み給うた。今日、教会ではローソクの祝別式を行う所もある。我等も共にきよめられて捧げられるにふさわしい信仰の光を持つようにとの意味である。

四日（火）教区司祭月例集会の日

カルメル会で着衣式（司教司式）

五日（水）日本廿六聖殉教者

豊臣秀吉の禁教令によつて一五九六年京都に於て捕縛され、長崎迄引き廻されて立山に於て十字架刑により殉教の栄冠をえた。日本の信仰はパウロ三木以下廿六聖人の血をもつて種をまかれ、三百年の迫害を耐え忍んだ。光輝ある歴史にもつている。

九日（日）六旬節の主日

カルメル会で誓願式（司教司式）

聖会は天主の聖寵に対する人間の協力を示すために「主よ起ち給え、とこしえに我を見捨て給う勿れ」と祈る。かくて聖パウロの使徒的模範の数々を示して、恩寵の力は、我々がキリストのために患難をうける弱さの中に完成されることを教える。罪より立ち上り、霊的に復活するのは、天主の聖寵によるのである。

十一日（火）ルルドに於ける無原罪の聖母御出現の記念日

北九州地区ルルド百年記念祭（司教司式）

フランスの貧しい一少女、ベルナデツタにルルドの洞穴に於ける出現があつて、丁度百年目に当る、現代の混乱しあらゆる罪が平然と行われる世相に対し、無原罪の聖母が持つ、社会性は再確認されなければならない。奇蹟の泉の効果は超自然への盲目を固持する現代に対しての示唆である。

十六日（日）五旬節の主日

全教区を挙げてルルド百年記念祭

世間は「愛」をもつとも愚劣な域にまでひき下げた。今日聖パウロは書簡をもつて神の愛のすぐれて偉大なること、これなくして我々の救霊すらないことを強調する「愛は堪忍し、情あり、嫉まず、自慢せず、高ぶらず、奢らず」とその高貴性を昴める使徒の言葉を深く反省したい。

十九日（水）灰の水曜日

今日から四十日間、痛悔と償をもつて、我主の御復活のよろこびに相応しくあづかる準備をするように母なる聖会は四旬節を制定した。御主の凱旋のしるしである枝の主日の枝を灰にして、頭上に撒き、人間の虚栄のはかなさと地上の虚無を悟り天主の恩寵の救に至るようにとの意味をもつ聖式がミサ前に行われる。

廿三日（日）四旬節第一の主日

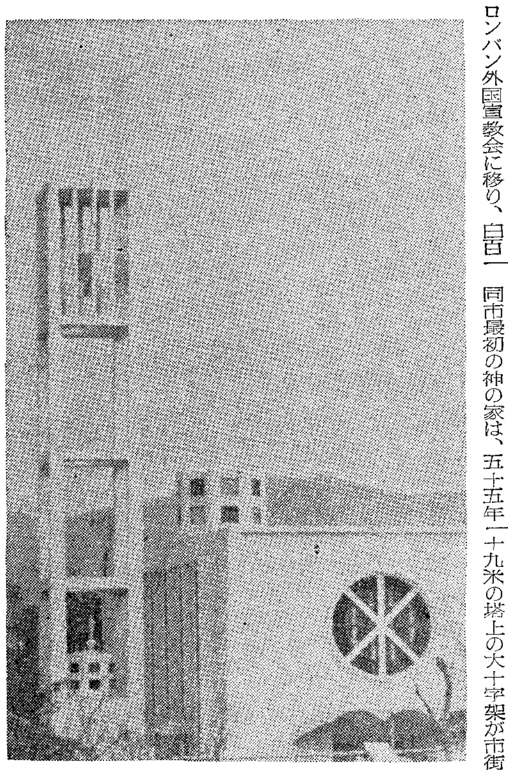
福音で御主の誘惑の場面がよまれる。世に生きる限り誘惑は不可避である。我々は御主に倣い、信仰をもつて、虚偽な空説に、王国への希望をもつて、この世の執着に、敬虔あふるる礼拝をもつて、偶像崇拝に打ち克たねばならぬ。

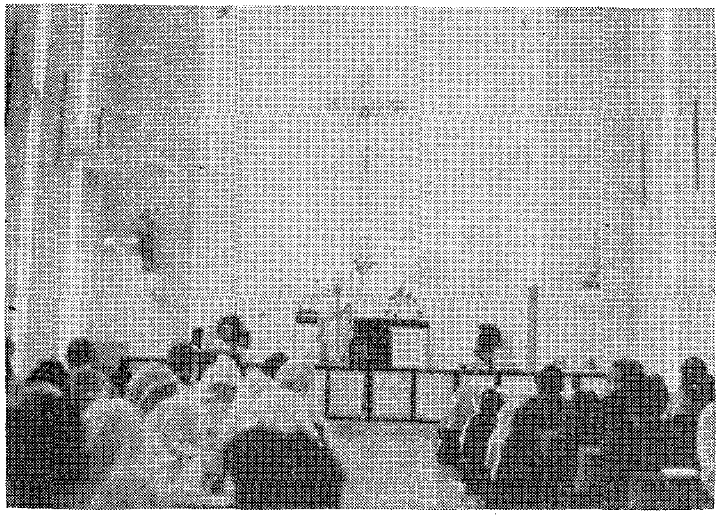
廿四日（月）使徒聖マチアの祝日

ユダが御主を裏切り、自殺し果てたその代りとして御主の復活の証人となるために十二使徒の中に加えられた。

殉教者の町に新教会

八代市　成人の日に祝別さる





幾多のキリシタン殉教者の血をすつた信仰の町、熊本県八代市地方の布教は、明治三十年代にルマリエ師、コール師、深堀詮朗師らによつて禁教後再び始められ、戦後はパリ外国宣教会の手から聖コロンバン外国宣教会に移り、白百合学園を経営するシャルトルの聖パウロ会修道女、及び信者たちの働きで徐々に成果をあげているがこのたび新聖堂の完成をみて、将来への希望に更に明るい光がさしている。

同市最初の神の家は、五十五年前の明治三十七年当時の主任司祭ルマリエ師によつて建立されたが新聖堂はこの旧聖堂の同位置に建てられ、鉄筋コンクリート建八十坪。正面入口左側にバプチステリウム（洗礼聖堂）があり、高さ約十九米の塔上の大十字架が市街を見おろしている。設計は福岡市の営種雄氏、施工は八代市の和久田建築。

祝別式はコロンバン会日本管区長ドイル師ほか教区内外の司祭二十数名、市内及び近隣の信者約二百五十名参列のもとに、深堀司教によつて荘厳にとり行われ、七つのお悲しみの聖母に奉献された

因みに同教会所属の信者総数は三三六人。主任はグリーン師。

（写真上は八代教会外観、下は同内部）

戸畑天使園落成

父、母の会から教区に献園

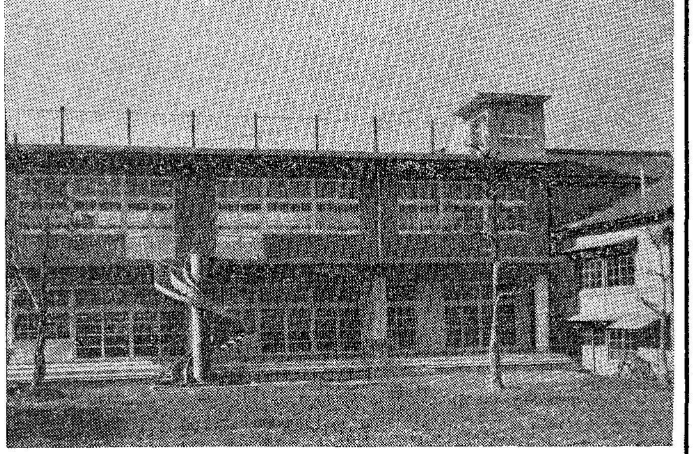
戸畑カトリック教会所属の天使園（幼稚園）では、父の会、母の会の協力を得てこの度鉄筋コンクリート二階建延一〇〇坪を新築。去る十二月廿四日父の会と母の会より教区に献園されたが、式には市長他多くの関係者が列席し盛大であつた。

天使園は、昭和八年創立の園舎を（故ヒユーゼ師の建設になるもの）終戦直前の建物疎開によつて失い、昭和二十一年兵舎の払下げをうけてバラック建ての園舎を再建したが老朽のため四年前から新園舎建設の計画が立てられていた。

建設資金として卒業記念品を残す代りに、そのお金を積立て、石鹸、古新聞、古雑誌などを売り、行事毎に売店を開き、特にバザーを開くなど資金獲得のために、父の会、母の会の熱心な協力があつた。尚、同園における献園式は今回で三回目である。

写真に見られる通り建物中央のラセン滑り台は、非常階段を兼用したもので、卒業生の一父兄の特別の協力によるものである。

ちなみにクリスマス直前戸畑教会では四十名の受洗者があつたがその半数は園児の家族であつた。



写真は落成した戸畑天使園

茶山教会小教区に昇格

福岡市地行町教会に所属していた茶山教会は、二月七日附をもつて小教区に昇格し、初代主任に棚町正刀師を迎えた。区域は筑肥線小笹駅から鳥飼駅を結ぶ線の南西部に当り、別府、梅光園、田島、片江、七隈などが含まれる。

なお筑肥線高宮駅の南側裏に位置する下大楠町十一番地の聖体のフランシスコ会横の教会も近々、大楠教会小教区として発足する予定である。

布教委員會集會狀況

第一回教区布教委員会

第一回福岡教区布教委員会は一月十二日、司教館に指導司祭平田勇師、会長小野孜、書記鬼木保之熊本代表佐藤正雄、筑後代表柴田至、唐津代表藤松正、佐賀代表池田稔一、福岡代表青木栄雄の各氏が集つて午後二時より開かれた。

深堀司教の御挨拶ののち、小野会長より年間プランについて説明があり、討議の結果、次のような決定を行つた。また教区布教委員会の費用として、各地区布教委員会は一世帯十円の会費のうち一円を、これに当て、一月より実施することになつた。

年間プラン

二月上旬。ルルド百周年に当り信者の霊的向上を図るため、小教区において主任司祭の指示に従つて働くこと。

二月十一日。ルルド百年記念祭

五月。教区主催聖体行列。

八月。教区の信徒使徒職練成会（キャンプ）を行う。

十一月。カトリック展示会を福岡市内のデパートで行いたい。

十二月。クリスマス運動。

福岡地区布教委員会

第十三回福岡地区布教委員会は一月二十六日司教館に於て開かれた。指導司祭平田師ほか司祭五名と各小教区布教委員約二十名出席

㈠年度プランについて。

一月十一日プラン委員会をひらき、案を決定した。これに従つて討議し次の様に決定。

❶ルルド百年祭。

二月二日より十日迄、各教会で霊的向上のため行事を行う。布教会は積極的に参加する。そのためにポスターなどをはる。またこの間の霊的花束をつくり十一日のミサの時、小教区の会長が奉献する。

二月十一日はポーロ会より大名町教会までローソク行列を行い、ひきつづきミサ。ローソクは各教会で売り当日は布教委員が不足分だけ売る。費用はローソクその他で約三十円である。

❷聖体行列と布教大会

五月四日（日）聖体行列を行い、ひきつづき信徒使徒職大会を開く。全国布教委員会のスパー師を招く。このための準備委員を各小教区より一名あて選出した。尚この第一回の会合は二月十六日に開く。

❸信徒使徒職練成会

八月中に勝島（宗像郡）にて三・四日の予定でリクリエーションをかねて、霊的に訓練をしたい。具体案は研究する。

❹カトリック展示会。

交渉委員をきめて、交渉し、その結果如何によつて具体案を決定してゆく。代表委員は平田師、小野、青木、林、佐藤の各氏。

尚これが出来ぬ時は改めて検討する。

❺クリスマス運動

恒例の運動のほかに、街頭募金をする。

㈡教区布教委員会の費用について。一世帯一円を一月よりあてる。

㈢次回集会は四月二十日午後一時より司教館にて。

ヴェイヨン師金祝の喜び

門司市大里西新町笹尾山の天使の聖母修道院附司祭フランソア・ヴエイヨン師（パリ外宣会）は、去る十二月二十一日をもつて司祭叙品五十周年を迎えたが、本年七十三歳の同師はすこぶる元気に修道女たちとその事業のために経験深い指導を与えている。金祝祝典は十二月二十六日深堀司教を迎えて、パリ外宣会北九州本部で行われ、司祭三十数名が集つた。

師はフランス・ヴアンデー県の生れ、一九〇七年司祭叙品、翌年来日して宮崎教会でジヨリー師のもとで日本語を勉強ののち、長崎県五島の久賀島教会を二十三年間司牧、次で呼子、唐津各教会を歴任、戦後しばらく福岡司教館にとどまり、北九州本部を経て門司に移り今日に至つている。

（写真は喜びのヴエイヨン師）

司祭異動（邦人地区）

二月七日附

久留米教会主任　任茶山教会主任　棚町正刀師

二日市教会主任　任久留米教会主任　青木　保師

久留米教会助任　任大楠修道院附　金松　敏師

司教館附　任二日市教会主任　堤　要吉師

大名町教会助任　任久留米教会助任　山川辰幸師

平山政十氏

別府教会所属ドミニコ平山政十氏は去る二十三日午後十時、脳動脈硬化症で逝去。享年七十八歳、葬儀は二十五日同氏の孫にあたる平山高明師（司教館附）司式によつて別府教会で行われ、カトリック墓地に埋葬された。

平山　政十　氏

平山氏は明治十三年生。海星学校（現海星学園）第一回卒業、昭和五年日活作品映画「日本二十六聖人殉教者」を製作して欧米諸国を歴巡。万国新聞記者大会に日本代表。ベルギー国在日本名誉総領事。昭和十二年蒙彊に渡り中華事変中、中支で政治顧問。戦後上海から別府に引揚げ明星美容専門学校を経営。布教方面に大なる活躍を行つた。

合唱団を結成

昨年十月以来、鳥栖教会の司牧に当つているサルヴイ師（ミラノ外宣会）は、市内の音楽愛好家に呼びかけて、七十名よりなる混声合唱団を結成。毎水曜日カトリック幼稚園で練習を行つているが近く市内で慈善音楽会を開く予定。尚百名程のメンバーを以て、少年団をつくる計画も立てている。

永久聖体礼拝

（二月）

第一日曜　光ノ園（別府）

第二日曜　浄水通教会

第三日曜　小倉教会

第四日曜　健軍教会

大在教会

訪問会（大濠）

祈禱の使徒会

（二月）

〔一般の意向〕 苦難の人々にルルドの聖母の慰。

〔布教の意向〕 支那における宗教の危機。

〔布教委員会の意向〕 わが国民の伝統的自然徳の正しい理解と尊重。

神学校献金

（十二月八日）

福岡教区

大名町	四、六〇〇円
浄水通	一、九〇〇
地行町	二、三五七
養島	一、六一〇
西新町	一、一〇〇
高宮	二、一九〇
那珂町	一、八〇〇
吉塚	一、〇〇〇
箱崎	七四五
二日市	五五〇
今村	四、八〇〇
本郷	二、二六〇
久留米	三、一〇〇
大牟田	一、一五〇
古賀	四四〇
呼子	三、三〇〇
馬渡島	二、三〇〇
佐賀	二、三三〇
唐津	五〇〇
鳥栖	一、〇〇〇
伊万里	六〇〇
鹿島	二〇〇
門司	一、二四二
小倉	五、〇〇〇
湯川	一、一八五
戸畑	一〇、五〇〇
若松	
門田町	一、四〇〇
八王寺	一、五〇〇
黒崎	二、七〇〇
水巻	六一〇
直方	九五〇
飯塚	二、五九〇
田川	六三五
行橋	七〇〇
新田原	五、五〇〇
築城	八五〇
手取	四、〇〇〇
健軍	一、〇五〇
琵琶崎	八、一〇〇
八代	一、五五〇
人吉	一、二〇〇
水俣	二四四
隈府	一、二一五
玉名	九四五
本渡	八二〇
大江	一、〇〇〇
崎津	一、〇〇〇
計	九五、三〇三円

宮崎教区

田野	一、四一七
日向	三〇〇
大分	一、五〇〇
別府	一、三〇〇
佐伯	二〇〇
坂ノ市	三〇〇
計	五、〇一七円

昭和三三年度

福岡小神学校生徒募集について

一、**願書受付**

中学の部　三月三日（月曜日）まで

高校の部　二月十日（月曜日）まで

一、**選考日**

中学の部　三月五日（水曜日）

高校の部　二月十九日（水曜日）

二十日（木曜日）

一、**選考方法**

中学・高校とも書類選考及び面接、身体検査。書類選考は主任司祭推薦状及び出身学校長報告書による。

なお高校は学科試験あり。

入学御希望の方は左記宛御連絡下さい。直ちに必要書類を送ります。

福岡市浄水通三八

福岡小神学校

畑原神父

最新刊

アレキシス・カレル著
稲垣良典訳
ルルドへの旅
B6 二二四頁　一三〇円

「人間—この未知なるもの」の著者としてわが国でもよく知られているカレルがリオン大学の解剖学教授時代にルルドで経験した事実を述べる

フランソア・ルーレ（医学博士）
アンリ・ボン（医学博士）共著
秋山峰三郎訳
ルルドの奇蹟
現代医学のみたる奇蹟的治療
B6 一七四頁　一九〇円

エンデルレ書店

ルルドの聖母御出現百周年

ルルドの思出

ボンカズ

一九一一年、九月始め頃、丁度四十七年前に、私がルルドに行つた折の事でした。

私はその時十七才でした。高等学校を終え、間もなくパリーのミツシヨン会大神学校に入りますので、パリーに行く前にもう一度、ルルドを訪ねたいと思い汽車で二時間足らず（二十粁）の彼の地に参りました。

其の日は数千人の巡礼者の団体が沢山の病人を伴つて、ルルドに来て居ました。

午後二時頃から、病人達は担架に寝かされたり、病人用の手押車に坐つたまゝで、ロザリオ大聖堂前の広場に並べられ、勿論、親、親戚、看護人、見物人等がその外側を取り囲んでいました。広場の真中は広く空いたまゝでした。此の人々は聖体行列を待つていました。

やがてめいめい手にローソクを持つた男ばかりの行列を従がえ、四人の男に支えられている天蓋の下に、一人の司祭が聖体を捧持して大聖堂から出て来ました。その司祭は右の方から、次々に各病人を祝福し始めます。その間一人の司祭が広場の真中に立つて、強いよくとおる声で聖マリアの連禱やコンタツを交互に唱え、時々、「聖なる童貞、我等の病人を癒し給え」と附け加えていました。

その様に言われている間に、私は見知らぬ巡礼者や見物人の中に混つて聖堂を出で、左の方へ下りて行く道で、ちょうど広場を見下す高い所に立ち、此の有様を関心をもつて眺めていました。天気は余り暑くない穏やかな晴天で理想的でした。

突然私は声をかけられましたのでふと見ると相当年寄つたお婆さんが「若い人よ、どうしてあの男の人達と一緒に行列に加らないのですか、信仰が無いのですか？」と言いました。私はそれに何と答えたかはつきり記憶しませんが、兎角そのまゝ眺め続けました。彼女も黙つて眺めていました。

やがて病人を祝福しつゝ司祭は私達の真下を通り、ついて来た行列と共に大聖堂に入つて行きました。もう終りです。

私の傍にいた件のお婆さんは、暢気な声で「今日は奇蹟がない」と独り言を呟きました。とその時直ぐ下の担架に寝ていた一人の病人の娘が急に立ち上つて、私達群衆の方に向い、両手を天に差し上げて「イエズス、万才」と叫びました。弱々しいがはつきりした声で、又感激に充ちていました。

顔つきは青く、やせ細つていました。十米を距つていなかつたと思います。私は外の人と同様に娘を注視していましたが、とにかく彼女が叫んだ時その眼がはつきりと私を見つめました。私は少し位はつとしたかもわかりませんが、何の喜びも感激も覚えないまゝ只呆然として、それに応じませんでした。

傍のお婆さんが、此の事柄に馴れているかの様にやはり暢気な声で「奇蹟だな」と云ひました。私の後には若い夫婦らしい男女が居ました。彼等は此の事柄に何の関心も寄せず、むしろ嫌気でも覚えたかの様に「さあ向うへ行こう」と男の方が伴れを誘い、其の場を離れて行きました。

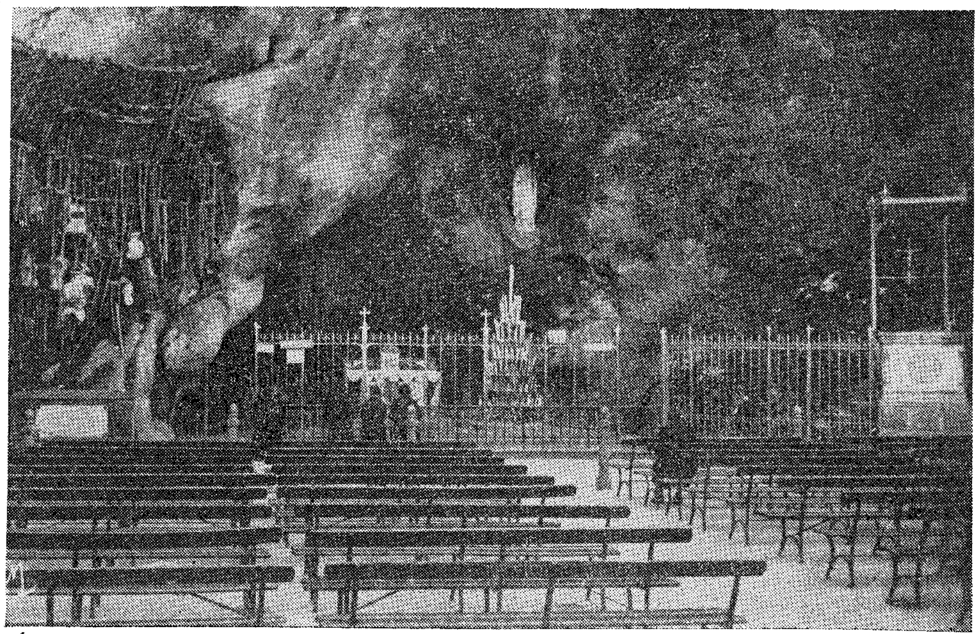
下の娘の囲りに騒ぎが始まりました。人々はあちこちより、其処へ押しかけて来ます。或人はマグニフイカトを或人は何か讃美歌を歌い始めますが後は続きません。幸いにも担架をかつぐ人々が素早く娘を取り囲んで群衆から保護しました。直ぐ車がやつて来て、娘を乗せ、連れ去つて行きました。後でどうなつたか全く知りません。其の娘が誰か、どんな病気だつたのか、その事柄が果して奇蹟としてルルド当局から認められたかどうかも知りません。私自身も此れを本当の奇蹟であつたかと保証する事も出来ません。

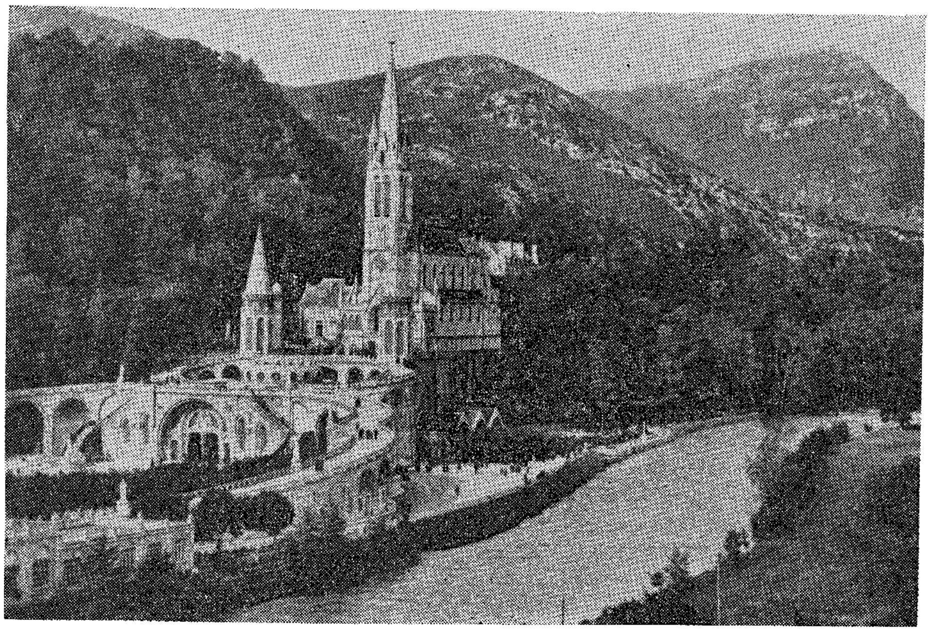
只家に帰つて、此の話を聞かせた時、兄弟達から「私達は度々ルルドに行くのに奇蹟を見る事が出来なかつたが、お前は散歩がてらに行つてもやつぱり奇蹟を目た。何と運のよい事か」と言われました。其の時は此れに対して、運が良いとか悪いとか思わず、大して重きを置きませんでしたが、其の後、時々思い出す毎に、それが奇蹟であつたとすれば、此の小さな事柄は私の超自然界に対する余りに弱い信仰を強める為に、聖母マリアから贈られたお恵ではなかつたかと考えます。

そして不思議なことには、他の事は年をとればとる程大事な事でも忘れがちですが、反対に此の小さな思い出は生々として蘇つて来ます。

此の様な事は百年来、ルルドで起つた多くの偉大な記念すべき事柄の中で、取るにも足りない様な極く小さいものでしようが、私は今でも益々感謝の心をもつて、此れを度々思い出します。

（筆者は田川教会主任）





上は聖母御出現の洞窟、　下はルルドの大聖堂とカーブ河

「姫君は私をみていらつしやいましたが、そつと瞳を動かして私の頭越しに向うの方を御覧になりました。そしてまた私を御覧なさいましたが、何故かしらその時のお顔はほんとうに悲しそうでした。で、私もつい悲しくなつて、何故そんなにお悲しみ遊ばすのですか、一体私はどうすればよいのでしょうか、とたずねました。

すると、罪人のためによく祈れとおつしやいました。そして間もなく愛の満ち溢れた、穏やかなお顔になられたので、私も安心いたしました。」

（ベルナデツタ第六回の御出現の時）

マリア頌

ヨハネ

めでたし聖寵
みちみてるマリア……

昔より現在に至るまで、無慮幾億万の人が、朝な夕なこの祈りを唱えて、聖母を讃美してきたことでしよう。

旧約の太祖、予言者、聖人達が四千年という長い間、どんなに長い祈りをこめたにしても、イエズス様をうけるにふさわしかつたのはただマリア様だけでした。

マリア様は、聖寵によつて、イエズス様ともう全く一致しておられましたので、すべての天使、聖人とを、イエズス様から引き離すよりも、ずつとマリア様御一人を引き離すほうが、むずかしかつたのです。

ナザレツトの世に知られない処女を天主様だけは完全に御存知でした。だから天主様は、大天使聖ガブリエルを遣わしてまず承諾を求められた上で、天地をもいれることのできない御方を、その小さな御胎にやどさせるという光栄をマリア様に、与えられたのです。

マリア様を愛する者は、イエズス様を愛するのです。イエズス様を愛する者は、またマリア様を愛するのであるように。他の道をとらずに、イエズス様は、マリア様を通じてだけ、この地上にお降りになられました。我々がイエズス様と一致するには、マリア様を通じてでなければならないことを、模範によつて、教えられるためであります。

神秘体の頭にてまします、イエズス様を聖霊によつてお生みになられたマリア様は、またその肢体である我々をも、聖霊によつてお生みになられます。我々が洗礼によつて天主様の子となるのは、マリア様によつてであることを忘れないように致しましよう。マリア様を母と呼ばない者は、また天主様を父と呼ぶこともできません。

イエズス様は、アダムが楽園にいたように、マリア様の御胎内にあることを、よしとされました。ベトレヘムの揺籃より、カルワリオの十字架に至るまで、イエズス様はいつもマリア様の御手の中ですごされました。我々も、イエズス様と一致するには、この世ではマリア様の御胎内にかくれ、守られ、養われて、死んだ後、その時こそ真の誕生ですが、マリア様により光栄に生みだされるのです。

聖霊なる天主様は、我々の霊魂の中に、マリア様が居給うことを御存知になると、すぐイエズス様をその霊魂の中に託身させて下さることでしよう。我々が聖霊なる天主様の御働きを不活発にさせるのはマリア様との一至がたりないからなのです。

祈りや秘蹟によつて、我々が天主様から受けるお恵みは、すべてマリア様を通じて与えられます。マリア様は常に謙虚で、完全に天主様の御思召と一致しておられましたので、マリア様の祈りと願いとは、いつも天主様に聞きいれられ、あたかもそれは命令されるかのようでした。マリア様は仲介に於ては全能であつたのです。

全能なる御者、我に大事をなし給えり、と仰せになられた、マリア様と一致さえしていれば、天主様も我々の中にあつて、嘗ての如く、大事をなし給うでありましよう。

聖なるかなその御名。

知らせるということ

アロイジオ

二月十一日というと、私たち旧人はすぐ「雲にそびゆる高千穂の——」という紀元節を思いだす。この頃の人はこれをキゲンブシとかいうとのことであるが——。

そうしてこの日をマンジユウを貰つていい気になつている日が、ルルドにマリア様が現われた日であると知つたのは、信者になつてからである。

今から百年前の二月十一日、南フランスのピレネーの山脈の北側のルルドのマザビエルの地にマリア様があらわれ、信仰を深めるように、数々の奇蹟を現わしたもうたのは衆知の事実である——ということになつている。

どうしてこういうことになつているというかというと実は信者の方々は知つていても日本に於ては全く知られていないからである。

試ろみに、だれでも良いから、フランスの記行文をよんで見たらいい。どれだけの人がルルドのことを書いているか。日本人があれだけ多くフランスに行つて、あこがれのパリーといつているが、その底にながれるカトリツクを知つているであろうか。それこそ何もないといつて良い位である。

一昨年の「オール読物」という雑誌に「世界不可思議」として連載物があつた時に、世にも不思議な物語りとして、このルルドのことが載つていた。それによると、二十世紀の世の中の魔法であり、私たちが「アラビアンナイト」の世の中の奇蹟として考えているそれと、全く同一視して書いてありそこには信仰の一かけらもない。「オール読物」は読者が多い雑誌であるが、それをよんだ人たちは面白いなあーでよみすごし、それなりになつていると思う。

ルルドを比較的に真面目に取りあげているのは、平凡社から出ている写真世界地理大系（本当の名は忘れた——）で、これは信仰の面もとりあげて書いてあるようである。

九千万人中の二十万であるから日本人が知らんのはあたりまえといつてしまえば、それまでであるが、世界の四億九千万のカトリツク信者が知つていることを、知らんですまさせるのは、日本に於ける信者の努力の少なさを証明する何物でもありますまい。

そこで信者の人は、この事実を考えて、何んとか方法を考えようではありませんか。

マリア様と日本。負けた日の八月十五日が聖母被昇天とフランシスコザベリオ渡日記念日。十二月八日が太平洋戦争開戦と無原罪の御やどり。九月八日マリア様御誕生のお祝い日が、対日講和条約調印の日である。

まあこんなことから、連想を働らかして、みても良いだろうと思う。あくまでも偶然の一致であるかも知れませんが、覚えるのに何んと都合よく出来ているではありませんか。

「私の貴婦人は、美しく、比べるもののないくらいに美しく、そんなに美しいので、一度でもその方を見たものは、もう一度その方を見るために死んでもいいと思う。一度その方を見れば、この世のものはもう何も愛せなくなるくらいなのです。」

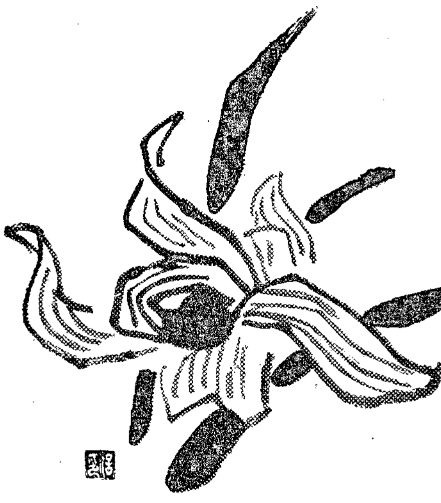
（聖ベルナデツト）

改訂口語訳
新　約　聖　書
家庭用デラツクス版　¥800
普　及　版　¥300
¥500

東京都杉並区八成町
ドン・ボスコ社
振替東京六五五五六番

新約聖書
その起原と構成
P・リーチ著　¥200
倉田　清訳　〒20

キリスト教会と
比較宗教史論
P・ハイドリヒ編　¥60
山村直資訳　〒10



短歌

二丈

空いろのおび冬風とともにゆれ
あれにしほらのマリアとおとし
冬がれのルルドのほらにばら一つ
マリアの足に咲きたるが見ゆ
（ルルドのマリア）

テレジア

病みし児のくすりをとりに行く
みちはくるまの下に雪のくだけり
とけのこるにわのすみなる雪むらに
たわむれ行きてくつのあとつけぬ

すみ子

大雪はやみぬ軒端の氷柱をば見せと
せがみぬ病みし子供ら
成人のむれに入るべきこのよき日
十代の感激名残り惜しみつ
降る雪の白きが中に寒梅の
ほのかに匂う庭の片隅
しらじらと霜のおきたる枯草に
根もとにもゆる一節の芽

世界一周を終えて

平田勇

日本や新大陸では、聖人の遺骨や遺物等は少いが、欧州ではどこに行つてもそれらを見る事ができる。特にキリスト様の聖地では、ベトレヘム・カルワリオの如き特別の信心を深める場所が多い。

前号に記した、トリノのキリスト信者の扶助者なる聖マリアの聖堂では、聖ドンボスコの遺骸や、同聖人の生徒で十六才の少年聖ドミニコ・サヴイオの遺骸が安置されているが、同地下室には約一万の聖人の遺骨が集められている。

私は聖ドンボスコの祭壇でミサを捧げたが信心の大きな助けとなつた。

聖骸布の教会、バドアの聖アントニオの墓所の祭壇など、枚挙にいとまない程、多くの教会でミサを捧げたが、非常によい默想の機会が与えられた。

特に、聖地の御主の御墓でのミサ、カルヴアリオ、ベトレヘム、ゲツセマニでは私の生涯忘れられぬ最良の時となつた。

サン・ピエトロ（ローマ）の教会でミサを願つた時、祭壇係の意向で、「日本人は余り信じないから、聖トマスの祭壇に案内するがよかろう」という事で、その祭壇でミサを捧げたが、わが邦人の為によりよく祈る事ができた。

真の神、天主になされる礼拝と聖人崇敬とが、異なるのは論をまたないが、宗教心の篤き点では遜色がないとしても、日本人にとつては、聖人に対する信心が他国民に比べて劣つているのではないだろうか。

アメリカ大陸や欧洲では聖人の祭壇、御絵、聖像の前に多くのローソクがともされている。そして多くの 信者が祈つて いるのを見る。時としては、御聖体の御前以上である。

聖地でスペイン人のフランシスコ会修士ペドロ・バプチスタに会つた。私達が聖地に着いたのは、丁度十一月二十九日金曜日の午前十時頃であつた。当日は午後三時からエルサレムのヴイア・ドロロザ（イエズス様が十字架をかついで歩かれたカルワリオへの道）でフランシスコ会員を先頭に、十字架の道行が行われた。私達日本人三人は之に参加した。

イエズス様が血を流しながら歩かれた同じ道をたどるのは非常な感激を覚える。聖堂の中にかこまれたカルヴアリオ山上で道行は終つた。すると細面の、背のひくい白い長いひげの修道士が私に近づいて来て、「あなたはピエル・平田神父の兄弟ではありませんか」と問いかけた。「そうです、ピエルは私の弟です」と答えると、大変喜んで、私の手をかたく握り、スペイン人の 習慣で手に 接吻した。

話によつて数年前に弟がこの修道士に お世話になつた 事を知つた。彼はスペインのアヴイラ出身で日本廿六聖人の一人、聖ペトロ・バプチスタと同郷人である。この町の信心深い雰囲気にみち、日本の為に祈るのは勿論、第二のペトロ・バプチスタを出すべきだと言う程の熱心さである。それで聖人の属していた修道会に入り、自分の希望によつて聖人と同じ修道名が与えられた。彼は日本人に対しては同郷人に対する以上の殉教者的愛情と親切と心づくしをもつてつねにもてなしてくれる。それはわれわれに対しても同様であつた。弟の手紙や写真、長崎の山口司教様の手紙を保存しているがそのうちには大神学生の写真等もあつた。

それらの凡てを機会ある毎に、カルヴアリオや主の御墓の石や、ベトレヘムの御降誕の地に置いて日本の為に祈つているという。

最近、日本廿六聖人への信心からイタリーのチビタヴエツキヤの教会に、長谷川路可氏によつて、廿六聖人の壁画が出来上つたが、非常な評判である。

今月五日は日本廿六聖人殉教者の祝日であるが、日本人はこの殉教者に対してどれ程の信心を持つているであろうか。異郷の地に於てさえ、日本廿六聖人にかほどの信心が払われている事を考えると当の日本人たる我々の教えられる所は多い。

家庭に於ても、教会に於ても、もつともつと外国以上に、この廿六聖人に対する信心をはげみたいものである。（写真はペトロ・バプチスタ修士）

キリスト教の礎

浦上・キリシタンの信仰

平山政十（遺稿）

慶長二年二月五日、秀吉の命より二十六人の殉教以来キリスト教は禁止されても、父祖の血を受け継ぐ信者たちは、子から孫へとキリスト教の信仰をつづけてきたが、明治二年十一月三十日、突然浦上地方におけるキリスト教の世帯主七百家族の者は、日本全国二十一藩に配流されることになり、十二月三日早朝、長崎の立山役所に出頭する様に厳重な命令が下つた。

此の家族三千五百人の信者は、各自の貯蔵した米も麦も、小屋には牛や馬も、豚も鳥も、田畑には作付けのまま、家財や衣類は二そく三文に売り飛ばし、一切を捨てて着の 身着のまま家を 出ていつた。

政府の役人等は、この信者の不退転な信仰を理解することが出来ず、「無智文盲」な愚民が外国宣教師にだまされて、無暗と随喜の涙をこぼしておるものだ、と思い込んでいたから、信者を宣教師の近づけない遠国に移して、之に懇々と説教を加えたなら楽に改心するものと信じ切つていた。

処が呼び出された信者たちは、再び郷里に生きて帰るなどとは夢にも思わず、何処かに連れ出されて打首か水葬か、或は火刑に処せらるるものと覚悟していたから、手荷物を背に負い、左には子供の手をひき、右の手にはロザリオを爪繰（つまぐ）りながら、大雪の降る中を静々と役人に引かれて行つたが、その光景は心なき未信者までもが袖を絞らずにはおれなかつた。これこそ人間最大の悲惨事であるが、御名のため、信ずる御者のためという動機でなかつたら、誰もが、牛馬のように 役人の 追い立つる「むち」に おそれて 行く筈がない。而も頑是ない子供までが、あの様な 強い信仰で、長い 年月の間、減食と強制労働と厳しい拷問も、改宗の責苦に対しても、何等の反抗もせず、国の掟には背いても、天地万物の創造主なる神に忠実であつた。

此の堅忍不抜の精神と朝夕役人の目を避けながらの真剣な祈りと同志の団結激励、神の御恵みに依り、正義は遂に勝ち、明治六年三月十四日太政官達により信者一同は赦免されて、郷里の長崎に送還さるる事になつた。

此の凱旋こそ、信仰の勝利であり、私共祖先の勇敢さと、その崇高な英雄振りに感激せずにはおられない。

又あれ程に根強い軍国主義も、殊にキリスト教は日本の国情に合わないとして三百年の間弾圧を加えてきた権力主義も遂に終戦の怒涛の中に葬り去られて了つた。

将に之れ神武以来の大変革であつた。天祐 なる哉、天祐 なる哉、国敗れたりと、いえども河山あり。

また日本人の多くは依然として神に対する信仰を失つてはいない

冬ごもり吟

入院のわれに事なく冬ごもり　なみ女
雪降れりコーヒー濃く沸しけり　恵女
餅焼くや次女はパン持て向ふむき　蛙草
長男の進学相談日なたぼこ　牧泉
草の花もみじ葉もなし光悦寺　冬心
寂しくて亦怡（たの）しくて冬ごもり　〃

気持

A・T生

大神学校から市営の火葬場迄は散歩に丁度よい位の道程である。

場所柄だけに歓迎すると言うことはないが、根が好奇心の強い者はそれでも 見学しようと 発案する。

これはそのような所謂変人共がより集つて其処を目的地とするのが流行した頃の話である。勿論、火葬場というようなものは面白いなどといつた所ではない。むしろその逆でさえある。

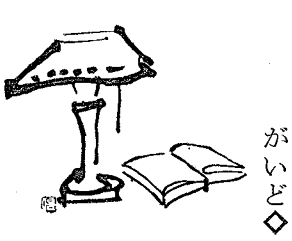
まず行つて受付で案内を乞うと「どうぞ入つて御自由に御覧下さい」とは言うものの、些かあきれ顔である。もとよりそのような待遇でためらうこともなく、中に入つて「特等」「一等」「二等」と格式があるのに改めて感心したり祭壇の仏様に一かどの思案をこらしたりする。遂には裏にまわつて陰坊をつかまえて内輪話を聞こうと言う勇敢な手合も飛び出すに至る。こういう所での社会学は人情の機微にふれる所があると言うのは事実である。

我々は裏から見るとどれも同じような形であるのに吃驚した。

「一体、格を分けて、特等から三等までありますが、それによつて材料とか手加減が違いますか」と聞いたものである。

「御覧のように、私達はどの仏様も同じように焼いて さしあげます。偉い人だから貧乏人だからといつて何も差別など致しよう筈もございません。唯、かように等が分けてありますのは全く遺族の方の気持を慰めるためのものです。うちは特等で葬式をしたというその気持代に、此方としては色をつけて頂く訳です」との 返事を得た。

確かに、はかなくも一片の煙となるものに、各等の格式があるということからして理不尽である。然し気持代としての散財も、遺族のせめてもの心やりともなろうと善意に解釈すれば、首肯しかねないでもない。只強いて言うならば世の中には理屈にも合わないことに、勿体と格式をつけて、その気持を意味があるようにこじつけての代金は、損だと分りながらでも喜んで支払うようなことが割合に多いものだ。必ずしも道理ばかりで成り立つ世間ではないと妙な所で悟らされた訳である。



◇ぶっく がいど◇

フイアンセへの手紙

レオン・ブロア著
磯見辰典訳

ブロアの臨終にあたつて、ニルミエは彼に尋ねた。「どうだブロア、臨終を前にしてどんな気がするかね」するとブロアは答えた。「大きな好奇心が湧いてくるよ」と。

ブロアは恐しい男である。火のような男である。私がブロアを知つたのは吉満さんの著書を通じてであり、ジヤツク・マリタンの改宗に大きな力のあつた人だつたということは分つていた。その後カール・プレーゲルの現代宗教作家論が出るに及んで、ほぼその全貌を知ることができた。今このフイアンセへの手紙によつて、彼の本文に接することができたのは大きな喜びである。

いいなずけへの手紙などという書名から何か甘いものを想像していると、とんだ間違いをする。その時ブロアは既に四十三才である。彼の生活は、その言によれば、この十年間というもの、殆んど絶え間なく、飢えに寒さに、発熱に、激しい疲労にひどい悲しみと暗い孤独に悩まされつづけている。しかもそれを、他人に対する同情心のため自分自らに課したものだというのである。他の者の言であるならば、法螺か狂気か馬鹿としか思えないだろう。結婚後もこの苦しい生活はつづき、ズボンも靴も帽子もなかつたので、居間にとじこもつたきりで一冊の書物を書きあげねばならなかつたり、厳冬に妻子を極寒から救うためには、家具を燃やしたり、二児を栄養失調で亡くすなどの悲惨事を惹起せしめている。何故このような 生活を したのか。十字架をないがしろにするキリスト信者に、それを回復せしめるためである。今の世にはあまりにも快楽主義者が多い。その真只中にあつて、かくもよく苦難の意義を体得し、それを実践に移した人が、文学者の中にいることは心強い。彼はその小説「貧しき女」の中で次のような言葉を残している。このみすぼらしい女が、涙にぬれて、顕示された 御聖体の前に 跪いているのを見て、ある司祭は、あなたは大変不幸に違いないと言葉をかけた。彼女は答えた。いや、私は全く幸福でございます。人は天国に、明日、明後日いや十年先にはいるのではなくて、その人が貧しく十字架にかけられてさえいれば、今日ここで天国にはいるのです、と。

ブロアのいう、こんなにも悲しく、こんなにも素晴しい世界神の聖子イエズスを金によつて売買することのできた世界に身を処して、他人のため、にではなく他人の中、で苦しむよう努めたこの人の手紙は、祈りや活動やその他の生活に楽しみを求めて、主と共に苦しもうとする心構えのたりなかつた自分を恥じせしめる。彼についてはあまりの激しさのゆえに、アブノーマルだとか、狂的だとか、自尊心が強いとか、そういう批判もあろう。しかし生温い者のあまり多すぎる世界にあつては、彼の存在は確かに一つの覚醒剤ともなるのではなかろうか。どんな意見があろうとブロアはブロアである。唯一つの悲哀しかない。聖人になれないことだといつた彼の、フイアンセへの手紙は、後に彼の妻となつたジヤンヌが、これの出版にあたつて恥じらいながら述べているように彼の「思想のフイアンセ」となる見知らぬ魂のところまで、遠く伝えられてゆくであろう。

（百円・中央出版社）（F）

マリア・トラップ著
中込純次訳
菩提樹
新外映提供「菩提樹」の原作
￥210
三笠書房

書籍のお買い求めは
福岡市万町電停前
聖パウロ書院
④四五八八

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価 一部 十円

現代の危機における信徒

教皇、信徒の責任を強調

教皇ピオ十二世聖下は、去る十月ローマにおいて開催された第二回世界信徒使徒職大会に参加した各国代表を前にして、重要な演説をなさいました。その信徒の責任に関する部分を、声誌編集部の御好意により、第九六二号より転載いたします。

能動的協力

教会内において、一方においては、全く能動的な要素、すなわち教会当局、他方においては、全く受動的な要素、すなわち信徒、を区別するのは、教会の現実な本質とその社会的性格とを無視するものでありましょう。回勅「キリストの神秘体」において述べたように、教会のすべての成員はみな、キリストの神秘体の形成と完成とに協力すべく召されています。みなが自由なペルソナでありますから、能動的でなければなりません

ときどき「信徒の解放」なる語が乱用されております。この語を教える教会と教えられる教会、司祭と信徒との間に存するいろいろの関係の真実の性格をゆがめる意味で用いるときは、乱用となるのであります。この諸関係については、今日、教会の任務はあまりにも広範であつて、あさましい争いにこだわつていられないということを指摘するだけにとどめたいと思います。

各自がそれぞれの行動の領域を守るためには、みなが、信仰、無私無欲、相互の尊敬と信頼、などの精神を充分にもつていれば足りるのであります。司祭の尊厳に対する尊敬は、いつも、キリスト教共同体のもつとも典型的な特徴のひとつでありました。他方、信徒にもいろいろの権利があるのであつて、司祭の方も、これは認めなければならないのであります。

信徒の協力分野

信徒は、司祭たちから、あらゆる霊的たからを受けて、霊魂の救いを成しとげ、キリスト教的完徳に到達する権利があります。キリスト者の基本的権利が問題になるときは、その要求を実現させることができるのであります。これは教会生活全体の意味と目的とにかかわることであり、また、司祭と信徒とが神のみまえに果すべき責任にかかわることであります。

単に社会的役割だけしか眼中におかない場合には、必然的に不快をかもします。社会的役割は、それ自体から見るならば、一般的にいつても、教会内においても、目的ではありません。なぜなら、共同体は、結局、個人のためのものであつて、その逆は真ではないからであります。

歴史の示すように、信徒は、教会のはじめから、司祭が教会のために展開する活動に参与してきました。しかし、今日においては、信徒はさらに熱心に「キリストの御体の形成されんために」（エフエソ四の一二）あらゆる形式の使徒的活動により、特に、キリスト教精神を家族生活、社会生活、経済生活、政治生活に滲透させる必要のある場合には、この協力を行わなければならないのであります。

司祭の不足の故に

このように信徒使徒職が要請される理由のひとつはたしかに、現在における司祭の不足であります しかし過去においても、司祭は信徒の協力を期待していたのであります。ここではただ、カトリックの教師と修道女とが、宗教、教授もつと一般的にいつて青少年のキリスト教的教育と養成とに関して行つた偉大な貢献をあげるにとどめたいと思います。教会は、かれらに感謝するものであります。これは司祭の仕事にとつて、必要な補助ではないでしょうか。それにしても司祭の不足は、今日とくに痛切に感じられており、今後ますます深刻化する恐れがあります。

信徒特有の働き

その上、司祭数の少いことを考えないとしても、教会と世界との諸関係は、信徒使徒の介入を要求しております。いわゆる「世界の奉献」は、その根本において信徒自身の事業であり、経済生活と社会生活とに深く溶けこんでいる人々、政府や立法議会に参与している人々の事業であります。また各工場、各労働環境において、教会から離れた者を教会に連れもどすために、労働者の間に創設さるべきカトリック細胞も、労働者自身によつてしか構成されえないのであります。

この点に関して、教会当局は、補足的協力に関する一般原則を適用すべきでありましょう。信徒が司祭と同等に、ときには司祭よりも立派に果すことのできる任務はこれに委託すべきでありましょうし、信徒は、その役目の範囲内でまた、教会の共同善の指示する範囲内で、自由に行動し、その責任を果すべきでありましょう。

教皇ピオ十二世聖下のために祈らん

世の光

教皇への服従

（一）

二年前の三月にわれわれ信者が現教皇ピオ十二世聖下の御生誕八十年をお祝いした記憶は、いまだに生々しい。

カトリツク二千年の歴史を通じても、ピオ九世教皇以来の百年間ほど、全信者が教皇を慕い、その超自然的な主権と権威に対して、絶大な信頼をいだいている時代は稀であろうが、なかでも特に、現教皇に対してほど子的愛慕の念がつのつた時は少いようである。

それが教皇が第二次大戦勃発直前に御登位され、世界大戦の苦悩の時代、更に戦後の混乱と絶望の時期を通して、常に霊的父としてわれわれに率先して十字架を負われ、永遠の都ローマから、人々のひとしく喝望していた光と慰とを惜しみなく分ち、お与えになつたからであろう。

戦争とそれに伴う種々の苦悩と試練は、多くの人を堕落と失意のどん底にひきずりこんだことは不幸なことであるが、またそれが永遠の真理と、精神の絶対的な依りどころを探し求めていた者に、母なる教会の懐を見出す機会となつたことは事実である。

慈母なる教会の底知れぬ愛情を信者の心に感じさせる者は、その代表者、キリストのこの世の代理者たる教皇である。しかしこの愛情は、教皇が実際目に見えるどのような業績をなされたかによつて納得させられるものである。母の子に対する愛情とは、母が子に何をしたかによつて、はじめて感じられるという類のものではない。

勿論教皇は全世界の人々のために数え切れない程多くの愛の事業を行つた。でも単なる社会的救済事業であれば、教会はそれを国家や他の団体に托せても結構なのである。食糧の配給、避難民の収容などは、教会が教会として第一になすべき使命ではない。

教会がその創立者キリストから命ぜられた大使命は、神の真理と愛を教えることである。教会はこの永遠の教えを、いつも正しく、権威をもつて教え、そして自ら実践してきたのである。

われわれが教会に期待する所もまた同じである。時代の様相がどのようなものになろうと、知識の進歩につれて生活様式がどう変ろうとも、不変の真理を正しく教示し、時代に即応してそれを実践してゆける指針をはつきりと教えてくれることである。

時代の波にのつて新しい思想を口走り、人におもねることはやさしい。しかし真理を教え貫くことが容易な業ではないことは戦時中の経験からも知れる所である。

（二）

教皇はイエスス・キリストによつて教会に伝えられた信仰の遺産の継承者である。単なる形式上の保存するだけのロボツト的存在でなくて、常にそれを生かし、輝かし、人の心の深い要求に答えることを知つている者である。

教皇が自ら発布する公布する文書（回勅とか教書）ある特殊団体に対する談話（最近の例では、映画製作者になされたもの）個人に宛てられる書簡（国家の為政者などに）ある時代の要求によつて発表されるもの（原子力の平和利用についてなど）、この他に、信仰道徳に間接に関係ある問題についても明確な光が与えられる。

一言にしていえば教皇は信者、未信者を問わず、全人類を真理の光と魂のたすかりに導く至高の権利と義務を負つている者である。

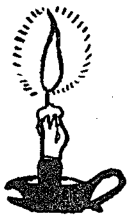
現代のように道徳の混乱がはげしく、ただ新らしいことを追及するだけで、心の空虚さをまぎらそうとしている時代には、教皇の力と使命が益々大きく発揮される。客観的な真理の基準、精神上の絶対的権威の意味と必要が、痛感させられるのである。

カトリツク者にとつて、キリストを信ずることと、教皇に服従することとは、実際には一つのことでしかない。

われわれは、教会とその最高の権威者たる教皇を通ぜずして、キリストに結ばれることはないと確信する。教皇の権威を否定することは、キリスト御自身からはなれることである。

神の御母マリアに対する信心と愛とがなければ、キリストとの一致があり得ないように、教皇に対する服従と信頼がなければ、われわれのキリストへの信仰は、砂上の楼閣にすぎない。歴史はそれを如実に物語つている。

（深堀　敏）



永久聖体礼拝　三月

第一日曜	都城教会
第二日曜	本郷教会
	マリア会
第三日曜	地行町教会
第四日曜	湯川教会
第五日曜	パウロ会（小笹）

祈禱の使徒会　三月

【一般の意向】　教皇聖下の一般的と特殊的意向
【布教の意向】　インド・ネシアの新憲法における宗教
【布教委員会の意向】　教皇のため

注　意

御復活の大祝日の頃に聖体を拝領すべき期間は今年は二月二日（七旬節の主日）から六月一日（三体一体の祝日）までです。もし何かの都合で、この期間内に拝領できない方は、なるべく早く拝領するようにして下さい。

なお年の告白も、この期間中になされます。各教会の主任司祭は、所属の信者がこの二つの大切な霊的義務を、どのように守つているかを知らなければなりませんので、信者は、できるだけ自分の教会でこの務めを果すようにして下さい。また他の教会から移転して来られた方は、遅れず信者証明書を主任司祭に持参して下さい。

三月　聖ヨゼフの月

一日（土）　四季の土曜日

二日（日）　四旬節第二の主日
ピオ十二世教皇の選定記念日

神がわれらを招き給うのは、聖徳のためである。そして、聖徳の理想に達するにはイエズスのお言葉をきかねばならない。

馬渡島教会で鐘の祝別式（司教司式）

七日（金）　アクイノの聖トマ博士証聖者「主よ、われにおんみを知らしめ給え」

下大楠教会祝別式（午前十時）

九日（日）　四旬節第三の主日

「私の目は常に主に向けられている」

それは、われらの救主に対する信頼のまなざしであり、主の思召を感得しようとの愛のまなざしである。

十二日（水）　ピオ十二世教皇の戴冠式の記念日

教皇聖下を尊敬し、そのためにお祈りするのは、イエズス、キリストに対するわれらの服従と愛の証拠である。「教皇の心はキリストの心」といわれている。

泰星学園新校舎祝別式とミサ（司教司式）

十五日（土）　馬渡島海の星中、小学校卒業式

十六日（日）　四旬節第三の主日

聖徳とは精神の自由獲得と同一である、外からの誘惑や内からの情慾に盲目的にひきずられず、正しい道を自由に歩むことのできるのが聖徳である。

十七日（月）　日本のキリスト信者発見の童貞聖マリアの記念日。

信者を発見したプチジヤン師は「彼等は、クルス（十字架）を尊敬し、聖母マリアを愛し、オラシヨ（祈り）を誦えています」と信者たちの信仰を述べている。

十八日（火）　福岡大神学校聖堂で叙品式

十九日（水）　聖母マリアの浄配及び全教会の保護者聖ヨゼフの祝日

イエズスの養父、聖マリアの浄配なる聖ヨゼフに対する信心は、最近益々盛んになりつつある。ヨゼフの代禱はイエズスが特に嘉し給う所である。

浄水通教会で司祭叙品式（九時）

廿一日（金）　聖ベネジクト修院長
春分の日

廿三日（日）　御受難第一の主日

御受難に臨み給うイエズスの御心情、われらに対する慈愛、御父に対する謙遜、犠牲に対する自発心などを黙想しよう。

戸畑教会で堅振

廿四日（月）　大天使聖ガブリエル

廿五日（火）　聖母マリア御告の祝日

神にて在す御者が処女マリアの御胎に降り給う。われらはマリアと共に、この人のかたちをとり給うた全能者を礼拝するのみ。

大江教会で司祭叙品式並びに堅振

廿八日（金）　聖母マリア七つのお悲しみの記念日

聖母はわれらが御自分の御苦しみに同情するよりも、御自分と共に御子を慰め申し上げることを望み給う。

卅日（日）　御受難第二の主日
（枝の主日）

御受難は主イエズスの殉教の時である。われらも殉教者のシンボルたるしゆろの枝を手にしてイエズスの御後に従おう。

八幡門田教会でアチエス（司教司式）

ルルドへ精神的巡礼

教区をあげて百年祭を挙行

霊的花束　驚異的量に達す

ルルドの聖母の年の開始を告げる福岡・宮崎両教区の記念ローソク行列とミサ聖祭は、各地区または各教会毎に荘厳盛大にとり行われた。

去る一月六日附ルルド百年祭に当つての、深堀司教の趣旨に、両教区民全部が異常の共鳴を示し、聖女ベルナデツタを通じて伝達された、天の御母聖マリアのメツセージに、進んで答え奉らんとの熱意は、記念日に先立つ十日間の霊的修行に遺憾なく発揮された。ほとんどすべての聖堂で、連日聖時間、或る所では夜のミサも捧げられ、聖職者、修道者、信者が一体となつて自発的に献げた霊的花束は、聖母に対する敬虔な愛情の結実とみられた。

二つの教区の全信者が、これ程多く、しかも霊的準備を整えて、感激深く一つの宗教的祝典に参加したことは、恐らくこれまでに類例のなかつたことである。

以下福岡司教館に通告された、地区、教会、学校などの記念祭の状況のあらましを紹介しよう。

北九州地区では、記念祭当日が平日に当つているので、繰上げて十日日曜日午後六時より、八幡市槻田のパリ・ミツシヨン会北九州本部で、好天に恵まれて記念祭を挙行。このため深堀司教はわざわざ来幡してミサ及び行列を司式された。本部附属の幼稚園には北九州各地から参集した約九百の信者で埋まり、内に入りきれずに窓越しに聖祭に与る者も多かつた。七時ローソクを手にした信者の行列は、アヴエを高唱しながら中央公園まで進んだ。沿道の家々からは時ならぬ火の行列に、目をみはる人々の顔があらわれ、マイクを通じてなされた司教の説教に耳をかたむけていた。

福岡地区では、十一日夜七時より大名町教会周辺で、行列を行う予定であつたが、折からのみぞれをまじえた突風のために、開始直前に中止のやむなきに至つた。市内は云うに及ばず、二日市、古賀からも続々と集つた千余の信者はさしもの司教座聖堂を埋めつくし、ミサ中は文字通り火の海の感があつた。

行列こそなかつたが、司教ミサに与つた一同の感激は、いささかも減ることなく、聖母讃歌の声はルルドのそれを偲ばせるものがあつた。

尚当日午前中に福岡雙葉学園では、全校生徒が講堂でミサに与つて霊的花束を献げ、校内のルルドの洞窟から浄水通教会横の洞窟まで行列を行つた。

筑後地区では、各教会毎に十一日夜に記念祭を祝つたが、太刀洗教会では千名に近い信者がミサののち、附近の部落を延々とローソク行列を行つた。あかりの少い田園地方のこととて、数百米に達する美しい火の帯は、特に印象深い光景であつた。

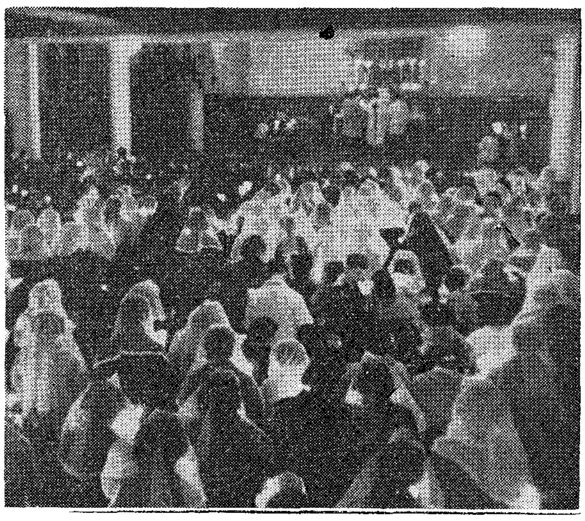
佐賀地区では、佐賀、鳥栖、鹿島三教会合同で記念祭を行い、佐賀教会に数百の信者が集つた。

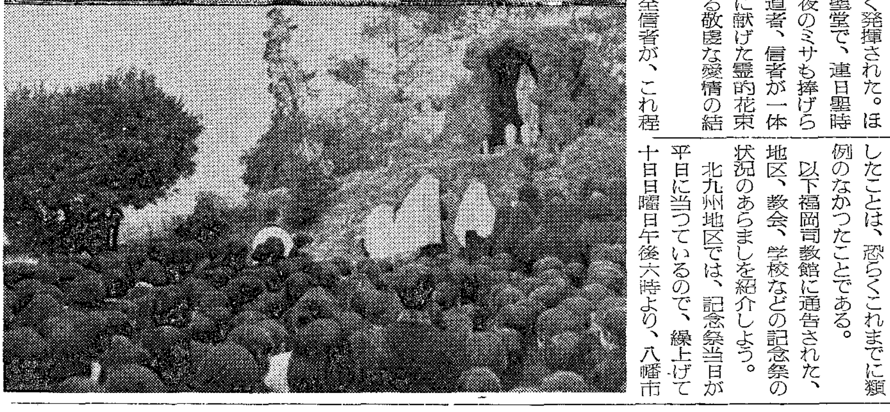
唐津地区でも各教会毎に行い、馬渡島では全信者残らず記念祭に参加。

熊本地区でもそれぞれに聖母崇敬の祝典を行つたが、手取本町の教会では三百余の信者が境内でローソク行列。

菊地郡の恵楓園は少年の町のベラス師の司式でミサとチヨウチン行列を行つた。チヨウチンを使用したのは、途中で火が消えるのを防ぐためである。

宮崎・大分地区も各教会毎にお祝いをした。





（写真左は大名町教会でのミサ、右上は北九州本部でのローソク行列、下は双葉学園での記念祭）

花束　霊的　聖母への　ルルドの

福岡、宮崎両教区の聖職者修道者、信者、求道者が2月2日から11日までの10日間に亘つて作成した霊的花束は、驚異的量に達し、各地区または各教会毎に、記念ミサ聖祭の間に、信者代表によつてルルドの聖母の御手に捧げられたが、地区毎の統計は下の通りである。

	ミサ	聖体拝領	告白	ロザリオ	聖体訪問	降福式	聖母への祈	犠牲
福岡	8,281	2,704	1,700	19,248	13,528	3,881	38,248	無数
筑後	70,954	29,934	6,056	98,605	24,972	22,651	92,116	
北九州	7,113	4,456	1,316	24,573	10,933	2,861	26,838	
佐賀、唐津	4,206	1,906	472	8,503	1,336	2,122	17,823	
熊本	9,766	6,466	1,642	14,438	10,122	3,800	55,255	
宮崎	6,264	4,686	1,191	28,582	10,536	2,708	48,852	
大分	11,197	8,417	1,869	39,675	20,916	3,767	61,264	

福岡地区　布教委員会臨時集会

福岡地区布教委員会では、去る一月の第十三回委員会の決定に基き、二月十六日（日）司教館で五月の布教大会の準備委員会を開き五月四日日曜日の教区主催の聖体行列にひきつづく第三回福岡地区信徒使徒職大会のプログラムを左記の通りに決定した。出席者は平田勇師ほか十名。

❶開会の辞（布教委員による）
❷全国布教委員会事務総長スパー師の講演
❸信者代表による布教精神の昂揚
1、現代社会の信徒使徒職への要求。
2、信徒使徒職と婦人
3、信徒使徒職のあり方
4、信徒使徒職と我らの實務
❹指導司祭平田勇師の講話
❺深堀司教の御訓話。
❻宣誓文
❼奉祝

尚布教会々歌の作詩を鬼木、森山両氏に依頼する。

カルメル会で着衣と誓願の式

福岡市神松園の女子跣足カルメル修道院では、二月三日午前八時より十字架のマリア・ヨアンナ童貞【木村登志子、足利教会出身】の無期誓願が行われた。司式は大神学校々長ラプラント師、説教は同童貞の主任司祭であつた足利教会の牧野師。

同日午後二時より、御訪問のマリア童貞【今村久子、山口教会出身】の着衣式が、平田正喜師司式のもとに挙行され、山口教会主任のウラルテ師が説教を行つた。

ついで二月五日午後三時、深堀司教司式のもとにイエズスのマリア・アスンタ童貞【中吉えみ子、人吉教会出身】が無期誓願を立てた。

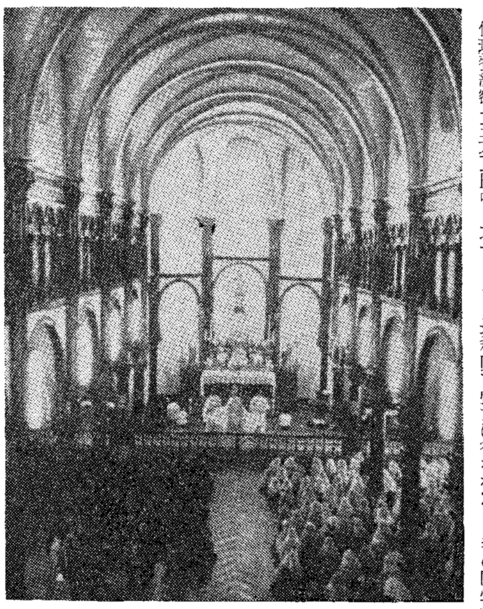
今村教会の改装成る

聖ミカエルの聖像も祝別

去る十月下旬より内外部の大修理を行つていた教区最大の今村教会（福岡県三井郡太刀洗町今）では、十二月下旬に改装を終り、祭壇後部の大聖画の代りに飾られる等身大の大天使聖ミカエルの御像も到着したので、二月廿三日午後三時より深堀司教によつて祝別され、改装記念式を挙行した。

今村会教は、赤煉瓦造り建坪一七五・七五坪、延坪一九八坪で、大正三年故本田保師によつて建立されたものであるが、四十五年以来一度も本格的な修理を行つていなかつた。この度の改修では屋根瓦全部をとり代え、屋根裏を補強し、電燈を螢光灯とし、内部は完全新築の感を呈している。

修理費総額一五九万円中、六七五千円はブラジル在留の太刀洗町出身者及び他の有志によつて寄附され、残余を地元信者が負担、また聖像は富山県の金山外喜郎氏によつて作製された。



（写真は新装成つた今村教会内部）

タボニ童貞〔ウルスラ会日本管区長〕立願銀祝

聖心ウルスラ修道会の日本管区長兼延岡緑ケ丘学園校長マリア・エド・ヴイゼ・タボニ童貞は、来る三月十六日立願二十五周年を迎えるが、その記念祝賀会が二月二十三日福岡市簑島の同会経営のカトリツク幼稚園で盛大に行われた。

タボニ童貞は一九三三年有期誓願、三六年無期誓願を立て、戦後間もなく中国の布教に出発、四年半の間学校経営に当り、中共軍侵入のため一九五二年わが国に来朝。簑島の幼稚園設立を皮切りに、延岡に高等学校（来る四月には幼稚園を開設）佐賀、鳥栖にも幼稚園を開いた。

現在志願者を含めて約四十名の会員が日本管区に属しているが、聖心ウルスラ会は中国満洲、台湾などでも布教に当つている。

「ルルドの聖母の会」誕生

福岡吉塚教会では、教理研究、布教活動の一助として「ルルドの聖母の会」を去る一月十二日結成した。

会は教会の信者、求道者の少女たち十三名で発足したが、現在では廿三名に増加した。毎月二回の集会では、主任司祭ヴイユヌーブ師の霊的講話、ロザリオののち、一月間の命ぜられた仕事の報告などを行う。二月十六日の集会では黙想会にできるだけ多くの信者を誘うことを取決めた。

（写真はルルドの聖母の会員）

カトリツク児童福祉の献金（一月廿六日）

福岡教区

大名町	八、九六〇円
浄水通	一、六二〇
地行町	二、〇〇〇
簑島	六八〇
西新町	一、一〇〇
高宮	二、四七〇
那珂町	一、〇〇〇
吉塚	六〇〇
箱崎	九三三
茶山	五一五
二日市	六七五
今村	四、一五〇
本郷	二、三〇〇
久留米	二、七七〇
大牟田	一、二〇〇
古賀	四一三
呼子	二、六〇〇
馬渡島	二、〇〇〇
佐賀	二、一五五
唐津	四〇〇
鳥栖	六〇〇
伊万里	五〇〇
鹿島	二〇〇
門司	一、二四二
小倉	四、五〇〇
湯川	八三五
戸畑	七、一五〇
若松	一、三〇〇
八幡（天神町）	二、四〇〇
黒崎	二、八五〇
八王子	二、二〇〇
水巻	—
直方	二、二〇〇
飯塚	三、四四〇
田川	七二五
行橋	一、〇〇〇
新田原	四、〇〇〇
手取	三、〇〇〇
健軍	一、三五〇
琵琶崎	六、三〇七
八代	一、五〇〇
人吉	八、〇〇〇
水俣	三九二
隈府	一、〇五〇
玉名	三六五
本渡	四五〇
大江	一、一三〇
﨑津	一、〇〇〇
二日市幼稚園	六、一一四
明治学園	二四、一三〇
双葉学園	一〇、九九一
久留米聖心幼稚園	二〇、七〇〇
聖母園（高宮）	四、〇七五
信愛女学院	八、四〇〇
合計	一七二、六四一

宮崎教区

宮崎	五、〇〇〇
高鍋	八五〇
田野	一、四〇七
都城	一、四〇〇
富岡	三〇〇
延岡	一、三七〇
油津	一、五〇〇
大分	九五〇
別府	一、五〇〇
日田	一、五〇〇
坂ノ市	六〇〇
杵築	三五〇
中津	九〇〇
大貞公園	二、〇〇〇
佐伯	四〇〇
宮崎ドン・ボスコ保育園	七五〇
合計	二〇、七七七

附加＝十二月八日の神学校献金のため

宮崎	二、〇〇〇
日田	一、〇〇〇

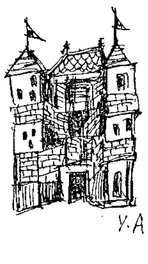
古い伝統　声　新しい内容
三月号発売中
（教会論、紀行文、実話、随筆、写真集等々）
内容豊富で新鮮な家庭雑誌「声」を是非あなたのお家にもお備え下さい！
一部五十円　〒四円
大阪市東区北浜五ノ三一
発行所　声社
振替　大阪一〇七五八

現代生活倫理講座
❶倫理の本質　G・マルセル外16氏執筆
❷性の倫理　小林珍雄外12氏執筆
❸教育と倫理　田中耕太郎外10氏執筆
❹社会の倫理　エルリンハーゲン外13氏執筆
❺マス・コミユニケーシヨンの倫理　小林珍雄外17氏執筆　三月上旬刊
B６美装・各￥250
東京神田宮本町10　春秋社　振替東京24861

「われに従え」⑦

徳とその規準

深　堀　　敏



❶ 徳とは、一般には、心の偉大さの証しであり、何時も価値の高いものを探す者の特質であり、よりよいものに全面的に向つている者の、豊さと調和というように考えられている。

この見方は、徳を純粋に哲学的に解釈したものであつて、同時に人間的水準を越えてはいない。

キリスト信者にとつては、徳はイエズス・キリストに見られる人類愛と謙遜と高貴さの中に輝いており、模倣すべきであり乍ら、完全に模倣され得ない独特の理想である。徳の何たるかは、キリストの普遍的愛、神と人とのために捧げられた比類なき犠牲の行為をもつて、実践的に教えられている。

❷ 徳とは、善に対する自然な傾き以上のものである。むしろ善行に対する確固たる、長続きのする状態である。人格の真底まで善によつて把握されることであり、人間の第二の本性とも呼ばれる。

❸ ギリシヤ人にとつて、賢明の徳こそは万徳の頂点である。これによつて、それぞれの環境の中で善なるものが正しく判断され、その実行を保証される。もし為すべき善を正しく判断できず、その核心を本当につかむことができなければ、完全に実行に移すこともできないであろう。

❹ われわれ信者は、賢明の徳をギリシヤ人のように純粋に智的な徳とのみしないで、それに愛、即善に対する愛を加えるのである。賢明とは、聖書に云われる叡智の意味、善いことのみを〃味い〃によつて知ること、善の中に含まれている〃甘味さ〃をかみ味う能力と解したいのである。

❺ 叡智に生かされた賢明の徳を身につけるには、キリストの教と模範に従い、叡智と愛の霊と呼ばれる聖霊のお働きによつて動かされねばならない。超自然的な賢明の徳は、キリストを通じてなされた神の愛の啓示の中に示され、キリストの模範に従つて愛の掟を実行することを眼目とするものである。

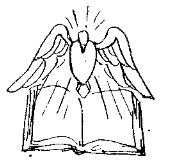
❻ 徳は中庸にあるとはギリシヤ人の教えである。キリスト信者はそれを正しいと信じながらも、この規準にとらわれ過ぎてはならない。むしろ超越してゆくべきである。われわれにとつての徳の規準は神のわれわれに対する無限の愛であることを悟るならば、調和とか中庸とかの余りに人間的な水準にこだわつてばかりいられない。

神の限りない愛を身をもつて現わし給うた、キリストの御後に従うことのみを、唯一の念願とすべきである。

みんなのための聖書

(19)

聖書と聖母マリア



〃女より生れたもの〃

イエズスの御母についての最初の証言は、本当につつましいもので、聖パウロによつて与えられています。

〃時が満ちて、女から生れさせ、律法の下に生れさせた子を神はおつかわしになつた。それは、律法の下にある者をあがない、われわれを養子とするためであつた〃（ガラチア四の四—六）

パウロはここで〃女〃のことを加える必要はなかつた筈であります。彼はイエズスが、ユダヤ人の律法の下にあつた者に、神の養子となる権利を授けるために、まず自らこの律法の下に生れることをよしとし給うと述べればよかつたのであります。でもその母のことにふれたのはキリストが律法の下にあつた民族と血肉の上でも、つながつていることを、はつきりと証明するためであります。マリアのお蔭で、彼は血肉からもわれわれの兄弟となると同時に選民の一人となり、又同じ人間であり乍ら、われわれを御約束の後嗣となし給うたのです。

われわれの一人

イエズスの中にあるもつとも人間的なもの、例えば、馬小屋から十字架までの御一生を貫ぬくかよわさ、身体的疲れ、温かい愛情などは、みな母マリアから受けたものであります。ナイムの寡婦に対するイエズスの御同情を考えてみましよう。

主は、すでに寡婦にて在し、やがてそのひとり子を失うであろう母マリアに、思いを寄せられたことでありましよう。他人の苦しみを共に苦しむ心、イエズスはこれを母マリアから受け給うたのです。

パウロが〃女より生れた者〃といつたこの表現の中に、イエズスがわれわれと同じ人間であること、われわれの兄弟であることが、明示されているのであります。

契約のあとつぎ

マリアは御子を生むことによつて、イエズスを全人類に結びつけ給うただけでなく、より直接には、律法の下に服していたユダヤ民族と結びつけ給うたのであります。ですから、律法はマリアを通じて、その果実を生じたといわれるのです。

そもそも律法というものは、広く人間の幸福を、いいかえれば、自由における新しい永遠の契約——神の国の後嗣となること——を目指したものであります。

従つて、イエズスは、マリアを通じて、律法の下に服して生れることによつて、律法そのものの内部から、聖寵の力によつて、それが目的としていたものを発揮せしめ給うたのであります。

マリアによつて、イエズスは（律法に服して）人となり、われわれは（律法のくびきを脱して）神の子となつたのです。

カトレアを根〆に入れて浮きごころ　恵女

ミサにあづかるわたし一人が紅の足袋　かな女

逆光のつたの芽ルルドに齊唱す　牧泉

裕次郎聴いてこたつに方丈記　畦草

芋の芽のほのかの紅を筆に染め　冬心

世界一周を終えて

平　田　　勇

世界を旅するものにとつて、羨望の的となることは、ローマ見物とそのローマに命を与える教皇聖下への拝謁であろう。

私の旅行の主目的の一つは世界信徒使徒職第二回大会に出席することであつたので、ローマで教皇聖下に拝謁することができるであろうと、一縷の望をもつていた。

旅行の途中我々が教皇聖下の拝謁を賜わるものと予想して、その祝福に参与せんものと、我々に親切を尽し、また祝別された聖物を注文したりした人も多かつた。

ロスよりの飛行機内で、三代の教皇にお目にかかつたというイタリ系のフオグリノ夫人と話す機会があつた。現教皇えの拝謁は「生きながら天国に行つたような感激をおぼえた」と云いながら、教皇の御手より頂いたロザリを見せてくれた。

フイレンチエでニューヨークのメリナ夫妻にあつた。彼等は新婚旅行の途次教皇聖下に特別謁見を賜り、聖下の使用されたボルサリノ製の純白半球形小頭巾（ピレオルス）をお手ずから載いて、有頂天になつていた。末代家宝にしたいといつていた。その小頭巾を私の頭にのせて、「教皇聖下のピレオルスを被れたのだから光栄でせう」と微笑した。

イタリ滞在約一ケ月の間に、私は前後三回も聖下に近ずく機会を得た。第一回目は公式拝謁で、十月五日大会開始の日で、第二回目は、公式拝謁後サンピエトロ広場で、第三回目は、夏の別荘カステルガンドルフオにおいてで、日本人のみの私的謁見であつた。当時謁見に集つた日本人は約八十名であつたが、日本からこれ程多数の信者がローマに集つたことは、教会史上初めてであつたという。

公式謁見で始めて、教皇聖下の御尊顔を公式みこしの上に、高座定席上に拝したが、四十分にわたるフランス語での信徒使徒職に関する大会メッセーヂを発表なさるときの聖下は、八十二才の御高令とは思えぬ程若々しく、お元気のように見受けられた。個人謁見での聖下は可成りお疲れのようで、そのお声も公式のとき程の玲ろうさがなかつた。日本人のみの謁見では、公式のときのヴイヴアパーパの歓声はきかれず、日本人らしいつゝしみと親しさのうちに、恐懼措く所を知らず、御言を有難く賜ることが出来たのは、最も感銘深いものであつた。

個人謁見のとき、私と旅を共にした未信者の友人が、教皇聖下にカトリツクを研究することを誓われたことは全員の喜びであり、大会の機会に賜つた個人謁見を有意義なものとした。謁見時に知人その他の方々の上に教皇の祝福を受け、多の聖物を祝していただき、一生涯中の忘れ得ぬ印象の一つとなつた。

信ずる

アントニオ

その脇にわが手を入るるに非ずば信ぜじ——見ずして信ぜし人々こそ福なれ。　—ヨハネ二十章—

このことばは、現代人にとつて実に耳のいたいことばである。

私たちは、日常生活で信じているのは、何によつてであるか？このことを、一度たしかめてみたら良いと思う。

二千年前にいつた聖トマのことばは、今、私たちがいつているのと、全く同じである。

主イエズスを信じ、聖ペトロとともに、主の神性を信じ、救世主を信じていた聖トマは、イエズスの死後、或いはその神性を疑つたのかも知れない。

御復活の夜、聖トマをのぞいた弟子たちにイエズスは現れたもうたこの事実を聖トマはその友らによつて告げられたが、信じようとしなかつた。理性に於て、これが認められなかつたのであろう。こゝに私たちの現代人の主知主義を見ることが出来る。いかにうそをいわぬ人と判つても、その人が、「主イエズス。こゝに来たれり」というのを聞くと、有り得ぬこと——自分でそう思える——であるため、「我はその証拠を見なければ信ぜず」というのは当然であろう。また、これを「あゝ、そうですか」とあつさり信じたのでは、盲信のそしりをまぬかれない。

自分でたしかめる——これが現代まで人類が進歩して来た原因中第一のものである。これがなければ、人類はまだ動物より、少しましな所をうろうろしていただろう。

八日目の夜、イエズスは皆のいる所に現れたもうた。聖トマはびつくりし、「我が主よ。我が神よ」。と叫ぶ、その時のみことば「汝は我を見しによりて信じたるが見ずして信ぜし人々こそ福なれ」

見て信ずるという、人間の経験のなんとむなしいことか？ここには、全人類のすべての経験を重ねても、かかる経験は出て来ない。全くの驚天動地の場面である。ここには神性の勝利がある。

しかし人間の原罪は、このことも歴史も雲にかぶせてしまう。そして今も多くの人が「見なければ信ぜられぬ」とつぶやく。その人たちは、理性を重んずる余り、その範囲内では、見たくても無条件に信じ、それ以上に出ようとはしない。

この点をつきぬけねば、信仰は得られない。そして、信仰を与えられたのは、努力もさることながら、お恵みとしか、考えられぬ。

「見ずして信ぜし人々こそ福なれ」信者としてこの有がたさ、幸いを思うものである。

神をみる眼

〃この世に限られたものは見ゆれども、永遠のものは見えざるなり〃

ルルド・マツサビエールの洞窟のもとに、うやうやしく跪き脱魂状態で御出現の聖母を仰ぎみている田舎娘ベルナデツタのみゆる敬虔な姿と、その背後に働いている見えざる力とに思いを運びましよう。

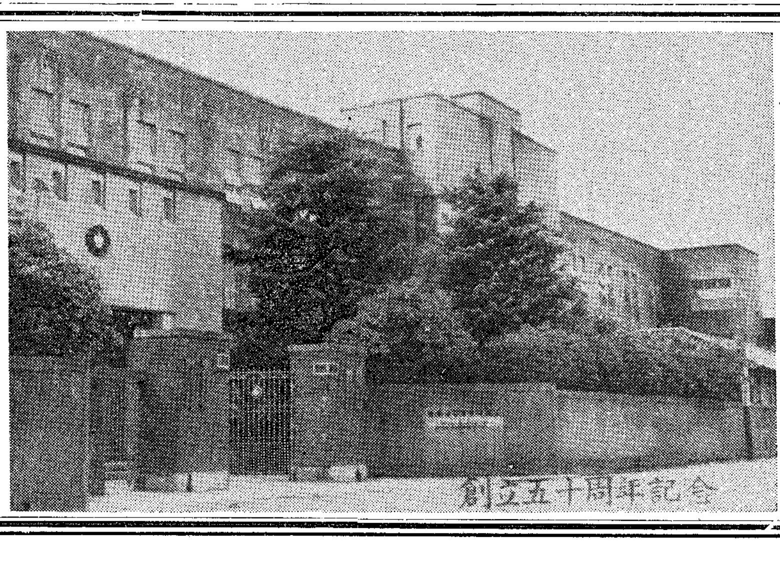
ベルナデツタ自ら〃私はもつとも無知なものです〃と云つているが、世人の目に映つた彼女の無知と単純は実に多くの見えざる永遠のものを深く包んでおり、その永遠のものは、彼女において思うままに働き、語り、告げたのである。「見ゆるものはこの世に限れども、見えざるものは、永遠なり」（コリント後四ノ一八）の聖パウロのお言葉が、ベルナデツタの無知を通じて、ややもすれば、有智を誇り、それを人に見せようとさえする無知なるわれらの魂にも強くひびいてくる。

自己の偽りなき姿、即ち無知なる自己を自ら無知と認め、無知にふさわしく生きる魂—それは無知どころか、もつともすぐれた叡智であるが—これこそ水晶のようにすき通つた魂である。そのような魂であればこそ見えざる天よりの永遠の光や声が、よく通り、魂を照らし、よく見えしめるのである。実際に弱く貧しいわれらが、貧しさを知り、貧しい心で貧しさをおし抱く時、心の目は水晶のように清くすき通り、天の光や声を何の妨げもなく、素直に受け、天主と出会い、天主を見奉ることができるのである。幸なる哉、心の貧しき人、幸なる哉、心の清き人、彼らは天主を見奉るべければなり（マテオ　五ノ三、八）

自己の無知と貧しさを、ありのままに貧しい心でおし抱いたベルナデツタは、魂一杯に浴びていた天の光を、かの厳格なこわいルルドの主任司祭に通じ、彼をして「ベルナデツタは水晶のようにすき通つた魂の持主だ」と叫ばしめた。

かように無知と貧しさを貧しい心で天主より頂き、然も信仰の叡智が深く心が単純で清く、謙遜であればわれらにも天主は見え、聖母の御出現さえないとは云えないであろう。

〃私はもつとも無知なものだから聖母から選まれたのでしよう〃（ベルナデツタ）



創立五十周年記念

学　生　募　集

文部大臣指定・大阪学芸大学指導
大阪信愛女学院
幼稚園教員養成所
☆幼稚園教諭二級免状附与
☆就職率百％
寄宿舎完備、施設環境関西随一！
願書〆切3月10日　学則30円
大阪市城東区古市北通　電㉝二九二〇

回勅シリーズ❶発刊！
レオ十三世　著　岳野慶作　訳解
レールム・ノヴァルム
—労働者の境遇—
新書判146頁　￥100　〒20
世界中の人々が耳を傾けています。教皇聖下の回勅は、精神世界を代表する発言であることを信者はもちろんのこと、未信者の人たちも認めています。カトリツクが優勢でないアメリカでも、労使問題の解決は本回勅の線を守つて行われています。いま日本の労働省が手本と仰ぐドイツの労働界の諸制度は、やはり教皇回勅の線にもとずいています。誰でもが見逃すことの出来ない回勅シリーズです。
❷❸❹❺❻と毎月一冊続刊予定
❷は回勅カスティ・コンヌビー（結婚の倫理）です
東京都新宿区四谷1の2　中央出版社　振替東京62233

短歌

マルガリタ

水槽に飼われて赤き魚身透く
かかる清しき生きもあるべく
日まわりの黒き実となる過程にも
わが転心はなされざりしか
夜の闇を見透すまなこもちてをる
けものは吾を越してゆきたり

二丈

マリア像と並びて生けしえにしだの
若芽は銀にぬりつぶされてあり
講堂の屋根の高みに日はありて
光かえしぬ冬枯れの枝

枯桜

宿命と嘆かり床に寝返れば
現身は触る壁の冷めたき
許されて試歩の限界数歩にて
蕪然とたてり十五尺の塀

母がそれを教えた

K 生

「骨身をけずられる思い」という言葉がある。鼻中隔亚曲症とかいう鼻柱の曲つた病気のために、鼻の奥深く「のみ」を差込まれて、ハンマーでこつこつやられ、文字通り骨身をけずられる痛さを体験した。

手術半ばで「痛いですか」と医者が聞く。首より上は局部麻酔をしているが、骨身を、しかも鼻の中をけずられるだけに、はなはだ痛い。流行歌の歌詩よろしく「男じやないか男なら……」と胸の中で呟き、寝巻のひもを握りしめたのだが痛さにかわりはない。「痛いです。先生！」と答ようとするが、声が声にならない。残念ながら、舌がもつれていたのである。

手術後、木枯の吹きぬけて行く隙間だらけの病室に、地球上に存在する凡ての苦しみと痛みとを、鼻の穴に詰込まれたような顔をして寝ていた。空腹を感じても、鼻の中にガーゼをつめこまれているので、満足に食事も出来ない。子を持つて知る親の恩とか、病人の気持は病人でなけりやあ…だとかいうが、全くの話、病気してつくづく健康のありがた味を感じさせられた。健康という平凡な一事に、神の大なる恵の継続が潜んでいるということには、健康であればある程気付き難い。病床で、かゝるひそめられた神の御恵に改めて感謝した。こういう感謝の念を、常に持つているようにと教えられたのは、幼い日であつたのだが……

――小学校三年生の時の四旬節の或る日、未信者の学友と、川岸の広場に小屋がけしていた旅回りの芝居見物に行つた。無論、家族の者には内証でである。運悪くも隣りの人が芝居見物に来ていて、私のことを母に告げたらしい。……（女は御喋りである―とその日肝に銘じたのだが）……

その日の夕食は白い御飯だつた。その頃、白い御飯は、正月と大祝日、それに病人が居るときでないと食卓にはだされなかつた。（病人はいないのに……）と思いつつ食卓についた。しかし、母は、私の椀にも母の椀にもいつまでたつても、白い御飯どころか昼の残りものさえよそおうとはしない。父も弟妹も、あたたかい白米の御飯を食ているのに、母と二人、箸をとらずに坐つていた。理由は簡単なことであつた。「四旬節中は、私達の罪のために十字架にかかつたキリスト様に対する感謝と自分の罪の償いの為に、芝居見に行かない様に……」という、母が決めたその年の四旬節の戒を、私が犯したからである。しまつた！と思つたがもう遅い。母は私が詫るのを箸をとらずに待つていた。目には涙、心にはいましめを破つたことに対する悔の念がわいて来るが機会を逸した詫は仲々いい難い。カツーと声をあげて泣きながら、自分の寝床へ行く外はなかつた。その夜、泣寝入りしたらしかつたが、空腹のため夜中に目が覚めたハツ！とした。枕もとに母が坐つて居たのだ。「お母さん！」（…許して下さい…）を涙声で言いながら、母の暖いふところに抱き上げられていた。

それから、白い御飯を、塩つぱい涙と共にかきこみながら「感謝を忘れる人は駄目な人です」という母の言葉も一緒に胸の底にたたみこんでおいた……筈であつた。

病気後、母が心の中に種蒔いてくれた「感謝」の芽が、まだ芽のまゝであるように感じられてならない。恨は石に刻まれた碑文字のように長く残るものだが、感謝は波打ちぎわに書かれた砂文字のように儚い。感謝感激雨あられ式の仰仰しい感謝は底の抜けた花瓶の花のようでなにか空々しい。だからといつて、なすべき感謝を怠るのはなお悪い。父母師友長上、隣人に対してさえ真摯な感謝の持続は難しい。それが御父天主様に対してはより難しい。犯した悪、なさざりし善を詫ざるのみか、当然なすべき感謝を怠り、罪を重ねることに依つて、「その人ならでバラバを！」と叫び「十架に付けよ！十字架につけよ」と絶叫する群衆の一人ではなかろうか—。

絶食の刑を以つて、神の受難への感謝を教えてくれた母は逝つた。そして、母の墓碑は、西日をうける丘の上で傾いている。だが、母が心に蒔いてくれた神と人に対する感謝の芽を、せめてこの四旬節の間だけでもまつすぐに育てたい母がそれを教えてくれたから—。

聖母への花束

ルチア

どちらに進むか見当もつかない程の人波が少しずつ動き出して行列を作り、次々と教会の中へ流れこんで行つた。各自のもつローソクカヴァーはルルドのと全く同じとのこと、噂に聞くルルドへの巡礼を思わせる。

やがて立錐の余地もない程に人々が並んだ時、後の方から同じローソクを手になさつた司教様、神父様方が静かに御聖櫃に向つて進まれ祭壇聖所にお入りになつた。教会内の電気は常より少く、ローソクの炎がほのかに柔かくそのカヴァーを照らしている。

御ミサが始つた。ルルド御出現の聖母のメッセージに応えて一同は声を揃えて心からなる告白の祈を唱える。出来るだけ熱心に御ミサにあずかり、信仰深く愛をもつて御聖体を拝領しようと決心を改めた。聖母に聞えよかしと讃える聖歌の響き、一なる信仰からほとばしり出る祈りの合唱、広い教会内はただ一つの愛――聖母に対する純なる愛――に支配されている。天国の幸福さが少しわかる様な気がした。

〃枯草まじるあのピレネー山中のルルド、そこに御出現なさつた無原罪なる天主の御母、純朴素直な少女ベルナデツタ〃司教様の御説教は遠く百年昔のこの日のルルドに懐しく私を導き、聖母に対する愛と天使祝詞をより熱心に唱えようとの心構えを馳りたてて下さつたこのまゝ時の流れが止つてしまえばよいと思われるうちに惜しくも時間はずんずん過ぎてゆく。あらゆる階級、国籍、年令、男女の別を超えて、一なる信仰、天主を中心に結ばれた愛の一致、真の平和と幸福がひしひしと身に迫る味を覚える。幸福感に浸つている私の霊魂に〃罪人のためによく祈れ罪の償いをせよ〃との聖母の御声が響く。―この幸福を知らない多くの魂の群、永遠の亡びに落ちんとしている霊魂、背かれ給う神の無窮の愛―聖母の御望に添つて罪人の改心の為ロザリオを熱心に祈り、喜んで自発的に犠牲をお捧げしよう。

外に出て感激にほてつた頬に夜風を気持よく感じながら、なおすがすがしい余韻をいつまでも心にのわつていた。

詩

家の向うと、道の彼方

黄いろい光りの氾乱した
黒い影の行き交う
さかり場のはずれは線路だつた
冷めたい、いじ悪な鉄の帯が四
つ
暗闇に白い目でにらんでいた
自動車が小さくすい込まれて行
く
道の彼方はなぞだつた
人さらいが来て、連れて行く
恐しい、なぞの国だつた

今、大きくなつて、行つてみて
家の向うに家があり
道の彼方もなぞでなく
ただの道だと気がついた
家の向うにこえて行き
道のはずれにたたずんで
行く道、来た道眺めてた
なつかしい顔のあふれた来た道
出会うであろう顔の住んでいる
家の向う
道の向うはやつぱりなぞだつた
家の向うもなぞだつた

ルルド百年祭に想う

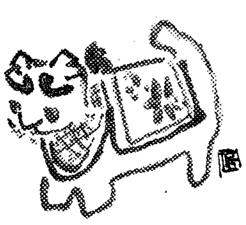
N 恵

十一日そぼ降る二月の雨をよそに私共親子は郊外バスの人となつた。暗がりの街道にやつと出た頃はキャンドルサービスに間もなく届く時間を指していた。初めて訪う大名町教会の雰囲気を色々と想像のうちに万町の電停についた時心の芯までとどけよがしの鐘の響きを耳にし思わず心がまえの単純さに釘をうち込まれた思いがした遅ればせつつはせ込んで親子は親切な友人に招じ入れられ厳かな御ミサに参列を許された訳である。信者それぞれの手にもたれる蠟燭の輝きに何かしら魂のゆさぶりを感じた。深く深く拝せんとするうなじその心の底に素直に動く敬虔な心様々の階級の人達の集る聖堂にあつて私は「心の清きものその人は神をみん」の聖句を考えていた。そして佳き人すべて救われるの感を深くするばかりだつた。

子供は子供なりの感覚を働かせ少年少女世界文学全集の三つのミサ（アルフオンスドーデー）を考えていたらしい。然しそれ等の先入感とはおよそ異る聖堂に於て不馴れ乍らに聖歌の譜をたどろうとする気配に親もあながちおめでたいとはいい切れないものがある様に自己解釈をし、安らかな顔色に充ち満つ信者の方々をいささか羨しいと思つたのも事実である。一未信者である異教徒がたまたま試練の機会として受取つたこの日のめぐり逢いをサンタマリアの讃美に心とけゆく一瞬を与えられた事を有難く思つている。そして帰りしな〃よかつたね〃とぼそつといつた子供の叡智が再びよみがえつてくれる日のある様にと心ひそかに願い乍ら私もまだまだと麦田の少径にバスを降り立つたのである。

× × ×

ぶつく、がいど



十字架に対する七つの言葉

フルトン、シーン
司教著
山中巌彦
深井敬一　共沢

フルトン、シーンのこの書は主の十字架上の七つの言葉を、現代の七つの部類の人々にあてられたものとして解説する。

第一の言葉、彼等は為す所を知らざる者なれば、之を赦し給え（ルカ32の34）を、人間は生れつき善良であり、科学によつて日々に進歩し、人間の理性自体の努力によつて世界と良心に平和を回復しうると信ずる「ヒユーマニスト」に、第二の言葉「我誠に汝に告ぐ今日汝我と共に楽園に在るべし（ルカ23の43）を「罪に悩む人々」に、第三の言葉、婦人よ、汝の子なり、是汝の母なり（ヨハネ19の26、27）を、救いは一個人又は一階級の関心事であり、宗教は、貧民窟の除去、社会保障、運動場を増加することなどによつて、利己主義の生活をなす人に妨害となるものを取り除く以上の何ものでもないと考えている「利己主義者」に、第四の言葉、我が神よ、我が神よ、なんぞ我を棄て給いしや（マテオ27の46）を知能以上の教育をうけた所謂鼻につく「インテリ」に、第五の言葉、我渇く（ヨハネ19の28）を、ほどよさをよしとし、聖書の所謂なまぬるき者なのであるが自らを寛大なりと呼ぶことを好む「現代人」に、第六の言葉、成り終れり（ヨハネ19の30）を宗教は常に劇的でなければならないとし、静かな抑制された単調よりもむしろ耳を驚かす倍音を好む「強烈な刺戟を望む人々」に、第七の言葉、父よ、我が霊を御手に托し奉る（ルカ23の46）を何故自分はこの世に生れ死後どこにゆくのかという人生の根本問題の探究に熱心に携わつている「思想家」に、適用して、超自然の種々の角度から、現代人の宗教に対する心理のくまぐまを、残すところなく解剖する。

全体としてやゝこじつけの感がしないでもないが、それでも一代の説教家たるのトーンは少しも失われていない、むしろ主の御言葉を現代の真只中に、ある意味に於て卑俗にさえ思われる程身近かに感ぜしめようとする努力こそ、よしその完成の度には至つていなくとも高くかわれてよいのではあるまいか。

この世には罪よりも悪しきものが唯一つある。それは我々が罪人であることを否定することなのである。

けだし神の御業は教養を通してではなくして、恩寵を通してこそ行われる。神が人々に求め給うのは、洗煉にあらずして悔悛なのである。神は、我々が偉大となるのは、我々の人物のためではなく、神の与え給うものゝ為であることをこそ示し給うのである。

善き盗賊の改心こそ現代世界の改心の鍵ではなかろうか。人々が神に帰するのは、彼らが善良である故ではなくして、自己の悪しきを認めるからなのである。人々は善良さを通してよりもむしろ悪を通して神に到達するであろう、あるいは悪魔を通して到るとでもいおうか。

これこそ救いの端緒である。かの盗賊は死に及んでも盗賊であつた。けだし彼は楽園を盗みとつたのであつた。我々ももし楽園をかち得るならばまた盗賊となるであろう。何故ならば、我々は我々のかち得たところのもの、即ち永遠の平安の神をいたゞくに決して価しないであろうから。

以上第二の言葉、我誠に汝に告ぐ、今日汝我と共に楽園にあらんの章のあちこちから抜萃した。翻訳はあまりよいとはいえないのであるが、少しでも内容紹介になれば幸甚である。

（二〇〇円、中央出版社）（K）

SSD
コンサイス英和辞典 380円 革500円
コンサイス和英辞典 350円 革470円
辞書は三省堂
新小辞林 300円
明解国語辞典 380円
SSD

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十円

教皇、大家族を称揚
産児制限論者に反駁

教皇演説

教皇聖下は、ローマとイタリアの「大家族協会」の会員たちに謁見を賜つて演説され、「大家族こそは、キリスト教国民の物心両面の健全さと、神および神の御摂理への絶対的信頼と、カトリック的婚姻の実り多く、且つ喜ばしい聖性との三つのものの生きた証拠である」という旨を強調された。

有害な宣伝

❶ 私は家族問題を私の司牧上の教の一主眼点としたいと思う。大家族こそは、神から祝福され、教会から愛され、そして教会のもつと貴重な財宝の一つと教会から考えられているものである。

❷ 家族の大きさを制限することを宣伝している、現代社会の家族計画運動のもつと有害な誤謬を遺憾とする。婚姻の多産性を「社会的疾患」だと定義することを敢てしている人々の態度を非難する。

❸ 世間には、いわゆる「合理的産児制限」の推進者となる人や団体や新聞がある。

❹ 歴史家は、一国民の頽廃の第一の原因が、婚姻に関する律法に対する違反にあると言つているがそれは正しい判断である。カトリツク側としては、家庭と社会の物心両面の健全さは、自然法、創造主の法を完全に順守することによつて、特にそれに対して深い敬意を表わすことによつて保護されるものだということを主張する必要がある。

❺ この問題については、産児制限理論の愚昧と、その説の実行から生じる損害とは、否定しえない証拠をもつて断言され得る。

神への信頼

❻ 神と御摂理への絶対的信頼は利己心のために家族の拡大が妨げられている現代の世間において、大家族があたえる真理の「証明」である。

❼ 神への信仰は、子供の養育のために要求される「犠牲、および欲望の放棄」と取り組むのに必要な力を親に与える。

キリスト教的な愛の精神は家庭の秩序と平穏とを見守ると共に親と子供と兄弟たちに共通の、きわめて親密な家庭の喜びを与える。

制限論に根拠なし

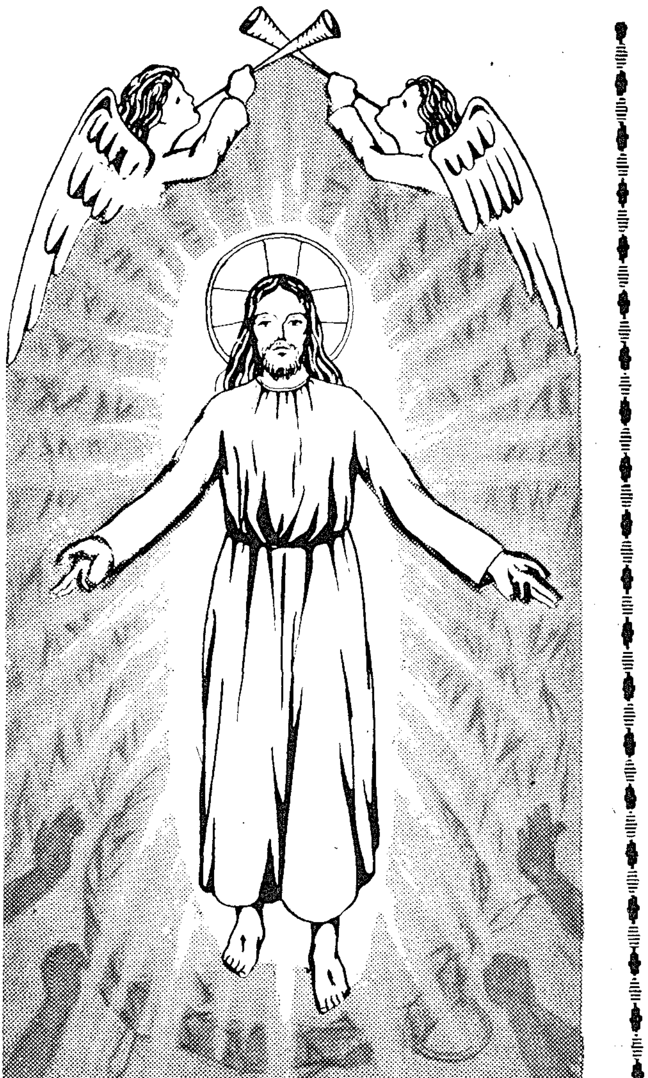
❽ 神は世界の将来の運命を、御自分の決定に保留し給うた。従つて「人口過剰」ということは、非合法な産児制限の実行を弘めるための口実にすぎない。

他の諸国民の膨張からして、自国の政治的権力と生活水準とか低下する危険を恐れるような国か、あるいは、新らしい生命をつくる誇りといさおしよりも、地上の財貨を十分に享楽する方を好む人々の、気まぐれと利己主義を正当化するための口実なのである。

大家族の幸福

❾ 大家族こそは、幸福と聖性とが栄えるところの「教会の園」である。親の払う「努力と犠牲と欲望の放棄」は、そのすべてが、この世において大家族に報いられるところの「愛と希望」によつて償われるのである。

❿ なお神は、大家族をしばしば「召命の源泉」及び「聖人の揺りかご」となし給う事によつて大家族に対する神の御好意を示し給うのである。（カトリツク新聞より）



われ甦りて、なお汝と
共におるなり　アレルヤ
（復活祭入祭文）

祈禱の使徒会

—四月—

【一般の意向】司祭職への召出しの増加

【布教の意向】セイロンの教会のため

【布教委員会の意向】信者が御復活の務めをよく果すため。

幼児の洗礼

ローマの礼部聖省は去る二月十八日附省令をもつて、幼児には誕生後できるだけ早く洗礼のお恵みに与かれるように配慮し、重大な理由なしに遅延することのないよう信者に警告を発しております。

世の光

カトリック司祭

最近では「神父さん」という名前をきいても、けげんな顔をする人は少くなり「ああカトリツクの坊さんか」位にまかり通るようになつている。でもプロテスタントの牧師さんにまで同じ呼名が奉られて、迷惑を感じておられる向きがあるかも知れない。一般ジャーナリズムが牧師と神父即ちカトリツク司祭の区別を知らないのは、プロテスタントとカトリツクの区別をさえ知らない者の多いわが国のこと だから致し方 ないであろう。

実際カトリツク司祭とは一体何者なのであるか、それにはカトリツク教会とは何かをまず先に理解してかからねばならないことである。

またカトリツク司祭を仏教の教団における出家に相当するものと考えている向きもあるが、出家とは仏陀の理想像に達しようと特別の規則に専念するものであつて、感化と模範を通じてしか一般信者に働きかけない。カトリツクで出家に当るものは、むしろ修道者とくに修道院の囲いの中に閉じこもつて、祈りと犠牲的生活を通じて神に近づき、間接に人のために働く観想修道者であろう。

所が司祭とは自分自身の成聖、完成を求めることを第一の目的とするものでなくて、カトリツク教会という有機的な共同体―即ち霊魂の救済を容易にするため、キリストを信ずる者が形づくる結社であつて、これに加わるものはそれぞれの権利と義務または使命を持つて結合する―において、一般信者とは違つた特別の権能と任務をおびているものである。勿論司祭たるものは道徳的にどういう人物であつてもよいのではない。司祭とは解脱したもの、世間を捨てたものの謂ではなくて、権威をもつて人々の霊魂を指導する職責をもつものであつて、それにふさわしくあるために聖徳と高い人格が要求されるのである。

カトリツクに限らず一般に司祭とは、神と人との橋渡しをするものと考えられ、殆んどすべての宗教に存在する。人民の祈りを神に取次ぎ、神の恵みを人に伝える仲介者である。犠牲を神に捧げ、ものを聖別したり祝聖したりする権利、信仰道徳について教え、霊魂を指導し、神の恵みを分配する権利などを身におびている。

仲介者が要ることについて反対意見をもつている人もいる。しかし平常俗事に携つている人達が、聖の聖なる神と直接に交わることに恐れを感ずるのは人間の心理、そして信仰心からして当然のことであろう。だから俗事に関係せず神のことに専心する少数の人が選ばれて、彼等を通じて神に近づくようにすることは不自然な習慣ではない。この人々は神に仕えると同時に、民に奉仕するものであり人と神とのより親密な交わりを助けるものである。司祭自身個人的には弱さをもち、それを自覚していて、他の助けを必要とする者である。

仲介者と立てられることは、民の側から誰かを合意の上で選んで代表者となつて貰うことではない 神と人との仲介者であるから、只一方的に民の側からのみの任命で充分であるとはいえない。むしろ神の側からの選定が必要である。司祭とは民の代表者であるという観念よりも、神の代理者であるとの信念の方が強い。

カトリツク教会では司祭は神の代理者であり、神から権威を頂いていることが強く主張される。だから司祭は自分の名や学識や聖徳の力を以て人を導くのでなくて、まずは神からの権威に基いてなすのである。

この主張は盲目的なものではない。神と人との仲介者として世に来り給うた神人キリストが――これが全キリスト教の根本的信仰―御自分の後継者として少数の者を選び、彼等に仲介者としての御自分の権能を授け給うたこと、そしてこれが代々教会に伝えられていること―これがカトリツク教会に対する信者の根本的信仰―だから教会によつて司祭職に選ばれた者に、その権能が授けられることが信仰と合理によつて証明されるのである（但し教皇、司教、一般司祭の権能の範囲は違つている）

故に司祭の権能は、教会の権威者を通じて神人キリストから来るものであつて、下からの選出によるのでなく、上からの任命によるものである。

司祭は世俗のものではない、しかし世俗と没交渉であつてはならず、誰よりも世間のために働かねばならない。司祭は人のためであるから。司祭が独身を守るのも、余念なく神に奉持することができるためであり、一人の者につながれずに万人のために奉仕することができるためである。司祭の貞潔なる生活はカトリツク教会の誇りであり、輝きである。

（深堀　敏）

永久聖体礼拝

—四月—

第一日曜	延岡教会
第二日曜	今村教会
第三日曜	黒崎教会
第四日曜	女子パウロ会（本町） 八代教会

みなさま
御入学
おめでとう
ございます
カトリツク編集部

神学講座のお知らせ

一、**日時**　四月十二日（土）より毎週土曜日
午後二時より
一、**場所**　福岡雙葉学園
一、**資格者**　信者希望者
一、**会費**　二五〇円
一、**科目**　教会論（金松　敏師）
福音入門（深堀　敏師）
申込先　福岡市浄水通三九
カトリツク司教館
深堀　敏

四月

一日（火）聖火曜日
二日（水）聖水曜日
三日（木）聖木曜日
我が主晩餐の木曜日
聖香油祝別の司教ミサ
（於浄水通教会午前八時）
午後日没頃に各教会で最後の晩さんのミサが行われる。
司教司式の晩餐のミサ
（於大名町教会午後七時）
四日（金）聖金曜日
我が主御受難、御死去の記念日
午後三時頃から各教会で十字架礼拝の儀式
大名町教会では午後三時より
五日（土）聖土曜日
聖なる安息日
日没頃から御復活前日のミサ
大名町教会では午後七時より
六日（日）我が主イエズス、キリストの御復活の大祝日
〃死と生命とはふしぎな斗いを行い、生命のつくり主が死に給うた。しかし見よ、今や生きて統べ給う。
大名町教会で司教壮厳ミサ（午前九時）
十一日（金）聖レオ一世教皇博士証聖者
全国司教会議のため司教御上京
十二日（土）白衣の土曜日
十三日（日）白衣の主日（御復活後第一の主日）
純潔の白衣は洗礼の賜、平和は復活し給うた主の賜、いずれも罪から復活した者にのみ与えられる。
十六日（水）ルルドの聖女ベルナデツタ童貞
二十日（日）御復活後第二の主日
今日は〃よき牧者の主日〃と呼ばれる。〃私は私の羊のために生命をあたえる〃と主はのたもう。〃あなたたちは、羊のように迷つていたが、今はあなたたちの霊魂の牧者と番人とのもとに帰つたのである〃とペトロは云う。
廿一日（月）聖アンセルモ司教博士証聖者
スコラ神学の祖とよばれるベネヂクト会修道士で、英国カンタベリーの大司教になつた。一一〇九年帰天
新田原トラピスチヌ大修道院で誓願式（司教司式）
廿三日（水）教区司祭月例集会の日
廿五日（金）福音史家聖マルコの祝日
大祈願祭
土地の産物は愛にて在す神のお恵みである。豊作を祈り求めることは創造主の偉大なる御力を讃美することに外ならない。
廿七日（日）御復活後第三日の主日
〃女は子を産むときは悲しむ。しかし子を生んでからは、この世に一人の人間が生れたことを喜んで、もはや苦しみをおぼえない〃真のよろこびは、苦しみを通してしか得られないとは、永遠の法則である。
廿九日（火）天皇誕生日
三十日（水）シエナの聖女カタリナ童貞

各地で司祭召命の実むすぶ

堤敏雄師司祭の栄位うく

竹森道師は三月廿五日に

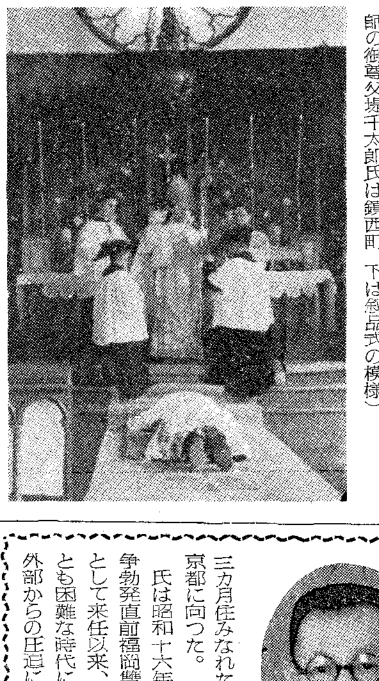
フランシスコ・ザベリオ堤敏雄師の栄ある司祭叙品式は、うららかな春びよりに恵まれた三月十九日、全教会の擁護者聖ヨゼフの大祝日、福岡市浄水通教会において壮厳にとり行われた。

定刻九時、四十数名の司祭に先導されて受品者と深堀司教が入堂助祭長平田惣五郎師、助祭ラプラント師、大神学生が聖式に奉仕。勧告、諸聖人の連禱ののち、内陣を埋める同僚司祭の按手につづいて、司教の壮厳なる序誦の祈りをもつて、ここに永遠の司祭が誕生した。

次いで司教との共誦ミサもとどこうりなく進み、十時五十分テデウムの感謝の歌が聖堂にこだまするうちに盛典の幕はとじられた。

記念撮影ののち、肉身、親族、信者たちに、最初の司祭祝福が与えられた。

尚初ミサは廿日午前十時より馬渡島教会主任木村義己師の附添で捧げられ、師の令兄二人がミサ奉仕した。



新司祭堤敏雄師は昭和七年佐賀県鎮西町馬渡島に生れ、終戦の年に福岡小神学校に入学、泰星学園をへて、廿六年福岡大神学校に入学した。馬渡島教会の司祭は、牧山藤房師（簑島教会主任）と牧山重光師（吉塚教会助任）に次いで三番目。尚福岡教区所属邦人司祭は廿七人を数えるに至つた。

師の御尊父堤千太郎氏は鎮西町町会議員で、四十年以来宿老をつとめ、教会の精神的支柱として敬仰される。また母堂エツさんも婦人会の指導に当つている。尚堤師と共に福岡大神を卒業した竹森道師は三月廿五日天草大江教会で司祭に 叙品される予定になつている。

（写真上は初ミサ後の堤敏雄師と下は叙品式の模様）

大野正恒師（イエズス会員）司祭叙品

三月十八日東京聖イグナチオ教会で

佐賀県佐賀郡川上村出身で昭和廿二年イエズス会に入会したパウロ大野正恒師は、長年の修練と研さんののち、去る三月十八日東京四谷の聖イグナチオ教会において ヨハネス・ロス司教によつて、他の十五名のイエズス会員とともに司祭の聖位にあげられた。

初ミサは練馬区上石神井のイエズス会神学院の聖堂で、マルチノ師（ミラノ外国宣教会日本管区長代理、元佐賀教会助任）の附添のもとに捧げられた。

同師は四月六日御復活の大祝日に佐賀教会で午前十時、初荘厳ミサ聖祭を捧げるが、それに先立ち師の御両親に自ら洗礼の秘蹟を授与する。ミサには佐賀県下の諸教会から信者が列席し、鳥栖合唱団が聖歌を奉仕する予定で、正午佐賀市新聞会館で歓迎会が開かれ、ひきつづき二時からの佐賀県信者大会の席上で、新司祭に信者一同からカリスが捧呈される。

大野正恒師略歴　大正九年生れ、大分中学、大分高商をへて渡満、満州製鉄に勤務ののち太平洋戦争に応召。昭和廿二年イエズス会に入会して上智大学で文学・哲学を専攻。つづいて両大学院神学研究科で神学を研究した。

師の入信、召命は福岡市の福音の光姉妹修道会創立者長田しげ童貞の影響によるもの大きく、師の大分高商時代のプロテスタントよりの改宗も同童貞の指導に負う所が大きかつた。昭和十五年現育英学院校長フイグラ師（サレジオ会）により受洗された。

（写真は叙品された大野正恒師）

× × ×

福岡大神学校でも叙品式

福岡サン・スルピス大神学校の学年末叙品式は、三月十八日午前九時より同校聖堂において、深堀司教司式のもとに行われ、左の諸師がそれぞれの聖位にあげられた

副助祭　入口　勝（長崎教区）
下級上二段七田善次（福岡教区）
下川英利（長崎教区）
川添　猛（〃）
山本辰雄（〃）
平松一夫（〃）
山内　豊（〃）
岡　　宏（浦和教区）
下級下二段鶴野泰年（福岡教区）
剃髪
有安宗治（〃）
平田　敬（〃）
高木善行（〃）
牧山田一（〃）
山内清海（長崎教区）
川原義和（〃）

平田喜道師（日系ブラジル人）も

大野正恒師と共に平田喜道師も司祭職にあげられたが、師はブラジル生れ、御両親は福岡県三井郡太刀洗村今の出身で、長崎教区の蔭ノ尾教会主任平田善次師の甥に当る。昭和廿一年ノバ・フリビンゴでイエズス会に入会するまでサン・パウロで実業に従事。廿八年来日。イエズス会神学院で神学を研究、叙品式には太刀洗教会所属の平田嘉七氏（師の祖父に当る）が列師した。師は更に一年神学を研究ののちブラジルへ戻り日本人移民のために働く。一人の令妹は修道女である。

大楠教会（ルルドの聖母）祝別

主任に金松敏師

福岡市下大楠町十一番地（筑肥線高宮駅の南側）の聖クララ幼稚園（聖体礼拝の聖フランシスコ女子修道会経営）横に建設中であつた聖堂兼司祭館がこの程完成。三月七日午前十時より深堀司教によつて祝別され、ルルドの聖母に奉献された。尚当日附をもつて大楠小教区として発足し初代主任に金松敏師が任命された。工事担当は福岡井上組。

新小教区に所属する地域は北は市内城南線と循環線の一部の電車道路、東は那珂川、西は西鉄大牟田線、南は同大牟田線と那珂川とが交叉 する点まで。今迄 浄水通り、簑島、高宮などの三教会に所属していた約九十名の信者が新教会に移転する。教会の祝別と同時に昨年十月開園していた聖クララ幼稚園も祝別され、式後同幼稚園で披露宴が行われた。

小野敉氏（雙葉学園主事）

京都洛星学園へ赴任

福岡雙葉学園主事小野敉氏は京都洛星学園（男子高、中学校聖ヴィアトール会経営）よりの要請で、同学園に副校長として赴任することになり、三月廿四日博多発の上り天草で、十七年三カ月任みなれた福岡を発つて京都に向つた。

氏は昭和十六年一月太平洋戦争勃発直前福岡雙葉学園に主事として来任以来、戦争中のもつとも困難な時代に、身をもつて外部からの圧迫に抗して学園を固守し、戦後は空襲に焼かれた校舎の再建と校風の高揚に努めて、カトリック学園としての名声を確立するのに大なる貢献をなした。

その他、福岡カトリック学校協議会、カトリック学士会の設立と運営に信仰的情熱をささげ昭和二十五年以来、福岡大神学校で西洋史を講義して神学生の養成に尽力し、また二年前教区に信徒布教会が設置されるや、率先して協力。昨年十月以来第一代教区布教委員長と福岡地区布教委員長に選ばれ、会の育成に献身的努力をなした。

氏の京都赴任はひとり雙葉学園のためのみならず、教区全体にとつても 大いなる 損失として、各方面から深く惜しまれている。

（写真は小野敉氏）

福岡地区布教委員長 後任に青木栄雄氏

福岡地区布教委員長小野敉氏の後任選出について、三月十六日司教館で委員会が開かれ、副委員長青木栄雄氏（大楠教会所属）が委員長に、森山敬三氏（箱崎教会所属）が副委員長に選ばれた。

SVP第十八回 福岡地区理事会総会

聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会（SVP）の第十八回福岡地区理事会総会は、去る三月一日、二日の両日 太刀洗教会で 開催された。出席者は糸永一師と平田正喜師（総指導司祭棚町正刀師は病欠）福岡、熊本、佐賀、太刀洗各協議会よりの会員廿五名。それに地元信者の種々グループの役員約四十名が傍聴。

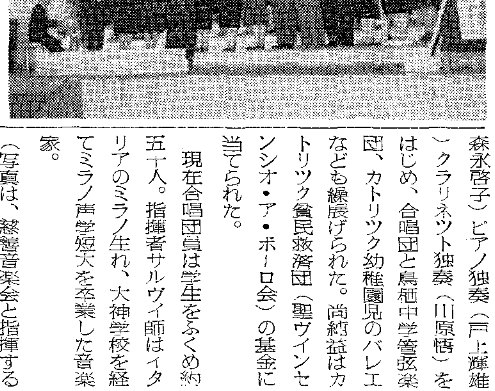
会議の第一日は午後七時から研究集会を行い、まず副会長上村勝男氏が立つて、昨年の熊本地方の水害の際の会員の活動状況を報告ついで❶会則特に訪問について、❷SVP会員に参考になる社会保障法の知識について、❸米国救済団よりの粉ミルク配布に関する注意などについて各会員から講演がなされ、そのあと地元信者有志からSVP会に対する期待と激励の言葉がのべられた。

会議の第二日は二番ミサののち開かれ、まず各協議会より状況報告と各種の議事討議が行われた以前より県案になつていた協議会間の必要物資の交流に関して具体的な話し合いがなされた。

午後は揃つて本郷教会を訪問ののち、地元教会の奉仕と激励に深く感謝しつつ散会した。

鳥栖合唱団の慈善音楽会

今年はじめ鳥栖カトリック教会主任サルヴィ師（ミラノ会）によつて、市内の音楽愛好者たちの混声合唱団が結成されて最初の発表会が、三月二日午後二時から専売公社工場講堂で催され、約千人の聴衆が集つて盛況だつた。



サルヴィ師、戸上綾子さんも独唱で特別出演、バイオリン独奏（森永啓子）ピアノ独奏（戸上輝雄）クラリネット独奏（川原悟）をはじめ、合唱団と鳥栖中学管弦楽団、カトリック幼稚園児のバレエなども繰展げられた。尚純益はカトリック貧民救済団（聖ヴィンセンシオ・ア・ポーロ会）の基金に当てられた。

現在合唱団員は学生をふくめ約五十人。指揮者サルヴィ師はイタリアのミラノ生れ、大神学校を経てミラノ声学短大を卒業した音楽家。

（写真は、慈善音楽会と指揮するサルヴィ師）

大牟田教会にチャインベル

大牟田市有明町のカトリック教会にこの度チャインベル（音楽鐘）がとり付けられ、炭都の空にアンゼラスの鐘を鳴りひびかせている。

このチャインベルは当教会所属の信者、天使幼稚園父兄、市民有志の寄附廿万円によつて購入されたもので、東京の英工電業社作製出力廿ワット（出力十五ワットのスピーカー二基）でウエストミンスターの鐘音とルルドのアンゼラスの鐘音がきかれる仕組になつている。

祝別式は三月十三日大牟田市長以下多数の出席のもとに深堀司教によつて行われた。

馬渡島教会にも

再びアンゼラスの鐘

島民全部に終戦直後までなじまれていた馬渡島教会の聖鐘は、ひびのため使用不能になり、一同から修理が待たれていたが、昨年末福岡に住む一米軍人より十三万円余の 寄附が あつたので、金沢市の釜谷製作所に依頼して鋳造をし直し、三月二日深堀司教によつて祝別され、久方振りに教会の塔にのせられた。

アチエス

レジオ・マリエ福岡コミチウムのアチエスは三月廿三日（日）午後二時より大名町教会において行われ、諸所のプレンデイウムより会員約四十名が参集、平田勇師の説教、集会、親睦がなされた。

泰星学園

新校舎竣工

福岡市山荘通り泰星学園の南校舎落成式は、現教皇ピオ十二世聖下御即位の記念日にあたる三月十二日午前十時より深堀司教司式で行われ新校舎の祝別につづいて附属聖堂において、式長友永師（マリア会日本管区長）助祭伊東師、副助祭畑原師の補祭で司教荘厳ミサが捧げられた。初代校長ボア師（八幡門田町 教会主任）ほか司祭、修道者、同学園後援会、父兄会、同窓会員ら多数が出席。

新校舎は二階建の延六〇〇坪。二千万円の経費で建造され、一四十名を収容できる会議室、普通教室十二、音楽、美術、商業の特別室各一を含んでいる。工事担当は福岡の高山組、家具製作には福岡工芸学校が当つた。

熊本准看護婦学院

卒業式

熊本慈恵病院附属准看護婦学院（マリアの宣教者フランシスコ会経営）の第三回卒業式は、三月廿三日午後三時より挙行され十五名の准看護婦全員が左の通りそれぞれカトリック病院に巣立つていつた。

熊本慈恵病院七名、東京聖母病院三名、桜町病院二名、静岡不二聖心学院、長崎フランシスコ・サナトリウム、待労院各一名。

福岡カトリック学生会

会員募集

目的　学生の霊的生活の向上を目指す修徳、知的生活に於けるカトリシズムの研修、信者学生間の交流及びキリストの愛を一般学生に伝える布教を目的とする。

資格　福岡市内及び郊外の大学の信者、求道者の大学生であること。

活動　❶例会　隔週に一回例会を開き研究する。
❷黙想会　四季毎に開く。特に夏期には大黙想会を開催する。
❸会員は各大学で研究会を持つている。
❹その他

会員数　現在二十数名

昭和三十三年度の行事
第一回集会　四月十二日（土）午後二時
地行町教会　以後隔週に集会を開く

連絡先　福岡市浄水通三九　司教館内
福岡カトリック学生会
新入学生はふるつて御入会下さい。

カトリック関係書籍
その他一般有名良書
美術画・聖像
ロザリオ・聖器具類

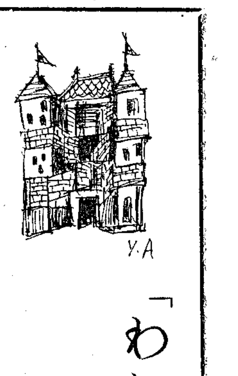
どうぞ
お気軽に
お出で下さい

聖パウロ書院
福岡市万町電停前

「われに従え」⑧

賢慮の徳

深堀 敏



❶聖書によれば、賢慮は神の賜とみなされている。

〃主は智恵を賜う御者にして、賢慮と知識 はその 御口より出る〃（箴二ノ六）永遠の 智恵にて在す神が賢慮を教え給う。

〃人もし義を愛せば、智恵の働きは大いなる徳をもたらす。そは節制と賢明と正義と剛毅とを教うるが故にして、これらよりも人の世に益あるものはまたあらざるなり〃（智八ノ七）。

賢慮は神の賜うものであるが、それを獲得し、育成するのに、人が何もしなくてよいというわけではない。神に求めると同時に、神の掟を守り、自分の経験や、先輩、賢明な人々の経験を生かさねばならない。

賢慮のお蔭で、われわれは罪と誤りと奸策から守られる。

賢明なものだけが言ってよいことをいう勇気と、必要な時には口をとざす慎しみを心得ている。かれ等は適当に警戒し、用心深く、主人の帰りを目ざめて待ち、なんどきでも忠実に、主人に仕える準備をしている（マテオ廿五ノ一）

〃蛇の如く賢く〃とは、自分の智恵だけで判断することをしないで神の霊によって導かれることである。

❷賢慮の徳を養うには、

賢慮の徳を深めるには、道徳上の基本的な知識を身につけねばならない。

それには抽象的な概念を学ぶのも無駄ではないが、キリストの模範とその教えを研究し、黙想する方がもっと効果がある。

学ぶことと経験によって判断力を養成すること。

どんなに善意にみち、聖徳に秀でていても、他を指導するにふさわしい高度の賢慮を、誰もが具えているとは限らない。

賢明になればなる程、人の勧告をおろそかにはしなくなる。

❸賢慮の徳と賢慮の賜

賢慮の徳はその根本において神の御智恵から出るものであるから叡智の賜によって更に強力にされる。叡智の賜は、信仰の教えについての味わいと愛を与える。

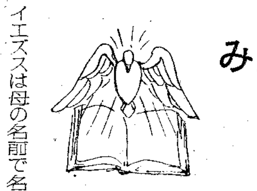
しかし賢慮の徳に直接に相応する聖霊の賜は、賢慮の賜である。聖霊の賜とは、霊魂が、安易にそして喜んで聖霊のみちびきを受けられるようにする超自然的な援助であるので、賢慮の賜を頂くことによって、神の御指導に身をゆだねてしまうことになる。

キリスト教的生活においては、神の御声に忠実であることは、自分自身の計画に忠実であることよりも、もっと大切である。

みんなのための聖書

(20)

聖書と聖母マリア



〃マリアの子〃なるイエズス

聖パウロは、イエズスを〃女より生れたもの〃と呼んで、その人間的起原を述べましたが、マルコ福音史家はイエズスをマリアの子と呼んでいます。

イエズスがマリアの子であることは、ナザレトの生活を知っている人々にとっては、周知のことでありましたが、公生活のはじめから目をみ張らせるようなことが起って、イエズスの出が見直される結果になりました

マリアの子が無類の知慧をあらわし、生れだけを考えては、どうしても説明のつかないふしぎな働き—奇蹟—を行いはじめたのであります。

〃安息日になったので、会堂で教えはじめられたが、おびただしい人々が、かれの言葉をきいておどろき「あの人は、こういうことをどこから学んだのだろう。あの人がさずかっている知恵や、あの手で行われる大いなる奇跡は何だろう？あれは大工で、マリアの子、ヤコボ、ヨゼフ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。姉妹だって私たちといっしょにここにいるではないか」といった。そして、遂にイエズスにつまづいた〃（マルコ6の2—3）

かれらの不信とおどろきは、そのままにして、われわれは、このすばらしい、神秘的人物イエズスが、マリアの子であるということに注目しなければなりません。

東洋では、個人名しかなかったので、誰々の子の誰という呼び方が使われていました。所がイエズスは母の名前で名指されています（ルカ3の23では、ヨゼフの子と呼ばれている）それは、ヨゼフよりもマリアとイエズスとの関係が特殊のものであったことを示そうとしたからでありましょうか。それとも養父ヨゼフがすでに世を去っていたからでありましょうか。

霊的つながり

マルコはまた別の箇所でもイエズスの母について述べています。〃イエズスの母と兄弟とが来て、外に立ち、人をやってイエズスを呼ばせた。多くの人々がイエズスをとりかこんですわっていたとき、ある人が「あなたの母と兄弟（姉妹）が外で待っておられます」といったので、イエズスは「私の母私の兄弟とは誰か」といい、まわりにいる人々を見まわして「これが私の母、私の兄弟である、神の御旨を行う人はみな、私の兄弟私の姉妹、私の母である」とおおせられた〃（3の31—35）

これはマリアの真の偉大さをあらわすものであります。キリストと人との真のつながりは霊的なものでなければならず、それは神の御旨を遵守することによって深められるものであります。

マリアの肉体的母性はそれ自体きわめて意義深いものですがマリアの真の偉大さは肉体的系列に属するのでなく、愛の系列に属するものであります。マリアの神の御旨との一致の深さは聖書の他の箇所によってほぼ推察できますが、これこそマリアとキリストとの真のつながりを作り出したものであります。

送別の句

送らるゝ人に傘する春の雨　恵女
春雨のにじむがごとき別れかな　蛙草
海棠の紅の薄さよ別れの宴　牧泉
訪うことを喜びにして別れかな　冬心

聖週間の典礼

その実施上の諸注意

聖週間の典礼については、一昨年著しい変更がなされ、尚昨年二月一日付の礼部聖省からの布告によって、一部変更が行われた。各方面の便宜のため、昨年本紙上に掲載されたものを、ここに再録することにした。

一、聖週間典礼の祭式

❶必要なだけの聖職者がいる教会公開及 非公開 礼拝堂（オラトリオ）では枝の主日、聖木・金・土曜日の儀式を盛式祭式（助祭・副助祭つきで）によって行うことができる。

❷聖職者の数が充分でない処では単式 祭式（司祭独りに よる歌ミサ）によって行うことができるがこの場合に、枝の主日と聖木曜日には最小限三名、聖金・土曜日の式には四名の侍者を要する。侍者は儀式に充分通暁していなければならない。

❹単式祭式で行うところで、もし別に司祭又は助祭があれば、この何れかが助祭の祭服をまとって福音、御受難（キリストの部分は司祭のみ）など助祭に許された部分を歌ってもよい。

二、枝の主日

❹午前中主なるミサの時間にしゅろの枝の祝別、行列、ミサが引続き行われる。枝の祝別を行った場合には必ず行列とミサを加えること、信者が多数参列する場合には司教の許可をうけて午後に行ってもよい。

❺枝は聖堂外で祝別してもよい。又別の教会で祝別して主要教会に行列してゆき、ここでミサを捧げることもできる。

❻祝別された枝の分配をうけられなかった信者のため、余りの分を香部屋または適当な場所に保存しておいて、式後に分配してもよい

三、聖木曜日

❼聖香油聖別のミサ（司教）は午前中に、最後の晩餐のミサは午後四時から九時迄の間に捧げられる

❽司教は司牧上の理由から教会および公開礼拝堂に於て、主なるミサ（盛式又は単式祭式による）の外に一つ又は二つの読誦ミサを捧げる許可を与えることができる。但し非公開礼拝堂（神学校、修道院の附属聖堂など）では（司祭が何人いようとも）只一つのミサしか許されない。

❾この日の主なるミサを単式祭式によってさえ行えない教会又は公開礼拝堂には、二つの読誦ミサを立てる許可を司教は与えることができる（一人の司祭が二つのミサを捧げるという意味ではない）。

❿聖体拝領は主なるミサと司教に許可された他のすべての読誦ミサの間、及びその直後にのみ行われる。

⓫病人には午前にも午後にも聖体を拝領させることができる。

⓬二つ以上の小教区を担任している司祭は、一人で二つのミサ（ビナシオ）を立てる許可を司教に求めることができる。

四、聖金曜日

⓭聖金曜日の儀式は正午から午後九時までの間に行われる。

⓮二つ以上の小教区を担任している司祭はこの日の儀式を二度繰返す許可を司教に求めることができる。

⓯この日の儀式の頂点は十字架の礼拝であるが、その時の会衆が非常に多くて秩序と信心行為が妨げられる場合には、集団的にこの礼拝を行うことができる。この場合司式者、聖職者、侍者の礼拝が終った後、司式者は十字架を奉持して祭壇の最上段に昇り、信者に向って十字架を奉挙する。信者は深い沈黙のうちに礼拝行為を表わす。

⓰聖体拝領は式中一回だけで行われる、但し臨終の病人にはその限りでない。

五、聖土曜日

⓱「御復活祭前日の祭式」はミサが真夜中頃から開始されるよう配慮しなければならない。但し司教はこの祭式を日没から夜中にかけて行う許可を与えることができる。この許可は全教区又は全地域のために全般的に与えることができず各教会、礼拝堂毎に求められねばならない。

⓲聖土曜日の盛式は聖木、金曜の盛式を行わなかった処でも挙行することができる。また最初の二日の式のみを行って聖土曜日のものを省くこともできる。

⓳二つ以上の小教区を担任している司祭に、司教はこの日のミサを二度捧げる許可を与えることができる。但し同一の教会はできない。

六、聖体拝領の断食について

聖週間中の聖体拝領の断食に関する規定は、一九五七年の教皇庁令によって設けられた規定通りである。即ち

普通の食事は拝領三時間前迄、流動物は一時間前迄とることができる。病人は時間の制限なしに流動物や薬剤をとることができる。

わが心

わが心　恥辱と
なやみとを待てり
われ共に悲しむ者を求めた
れど一人だになく
慰むる者を俟ちたれど
一人もみざりき
かれらは苦がき胆を
わが食物としてあたえ
わが渇けるときに
酢をのませたり

（枝の主日の奉献文）

罪に泣く

幸なるかな、おのが罪と人々の罪のために泣く人、かれ等は天主のご慈悲をこうむるべければなり。

われらが恩寵をこうむるのは善良 であるが故では なくて、却って自分が悪かったこと、犯した罪をみとめ、これを痛悔する故である。云いかえると、普通にわれらは、自分がなした善を通じてよりも犯せる 罪の悪を悔いか なしむ所において、天主に出会い、その出会いがしらで、十字架上のキリストは、われらの心に現われて、痛悔と改心に導き給うのである。即ち、自分自身の貧しさをさらに貧しく、みにくくしたわが罪と悪を、犯したままにみとめながら、悔いる嘆きこそ天主の おあれみを叫び、救わるる端緒であり、わが罪よりの立上り、わが生活の改善であり新らしい 生活への 第一歩 である。

われらの痛悔の時である四旬節も深まった今、われらにとってはまさに、わが罪と人々の罪のために泣くべき時である。救主の聖心は、ご受難とわれらの罪のためにうちくだかれ、底しれぬ恐れとかなしみに沈み、ひとり泣き給うときである。まことの信仰はこれらをわれらに教え、われらに悔い改めを迫りキリスト の 贖い のご 功力 とたすかりのお恵を、いたずらに受けないようにと魂の奥底に強く声している。

慈母たる教会はまた、われらが大いなる信仰のうちにきき、痛悔にわが心をくだき、あつき信頼を もって、キリストの 無限功力の おん血を 濺える悔悛の秘蹟のうちにおいて、おのれを洗いきよめよとやさしく勧めている。真の信仰が教える所にきき、キリストの教会が勧める所に従い、これをおのが上に実行する人はまたキリストと共に復活のよろこびに入らしめられるであろう。さらに復活のキリストと共に永遠の光栄を早くも地上においてよろこばしめられるであろう。

最新刊　聖心大学助教授　助野健太郎著
キリシタンの信仰生活
キリシタン殉教の鮮血の裏にはどんな信仰、どんな組織があったか・祈り 信心用具、信心会などを中心に、やさしく書きあらわされた教養書で信者・未信者の別なく一読をおすすめします。
B6判二五〇頁・アート写真版多数挿入・￥230円・〒30
話し言葉になった聖書！
家庭の信仰 —使徒行録と書簡— 上 二〇〇円 並 一五〇円 〒 四〇円
家庭の福音 —四聖福音書— 上 二〇〇円 並 一五〇円 〒 四〇円
東京都新宿区四谷一ノ二・中央出版社

万人向きの
改訂口語訳新約聖書！
聖書はただ本棚に飾っておくものではありません。常に手にとって読むこと。それには、わかりやすい聖書が必要です（今度の改訂口語訳新約聖書は従来のものよりも、もっとやさしい万人向きの聖書です。あなたのお手元にぜひ一冊。
聖福音 ￥100 〒25
聖福音（使徒行録をふくむ） ￥150 〒30
新約聖書 ￥300 〒40
東京・杉並・八成町九〇 電話(39)六七一四番
振替六五五五六番 ドン・ボスコ社

回勅シリーズ❶発刊！
レールム
ノヴアルム
新書判 146頁 ￥100 〒20
—労働者の境遇—
世界中の人々が耳を傾けています。教皇聖下の回勅は、精神世界を代表する発言であることを信者はもちろんのこと、未信者の人たちも認めています。カトリックが優勢でないアメリカでも、労使問題の解決は本回勅の線を守って行われています。いま日本の労働省が手本と仰ぐドイツの労働界の諸制度は、やはり教皇回勅の線にもとずいています。誰でもが見逃すことの出来ない回勅シリーズです。
❷❸❹❺❻と毎月一冊続刊予定
❷は回勅カスティ・コンヌビー（結婚の倫理）
東京都新宿区四谷1の2　中央出版社　振替東京62233

短歌

二丈

飛行塔の飛行機に高く廻り行けば
下に残れる妻は手をふる
（太宰府にて）

欄干に抱きかかえられて鯉をのぞく
子らの手先よりふ水におつ
（同じく）

ねる前の三人の子のともどもに
となえしいのり一人ずつ止む
（子供ら）

マルガリタ

風塵の白き舗道に疲れ来て
書の終りをみがかるる靴

老子の出発

ポール・クローデル

石　進　訳

高齢に達した老子が、西の関門の麓に着いて、あすはいよいよそれを越えて、人々の間から永久に姿を匿そうとした時、そこの辺境の長官へ挨拶をのべに行つた。二人が共に茶をすすつていた間、賢者は、長官にむかつて、彼の管理にゆだねられた町の好ましい位置について祝いをのべながら、こう言つた。

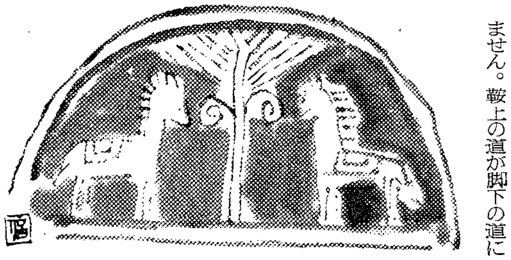
—わたくしは、地平線に目を遮るものもない平野で一生を過しましたが、そこで耳にする水の音といえば、百姓がせまい田圃の中で、足でかきまぜながら凹みから追い出す、汗のまじつた泥水の音ぐらいのものです。それに反して、自然の流れがせせらぐこの山谷に臨み、さわやかな溪風に顔を撫でられるのは、まつたく快ようてなりません！まことに、閣下の民は、旅の欣びと蟄居の利点を同時に楽しんでおります。何故かと申しますと、出据の高みに住む人々は、恰も獣の上に席をえた旅人と同じで、あとは運ばれるにまかせておればよいのですから。

長官が言つた。

—でも、あなたご自身は、重そうに荷を積んで従つているあの二頭の駄獣を除けば、馬も持たれぬようにお見受しますが。

賢者が答えた。

—今日聞きましたところでは、わたくしが通るつもりでありまする関門はなかなかの嶮路で、駄獣の力も及ばぬとのこと。それで、御厚意に甘えたいと思うことがあるのです。御覧の通り、あの二匹の獣は、異国の人の歓心を買うための商品を積んでいるのではありません。あれは、わたくしの文学行脚の初めの頃から書き綴つていた書籍というよりは、若い頃から黒い足跡をしるして来た細長い白紙の道とでもいつた、書物の包みに過ぎません。鞍上の道が脚下の道に加われば、哀れな獣奴の背骨がどうしてそのような重荷に耐えられましよう。それに、わたくしが奴等を連れて参りますれば関所の役人達が調べると、いつ果てるかも知れませんから、通れなくなりはしないかと——案ずるのです。



長官が尋ねた。

—一体、どうせよと仰言るのです。わたくしの屋敷は手狭なので、到底あれほどの書籍をしまつておくわけには参りませんが。

賢者は答えた。

—閣下よ。どうか筆と帳面を取寄せられて書物の題名だけを控えておいて頂きたいのです。それから、秤を持つて来させて、目方を量つて頂きたい。次に書物の大きさに従つて枚数を調べ、それらすべてを、目録を拵えて書きしるしておいて下さい。そして、他日、大風が吹き、枯枝や松毬が溜つた時、それに火を放ち、あの二つの包の中身を愉快に投げ込んで頂きたい。かねてわたくしが道（タオ）を呼ぶのを人々も耳にした、踏破すべき生きた道が今わたくしの前にあるのですから、踵にまといつく死んだ道を何としましよう。昔、船を燃して背水の陣を布いた将軍があつたと聞いていますが、わたくしは、船だけでなく、最初から最後まで、道をみな燃してしまいたいのです。

—何と仰言る！　あれほどの言葉と文章から、あれほどの御高説と思想から、何物も残さぬと言われるのですか。

老子が応えた。

—名前が残るのに、何物も残らぬと仰言るのですか。うやうやしく位牌にしるされた名前を除けば、あなたの御尊父や御母堂から一体何が残つておりますか。書物もまた、われわれがその名を知り、手に持つて量り、外観を調べ、識者にはそれを汲み尽すに充分な一息で精神を吸い取れば、その他のことに何の用がありましようか。

—ある皇帝も、翰林院の蓄積した叡智を烏有に帰して、そのようなことをされました。

と、長官が言つた老子は、続けて言つた。

—わたくしの友孔子は、そのため皇帝を大いに批難しましたが、皇帝は、その任務に従つて、適切な犠牲によつて、碧き天へ敬意を表わされた以外、何を望まれたでしよう。空気と唾液によつて作られた言葉は、所詮、風に帰するのではないでしようか。されば、みずからの重みを失つた黒い文字ほど、灰を作るに適わしいものがまたとあるでしようか。

—あなたのお望み通りに致しましよう。でも、そうすると、あなたは人々の心にごく僅かな思い出しか残されませんよ。と、長官が言つた。老子は、答えて言つた。

—亡くなつた友から何が残りましよう。それは、複雑な生活の煩わしい記録でもなければややこしい伝記でもありません。ある親しみ深い出来事、彼の最後を思わせる言葉、簡単な声の響が、故人を蘇らせるに充分な筈です。只今、あなたは、時がさまざまな小皺で記録をとどめたわたくしの顔を眺め、後の世の画家達の好画題となるかも知れぬわたくしの知恵にふくれた頭蓋をしげしげと御覧になつていられる。でも、明日、わたくしがあなたに背を向けて出発しますと、あなたはもう、歩き去るわたくしのうしろ姿しか御覧になれないのです。やがて、わたくしが、あの高い処に見える道の最初の曲り角にある小さな祠に着きましたら、手を振りますから、それはお解りになると思います。それから先は、一つの白点があるばかりです。更に高く登れば、もう何も見えず、ただ、わたくしの足音に驚いた鳥共が、乱れ飛ぶばかりでしよう。それでも、あなたがなおも耳をそばだて、何か聞えたら、わたくしの足が千仭の谷間に蹴落す石ころの音だと思つて下さい。

長官が尋ねた。

—ところで、関所の空にたなびいているあの細い煙りの茶は何でしようか。

老子は答えた。

—あれは、もう必要でなくなつている一足の草鞋です。山の霊へ生贄として捧げる、わたくしの遍歴の草鞋なのです！

一九三一・六・一四
ニユーヨーク
マウント・キスコにて

（訳者は九大仏文学助教授）

よみがえり

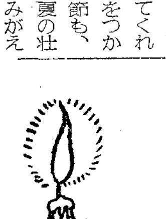
青柳武四郎

生命迄もつくり出そうという科学の進歩に驚異の目をみはつている現代人は素朴な感情によつて、なんらかの形のよみがえりという事を信ずる事は出来ても、それに基ずいて生活を設計しようという強い信念を持つ事は出来ない。その意味で現代人は少くても生活の面に於ては復活という事を信じていないといえる。私はそれが現代人の生活様式に責任がある様に思えてならない。

現代人は生産を知らずにただ消費する。衣類にしても、すりきれてしまえばそれを捨てて、又新しい物を買えばよい。食物も、店から購入したものを食べてしまえばそれは文字通りに消費してしまつたもので、次に手に入るものは今食べたものと何んの関係もない。人間でさえも、今日の雇用関係では代替自由の部分品であつて父子相伝という様なたてのつながりを認める事は出来ない。たんなる機械的な集合体にすぎない社会の一部分品としての地位しか自覚できない現代人が自分自身のよみがえりを信ずる事が出来なくなるのは当然だろうと思う。

この様に考えてみると土に即して生きている田舎の人達、自分達が食べ、使う物を、自分自身の手で種をまき、その成長をみまもり収穫する喜びを知つている人達が一般に信仰深いという事がうなづけると思う。今食べているパンは昨年食べたのと同じ種子から生まれたものである。今身にまとつている衣類がすりきれたら、それをつむいでくれたかいこの子が、孫が又新しい衣類をつくつてくれる。そして、それらの生産をつかさどつているかに見える季節も、冬に死し、春よみがえり、夏の壮年期を向える。万物みなよみがえる大自然の營みの中にどうして人間の体だけが黒い土の下でむなしくくちなければならないのだろうか。田園生活を送つている彼等にとつて懐疑主義という言葉は縁遠いものであるにちがいない。そしてこの様に素朴な生き生きとした信念をくつがえすに足る程近代科学が強力であるとは思えない。

今年も又桜の花におおわれて御復活の祭が祝われる。子供の様に単純な心を持つて散策する人達にとつて春の野山はいかに多くの教えを与えてくれるものか。



ぶつく　がいど

小さき花の聖テレジアの最後の言葉

カルメル会訳

A子さん、今私は小さき聖テレジアの最後の五ケ月間の言葉を読んだばかりです。人の死ぬやその言はよしということがありますが、齢二十四にしてもうこれ以上進むことはできないという完徳の状態にまであげられた聖人の、死に臨んでの最後の数ケ月間の言葉は又一汐意義深いものがあるように思われます

今日、私の心は天国のような喜びに充たされております……昨晩私は聖母マリアの美しい月が始まることを考えて、本当に心からお祈り致しました。という一八九七年五月一日附けの言葉をもつて始まるこの美しい書物は、同聖人の伝記たる小さき花と比しても優るとも劣らぬ程端的に人の心に迫るものがあります。

身は病床にありながら、常ならば愚痴ばかりいうところを、肉体は苦しむために霊魂は愛するためにというジエンマ、ガルガーニのモツトーそのまゝに、地上にあつで心は常に天国の友人達と交つていた聖人の姿を、色々の場合から恰も万華鏡の如く映しだすものがこの書物なのです。全く活動的な仕事を奪われても、かくも大きな仕事ができるのかと思われる程、聖テレジアの心は聖化され、「愛のみ」となつて愛を愛しているのです。苦しむ肉体を忘れたならば私共はこの聖人を天使と間違えたことでしよう。聖テレジアの心は、私共を天国の高さと深さにまでいざなわずにはおきません。しかも最も身近かな方法で世上でいわれる人格の尊厳などとは別に、人の心がいかに無限に広く、貴く、価値あるものであるかをこの書物は如実に考えさせます。

七月廿九日附の言葉には、次のようなことが述べられています。極く幼い頃からこんなに苦しんだ私が……あゝ、死ぬ前に当つて被造物の意見を知るのは本当にためになります。人の批評を被造物の意見と言い放つ聖テレジアの信仰と、本当にためになりますと附け加えることを忘れない聖テレジアの謙遜を、私は大変面白く思うのです。事物の奥底まで洞察したような聖テレジアのこの言葉は、人から自分に対する悪評を聞いて思わず心暗くなる時、射禱のように唱えることによつてしばしば慰められて参りました。ともすれば信仰の精神を忘れて世俗的なものゝ考え方、感じ方になずんでしまい、無駄な苦しみに苦しむ時、この書中に述べられている聖テレジアの言葉は、私にとつてどんなに大きな励ましとなり、光となつたことでしよう。お讃えしなければならないのは天主様御一人でございます。私のような、つまらない無には何も賞めるべきものがございませんと述べられているこの書は、私の無二の伴侶なのです。

テレジア教になつても困りますが、最後にもつとも有名な八月三日と十三日附けの言葉を引用させて頂いて結びとしたいと思います。

聖徳はこれこれの徳の実行にあるのではございません。それは天主様の御手の中に小さく謙遜になり、自分の弱さを知つて御父の御慈しみに大胆な程に信頼する心構えのうちにあるのでございます。

私は自分の小さな虚無を見る光しか持つて居りません。けれどもそれは、信仰上の光よりももつと私の益になります。

（一五〇円、ドン・ボスコ）F

SSD
コンサイス英和辞典 380円 革500円
コンサイス和英辞典 350円 革470円
辞書は三省堂
新版 広辞林 1200円
チエルテナム メチウム
明解国語辞典 380円
SSD

カトリック

深堀司教認可
発行所 福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人 深堀 敏
定価 一部 十円

世界を生命の光たるキリストに導け

教皇復活祭メッセージ

御復活はキリストの光栄

御受難の夜が、栄光と輝きと喜びの日に移り変つたのを見た、その古くから予言され、待望久しかつた喜ばしい夜明の時以来、復活祭は間違いなく光を人々に施し与えてきた。その日に、キリストは死の鎖をバラバラに砕いて、戦いに勝つた王のように墓から躍り出て、新たな輝やかしい生命を得、そしてそれによつて人類を誤謬の暗黒と罪の束縛とから解放し給うた。

御復活は人間の解放

キリストにとつては栄光、そして人間にとつては解放であるその日以来、個々の人と諸国民は御復活によつて「我は世の光なり。我に従う人は暗黒を歩まず、却つて生命を得べし」（ヨハネ 八ノ一二）と述べ給うたその御言葉の真実性に対して神的権威の証印を押し給うた聖主に向けて、急ぐことを止めなかつたのである。

今も世界各地から、光を愛し信じる人、疑いと不安との苦悶によつて自分の精神が圧迫されていると感じる人、この世のはかない影のさなかに踏み迷つた人、已れまたは他人の非行によつて憂うつになつている人が、熱烈な希望と憧れをもつて聖主の方に向つてゆく。諸子のように、キリストの神的光に已れの心を開いたすべての人々においては、喜びと内的平和に満ちた新生活への復活の奇蹟がくり返されてきたのである。

すべてにキリストの光を

もし私的な悲劇が人々の霊魂を傷つけるなら、もし懐疑と虚栄がおびただしい人々の心を衰えさせるなら、もし虚偽が討論において武器となり、もし憎悪が階級間と人民間に燃えあがるなら、もし戦争や暴動が地球の一角から他の一角に続いて起るなら、もし犯罪が行われ、弱者が抑圧され、罪なき人々が鎖につながれるなら、一言でいえば、もし今日でもこの憂き世に、涙の川が幾条も流れているとすれば、それは、神の光の「世を浄化し豊富にする目的」の中から何かが取り去られている証拠である。

それゆえ、御復活の栄光をして人々が世界とその中に包含された万物とをキリストの「生命を与える光」の中に連れ戻さねばならない。

キリストの光たる教会

しかし人々には、実際の経験上および確信をもつて、一体どこでキリストの光と接触するであろうか。諸子は、その答えを知つている。即ち、キリストによつて設立され支援されている教会こそ、キリストの光の貯蔵所だということである。

従つて教会は「光の光であり」人間的および神的、そして現世的および永遠的なもろもろの資質を結び合わせたところの、眼に見える永遠的実在なのである。

従つて諸子は、光の子らの真心と慎重な判断とをもつて、教会に眼をしつかり注ぐべきであつて、暗黒の子らの不健全な自己満足をもつてすべきではない。

教会に輝く神の光

この世を照らす神の光とは何であるか。それは、教義に関する教会の油断のない監督であり、真理をひろめ、かつ擁護する勤勉さであり、新奇なものと変化とに関する慎重な熟慮であり、階級間および諸国間の論争に対する不偏不党であり、個々人の権利を護る頑強さであり、また神と社会との敵に面した時の大胆不敵さである。

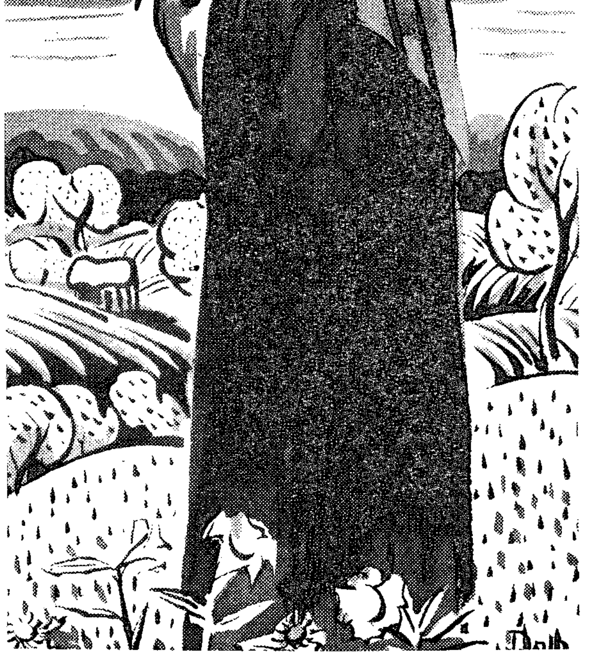
一人びとり、次のように自問して見るがよい「もしそのように大きな光が与えられなかつたとしたら、この世の現状は一体どんなものであつたであろうか」と。

キリストでなければ、一体誰が人種、言語、習慣を非常に異にする人々を「兄弟的調和」という単一のリズムの中に寄せ集め、混ぜ合わせ得るであろうか。実にそれは、キリストである。即ち死の暗黒に打ち勝つて、輝やかしい星のように、全人類の上に輝やいているお方である。

信者は平和のために働くこと

今日キリスト信者としては、あらゆる手段を尽して「正しい平和」をしつかり回復することを推し進めるということ以上に、世界にとり有用な「善業」をなし得るであろうか。このためには、平和を心より愛する他のすべての人々の協力が必要であろう。平和を「心から」望むこと、平和のために必要なあらゆる至当な犠牲を「速やかに」完全に払うこと、平和の問題を「誠実に」討議することが、その性質上よりして、不信の暗黒を一掃すべきものである。

従つて、諸子はこの暗くされた世界において「平和の光」となるべきであつて神はあらゆる問題について、諸子の味方となり給うであろう。（カトリック新聞第一五五三号より抜粋掲載）



おんみは創造主の御母
全人類の元后にて在す

世の光

五分のがんばり

◇ 食事をするまえに祈りを誦えさせることはカトリツク信者たる両親が子供に教える最初の信仰実践である。所が年をとつてくるとしたりしなかつたりになる。この食前の祈りというのは、五秒半しかかからない祈りである、全然はじめから誦える気がないのなら致し方ないとして、その気はありながらうるさがつて誦えないことが多いのである。六秒足らずの祈りを誦えるか誦えないかは、それ自体重大なことでないかも知れないが、たつたこれだけの努力でさえもやれない人間だということになると、一寸頭をひねらざるを得ない。

◇ カトリツク信者にとつて祈りは毎日の義務である。義務だといわれると、すぐむきになつて〝祈は自由な心ですべきものであつて強制される筋合のものでない〟といい返えす人がいるだろう。しかしどんな境遇にあつても、どんなに忙しい仕事に追われていても、自由に、何時、何処でも祈の心を保つことのできる程の信仰をわれわれは残念ながらまだ持ち合せていないのである。祈りたい気持になるまで待つていては、何時までたつても祈りは口から洩れないだろう。朝おきたら祈りせよ、晩ねるまえに祈りせよといわれてシブシブ跪くのが関の山である。しかしこんな祈りでも、一年一回の気のむいたときの祈りよりはましである。感情にひかれての祈りよりも、自分で自分を強制してする祈りの方がまだしもと思うがどうであろう。

◇ 神の国には暴力のある者しか入れないそうである。実際神の前に跪くには、自分で自分に暴力をふるわねばならない。祈りというものが、いとも簡単にできると思つたら大きな間違いである。一時間でも二時間でも祈り三昧にふけることのできる人もあるが、聖人のなかにさえ、われわれと同じく祈りを辛い労働と思つた方もあつたことは確かである。祈りは自己抑制の鍛錬の場である。

◇ 祈りは大切だと思つているがなかなかに実行できないとこぼしている人がある。何故できないのですかと尋ねると、〝仕事が多すぎて、祈りの時間がないんですよ〟とか〝祈りをしていても、どうせ色んなことに気が散つて、していないのと同じことですからやらないことにしています〟とか答える。

子供の五、六人もかかえている家庭の主婦は、総理大臣よりも忙しくて、年に一本の映画も見られない程に、雑仕事においまくられるものである。しかし尚それでも祈りのために、子供の真の幸福を願うために、五分間の時間をさけないといつてはならない。本当にやる気になれば、その時間は見出せるはずである。

◇ 境遇の義務をよく果すことはすぐれた祈りだと教会はおしえる。然しこの義務を天主のおぼしめしと直結させて果してゆけるには少くとも一日五分以上の「祈り」が必要なのではなかろうか。それがなければ、天来のうるおいを失つて、どんな生活でも単なる惰性になつてしまうだろう。

◇ われわれ現代人は時間の使い方がなかなかに上手である。満員電車のなかでもうまく体の平均をとりながら、ものをよむ訓練ができている。でも読んでいるものといえば、くだらないものが多い。娯楽新聞の隅つこにでているゴシツプ記事をよんでいるときの精神の集中は見事である。それをよんで憶えておくかどうかで、小型トラツク一杯の電気器具をもらえるか、胃腸の薬一包でひき下るかのわかれ道になるのだから。仕事の合間の十分、ねるまえの五分が惜しいわけである。この五分に山なす賞品がかかつているかも知れないと思うと、同じ五分間、目をつむつて祈りをするというのは「大損」のもとである。祈りとは馬鹿らしいものである。

◇ 祈りの効果とクイズの賞品を比較するとは、全く無茶なはなしである。所がわれわれがもう余り考えないでやつていることを冷静に眺めてみると、この位のことは平気でやつている。価値判断の基準が狂つているのである。

得るものがなければ無価値である。もしこの基準で祈りをはかれば、祈りほど無駄で損なことはない。だから神について研究するのが忙しいから、神を味う祈りの時間が惜しいと考えるようなナンセンスさえ起るのである。

◇ 気晴らしとは精神の緊張を一時ゆるめて次の緊張にそなえることである。所でわれわれは精神の集中よりも気晴しの方を重くみているようである。精神をゆるめるのでなくて、実は分裂させているのである。こういう種類の誘惑はわれわれのまわりに余りに多いのであるから、五分間でも祈りに心をひそめることが並々ならぬ努力を必要とする。しかしそれだからこそこの一日五分の努力が貴重なものとなつてくるのである。この五分の価値が納得できたときにはそれを十分に、そして十五分にのばすことはさしてむつかしくはない。問題は毎日五分頑張れるかどうかである。

（深堀 敏）

永久聖体礼拝

五月

第一日曜 久留米教会
第二日曜 高鍋教会
ウルスラ会（蓑島）
第三日曜 八幡門田教会
カリタス会（別府）
第四日曜 隈府教会
カノツサ会
天使園（熊本）

祈禱の使徒会

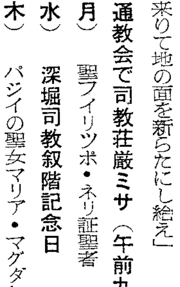
五月

【一般の意向】大都市における司牧

全世界の宗教情勢を眺めますと、一般に地方よりも都会の方が種々の点で多くの危険にさらされています。信者の数に比べて司祭が足りないということはその一つの大きな原因ですが、都市の人々の方がさまざまな道徳上の誘惑に直面する機会が多いからです。従つて都会生活の種々の特色は彼らを教会から、ついには信仰から遠ざけてしまうことにもなります。私達はこういう情勢にある都会の司牧がよく行われ、信者の霊的必要が満たされるよう祈らねばなりません。

【布教の意向】インドにおける精神生活

【布教委員会の意向】全国民が聖母マリアの御とりつぎによつてキリストに導かれるため。



五月 聖母マリアの月

一日（木） 勤労者の聖ヨゼフの祝日
今日からルルドの聖母の年における聖母月がはじまる。聖母に対する愛を表明するために、この月の間毎月コンタツを誦えるなどの決心をたてるようにしよう。

二日（金） 初金曜日。聖アタナジオ司教博士証聖者
アリウス派の異端と戦つたアレキサンドリアの大司教。三七三年帰天

三日（土） 聖十字架発見の祝日
憲法発布記念日
黒崎煉獄援助修道院で無期誓願（司教司式）
大分県下男子黙想会

四日（日） 御復活後第四の主日
われわれを慰め、照らし、導き給う天主なる聖霊を頂く第一の条件は心の素直と純潔さである。
教区主催聖体行列
福岡地区信徒大会

五日（月） **こどもの日**

六日（火） ローマ・ラテラン門外で使徒ヨハネの受難

八日（木） ガルガン山で大天使聖ミカエルの出現

十日（土） **教区修道者大会（於熊本信愛女学院）**

十一日（日） 聖フイリツポ、聖ヤコボ両使徒の祝日
御復活後第五の主日
キリストの十二使徒はカトリツク教会の十二柱と考えられる。使徒に対する信心は教会に対する信仰の記しである。

十二日（月） 祈願日
熊本手取教会と琵琶崎教会堅振
教区カトリツク学校教育研究会（於熊本信愛女学院）

十五日（木） **我が主御昇天の大祝日**（守るべき祝日）
十字架上に犠えを完了し給うたイエズスは今、天国に於て御父天主のみそばで我々の為に取次ぎ給う。
今日から聖霊降臨の大祝日まで聖霊の賜を願う九日間の務めをする

十七日（土） バイロンの聖パスカリス証聖者
聖体に対する信心会の保護者。プロテスタントが聖体の秘蹟を否定していた時に特にこの愛の秘蹟に対する信心を高めた。

十八日（日） 我が主御昇天後の主日。エルザレムの神殿の高間でマリアを中心に聖霊の降臨を心静かに待つ弟子達を模倣しよう。

廿日（火） シエナの聖ベルナルヂノ証聖者

廿二日（木） 日本の福者マガドのヨハネ・バプチスタ

廿五日（日） **聖霊御降臨の大祝日**
「聖霊来りて地の面を新らたにし給え」
浄水通教会で司教荘厳ミサ（午前九時）

廿六日（月） 聖フイリツポ・ネリ証聖者

廿八日（水） **深堀司教叙階記念日**

廿九日（木） パジイの聖女マリア・マグダレナ童貞

天草島で初の叙品式
竹森道師司祭職に

ヨゼフ竹森道（むさし）師の司祭叙品式は、師の受洗の教会であり、キリシタンゆかりの地である熊本県天草郡天草町長尾の大江教会で、三月廿五日深堀司教司式で挙行された。当日はあたかも大江教会の保護者御告の聖母マリアの祝日で、天草島の観光地の一つにあげられる美わしい大聖堂は、地元信者で立錐の余地なきまでに埋つた。

午前九時教区司祭十数名に先導されて被叙品者と司教が入堂。助祭長は平田三郎師（福岡大神聖書学教授）助祭はハンター師（聖コロンバン会熊本地区長）

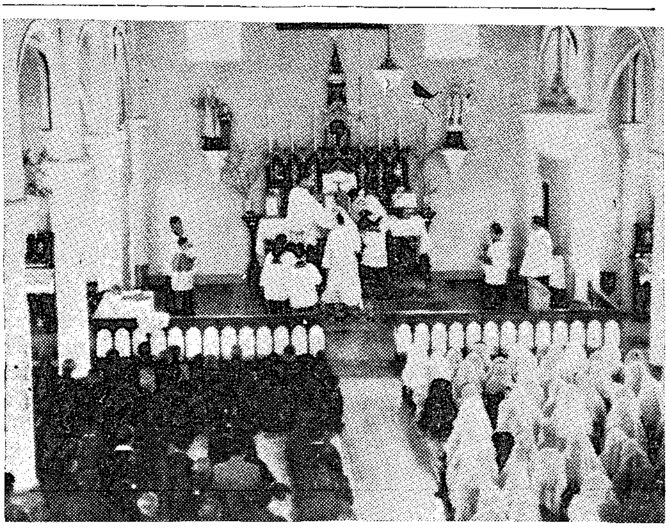
家族、親族、知人ら数百の信者が見守るうちに、天的権能が厳粛裡に授けられ、第二のキリストたる司祭が誕生した。

式には天草町々長以下、町の有力者廿数名も列席。竹森師の叙品式は教会のみの慶事でなく、町全体の祝典の観があつた。

尚初ミサは同教会において主任司祭ホーガン師の附添で捧げられた。

天草島の本戸（現在の本渡市）には約三百七十年前の天正十七年にセミナリオ（神学校）があり、数十人の上流の少年にラテン語、ポルトガル語、信仰の大意が教えられていた。迫害中には大江附近に学生が身を隠していた。しかし同島で司祭叙品式が行われたのは今回が初めてで、同島出身の司祭には、故大崎（崎津）故道田師、大牟田教会主任川口清師、福岡小神学校附の川口康頼師(以上大江)がある。

ちなみに、新司祭ヨゼフ竹森道師は昭和四年生れ、昭和十八年泰星中学に入学。二ケ年病気療養期間を経て、昭和廿六年四月福岡大神に入学。去る三月卒業、今回晴れの栄位にあげられた。令兄の一人はマリア会員であり、川口清、康頼両師とは従兄弟の間柄である



（写真左は新司祭竹森道師右はその叙品式の模様）

「沈黙の教会」のための祈り
教皇ピオ十二世　作

主イエズス、主は殉教者の王しいたげられる者の力、主に対する愛と主の浄配・導き母なる教会に対する忠誠のために苦難をこうむる者の支えにましませば、「沈黙の教会」の兄弟たちのために献げるわれらの熱き祈りをききいれ給いて、かれらが戦いにくじけず、信仰にためらうことなく、かえつて主の十字架の友として召されたる霊魂に与えられるこころよき慰めを感ずるを得しめ給え。

主よ、ごうもんと暴力、飢えと疲れをしのぶ人々にとつてのゆるぎなきとりでとならせ給いて、困難においてかれを力づけ終りまでたえる者に約束されている報いについての確信をかれらに与え給え。

主よ、いつわり多きゆえに一層危険なる精神的圧迫をこうむる人々にとつては理性を照らす光とならせ給いて、まことの道を明かに見るを得しめ、意志を支える力とならせ給いて、あらゆる危期、ちゆうちよ、疲労に打勝つことを得しめ給え。

主よ、公に信仰を表明し、キリスト教的生活を実践し、度々秘蹟を拝受し、司祭の霊的指導を受けることなどが不可能な人々にとつては、かくれたる祭壇見えざる聖堂、豊かなる聖寵、慈父の声とならせ給いて、かれらを助け、強め、悲しむ霊魂をいやして、喜びと平和とを与え給え。

われらの熱き祈りが、かれらにとりて助けとなり、われらの兄弟的一致のゆえにかれらが孤独を感ずることなく、かれらの模範が全教会、殊に熱き友情もてかれらを思うわれらの導きとならんことを。

主よ、試練の日を長びかしめず、すみやかにすべての人が、改心せる迫害者たちも共に、自由に主を礼拝し、主に仕うるを得しめ給え。主は父と聖霊と共に代々に生き、かつ治め給う。アーメン。（東京大司教認可）

* * *

「沈黙の教会」のための祈りとは迫害のために、キリストの真理の御教を公然と言葉をもつてのべ伝えることができなくなつている諸教会（例えば共産圏にあるもの）のために、忍耐と勇気と信仰そして最後の勝利を祈り求めるものである。ルルド記念祭行事委員会は、教皇ピオ十二世聖下御自作のこの祈りを、

❶ 毎月せめて一度第一日曜日か初金曜日に

❷ 五月の第一日曜日と八月十五日聖母被昇天の大祝日には「使徒信経」の祈りと共に誦えることを勧告している。

大野師歓迎会をかねて
佐賀県信徒大会

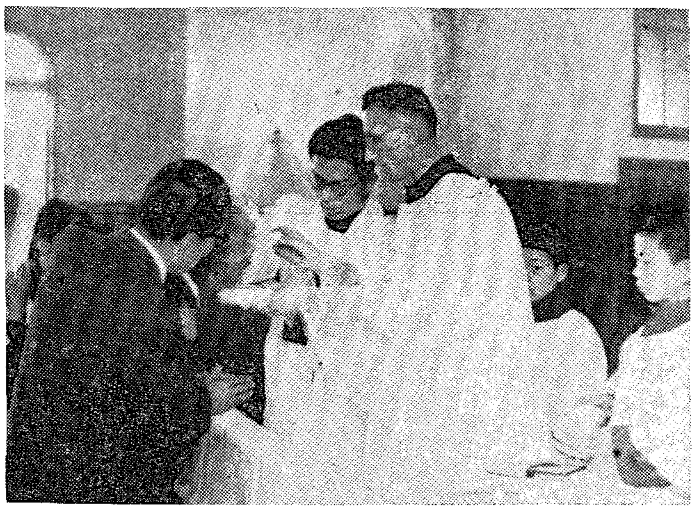
去る三月十八日東京聖イグナチオ教会で司祭職にあげられたイエズス会員大野正恒師（佐賀県佐賀郡大和村出身）の初荘厳ミサは、四月六日御復活の大祝日の午前十時より佐賀市松原町中小路のカトリツク教会において、ロツキ師（ミラノ外国宣教会佐賀地区長兼佐賀教会主任）の附添のもとに捧げられた。

それに先立ち師は師の御両親に自ら洗礼の秘蹟を授けた。

ミサには鳥栖、鹿島、伊万里など佐賀県下の諸教会から多数信徒が列席し、サルヴイ師（鳥栖教会主任）指揮の下に、鳥栖合唱団が聖歌を奉仕した。

ミサ後午後一時より佐賀新聞会館で新司祭の歓迎祝賀会が開かれ席上信者一同よりカリスが贈呈された。

ひきつづき佐賀県信徒大会が開かれたが、大会は現教皇ピオ十二世聖下御自作の「信徒使徒職の完遂を求むる祈り」を以て始まり、県内各教会（佐賀、伊里万、鳥栖、鹿島）代表の挨拶、桜井レジオ・マリエ会長、塚原ヴインセンシオ会長、小川婦人会長の挨拶、教区信徒布教会の総指導司祭平田勇師の講話につづき、平山佐賀地区布教委員長による宣誓文の朗読、新司祭大野師の挨拶とロツキ師の訓話があつて、午後四時盛会裡に閉会した。



（写真左は大野師の御両親の洗礼式）

司祭異動

吉塚教会助任　牧山重光師
任大名町教会助任
大牟田教会助任　畠山七郎師
任吉塚教会助任
任大牟田教会助任　堤　敏雄師
任大楠教会助任　竹森　道師
戸畑教会主任　バスチ師
帰国
戸畑教会助任　ラバルタ師
任戸畑教会主任

第十四回福岡地区布教委員会

四月廿日(日)司教館に福岡地区布教委員および司祭廿一名が参集、新会長青木栄雄氏副会長森山敬三氏の挨拶ののち、大楠教会の新委員の紹介がなされて、五月四日の教区行列および、福岡地区布教大会開催の具体案について討議した。決議事項は別項の通り。

教区主催　聖体行列

一、とき　五月四日（日）午後一時半
一、ところ　福岡市泰星学園校庭より雙葉学園校庭まで

第二回福岡地区　布教大会

一、とき　聖体行列にひきつづき行う
一、ところ　福岡雙葉学園講堂
一、大会順序
1、開会の挨拶　委員長　青木栄雄氏
2、信徒の布教への熱意昂揚
信徒使徒職のあり方　水波氏
現代社会の信徒使徒職への要求　森山氏
信徒使徒職と婦人　岡本氏
信徒使徒職と学生の責務　角田氏
3、指導司祭　平田勇師の挨拶
4、深堀司教の御訓示
5、宣誓（全員で唱和）
6、司教答祝
7、閉会の辞

雨天のため聖体行列ができない場合には、一時半より直ちに聖体降福式と布教大会を雙葉学園講堂で行う。

大分県男子黙想会

宮崎教区内の大分県を受担しているサレジオ会では、県内のカトリツク運動の一環として左記の通り男子黙想会を開く。

日時　五月三日（土）午前十一時より五月五日（月）午後三時まで
場所　大分市外坂の市町海洋会館
講師　サレジオ会管区長ダルクマン師
参加資格　大分県内各教会所属の信者及求道者で満十八才以上の男子
参加料　金五百円

新田原トラピスチヌ大修道院で有期誓願式

福岡県京都郡豊津町の新田原トラピスチヌ大修道院で四月廿一日深堀司教司式のもとに、セント・スザンヌ田中シゲ子童貞（久留米教会出身）の有期誓願式を行つた。

パリ外宣会北九州地区長にデシャンブー師（若松教会主任）

北部福岡県の宣教を担当しているパリ外国宣教会の北九州地区長フランソワ・ドルエ師はこの度任期満了のため辞任、後任としては現若松教会主任レオン・デシャンブー師が五月三日附をもつて任命された。

平田三郎師
講演のため渡加

福岡サンスルピス大神学校聖書学教授平田三郎師は、カナダ・モントリオール大学に招かれ、講演のため四ケ月の予定で五月十七日午後六時羽田より空路渡加する

（写真は平田三郎師）

高木善行神学生 カナダに留学

福岡教区所属、福岡大神学校神学科一年の高木善行神学生はカナダ・モントリオール大学の神学部で司祭職への準備のため、五月中旬空路カナダに向うことになつた。

高木神学生は熊本市島崎町出身高木慶一氏の四男、昭和九年生れ熊本高校時代司祭召命を感じて福岡小神学校に転学、昭和廿八年福岡大神学校に入学して今日に至つたもので、家庭からは令姉三人が修道女、令弟一人が神学生である。

バスチ師 賜暇帰国

中国および日本における布教活動通算十年の戸畑教会主任クロード・バスチ師は故国フランスで休暇をすごすため四月十四日戸畑を発つた。一年滞在の予定。

クリア短信
北九州クリアのアチエス

北九州クリアのチアエス式典は三月廿日枝の主日に八幡市門田町のカトリツク教会で挙行されたが新田原、若松、門司、八幡、黒崎水巻など六つのプレシデイウムに属する約七十名の会員が参集してこの式のためわざわざ来幡された深堀司教の特別説教を拝聴した。

回勅シリーズ❶発刊！
レールム
ノヴアルム
—労働者の境遇—
新書判146頁 ¥100 〒20
世界中の人々が耳を傾けています。教皇聖下の回勅は、精神世界を代表する発言であることを信者はもちろんのこと、未信者の人たちも認めています。カトリツクが優勢でないアメリカでも、労使問題の解決は本回勅の線を守つて行なわれています。いま日本の労働省が手本と仰ぐドイツの労働界の諸制度は、やはり教皇回勅の線にもとずいています。誰でもが見遊すことの出来ない回勅シリーズです
❷❸❹❺❻と毎月一冊続刊予定
❷は回勅カスティ・コンヌビー（結婚の倫理）
東京都新宿区四谷1の2　中央出版社　振替東京62233

万人向きの
改訂口語訳新約聖書！
聖書はただ本棚に飾つておくものではありません。常に手にとつて読むこと。それには、わかりやすい聖書が必要です。今度の改訂口語訳新約聖書は従来のものよりも、もつとやさしい万人向きの聖書です。あなたのお手元にぜひ一冊。
聖福音　¥100　〒25
聖福音（使徒行録をふくむ）　¥150　〒30
新約聖書　¥300　〒40
東京・杉並・八成町九〇電話(39)六七一四番
振替六五五五六番　ドン・ボスコ社

最新刊　聖心大学教授　助野健太郎著
キリシタンの信仰生活
キリシタン殉教の鮮血の裏にはどんな信仰、どんな組織があつたか・祈り　信心用具、信心会などを中心に、やさしく書きあらわされた教養書で信者・未信者の別なく一読をおすすめします。
B6判二五〇頁・アート写真版多数挿入・¥230円・〒30
話し言葉になつた聖書！
家庭の信仰 —使徒行録と書簡—　上二〇〇円　並一五〇円　〒四〇円
家庭の福音 —四聖福音書—　上二〇〇円　並一五〇円　〒四〇円
東京都新宿区四谷一ノ二・中央出版社

「われに従え」⑨

剛毅の徳

深堀　敏

❶ 剛毅または勇気の徳は、正当な理由のために—神の光栄や永遠の幸福のためなど—苦しみや死を克服する力を与えるものである。この力があれば、善を行うために決然苦しみと戦い、生命さえ捨てねばならない時にも恐怖心の奴隷とならない。

また悪や不正に抵抗して、聖なる怒りを発し、それを挫こうとの勇気を起させる。

勿論この徳があれば、苦しみや死に対して全く平気になれるというのではない。苦しみや死よりも自分の霊魂を失うこと、人に迫害されることよりも神に背くことの方を恐れるのである。

❷ 攻撃と抵抗は剛毅の徳のあらわれである。剛き者は、神の国で善が勝利を得るのをたすけるために、神の敵を憎む。

どうしても必要とあれば、適当な武器をとることも、暴力に刃向うことさえも厭わない。しかし原則的に云つて、敵が最初に手出ししない限り、暴力的手段に訴えて平和を守ろうとしてはならない。

むしろ霊的武器をもつて、悪と不正に立向うこと。

神の国の兵士は、力ある勇気をもつてしか、不正に反対できないことが多い。この点、積極的に進んで、戦いを交えるよりも、むつかしいとも云える。

❸ 剛毅の徳のもつとも完全なあらわれは、殉教である。

キリストのため、信仰のため、自分の生命を捧げること。病気その他で死が来たときに、それを甘受すること、人生途上の様々の苦しみを、雄々しく耐えることもまたそうである。

より高いものを愛すれば愛する程、低いものを犠牲にすることが余り苦痛でなくなる。われわれはキリストに従うために、自分自身と、所有している物に対する執着をきつぱりと捨てるのである。

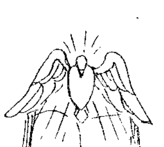
苦しみを受けている者は、何のために、そして何故、自分が犠牲をはらつているのかを解つていなければならない。

この地上のものよりも、霊魂が大切であることを確信している者が、本当に「強い者」である。力はキリストへの愛に奉仕されなければならない。

みんなのための聖書

（21）

聖書と聖母マリア



エンマヌエルの母なるマリア

マテオ福音史家はイエズス・キリストの系図の最後の部分に神の御約束の受領者、アブラハムの後継者なるイエズスが、ヨゼフからでなくて、マリアから生をうけたことを指摘しております。

〃ヤコボはマリアの夫ヨゼフを生み、このマリアから、キリストと呼ばれるイエズスがお生れになつた〃（一ノ16）

更にこの系図に続いて、イエズスの誕生が、ヨゼフの協力なしに行われたことがはつきりと記されています〃イエズス・キリストの誕生の次第は、次のようであつた。母のマリアはヨゼフのいいなづけであつたが、同居するより前に、聖霊によつてみごもつているのがわかつた〃（一ノ18）

マリアが童貞でありながら母であることを、最初に書き記したのはマテオであつて、マリアが母になれたのは、奇蹟であり超自然的な干渉があつたからだと述べています、マリアは聖霊のお蔭で母となれたのです。

聖霊とは聖書によれば、生命の原理、生命を創造する息吹きと言われていますが、この天主なる聖霊が、マリアの処女懐胎を成就し給うたのであります。

マテオはこの記事のあとに、何時ものように、旧約聖書の句の引用をしています。即ち〃これらのことは、予言者によつて主がおおせられた御言葉を実現するために起つたのである「処女がみごもつて、子を生むであろう。その名はエンマヌエルと呼ばれるであろう」（一ノ22—23）

イザヤはここでアルマという語を使つていますが、これは本来少女または若妻を意味するのであつて、あとで処女と訳されました。では、ここに引用された予言の句は、直接には何を指していたのでしょうか。

イザヤはその時代の人に神の恩召の記しを与えようとしたのです。即ち、エンマヌエル（神我らと共に在すの意）たるエゼキアスが王位に即いて、イスラエル王国を再興し、ヤウエへの信仰によつて、その滅亡をくい止めること、この王は少女から生れること。しかし少女は特定の実在の人物を指してもいるし（エゼキアスの母アビ）またイスラエル民族なる集団を指してもいるのです。

ですからイザヤ予言書の意味は〃近い中に主はイスラエルを救う記しを与え給うであろう。即ちイスラエル民族から一人の子が生れエンマヌエルと呼ばれるであろう彼は人の力によらず神への信仰と信頼によつて、この国を再興するであろう〃

しかしこの予言は近い直接的な事実においてよりも遠い先に実現すべきことを狙つたものであつて近い事実は遠い先のことの前表にすぎなかつたのです。

予言された真の偉大なる事実は文字通りにエンマヌエルにて在すメシアが、神の力によつて新らしい神の王国を再興するために生れること。このメシアの誕生が神の王国の到来の記しであること。そしてメシアは一人の処女から生れることを示していたのです。

イスラエルの後裔であるマリアこそこの処女であり神人キリストの母に在すのであります。

一世紀このかた聖母が我々に与え給うた哀願的御勧告

一八四六年　サレツトにおいて

〃もし我が民が従わないならば、私は御子の御手を放させざるを得ません。それはもはや私が御子の御手を支えることが出来ない程重いからです。〃

一八五八年ルルドにおいて

〃痛悔しなさい。痛悔しなさい。罪人の為に祈りなさい。〃

一八七一年　ポントメンにおいて

〃でも子供等よ祈りなさい。天主様はもうすぐあなた方の祈りをおきき入れ下さるでしよう。御子はその聖心を動かされているのですから。〃

一九一七年　ファチマにおいて

〃戦争、飢饉、教会と教皇様に対する迫害による世界への罰が近づいている事を承知して下さい。それを防ぐため世界を私の汚れなき聖心に奉献し、月の第一土曜日に贖罪の聖体拝領をなすようにして下さい。

一九三二年　ボーレンにおいて

〃私は、罪人を改心させるでしよう。〃

一九三三年　バンノーにおいて

〃私は貧しい者の童貞です。私は苦しみを和らげる為にやつて参りました。私を信じて下さい。私もあなた達を信じます。祈りなさい沢山祈りなさい。

一九四四年　ボーナトにおいて

（未決定）

〃善人も悪人もみんな苦しむ世界のため、倦まず祈らねばなりません。この戦争は大部分、婦人の罪特に不道徳の罪によつて起つたのです。〃

反射か模型

ベルナデッタ

神父様の書斎には部厚い本がぎつしり並んだ大きな書架が三つあつて、お机のすぐ右手のにはその中程にお母様のお写真が飾つてある。ようやく五十才位に見えるからきつと神父様がお国を出られた時のものであろう。もう八十才に近くはないかと思われる程白髪になられた神父様とよいコントラストだ。神父様は毎日司祭職という最高の天職をお母様の代禱を願いつつ果していらつしやるのであろう。ほほえましいだけでなく強く人の胸をうつものがある。

その日の公教要理は第二部の四誡のところだつた。しばしお母様のお写真に見入つていらした神父様はやおらお話をお始めになつた。

〃カナダの平原での出来事です。一台の自動車が降り積つた雪の中から発掘されました。平原を横断中、大吹雪に襲われて埋没してしまつたものでしよう。その車の中には、自分の衣服を脱いで妻子に着せた為凍え死んでいる若い父親と、胸に赤ちやんをしつかりと抱きしめ息も絶えだえになつている母親と、その暖い母の懐に無心に眠つている赤ちやんの三人がいたのです。赤ちやんを母親の手から引き離すにはその腕を切断しなければならなかつた程でした。…〃

家路を辿りながら私は考えていた。——先刻神父様がなさつて下さつたお話は私共に神的生命を与える為に苦しみ、十字架上に死し給うたイエズス様と、十字架の下に佇み給う共贖者なるマリア様との小さな反射か模型のようだと。そして御托身の玄義ででも分るように常に聖母を通して人類に働きかけておいでになる天主様の御手の業などを。——悪に掩われた現代の世界に、特に私共の上を憂い給う聖母は、何度も何度もメツセージをお送りになつて真の幸福、平和への道を明言なさつて下さつている。

お母様のお写真に見入られる神父様にお倣いして、子供の心をもつて聖母をみつめ、祈りたいものである。

㊟詩

母

母は私と妹のかわるがわるつげる一日のお話を本当にうれしそうに面白そうに、そして心配そうに聞いてくれます。
母は
〃母さんはこれで良いの〃つて私達の服ばかり作ります。
そして、
おかずは一番小さいものばかりとります。
母はお留守をする時、いつもお手紙とおやつをおいてくれます。このお手紙があると淋しくても何となくほつとします。
だけど母は
私達が悪い時はとつてもおこります。しかります。時にはぶつこともあります。
それでも、私は母が
一番好き。

（澪子）

俳句

桃の花はげしく打てり雨の雷　なみ女
春雷や闘病の孤独つき放たむ
学生の誰が活けしか紫木蓮　蛙草
ひなげしのほのかの紅をこぼしけり　恵女
蝶二つ中空に暫しおりたたず

現代社会における慈善

聖ビンセンシオ・ア・パウロ会員

この世の中に貧困者が意外に多いと云うことを私達は案外知つていない。統計を調べて見ると昭和三十一年度のものであるが全国約二千万世帯のうちの一一、四%を占める二二七万世帯が貧困であるとされ、二、五%の四十五万世帯が生活保護、即ち、政府の保護に頼つて生活していることが分る。何を以て貧困の定義とするか、ということは案外難かしい問題であり、ここでいう貧困者とは保護基準、或は被保護世帯と同程度のものというあいまいなものであり、二十七万世帯という数は、政治的目的のある作文的統計との批判も出るかも知れないが、五十五万世帯が生活保護を受けていることは確かな事実である。そしてそのために毎月約三十六億円の金が支出されているのである。この数字を見ただけでも、この世の中から貧困を追放することが如何に大変な仕事であるかということが分るであろう。

近代の社会福祉行政或は福祉事業を考える上に忘れてはならないのは、ケース・ワークという言葉である。この言葉の意味の解説はあとに譲るとして、ケース・ワークの歴史について、次の様な興味深いことが保護行政に直接関係している人の著書に書かれてある。

社会事業にケース・ワークに似た技術が用いられ始めた芽ばえは今から三五〇年前の「フランスのバンサン・ド・ポール（聖ビンセンシオ・ア・パウル）という坊さんの活動であるとされている。」彼はこれまでの、無思慮な無計画な、無組織な慈善を批判し、困窮者に金品を与うることもさることながら、その家庭を訪問して慰めることが真の社会奉仕であると」考えた。（社会福祉の指導と実務黒木利克著）このことは総てのカトリツク信者に知つておいていただきたいことであるし又聖ビンセンシオ・ア・パウロ会の会員は、このことを誇りとしてよいであろう。

貧困者のため一生を捧げた聖ビンセンシオには、自分の生活を一応確保した後に身近にいる貧困者に金品を与えるというのではなく何か、組織的な慈善活動の必要を感じたに相違ない。

慈善事業というものは政府は行つていない。憲法に保障された、生活権に基いて行つている、保護行政、或は福祉行政を行つているのである。それには多額の国費が投ぜられ、更に多くの職員が働いている。この仕事は国家の仕事の大きな部分を占めている。規模が大きければ当然行政技術も高度なものとなつて来る筈である。この観点から聖ビンセンシオの考えが論ぜられているのである。

確かに現在の社会保障制度は決して、簡単な小規模のものではない。新聞社など民間の行う慈善事業も亦決して小規模なものではない。

何処かで日本の或るカトリツク作家が「慈善という言葉は、何か偽善という言葉を連想させる」という意味のことを書いていたのを記憶しているが確かに現代の社会では、貧困者が目の前にいなくても慈善と称するものをすることが出来るので、偽善と結びついてしまう誤りが少ないとは云えまい。

私達は真剣に考えなくてはならない。慈善とは何か。特に、現代の社会に於いては貧しい人達に何をしなければならないのだろう。このためには私達は先ず、貧しい人達は政府に対してどのような権利を持つているか、政府は貧しい人達に何をやつているのかということを知らなければならない。

（未完）

正光印刷株式会社

本社　福岡市柳原町1丁目
電話代表（中）④ 3268番
分工場　糸島郡前原（糸島新聞社）電話7番

暁の星工作所

和洋家具
家庭用祭壇
礼拝台

福岡市箱崎飛島町四一一四
箱崎松原電停より徒歩五分
九大教育学部新校舎前

椰子の樹

「東への接近」より

ポール・クローデル
石　進　訳

わたしの故国では、樹はすべて人のようにたたずみ、動かない。根を地中にはり、腕をのばしている。だが、ここの聖なる榕樹（バニヤン）は、単に聳えているだけではない。大地のふところを求めて帰つてゆくところから、糸根がたれ下つていて、ちようどそれはおのずから生ずる寺院に似ている。だが、今は、椰子の樹だけの話にしておこう。

椰子の樹には、枝がまつたくない。幹の頂きに葉の繁みがある。

椰子の葉は勝利のしるしで、頂きを誇張し、空中を泳ぎ、光の中に突きでてひろがり、屈託のない自身の重みにたわんで、戯れている。暑い日のながい真昼間に、幸せにもわれを忘れた椰子の樹は、葉を開きひろげている。その葉がわかれてひろがつてゆく根元には子供の頭ほどの大きさをした青い実がくつついている。それが、この樹の愛情を示すしぐさとでもいつたものであろうか。なぜなら、下の方の葉は根元まで開いて疲れてたれ下り、中ほどの葉は出来るだけ四方にひろがり、上の方の葉は、まるで降伏した旨をしめす人が手をどうしたらよいのかわからなくなつた人のように、ゆつくりと合図しているからである。幹は決して剛直な材質で出来てはいないで、環があつて、草のようにしなやかで長く、大地の夢の思うがままに、太陽にむかつてのびたり土色のはやい流れの上や海や空の上に、大きな繁みを傾けている。

日暮れごろ、西南の季節風をうけて猛りたつインド洋の怒号する荒波に洗われて白く泡立つ浜辺にそつて帰るとき、小舟か獣の残骸かと思われる椰子の枯葉に埋れた岸辺にそつて、おぼろげな空の下の空虚な林の中を歩いていたわたしは、ふと左手に、（註）巨大な蜘蛛に似たものが、たそがれの空を斜めに這上るのをみた。ひときわ澄んだ光にぬれた月かと紛う金星が、大きな影を水面に宿していた。そして、海と星の上に身を傾けた椰子の樹は、愛に悶える人のように、空の火に胸をさし出していた。わたしは、さり難い思いにかられてふり返つたあの夕べのことを忘れない。あの時、わたしの眼に映つたもの、それは、巨大な髪の毛に似た椰子の葉と、林の高い樹列をすかして、海の上に両足をふまえて山かとそびえる積乱雲の空と、陸地とすれすれの色あせた大海原の色とであつた。

セーロンよ！わたしはおまえを忘れはしない。おまえの茂みと、果実と、やさしいまなざしをしてマンゴの肌色の道を裸でゆくお前の人達のことを。そして、愁いに悶えて目に涙をうかべ、肉桂の葉をかみながら雨空の下をさまよつたわたしの膝の上に、ガイドがおいてくれてあのばら色の長い花のことを！

（註）嵐をはらんだ海風をうけて騒ぐ日暮の椰子樹のシルエツトが、空に昇ろうとしてもがく大蜘蛛を聯想させている。この散文詩は、始めて東洋を訪れたクローデルがセーロンの海辺で、雄大な印度洋の日暮を仰いで若き日の信仰の悩みをもらした、記念すべき最初の作品である。

詩

大工のおじさん

雨降りの強い初夏の或る朝
私は第一ミサに出掛けていつた。
まばらに坐つた信者達が
祈禱書を手にして
朝の祈をとなえていた。
共同の祈にあずかり出した私は
少しおくれ気味についてくるボソボソつぶやく様な不調和音に気がついた。
目を上げてみて、私はすぐにその声の主を発見した。
広いガツチリした肩は、
どこも破れてはいないけれども
大分着古した布のジヤンパー
レインコートをまとわなかつたとみえて背中の上迄飛散つている雨のしずく。
重い仕事に自然に曲つてしまつた背中の向うに白髪のまじつた職人刈の頭がうつむいている。
太い短かい指が無骨にページをめくり、
自分の声を恥入る様に、
それでも
低い声で、祈の言葉を読みあげて行く。

私は思い出した。
その人は決して前列に席をとらない事を、
聖堂に於ても、パーテイに於てもその人の姿はいつでも子供達の横に見出だされた。
青年達のまずい聖劇にみとれて、いまにもひざまづいて拝みたそうにしている人、
パンフレツトや御絵をくばる時など、一番あとになつておずおず手を出すその人、
そのくせ、
金持が銅貨を投げ込む時には、
太い指をドンブリの中であちこち動かし、キラリと輝く銀貨をつかみ出す人、
聖堂の掃除を終つてもどると、だまつてお菓子を置いていつている人、
その人は、ヨゼフ様と同じ貧しい大工職人であつた。

おじさん、私は心の中でつぶやいた。
やがて、おじさんも私も其他の誰も皆、いつか同じように終油の秘蹟を授つて、一人一人神の御前に呼ばれて行くでしよう。
おじさんの葬儀は多分あなたの奥さんと、子供達と二三人の知合にかこまれて、
しめやかに行われるでしよう。
大学教授のその様に華やかな葬列も、美辞麗句を連ねた追悼文も、
魂を天に迄上げる様な聖歌も、きつと見られないし、聞かれないでしよう。
そして、あなたのお墓は、お命日と死者の日を除いては、枯葉と雀の遊び場所になる事でしよう。
とうとうその日がやつて来て
天の門が開き、皆がよみがえるその時にも、
沢山の信者の列の一番最後に、
おどおど歩くあなたの姿を見出すでしよう。
そしてキリスト様があなたを呼び出し
〝良き僕よ、天地の開闢以来、汝の為に備えられたる国に入れ〟
とおつしやる時には、
きつとあなたは今と同じ低い声で
私の為すべき事をしたゞけですとボソボソつぶやく様にいうでしよう。

おじさん、
ヨゼフ様と同じ仕事をしている大工さん、
あなたは無学で文字もろくろく読めない上に
あなたの歌は調子はずれで
公教要理の問答さえも満足に出来ないでしよう。
そしてたまにはお酒をのんだり、
怒つてみたりするでしようが、
私達の教会はそんなあなたを一番誇に思つているのですよ、
あなた方こそ、教会を担つているのですよ。
（P・A）

天才と訓練

A　生

暖かい気候になるとスポーツ関係の記事が色々と新聞紙上をにぎわす様になる。しかし最近もつとも話題の中心となつたのはプロ野球のある球団に加入した某新人の契約金問題だろうと思う。大学出のその選手の契約金が何千万円だが、それでもまだ安いととりざたされている。その選手は守つて良し、打つて良し、走るはさらに良しという野球をするために生まれてきた様な男であるそうだ。その選手をみるために押しかけるフアンの波から投資額位またたく間にとり戻せるのだそうだから球団にしてみれば決して高い買物ではなかつたのであろう。

こんな話を聞かされると、事実はそんなものかも知れないが、なにか、しやくぜんとしないものが心にのこる。

その男の様な選手はつくろうとしてもつくれるものではない。もつて生まれた素質が良いのだといわれている。だが、いかに素質があつたからといつても、少しの訓練もうけずに一躍スターの座にのし上がる事はあるまい。この選手の努力もさる事ながら持つている素質を見出して、それを伸ばしてやつた人達、今は何処にいつてしまつたか解らないが彼と一緒にプレーをした同輩達、これらの人達がなかつたら、今日の彼は生まれなかつたのにちがいない。

どんなスポーツも選手層が厚くないと決して発達しないといわれている。プロ野球について考えるとそれは社会人野球であり、大学野球であり、高・中学校そして町の鼻たれ小僧達がする三角ベースに当たる。それだから、一選手に寄せられる万雷の拍手を外に消えて行くこれら沢山の人達がいたからこそ某選手が生まれたといつても良いと思う。極端ないい方をすれば、もし、日本に野球が紹介されてなかつたらどうだろう。

この様に訓練について沢山の人に負い目を持ち、さらに、素質というものは天与の賜物であるという事を考えると、スターのみに厚い現在のシステムに疑惑の目を向けざるをえない。

随分ひねつたいい方をして気持を害された野球フアンの方がおられたらお許しを願いたい。私は勿論某選手にうらみのあるはずはなく、その選手の人柄についてとやかくいうものでもない。ただややもすると自分の力のみでスターの座を獲得したかの様にふるまう人達、スポーツの選手のみでなく、学者も、実業家も含めてすべてそれらの人達はもつとけんきよにならねばならない事、いやしくも大衆を軽蔑する様な態度をとるべきではないという事、そして、その様なけんきよな態度に基く努力によつてのみ、光栄の座を永続的に支配できるという事をいいたかつたのである。

ぶつく　がいど

それならば主よ、御身の計いたもう一切にさきがけて、私はいおう「アーメン」と。思いもよらない突発のさまたげにも、いつはてるともしれない厄事にも日毎におこる骨をぬかれるほどの期待はずれにも、まごころからのアーメンを。汽車をのがしてものりおくれても、雨にも太陽にも、眠られぬ苦しさにも疲れにも、灼けつく暑さにも肌刺す寒気にも、アーメンの一言を。陰気な朋輩の不気嫌や、いやなくせや妙なくせにも、アーメンを、老いのせいで一人よがりに、小うるさくなつた友や親類に対しても。出来ることならよろこびにみちた「アーメン」を―少くともいつも忠実な強い「アーメン」を。この小さな一語によつて、私たちの行く路の上から、おろかしい罪は姿を消してゆく。この言葉によつて、私たちは瀞にはまつたり、狂じみた夢に馳られとりのぼせたりすることはなくなる。祈る心が乾ききつたとき――いくら心をさぐつてみても、使いなれた言葉が少しも出なくなり、すべてのものが物悲しく、みにくゝ灰色がゝり、何をみても感動しなくなつた時――神秘家などの綿密な筆の中に、啓発されそうな条理、みごとな文章や御大層な処方などをさがしに出かけてゆくよりも、立派な文句や淡い感傷で自分自身の目をくらますよりも、まず頭をたれて手を組んで、心のありたけをこめた一つのアーメンをとなえようではないか。

聖霊の小径

ピエール・シャルル著
犬養道子訳

右は聖霊の小径「然あれかし」の中の一節。

かつて数年前、カトリツク新聞の第四面に、小さな枠をしてこの一節が抄録されているのを読んだ時の感動を、今もつて忘れない。そしてこの書を読む毎に私は、あの旅人のマントを脱かせるために、太陽と風とが争つたという童話を思い出すのである。この書には神学的な固さや冷やかさがない。あるものは弱い、傷つきやすい心をもつた人間の生活。しかも、それを照らす光なる啓示に基づいて、聖書の引用が豊富になされているにもかかわらず、カギがなかつたならば、それとはさだかに分らない程自然に説かれている。パスカルの所謂教えるのではなくてしずかに暖めるのである。

アーメンという一語すら、私達は日に幾度これを唱えることであろう。分りきつたように思われるこの言葉も、このように説かれると又再び思い考えさせられる。著者は非凡なもの、偉大なものには決して目をくれない。私達の貧弱な、平凡な生活そのままを、幼児の如く神の摂理に委ねることの、意味の深さを説くのである。そのままでよい、そのままでよい、たゞ父の眼を注ごう、その暖さを思い考えよう、たとえ人がどうあろうと、我等の御父だけは最後まで私を見棄て給わず、お守り下さるであろう。枕するところ、彼と晩餐を共にし、汝もガリレア人なれば、みそば近く我をおきたまえ、というような順でエツセイ風に話は進むが、慈父の炉辺談話にも似た話しぶりも、聖書学の造詣をもつてつとに西洋諸国に名高い人のものであるため単なる人間的感情的なものではないことはいうまでもない。その骨組の強さは如何なる書物にも劣らないのではないかと思う。

この書物が出版された時、カトリツク新聞紙上に柳宗玄の批評がでて、これ程我が国にフランス語が普及している現在、英訳からの重訳とは何事ぞという意味のことが述べられていたと記憶するが、それはどうあろうとかくも調子の緊まつた日本語で、これを読むことができるのを感謝している。本を書くならこのような本を書きたいとある人が洩らしたことがあるが、何の理由だか今この本が絶版になつているのは惜しみても余りあることである。

（一〇〇円、エンデルレ）（K）

SSD
コンサイス英和辞典 380円 革500円
コンサイス和英辞典 350円 革470円
辞書は三省堂
新版 広辞林 1200円
チエルテナム メチウム
明解国語辞典 380円
SSD

昭和30年7月14日第3種郵便物認可　毎月1日発行　第40号

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　十円

教皇カトリック労働者に演説
勤労者の聖ヨゼフの祝日に

教皇聖下は、メーデーを「勤労者の聖ヨゼフの祝日」と宣言されてから三年目になる記念日にあたつて、聖ペトロ大聖堂に集つた二万人のイタリアのカトリック労働者を前にして演説され、「キリストを抜きにして、唯物主義的に社会平和を作り出そうと企てることは、最後には労働者たちの自由を抑圧することになるであろう」という旨を警告された。その日、約一万五千名の共産主義労働者たちが、同大聖堂から河を距てて約一マイル離れたピアツツア・デル・ポポロ（人民広場）で民衆大会を開いて、資本主義と米国のミサイルを非難して気勢をあげた。聖下の御演説要旨は次の通り。

▽イタリアで過去一世紀間に大きな進歩が達成されたのは、カトリック社会理論に負う所が大きい。…今日の労働者の世界は、「社会秩序の不死の開拓者」たる教皇レオ十三世の夢が実現されたものである。

▽かつて、ある人々が、自分たち以外には労働者の世界の将来を決めるものはいないと考えた時があつた。そして彼らは、あらゆる手段を尽して、労働者をキリストおよび教会から離れさせようと試みた……しかし今日では、労働者の群は教皇の前に集つて、勤労者聖ヨゼフの祝日を祝つている。

▽労働者諸君は、社会主義に関する証明済みの原理を研究し、適用しつづけるべきである。

▽もし労働階級が今日、正当な勝利を誇り得るとするならば、またもしかつては打ち勝ちがたく思われた労使間の関係についての多くの誤解が、双方の満足のゆくように解決されたとするなら……過去一世紀中の勇敢なカトリック信者たち、即ち教会の教えに導かれ支えられることに甘んじ、そして諸君と諸君の父たちとの使徒たちの「時宜を得た、輝やかしい、正しい真剣な介入」のお蔭なのである。

▽これに反し、人々がキリストを抜きにし又はキリストに反対して、社会的和合を打ち建てようと欲した所では「すべての保証と真の権利の欠如」が起り、そしてそれに伴つて「労働者のための真の自由と、将来への安全保証との欠如」が起つたのである。

▽さて、キリスト教労働者団体は「キリスト教的訓練と使徒職との学校」にならねばならない。それらの団体は、時代遅れの偏見によつて攻撃されるが、又は教会を労働者の敵だと見なす一層有害な偏見によつて攻撃される。

▽他の労働者団体は「我々は正義だけで十分だ」といつて、あたかも正義と愛の二つの徳は、互いに敵でもあるかのように思つている。しかしその反対こそ、確かに真実である。暖い愛が先に立つて準備をしないような「真の正義」は実際存在しない。

教皇、原子医学者らに演説

教皇聖下は、放射能・原子医学の国際研究会議に参加した科学者たちを前にして演説され、「科学的研究は、人間の精神的エネルギーを増加し、そして人間を肉体的物質的労働から解放することを目的とせねばならない」と告げられた。

聖下は、人体に及ぼす放射能の影響を究明する必要を強調され、そして現在その研究が大いに行われていることを賞讃されつつ、次のような問を発せられた。

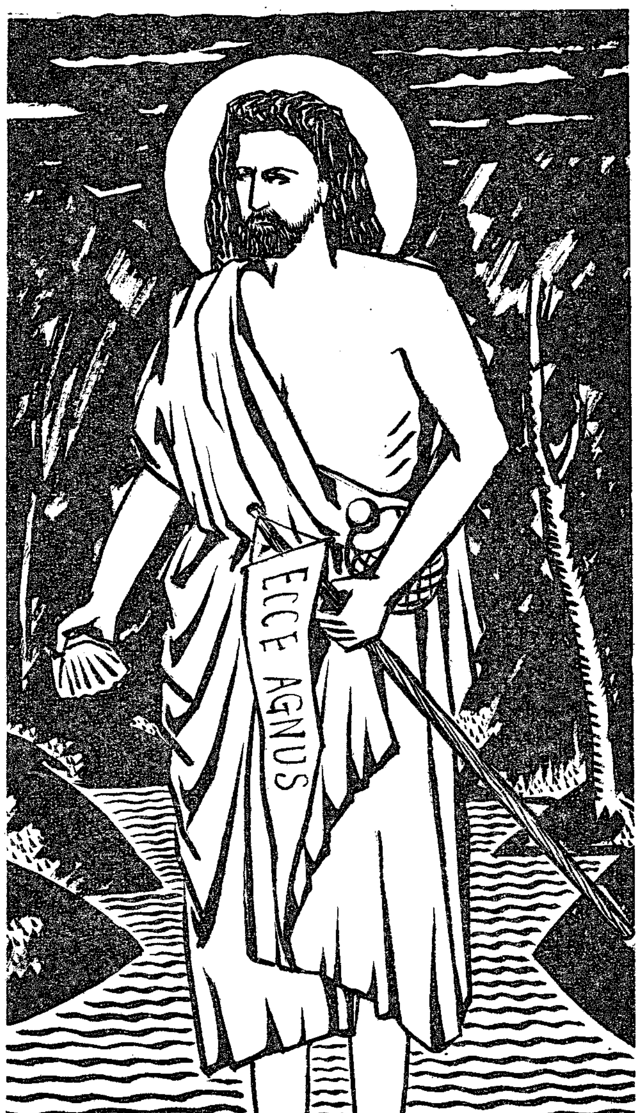
「諸国の科学センターで行なわれている、この忍耐を要し、非常に疲れさせる仕事でも、もしそれが人間の漸次的解放、心身上の障害の克服、および保存又は再獲得された人間のエネルギーの合法的使用を達成することに向けられないとしたら、その研究は一体どこに向つて進むことであろうか」

教皇の御話は、聖下が一九五五年の復活祭メツセージの中で「増大された放射能から生じることがあり得るところの奇形児の恐怖、そしてさらに一層悪いことに、両親の生殖力に及ぼされる隠れたシヨツク」について警告されたことを思い起させる。

なお、教皇はその御演説の中で近年、医学と産業界に放射能学が大いに発達したことを指摘して次のようにいわれた。

「人の生命」の利益になる事柄にたずさわることは、小さなことでも、また無意味なことでもない。われわれは常に、その研究の真の偉大性はどこにあるかを認識し、そして人間の精神的エネルギーの増大、および肉体的、物質的労働からの人間の解放という目的のためだけに、現代技術の莫大な資源を適用せねばならない。

放射能は通例、生殖細胞に対し都合の悪い影響をおよぼすことは諸君の報告書の一つにも指摘されている。このことからしても、放射能の強度およびその種々な適用について、できるだけ正確に測定する必要が生じる。（カトリツク新聞第一五五六号より）



キリストの先駆者
洗者聖ヨハネ

主の光
合理性

「真理というものは、所詮、悲しいものかも知れない」とあるひとが叫んだ。

真理はそれ自体、ひとの喜びからも悲しみからも絶縁されていて、ひとがこれを認知する以前に、事物の奥にげん存するものである筈なのに、真理を悲しいものとする言い分は面白い。

それは、私たちがみとめた真理に或る種の強制を感ずる人間であることをうまく表現している。

善意のひとであつても、信仰という言葉をきいただけで、精神に不安を感ずるひとがいる。またも悲しいものかも知れない或る種の真理が問題になるからだ。

思潮のうずの中から、自らを解放せよ。その主流の中に居ては、たしかな真理までが頭上を廻転する。さく覚がひとの判断をにぶらせるだろう。

日夜拡大される物質的要求の満足を求めて過労するな。無関心の霧が精神を包んでしまうだろう。

真理から来るかも知れぬ道徳的責任を、あせつて回避しようとするな。怠惰な懐疑が精神を凝結させてしまうだろう。

「真理は汝を自由にする」と捕縛されたイエズスは、自由人だと思つていた裁き手のピラトに言つた。ピラトは首をかしげてイエズスに問いかえした。

「真理とは何ぞや」と。

ひとは理性の働きによつてものごとを知る。この理性がある事柄を承認することなしに真理の認識はあり得ない。

単純な否定は真理を語つてはくれない。なぜなら、或る事が絶対的に、又同時に排他的に真理であるとの肯定なしには、否定は真理を語ることは出来ないからである。処で、理性がある事柄を承認するのに二つの方法がある。

即ち、自明な事実を前に承認する場合。承認された命題は人間的に確実なものとされる。

第二に、直接の証明なしに、相当の保証のもとに理性が承認する命題がある。しかも、この保証が確実であるとの判断は理性が周知する領分であつて、感情とか意志とかの暴力の下ではない。

信仰による真理の認識は第二の方法によるもので、理性が判断し得たこの相当の保証こそ、信仰に合理性を与えるものなのである。

たとい、語られた一つの命題が信仰によつて承認されようとも、その保証の出どころについて、理性が確立できれば、その事は合理的に真理なのである。

信用と事実の不確実さをともなう人間世界の抽象的命題にひきかえ、超絶的に絶対な保証を神のうちに見出す信仰の真理は、おのづから、ひとに承認を迫る性質を帯びている。

自明の真理は、自由な人をも強制する。この征服者の足もとで、ひとは悲しくても、兜をぬぐか、その真理のもとで自由をかくとくするより外に道はない。

信仰の真理は、自明でないままに、たとい理性の承認はせまられても、否定の可能性を―― 真理にすねる自由を―― 残している。これは道徳的責任をともなう意志の領分である。ここでは理性の承認に自由意志の作用が加わつて来る。信じ得るためには、自由に信ずる事を欲せねばならない。

信仰と不信仰のあいだには緩衝地帯はない。真理と誤謬の間に一分のすきもないのと同じである。

ひとりの人は、信仰者でなければ不信仰者とならざるを得ない。

無論、ためらいの場所はあり得よう。しかしそれは心理的な過程としてゆるされ得ても、懐疑がその人の理性の安住の地と定められる瞬間に、そのひとは不信者の列に身をおとさねばならない。

そこで、ひとは或る種の真理に対して頑固に抵抗するという罪から解放されねばならない。「汝等改心せよ。

神の国は近づけり」イエズスは公生活に於て開口一番、こう申された。この真理への改心は、罪の悔い改めの最初に来るものでなければならぬ。

洗礼は信仰を愛のうちに完成する恵みの道を開く。しかし、信者と不信者の区別は、洗礼よりもむしろ、信仰の真理に対して理性と意志との素直な調節にあるようだ。

そこで、信ずることを望む祈りが最少限度に、しかし絶対に必要になつて来る。

〝もし神いまさば、おんみを知らしめ給え〟

たとは仮定形にはじめられる祈りにしろ、信仰の世界の門戸あけしめるに十分な力をもつている。

次の瞬間に、

そのひとは神の国に受けいれられるであろう。

（伊東）

永久聖体礼拝
六月

第一日曜	馬渡島教会
第二日曜	戸畑教会
第三日曜	人吉教会
第四日曜	日田教会 マリア会
第五日曜	簑島教会 ノートル・ダム会

祈禱の使徒会
六月

【一般の意向】　現代の混乱に対してキリストへの希望

連禱の中で私たちはイエズスの聖心をすべての心の中心とよんでいます。聖心は愛であり、全世界の人々の困難をみて、これを慰め、強めてこられました。ところが現実の世界はどうでしよう。あまりにもキリストの愛から遠ざかつているのではないでしようか。多くの人は精神生活を軽視し、唯物主義に走り、いたずらに現世の事物を追求しています。

こういう社会にあつて、私たちはまず第一に、自分が聖心を愛するものとならなければなりません。それは同時に人々を聖心の信心にひきよせ、そこにあらゆる困難に対する救いを見出させる動機となります。私たちはキリストのこのような深い愛にこたえ、祈りと犠牲を捧げて、聖心への信心を強めなければなりません。

【布教の意向】　アラビア諸国における平和

【布教委員会の意向】　イエズスの聖心の信心を通じ、教会の掟、特に主日が厳守される為。

六月
イエズスの聖心の月

一日（日）　聖三位一体の祝日
聖霊降臨後第一の主日

聖三位の教義は、人智をはるかにこえた信仰箇条であつても、われわれの信仰実践生活に無関係のものではない。聖三位一体の天主こそ魂の生命であり、最高の賓客であり、永遠の幸福の唯一の源である。

二日（月）　天地の元后なる聖母の祝日

今日の祝日は四年前の昭和廿九年十月十一日に現教皇によつて制定された。〝この世の元后として最もふさわしい、終生童貞マリア、人類の救主の御母、われらの平安と救とのために祈り給え〟

五日（木）　聖体の祝日

秘蹟の中に宿り給うイエズス・キリストの愛を盛大に感謝し、信仰をたかめる日、われわれは主の御体を食することによつて、主の愛をしみじみと〝味い〟、主の贖いのお恵みに〝感じる〟ことができる。

六日（初金）　聖ノルベルト司教証聖者

八日（日）　聖霊降臨後第二の主日

聖体の秘蹟は、晩さん会にたとえられる。それに招かれることは全く破格の恩典である。それだけにこれを拒むことは恐るべき忘恩と云わねばならない。

杵築教会で堅振

十日（火）　聖女マルガリタ皇后寡婦

教区司祭月例集会の日

十一日（水）　使徒聖バルナバの祝日

聖パウロを使徒達に始めて紹介し、その第一回伝道旅行に従つた。

十三日（金）　イエズスの至聖なる聖心の祝日

イエズスの聖心に対する信心は、神の御子が、人類に対する神の大いなる愛をあらわし給うたのに対する感謝と共鳴である。この日「人類の忘恩に対する償の祈」を唱える。

博多キャンプで堅振

十五日（日）　聖霊降臨後第三の主日

神の愛は弱く、みじめな者、罪人に対して特別に発揮される。このキリストの聖心の愛以上に、キリスト教の本質を示すものはない。

水俣教会で堅振

廿日（金）　日本の福者フランシスコ・パチエコ及びその伴侶等殉教者

廿一日（土）　聖アロイジオ証聖者

その天使的純潔のために、青年の保護者と崇められるイエズス会の修練者一五九一年帰天

廿二日（日）　聖霊降臨後第四の主日

イエズスはペトロの謙遜をみそなわして使徒に選み、その頭とし、教会の指導をゆだね給う。

信仰弘布会設立の記念日

古賀教会で堅振

廿四日（火）　洗者聖ヨハネの誕生の祝日

キリストの先駆者であることは、言葉と実行をもつて人々をキリストにひきつけること。洗者ヨハネこそ布教運動に召された信者の模範である。

廿九日（日）　聖ペトロ・聖パウロ両使徒の祝日
聖霊降臨後第五の主日

聖ペトロは教会の第一代の教皇である今日われわれは聖ペトロの後継者たる現教皇のために祈ろう。

群衆を祝福しつつ進むキリスト

五月晴れの教区聖体行列

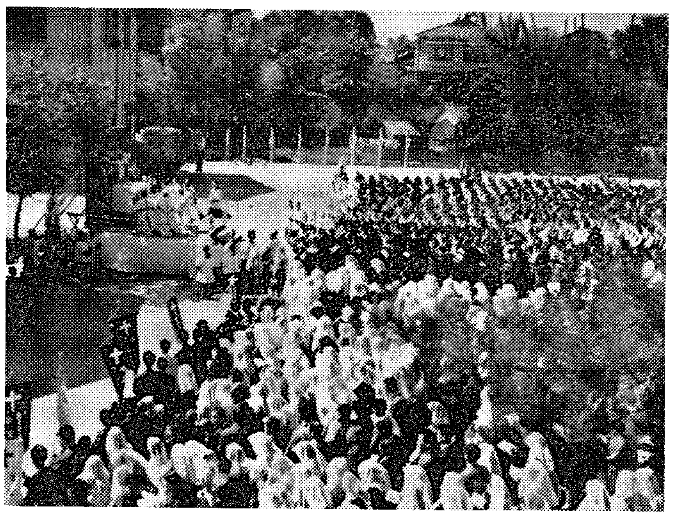
恒例の教区主催聖体行列は、前夜までの雨もあがつた五月四日日曜日、五月晴れにめぐれて、福岡市平尾山荘通りの泰星学園から御所ケ谷の雙葉学園まで約一粁米の間で挙行された。

午後一時半式長平田惣五郎師、補祭深堀敏、牧山重光両師につきそわれて深堀司教の奉持する御聖体が、泰星正面玄関横の仮祭壇に安置された。伊東誠二師先唱の聖体讃歌ののち、畠山七郎師が布教活動の内的原動力たる聖体の秘蹟について説教し、直ちに行列にうつつた。

十字架を先頭に雙葉学園生徒、小神学生、大神学生、司祭団とつづき、小学生の花撒きのあとを御聖体が進む。先頭が浄水通教会前を通過した時、行列の最後尾がやつと泰星を出発する。参加者約三千。

快晴のゴールデン・ウイークのなか日に当つた上、博多ドンタクの最終日とあつて、平尾附近に散歩に出かけてきたおびただしい人の群のなかを進む厳しゆくな信者の行列には、好奇と尊敬の目がそそがれていた。市内各幼稚園々児は父兄につきそわれて、浄水通教会前で御聖体を奉迎した。

二時半雙葉学園校庭の仮祭壇前に一同整列。最後の聖体降福式が行われて、三時十分前二年振りの聖体行列はとどこうりなく終了した。（写真は聖体行列の最後の降福式）

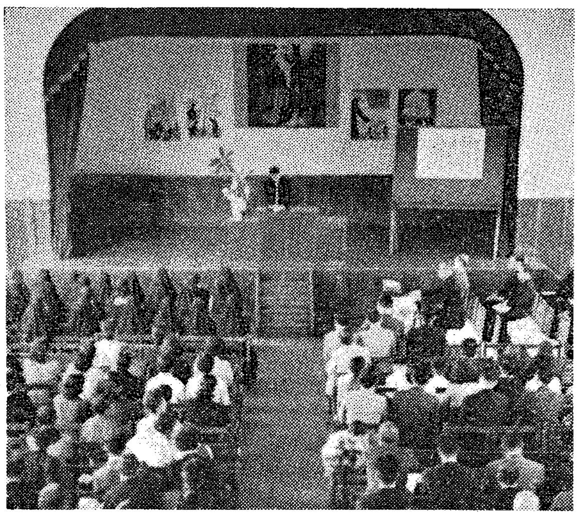


十字架につけられしイエズスの姉妹修道会

総長来福

「十字架につけられしイエズスの姉妹修道会」の創立者であり現総長である悲しみのマリア童貞は世界各地の視察旅行途中の五月十六日来福深堀司教と懇談ののち、サン・モール、カルメルなどの諸修道院、サンスルピス大神学校を訪問して大阪に向つた。

同会は一九三〇年（昭和五年）創立。本部はフランス・パリ市の近郊にあり、現在十八ケ国二百名余りの会員をもち、日本人五名が入会している。修院はフランスに四ケ所、アメリカ合衆国に一ケ所。同会は正式の修道会であるが、病人および不具者であつて修道生活を送りたいもののために創立されたもので、盲人修女は点字で聖務を誦えている。外部活動としては診療所などを経営している。



第二回福岡地区

信徒使徒職大会

一般信徒の使徒的熱誠をたかめる第二回福岡地区信徒使徒職大会は、聖体行列にひきつづき午後三時十五分より雙葉学園講堂で開かれた。

正面壇上と周囲に種々のポスターや統計表がはられている会場には、深堀司教ほか聖職者十数名と信徒約二百五十名が着席。開会の辞ののち、地区委員長青木栄雄氏の挨拶があつて、信者代表による布教への熱意昂揚のプログラムが展開された。

まず九州大学法学部助教授水波朗氏が「信徒使徒職のあり方」と題して約廿分熱弁をふるつて信仰生活における個人主義と全体主義的態度の害をとき、つづいて雙葉学園の森山敬三氏と曽我滌子氏がそれぞれ「現代社会の信徒使徒職への要求」および「信徒使徒職と婦人」と題して一般信者、また特に家庭婦人の立場から、どのように具体的な布教が可能であるかについて述べ、学生会代表の角田隆一氏（九大法学部学生）は「信徒使徒職と学生の責務」をテーマに学生会の実際活動を紹介。

ついで福岡教区信徒布教会の総指導司祭平田勇師が壇上に立つて、昨年十月の第三回世界信徒使徒職大会における教皇聖下との謁見の模様を述べたあと、壁にはられた四枚のポスターを示しながら、信徒使徒職活動とは何かについてわかり易く説明。

最後に深堀司教が内的信仰の高まりが当然使徒職活動の実践を生むべきことをさとされた。

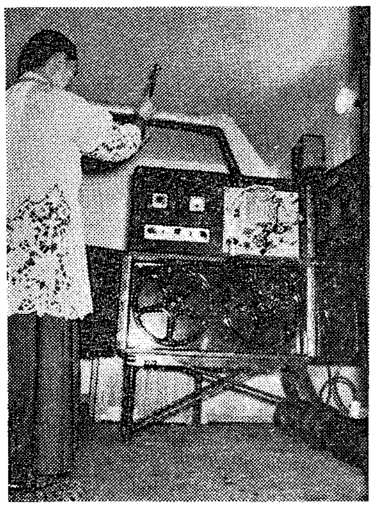
ついで青木委員長先唱のもとに全員で「信徒使徒職の完遂を求むる祈」と「宣誓」を唱和。司教掩祝を賜わつて五時散会した。

本大会の宣誓

1、私たちはイエズス様のみ教えを広める義務のあることを宣言します。

2、私たちはカトリツクの教えを各職場、家庭に広めるよう努力します。

3、私たちは未信者を一人以上教会にみちびくよう力をつくします。（写真は信徒使徒職大会の模様）



熊本信愛女学院で二つの重要集会

第四回教区修道者大会

第四回教区修道者大会は、去る五月十日（土）熊本信愛女学院附属聖堂で開催された（前三回はいずれも福岡雙葉学園で開催）。各修道院より二名ないし四名、それに地元熊本の幼きイエズス会の二修院と琵琶崎フランシスケン修院から多数修道女が参加して、全員七十名が教区最高の霊父たる深堀司教のもとに集つた。

七時司教ミサののち、午前中は九時、十一時の二回、午後は一時半に一回の説教があり、三時半聖体降福式をもつて、霊的集いの一日を閉じた。

学校教育研究会

第四回教区カトリツク系学校教育研究会は、深堀司教御臨席のもとに五月十二日（月）同女学院で開かれ、本教区の泰星、雙葉、白百合、明治、明光のほかに、宮崎教区より別府明星と延岡緑ケ丘、鹿児島教区より純心など諸学園の教諭十四名、聖職者側からはハンター、コイル、畑原の諸師が参加九時より中学二年、高校三年の宗教と高校二年の日本史などの研究授業、さらに十時から泰星学園のムルア師による宗教科のモデル授業を参観したあと、正午迄会議室で協議を行つたが、司教御訓話のあと同女学院の中学、高校の道徳教育指導案について簡単な説明があつた。

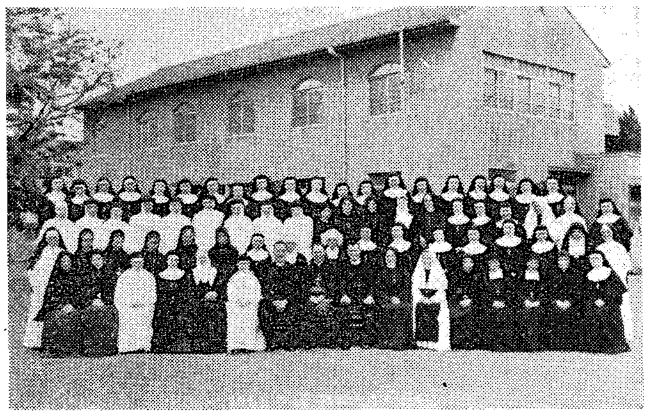
午後は九州大学理学部教授桑原万寿太郎氏が一時間半にわたり「生命の起源」について特別講演を行い、終つて同氏を囲んで種々の質疑応答がなさはた。三時半聖体降福式をもつて研究会を終了したが、次回開催地は戸畑明治学園に内定した。

熊本待労院にイタリヤから最新式映写機寄贈

熊本市島崎町の待労院（マリアの宣教者フランシスケン修道会経営）はこの度修院付司祭レオ・バツシ師（フランシスコ会員）の多大の尽力により、イタリヤのフイアツト・モーターウオークスおよびシクロテクニカ・ハイプレツシオン・ミロダクツの両会社より映写機の寄贈をうけ、五月十一日祝別式を行つた。

同病院の新娯楽室に設置された映写機はミクロテクニカ・ハイプレシオン・プロダクツ会社製のもので、最新式の優秀なるもの、十五ミリ、無音で、運搬可能、防火用スケールの二重ケースのなかに装置されてある。レクレーションセンター用としては理想的なものといえよう。

祝別式は堅振式のため折から来院中の深堀司教によつて行われ、病院医師、修道院長らが参列した。（写真は深堀司教による映写機祝別）



（写真は修道者大会の記念撮影）

ダルクマン師指導で

大分県下男子黙想会

前号既報の大分県下男子黙想会は、ゴールデン・ウイークを利用して五月三日より五日までの二泊三日間、サレジオ会日本管区長ダルクマン師指導のもとに、坂の市町海洋会館で行われた。参加者廿一名（教会別では大分六、別府三、大貞公園七、杵築二、中津一、坂の市二、佐伯二、日田五）で、平均年令廿二才という殆んどが中堅層の人々で、それだけに落着きのある雰囲気が感じられた。深堀司教より黙想者に特別メツセージがおくられた。尚来年は中津市大貞公園教会で行うことに決定。

学生黙想会

福岡カトリツク学生会（会長角田隆一氏、指導司祭平山高明師）では年に四回黙想会や一日の静修を定期的に行つているが、去る五月十八日福岡市小笹の聖パウロ会修道院で、深堀司教御指導のもとに静修を行つた。参加者十五名。

ベネデイクツスをつづけて歌つてもよい

礼部聖省から指示

礼部聖省では、歌ミサ中、聖変化の前にサンクツスをベネデイクツスとが一緒に歌われてもよいと言明した。

これは数名の典礼学者から提出された質問に答えたもので、同聖省はこういつた。即ち、その同じ祈りの二つの部分を一緒歌うのもまた聖変化の前にサンクツスを、そしてその後にベネデイクツスを歌うという習慣に従うのも、全く自由であると。

（カトリツク新聞第一五五六号より）

無期誓願式

黒崎修道院で

五月三日八幡市黒崎の煉獄援助修道院で深堀司教司式のもとに無期誓願式が行われた。誓願者はマリー・ベルナデツタ童貞（谷口とさ子さん、新田原教会出身）である。

堅振のよろこび

〔手取教会〕 五月十一日午前九時のミサののち卅一名が受堅

〔琵琶崎教会〕 同日午後三時半より廿一名が受堅。式後待労院の患者一同によつて司教歓迎の演芸会が行われた。

聖パウロ書院
カトリツク出版物紹介

ルネ・ド・モニン著
ペトロ・ハイドリヒ
山村直資　共訳
聖イグナチオ「霊操」による祈の方法
￥70

霜山徳爾著（上智大学心理学助教授「夜と霧」「愛と死」の訳者）
明日が信じられない
（幸福の条件）
￥130

ヨハネス・メスナー著
自然法
各巻　三六〇円
Ⅰ原論　水波朗訳
Ⅱ社会の現実と倫理　栗城寿夫訳
Ⅲ国家経済倫理　水波朗訳
Ⅳ国家経済倫理学　野尻武敏訳

蟻の町の奇蹟　価二七〇円
松居桃桜著
蟻の町のマリア　価二八〇円

日本キリシタン物語
片岡弥吉著
永井隆絵
￥150

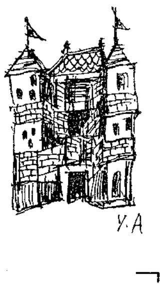
ピノキオ
C・コローデイ著
マリア・パウロ
山本文子　共訳
￥200

ノンニ少年の大航海
スウエンソン著
山室静訳
￥250

イエズスの
聖心の月のため

イエズスの聖心を仰ぎて　脇田登摩訳　￥三五〇
イエズスの聖心　M・シエルドン著　￥一〇〇
イエズスの聖心に対する信心　サレジオ会著　￥六〇
聖心の奥義　グドルフ著　￥八〇

カトリツク関係書籍、雑誌、リフレツト
一般文芸良書その他
家庭用祭壇、十字架、聖画像
聖パウロ書院
福岡市万町電停前
電話(4)四五八八



「われに従え」⑩

節制の徳

深堀　敏

❶ 飲食の本能は個人の肉体のいのちの維持に向けられ、性本能は種の保存に向けられている。本能はそれぞれの目的にはつきり従属している。目的に従わないならば本能の働き自体が目的となつて秩序は乱され、すぐれて有益なこれらの本能も、破壊的な力となり、個人の肉体のいのちも、種の保存もおびやかされ、しかも精神の力も弱められて、救霊さえも危うくされる。

「節制の徳とは、本能のふかい衝動を秩序正しく維持することにある。そしてそれは本能の向うべき真の目的と人間の最後の目的を尊重するためである」

❷ 原罪の結果、人は神よりも自分を愛する傾きが強くなつている。自分よりも神を愛し、神に向つていることが、節制の徳を実行するための必須条件である。自分を空しくした愛は、自己を抑制すること、自分と斗うこと、犠牲の実行などによつて表わされるが、これは欲望そのものを圧殺することではない。その暴君的振舞い、野放しをおさえることである。

❸ 不節制は人を盲目にし、奴隷にし、賢明な判断をさまたげ、霊的なものを探し味う力を乱し、意志の力を弱める。愛徳もまた大きな打撃をうける。利己的な情欲に身心をうちまかせるからである。

❹ 飲食に度を保つことも、知的好奇心を抑えることも、愛によつて生かされなければ、キリスト教的徳とはいえない。ただ健康の理由で食物を節することは、宗教的動機からなされたものとは異る。信者は、感謝をもつてすべてのものをとりながら飲食を楽しみ、神の愛と、自分及隣人に対する愛の要求があるときには、それをさし控えるのである。〃もし、ある食物が私の兄弟をつまずかせるなら私は、兄弟をつまずかせないため に永遠に肉を食べないであろう〃（コリント前八の一三）

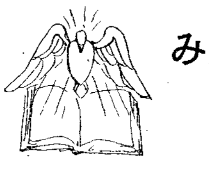
飲食の楽しみをキリスト教的に味うとは、利己愛をもつてするのでなくて、このようなよきものを造り給うた御者を愛する喜び、神と人とによりよく仕えることができる喜びをもつてすることである。

〃だから、食べるにつけ、飲むにつけ、何をするにも、すべて神の光栄のために行え〃（コリント前一〇の三一）

みんなのための聖書

（22）

聖書と聖母マリア



玄義に対するマリアの信仰

ルカ福音書によつて記された御告の場面は、マリアがその御子の玄義に、常に御心をひらき深い注意をまなこを向けておられたことを示しております。「どうしてそんなことになるのですか」（ルカ一の三五）

同じ福音書によまれる次の場面十二才におなりになつたイエズスを、神殿でみうしなわれ、同じ態度をとつておられます。（ルカ二の四一－五二）

聖母は、われわれに信仰の何たるかを教えておられます、マリアの信仰とは、神の教えに受動的に帰依すること、即ち自ら進んでそれを求めようとしないで受けるだけの態度にいることではありません。それでなくて、神秘の世界に－それはわれわれにとつて余りにまばゆいものでありますが－その世界に深く入りこみたいとの望みをもち、大きく目をみひらいていることであります。

所が御子の玄義は、マリアのこのような希望を限りなく越えているのです。ですから積極的な信仰の態度をもつてしても簡単には前に進めません。〃私の子よ、なぜこんなことをしたのですか、ごらん、お父さんと私とは心配してさがしていたのですよ〃（ルカ二の四八）イエズスはこれに答え給うが父も母も直ぐに理解することができません〃なぜ私をさがしたのですか私が、私の父の家にいるはずだと知らなかつたのですか〃（同四九）

この障碍をマリアはどのように、のり越え給うのでしよう。普通の母親であれば、十二才の息子がこんな答え方をすれば〃おや、変なことをいう子だ〃という位で、それ以上のせんさくをしないものですが、マリアはそれで満足し給わないのです。御子のお答えをすぐに忘れてしまうとか、無理解のままですごすことは、どうしてもできないのです。

自分が悟りえなかつたイエズスのお言葉を、マリアは、前からすでに知つているすべてのことと一諸に、受けてしまつておかれるのです。〃その母は、これらの記憶をみな心におさめておかれた〃（同五一）

イエズスの御誕生の時もそうでありましたように、御母は、御子についていわれたこと、出来事の意味を明らかにしようとなされます。他の目撃者はただ驚くだけであつたのに、マリアはすべてを心にとめておかれ、いつまでも考えつづけ給うのです。

イエズスに関わることは、どんなに些細なことでも一つ残らず心におさめておくこと、ここにマリアの信仰の強さが伺われます。

これだけの感受性と積極性を身につけておられたから、使徒たちが悟りえなかつたみ言葉の意味をマリアは理解することがおできになつたのであります。（ルカ、九の二二、一七の二五、二四の二六参照）

街に拾うみ教え

フランシスカ

その一　信者の責任

朝の混み合う時間にバスにのりました。この時間余り乗り馴れない私は自分で乗るというよりも、むしろ押し込まれてしまつて行きづまり、ふと振りかえつて見ると妙齢の御婦人が、最後にかろうじてぶら下つておられました。同年輩の女の車掌さんが「私の席へお上り下さい」といつて、その方を車掌席に入れて自分はその先端に立ち乍ら、懸命に努力してドアをしめました。

車掌という職責故に、同年輩のかよわい筈の人が、乗客を保護しているそのけなげな姿。

信者になり立ちの私は私なりに、信仰を持たれない方のための愛情深い保護者であり、且又、よきガイドであらねばならない、とみさとしを頂いた思いに満たされ、覚悟を新たに致しました。

その二　導かれる者の感謝

夕方、準急からおりて気ぜわしく人波にもまれて博多駅の階段を上りはじめると、目の前に三才位の坊やがチンガタ、チンガタあやしげな足どりで上つており、私は急ぐわけにも行かずそのあとに従つておりました。その中にお母さんらしい方が片手を貸されますとその坊やは見ちがえるようにサッサと上つて行きます。私もそのあとを追い乍ら、新米の信者の足どりを見せられた思いでした。

然し教会という家族に入れて頂いて、左右の手を取つて下さる方々のあるおかげで、あやまちなく歩まして頂けることの感謝を思い、若し勝手に一人歩きするならばあの坊やと同じたぐいで、自分の気のつかぬ間に人様にごめいわくを及ぼしていることと、ふりかえれば又ここにも、イエズス様のみさとしが伺われて感謝でございました。

青少年の指導者・トツ・テイハメル著
青少年へのすすめ
教養
「本書は道徳教育の実用的手引きとして青少年にも，教育者にも，よき案内者である」
￥180

初夏吟

足もとの野いちごに寄る憩かな
パラソルの内の視線をそらしけり
恵女

案内僧は小さき人や風薫る
指曲げし、仏の頬や風薫る
牧泉

松蟬や手重になりし写生箱
冬心

前夜のこと

テレジア

新緑に萌える木々の一葉々々が初夏の日射しをまぶしく照り返している。しずしずと長くつづく行列。顕示台に在す御聖体に愛をこめてなげる花弁が美しくあたりに散る。聖主を賛える聖歌の調べ。共にロザリオをつまぐる祈りの合唱。

曾てユデアの町々村々を巡廻なさつて苦しむ者を慰さめ、罪人をたち返らせ、病者をいやし、死者をよみがえらせ、罪なき子供達を祝して天国への道を示し給うたその全く同じイエズス様は今御聖櫃中に在すのだ。昔の様にただ一ケ所だけでなく世界中到る所に。

救い主の愛は私達の救霊の為お苦しみになつて御死去遊ばすのみでは御満足なさらず御自身をその糧としてお残しになられた。〃とつて食せよ。〃と。愛は常に一致を渇望し目的とするものであるから主は私達がこの世から最も親しく一致し奉る事をお望みになられたのだ。そして教会の御聖櫃中から常に〃来れ労苦して重荷を負える者よ、我汝等を回復せしめん。〃と仰せられて人々の訪問をお待ちになつていられるのだ。何という愛の神秘であろう。

主よ、御身を知らない多くの魂、知ろうとしないなお多くの魂の群をみそなわし給え、罪の癩病より彼等を清め、霊的盲目をいやして御身を見えしめ、悩むこの世に聖国を来らせ給え。

樋を伝つて落ちる雨だれの音に私のこの想いはかき消されてしまつた。

〃イエズス様、明日の行列をお望みにならないのでございますか〃お咎め申上げるように私語いて窓辺に行くと、ガラスに顔を近づけてじつと空を眺めた。煮えきれない雲はさつきと少しも変らず重く垂れかかつている。その上先刻までぬかの様に見えていた雨の粒は今は大きく長くなつて庭の水溜りに落ちる雨脚が外燈の光りに浮び出ている。一抹の不安が心を揺する。雨天を告げるラジオの予報をもよそに必ず晴天になるものと先程まであれほど確信をもつて祈つていたのに。ああなんと情ない信仰であろう。ゲネザレトの湖上、嵐の最中、おそれおののく弟子達に〃信仰うすき者よ、汝等の信仰はいずこにかある。〃とお咎めになつたあの御声が今も私に聞えるように思われる。

御聖体の秘蹟に在すイエズスよ、御身を信じ奉る。されど我が信仰の弱きを助け給え。

就床の祈りをしようと思つて電気を消した。壁に庭木の梢がうつつてゆれている。少し風が出たらしい。

聖心の愛に同化される

すべての人、すべての被造物が愛のうちに一ならんことを望み給うイエズスはわれわれに人間のうちに、とくに聖心の永遠の愛の火があつく燃えたたんことを切望しておられるのです。

そしてこの望み、この永遠の愛は、有限のパンの形色のもとにわれわれの食物となり、肉身と霊魂との生命となり（霊魂の生命なるキリスト）、われわれをご自分の生命に生かし、もつてご自分と融合せしめ、一ならんがために秘蹟を定め給うた。これ人と一ならんことを望み給うイエズスの人類愛の極致を証する聖体の秘蹟、人間にとつては信仰の秘蹟、これ霊肉の人間のすべてを知る全能の権能を有し給う神でなければ、なし得ない絶妙な奇蹟である。然り、その定め主、わが神なるイエズス・キリストにたすけられた信仰なく、浅薄な人間がどうしてかかる神秘の生命を信じ得ようか。わが生命なる神人イエズス・キリストが、わが食する一片のパンの形色のもとにこもり在すと人間のいかなる知恵がいい得ようか？迷いの影なく世の何人がいい得ようか？〃今、見、触れ味わうところにて、それが果して主なりや否やに迷う〃されど永遠の真理、神の御子なるイエズス・キリストはわれにのたもう〃これ、わが体なり〃と。

ああ、人をしておのれを信ぜしめんがために、世に来り給うた。（ヨハネ一の七）活ける神の御子イエズスよ、主の僕は主を信じ奉る。真理と生命のみ言葉なれば、いささかのゆがむる所もなく、せんぎする所もなくまつすぐ単純に、これを信じ奉る。われは深い信仰のうちに、主の生命のパンを拝領し奉る。主よ来り給え！

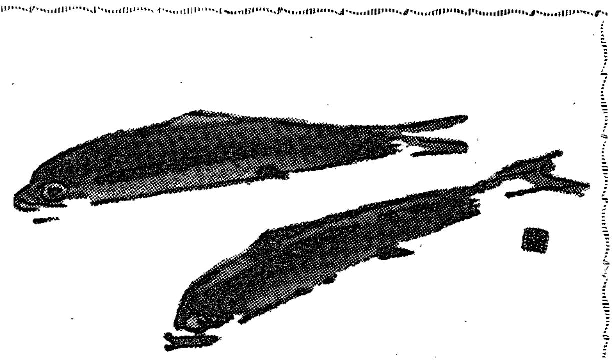
されば、われわれが深い信仰のうちに聖体を拝領するにつれて、主との一致の実をだんだんと大きくあげることができるはずである。然しそれがためにはわがうちにおける自然的、世間的、人間的、外面的な古い人をぬぎ捨てて、新たに超自然的な人、霊的な信仰の人に生れかわらねばならぬ。それはそのはずである。実に信仰は、われわれを神につなぐ唯一の糸すじであり、神の生命は、この糸すじを通じてわれわれに降り、われわれの生命はまたこの線をたよりに神に昇るのである。

時は六月、まさに神秘深き聖体の秘蹟にこもり給うイエズスの聖心の月である。イエズスの聖心は、自然界の若葉が新しい生命に燃えさかえているように人類愛に燃え、われわれの心を強くひきよせ給う時である。信仰の目をひらいて聖心の愛に感じ、深い尊敬と純なる信仰のうちに、屢々この愛のイエズスを拝領し奉り、もつて、われわれは一日一日主の永遠の生命に一に同化され、遂に主の永遠の愛のうちに生きてゆくものとなりたいものである。

家庭用祭壇　十字架（台付）
礼拝台　和洋家具一切
暁の星製作所
福岡市箱崎飛島町四一一四
箱崎松原電停より徒歩五分
九大教育学部新校舎前

聖心の使徒
六月号発売中
六月の意向　我に来たれ……松村　菅和
岐路に立つアラビヤ……窪田　芙美子
黙想　真の敵……真田　信男
日々の奉献
信仰と実践　新しき掟……千寿　利久
愛の精神
写真特集　愛おきて
近東の旅より……T・E・アレキサンデル
桃子……F・セフエール
ポーランドの枢機卿……安斎　伸
ガラスをとおして……T・メルトン著　須賀敦子訳
聖書の時間　サロモンの栄華（上）……H・チースリク
ラテン語教室……J・ベチコフエル
日本祈祷の使徒会発行　一部￥30　〒5　一年分300　〒50
東京都千代田区紀尾井町七

古い伝統　声　新しい内容
六月号発売中
（教会論、紀行文、実話、随筆写真集等々）
内容富豊で新鮮な家庭雑誌「声」を是非あなたのお家にもお備え下さい！
一部五十円　〒四円
大阪市東区北浜五ノ三一
発行所　声　社
振替大阪一〇六五八



短歌

（故里）

マルガリタ

歳ながく帰ることなき故里の
架橋の記事をなつかしみよむ
おおかたの世もかわれどふる里は
世襲のごとき貧困があり

（ふるさと）

アロイジオ・二丈

つゆくさの長き葉するどくうちおれて
葉もとにこきむらさきの花
つゆくさの正三角の花びらに
こきむらさきのしべひらきたり

「表徴と比喩」より

LE NYCTICORAX

ポール・クロデル

石　進訳

ニクチコラクス、すなわち闇からすは、ひとつは夜を、いまひとつはからすを意味する二つのギリシヤ文字をくみあわせて、聖ゼロームがダビデの詩篇にヒントを得て苦心して生みだした鳥です。夜のからす、これほど黒いものがまたとあるでしようか。そんな生きものの姿を描くことはとても不可能です。わたくしが云いうることは、それがただ飛ぶということだけです。まるい塊りとなつて。つかれることなく。それは頭蓋骨のように閉されたあるものの中をまるい塊りとなつて、つかれることなくとぶのです。それがどうしてその中に這入つたかと云うには まず、それがそこから出るのにどうするかを知つていなければならないでしよう！　でもこのことは差当つての問題ではありません。このちん入者の飛びかたを理解するため、そのあるものの所有者はからすは単純だからきつとつかまるだろうと思つて、四方八方へ沢山の糸を交錯させて張ればよいと思つたのです。するとなるほど糸は共感してふるえるのです。本当ですよ！　それから調査が始まりました。それはしばらくは続き得るのです。闇ねずみを求めて翔けるわれわれの頭蓋骨のなかの、このニクチコラクスの探求は。

詩

「窓」

明日は遠足　と思いながら
窓から、暗い外を見た。
自分の顔が
ぼんやり写つた。
霧に浮かんでいるように。
私の顔の
ちようど目のあたりを
よおく見ると
庭の柿の木の枝が
黒く光つていた。
すると、私の顔は、
気がつかない程になり
窓全体に、庭が見えた。
雪やなぎの
庭の白さを
よく見ようとしたら
又自分の顔にもどつた。

澪子（十三才）

浪費

私は眉をひそめました。そして激しい怒りに心をとらえられてしまいました。それは何時もと同じ通勤電車の中の事でしたが、決して満員の乗客が吐き出す人いきれにへきえきしたからではありません。私は車の中程に坐つておりましたので、むしろ、少し位の余裕はあつた位でしたから。私を驚ろかせたのは、そこにたむろしているどこかの高校生の振舞だつたのです。一人二人のうちはおとなしくしていた彼等は途中から乗車してくる仲間がふえるに従つて、公衆のただ中にいるのもかえりみず、ガムを噛むやら、声高に聞苦しい事を語り出したりしました。私も彼等と同じ年頃には随分人迷惑な事をして来ていますから、それだけの事に目鯨をたてる程の度量のない人間ではない積りです。それだけで止まつてくれるのならば青年の客気として見過してしまつたことでしよう。しかし、群衆心理にかられ恥を忘れてしまつた彼等は、満員で押されてくる女学生をからかい始め、正視するのに堪えない様ないたずらを始めたのでした。

制止する気さえも失つて呆然として見つめているうちに、私は暴れ廻る学生達に頭株らしい一人の男がいる事に気がつきました。男のくせに女持の金時計を腕にはめその上にこれも女の装身具のチエーンをまきつけて、これを仲間に見せびらかしているのでした。その自慢そうな顔を見ているうちに何時の間にか私の怒りは次第にどうしようもない様な悲しみに変つて行きました。電車が曲り角にくる度に、制服の下から肌着がチラチラのぞいて見えました。それは派手な女持ちの装身具にひきかえいかにもみすぼらしくそして薄汚れたものでした。女持ちの装身具そして、薄汚れた肌着、それが私には彼等の求めているものと、そのはかなさを思い知らせたからでした。今読んでいるパスカルのパンセではありませんが、永遠に続く無限の中の一瞬間に与えられた、短かい生命をかくも空しいものを求めて空騒ぎの中に浪費してしまう事、良い導き手に恵まれさえすれば、如何程高貴な人格を形成するかわからない人間が、こうして禽獣の生活を営む事、そしてそれを手をこまぬいて見ている以外何も出来ない私、そんな事全てが淋しく思われたのでした。

（P）

初めて聖体行列に加って

なでしこ

信者になる前、今の世の中に、イエズス様が、御存命になつて、私共に、その御姿を又御声を、そしてその御教えを、御示し下さつたら、どんなにうれしい事でしよう、とよく思い思いしておりました。

そして今日五月四日私が受洗後初めての聖体行列に加つて、今更のように今尚在わすイエズス様に従わして頂いて云い表す事の出来ない感懐にひたりました。

うららかに晴れた五月の青空の下におごそかな、そして盛んな行列は、或は祈り、或は讃美しつつこの地上を進んで行く。

二千年の昔、主イエズス・キリストを囲んで、使徒達が、或はカナンに、或は、エルザレムに、そして往くところ、御教えを聞かんとして従う者の数は、恐らく、今日の私共にも、おとらなかつた事と思います。

そして、御声に、御姿に接してその御教えに、なびいた大衆が、死に代り生き代りして、二千年、今全世界で、こうして、主の、御教えを信じ、集う有様を思う時、さながら今に生き給う主を感じて何とも云い表わされないままに、涙が頬をつたつて来る。

真理の源にまします主、は斯くして生き給い、力づよく、吾々を導き給う事を、私共の胸奥深くきざみつけて頂いただけでも、如何に、今日のこの聖体行列の、意義深い事でございましよう。年を重ねると共に、この信仰は深まり主への完全な、一致、となる事の出来るよう、祈りつつ、家路を辿りました。

詩

涙の谷

地行藤　敬子

病苦と
孤独と
つきまとう虚無
原罪のしみにゆがめられた弱い
本性愛を失つたぬけがらの様な
自我
——これがわたしなのか
主よ
御身の示し給う愛は
もうわたしからこんなにも遠い
豪雨の夜は悪魔のシンホニー
ペンをぬがれた現代の世相
涙の谷にすすり泣く弦楽の群
おゝ主よ
吾をあわれみ給え
みそなわし給え
そして
御身の愛を知らしめ給え
愛が
この世の苦しみをおゝい
現世のミゼールにほゝえむ花で
あることを
主よ
それだけを吾に教え給え
主よ
御身の愛に花ひらく
赤いバラをわたしは信じたい

青少年の指導者・トツ・テイハメル著
青少年へのすすめ
① 純　潔
「ふかい研究と経験との結晶からできた本書は、たくみに、簡明に、注意ぶかく青少年に正しいみちを教えてくれる」
￥180

ぶっく　がいど

使徒職の秘訣

D・ショタール著

山下房三郎訳

使徒職の秘訣という書名から布教をするのに何か手つとり早く効果があがるような秘訣でもあるのかと思つて、この書物を読むとがつかりしてしまう。書いてあるのは内的生活の必要さばかりであるからである。しかし考えてみるとこれこそ本当のことであつて、これ以外の何らかの布教の方法とか手段とかはそれによつて一時的な効果があがつたとしても、しつかりした内的生活なしには、真に永続的な基礎をもつものにはならないであろう。

この書は、布教することにあまり関心をもたない者にその必要を強調して刺戟を与えるというよりもむしろ、布教をする人に、どんなにしたならば効果があがるかを教えるという意図をもつて書かれているようである。神の事業に身を献げる人は多くとも、事業の神に身を献げる人は少ないと著者は歎く。そしてイエス・キリスト聖母マリア、聖ヨゼフの例をあげて、外的生活よりも内的生活の方が重要であることを力説する。聖主は、まず三十年を沈黙と隠棲とのうちに過ごし給うた。次ぎに、四十日間の黙想と苦行とがその短い三ケ年間の公生活の前奏曲であつた。しかも、その短い公生活の間でさえ、聖主は祈るために、どれほどしばしば、或は山に或は沙漠にお退きになり、又祈りに一夜を明かされたことであろう。聖母マリアと聖ヨゼフとは内的生活の権化である。しかも一つは使徒の元后であり他は全教会の保護者である。このことからみても、内的生活は外的生活よりも、一層重要で、安全で、効果に富み、甘美で、恒久的であるが、しかし両者は切り離されては存在することができないのである。

ある黙示によれば、大聖テレジアの、たつた一度の燃えるような祈りによつて、何万人もの異端者が回心したということである。聖女の霊魂はキリストへの愛に燃えたぎつていたので、人々の霊魂を救おうとの聖主の燃えるような熱情に、無感覚な人の内的生活というものを、本物として受けとることができなかつたといわれる。「娘たちよ、この一つの点に——純然たる使徒的事業であるこの一つの点に、あなた方の一切の仕事を集中させなさい。一切を——念禱も、べん撻も、大齋も、願いごとも……」とは大聖テレジアの言葉である。このような人達の祈と苦行とは、宣教師達の布教活動をどんなに大きく助けることであろう。私はイエズス・キリストの御教えによつて、内的生活と外的生活とが、かくも見事に一致することを何よりもうれしく思うのである。

使徒的事業に携われば、それだけ、我々の聖性に妨げになるなどと思うならばとんでもない間違いで、それこそ神を冒瀆するものである。しかるべき条件を具備すれば、使徒的活動は最も有力な聖性達成への手段である。著者がいましめるのは、活動的生活にのみおぼれて、内的生活を忘れてしまいがちな人に対してである。内的生活なしには、如何に才能があり、多くの金を使い、あまたの使徒的な会を結成したにしても、さしてその効果はあがらない。内的生活によつてこそ、使徒的活動は豊かな実を結ぶのである、と述べる。しかし著書は活動的生活の貴さを認めて次のような言葉を附け加えることを忘れない。

貧しき人々に与える一ぱいの冷水に天国を約束し給うた神は、いわんや病める人々を看護する者に、汗を流して福音のために働く使徒に、どうしてそれ以上に楽しい天国を与え給わないであろうか。

活動的生活なるかな、活動的生活なるかな。

世界終末の夕べ、神は天と地との面前で、愛の事業をいとも荘厳に列聖し給うであろう。

（三五〇円ドンボスコ）（下）

青少年の指導者・トツ・テイハメル著
青少年へのすすめ
④ 宗教心
「本書こそ信仰をまもるため、神の武器を正しく使うことを教える霊的生活のありがたい指導書である」
￥180

SSD
コンサイス英和辞典　380円　革500円
コンサイス和英辞典　350円　革470円
辞書は三省堂
新版　広辞林　1200円
チエルテナム
メチウム
明解国語辞典　380円
SSD

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価一部十円

テレビ使用法典発表

UNDA児童教育面で勧告

「国際カトリツク・ラジオ・テレビ協会」（UNDA）の「ラジオ・テレビと児童委員会」は、「テレビの教育的使用法典」を発表し、「もし両親と教師たちが、テレビを教育手段として使用することに協力するなら、テレビは子供にとつて一つの恩恵となるであろう」と言明した。

この法典は、「テレビ―世界に開かれた窓」と題して当地で発表された声明書の一部を成している（この声明書は、昨年十月にジユネーブで開かれたUNDAの総会で採択された決議に従つて作成されたものである）

「ラジオ・テレビと児童委員会」は、その法典の序文で大要次のように警告している。

▽「テレビは、世界を家庭の中に持ち来たす」ということがしばしば主張されるが、これを余りにも文字通りに取ることは警戒すべきである。テレビのスクリーンに写し出される世界と、真の世界とを混同することは、ある危険な態度を招くことがあり得る。

▽テレビは、世界に取つて代るものではない。そしてテレビに出る世界は、人が触れ、見、味うところの、しかも人が苦しみを受けることがあり得るところの世界に決して取つて代るべきものではない。

さて「テレビの教育的使用法典」には次のように述べてある。

▽親は、余りにも幼少の頃から子供にテレビを見させてはならない。その適当な年令は、子供の暦年上の年令よりも、むしろ子供の知能の発達によつて決定さるべきである。子供の「生理学的要素」と「心理学的要素」が考慮に入れられねばならない。

▽初めは、子供に独りでテレビを見ることを許してはならない。子供は、安心感を得るため、および彼ら自身の意識内で、テレビから与えられる経験を解釈するのを助けてもらうため、親を必要とする。さらに親は、家族が見るのに適したテレビ番組をよく選択せねばならない。

▽また親は、子供はテレビを見るのを許す時には、ある身体上の要素も考慮に入れねばならない。子供がテレビ・セツトに近寄りすぎて席を占めると、眼を害する危険がある。テレビ観覧中は健康的な姿勢をとるよう勧めるべきであり、そしてセツトの置き場所は、子供たちに安楽さと、健康的な座り位置を与えるよう配置すべきである。

▽テレビを見る時間の長さは制限さるべきであり、そして子供の円満な発達を図るため戸外の活動を奨励すべきであり、また夜遅くの観覧は許してはならない。さらに食事中の観覧は勧めらるべきでない。テレビは、家庭生活における一つの積極的要素であるべきであり、そしてそれは、家族同士の意見の交換やその他重要な会話のために通常割り当てられる時間に干渉すべきではない。（カトリツク新聞第一五五五号より転載）

世の光

神の国の欲望

暑気がこう長つづきすると、食慾の減退が感じられる。食べない訳にもゆかず、つい偏食になつてくる。

飢えて食物を求め、渇いて飲物をさがすあたり前の欲求でさえ、次第に倦怠に追いこまれると、何を見ても食指が動かない。ほつて置くと一種の栄養失調を来すことになるらしい。

古くから、人間は自分の本性を超越したものになろうとした。これは、ご自分のすがたにかたどつてひとを造られた神様が、人間の心にひそませた生来の欲求のようなものである。

弁神法の神はくだらない。啓示の神は窮屈だ。便利のよい懐疑の天地に自由を求めても、身中に熱つぽい何かのうづきを感ずる。こんな症状が精神的な栄養失調だと言えないだろうか？ 偏食者はもつと多い。

人間の欲求は、他の動物のそれとちがつて、意志に支配される。これによつて、ある行動が命ぜられたり、制止されたり、また、いくつかの欲求のなかで最上と思はれるものに優先権を与えることも出来る。

神は人間が自由に神に近づくことを定められた。

既に人間の意志行動を考察するとこれには必ず理性の判断が先行する。即ち、理性がある行動とその結果とを、前以て観念のうちに関係付けないかぎり、自由な意志の行動は生れて来ない。

とは言うものの、ひとが常に完全な意志行為を行つている訳でもない。ひとの行為の動機は雑多でむしろ、意志と欲求とのあいだで行はれている——心理学はこれを欲望と呼んでいる——と言つた方が適当かも知らない。事実、動機は、両者が重り合つたり、時としては互いに代役をつとめたりして持続されている。

原罪は、人間のあらゆる欲求の間に不統一を来たした。しかし理性と意志のおのおのの行為を不可能にしたのでもなければ、真の幸福への欲求を抹消しつくしたのではない。全人間性を、ひたすらに神に向はしめていた美しい統一の原理であつた愛の足場が崩かいされてしまつた。

理性と意志の調和が取りのぞかれて、時としては反目するかに思える心の矛盾を経験しない人があるだろうか？人間は自分でこの統一を心配してゆかねばならなくなつた。

キリストの救世の秩序は、崩壊した基盤の上に新しい世界を打立てるために、神の御子の托身によつて実現された。

恩寵は、ひとの業によるのでなく、純然たる恵として、個々の人間性を立て直してゆく。ひとの心に、信、望、愛の徳性を与えて、恩寵が、神への立ちかえりを成してこそ救霊の玄義は成就する。

神はわれらなくして、救世の秩序を立てたもうが、われらの協働なくして之を成就せしめない。

ここに、人間の側から、何等かのかたちで、義とせられるために必要な下準備がなされねばならない。器に水がそそがれても、異物質が一杯につめこまれておれば、水ははいらない。恩寵が下されても、これに心を開こうとしない魂の救いはあり得ない。ひとが神に立ち直るためには、すくなくとも信、望、愛に足場をゆづらねばならない。

即ち、神の恩寵に刺戟され且つ助けられつつ、教えを聞くことによつて信仰を得、神の真実を認めて、理性を信仰の照らしの下に置く。神の正義の前に恐怖を感じ、ふるいおののきつつも、その慈悲の観察は希望のうちに立ち上らせる。希望はキリストに於けて信頼を生む。次に、救霊の唯一の可能性としての神の御意志に対する愛の始めが芽生え、この愛の空気と反対の立場である罪に対する判然とした憎悪が、洗礼前に於ける痛悔となつてひとの心をみたさねばならない。最後に新しい生命を開始するに当つて神の掟を守ろうという決心が出来あがるのである。

信仰を単なる啓示された命題の知識にとじこめて考えることは鋪道に種まく様なものである。神の新しき秩序に根をおろすことは出来ない。神への欲求はみたされずに人間性の何処かで熱つぽくつづく事になろう。理性と意志は、外のもので自分自身を要領よくやりすごしてゆくだけで、何も霊魂の栄養とはならない。

食慾のないものに食慾の必要さを説いても何になろう。理性と意志が、栄養の必要さを知り且つ望む様にして除々に窮状を脱するようにせねばならぬ。

祈りが、救霊に必要なゆえんである。

（伊東）

孤児には親切心と将来の見込みを

教皇演説

教皇聖下はイタリヤ勤労者層の孤児愛護全国団体の会員たちに謁見を賜うて演説され、「孤児は食糧や衣服よりも、非常に暖かい親切心と、不幸な現在よりも何かよいものをもつ将来の確かな見込みとを必要とする」と強調して次のように述べられた。

▽諸君は、神と家庭と国家とから諸君に委託された子供たちを愛すべきである。

▽また諸君は、子供の親たちが国家に捧げた犠牲に対する感謝の念から、そしてまた、子供の現在の不幸を今後の幸福の基に変じてやろうとする熱意とをもつて、子供を愛すべきである。……昔から使徒ヤコボから教えられた宗教感をもつて、子供を愛すべきである。聖ヤコボは、キリスト教の重要な部分は、孤児を助けることにあることを示して次のようにいつている。

「父にて在す神の御前に潔くして汚れなき宗教は、孤児やもめをその困難に当りて見舞い、かつ世間に汚されざるより自らを守ることこれなり」（ヤコボ一ノ廿七）

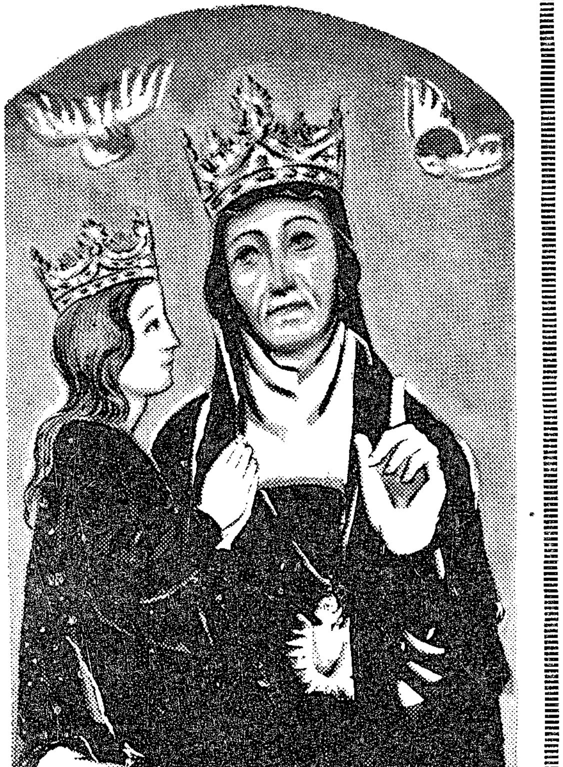
▽孤児は教会から大いに愛せられるのであるから、諸君も孤児を愛すべきである。すると教会は諸君が子供を愛するのに対し感謝するであろう。

（教皇は、その御演説の初めに当つて、その場にいた孤児たちに次のようにいわれた）

▽皆さんは、いつでも教皇の特別な子供であろう。いつでも孤児を慈母のように世話することに献身してきた教会の伝統にそつて教皇は特別に自分自身を皆さんの父親と考えるのである。

なお教皇は、勤労者層の孤児を世話する施設は、社会正義を示すものであるとみなされ、そしてキリスト教の立場から、穏健な社会正義の促進について述べられた。

（カトリツク新聞第一五五九号より転載）



聖アンナ　我等の祈りを
マリアにとりつぎ給え

祈禱の使徒会

七月

【一般の意向】貞操の遵守

【布教の意向】アフリカの大都市における貧困者

【布教委員会の意向】レクリエーションの浄化

八月

【一般の意向】共産主義の謬説への目ざめ

【布教の意向】ニゲリアにおける信仰生活

【布教委員会の意向】カトリツク学校における学生、生徒の改宗

永久聖体礼拝

七月

第一日曜　大分教会
第二日曜　直方教会
第三日曜　水俣教会
　マリアの宣教会（高宮）
第四日曜　大濠公園教会
　天使の聖母会

八月

第一日曜　訪問会（新田原）
第二日曜　飯塚教会
　聖母扶助会（マザレロ）
第三日曜　佐賀教会
　三位一体会（吉塚）
第四日曜　煉獄援助会
第五日曜　別府教会

休刊のおしらせ

例年にならつて八月号は休刊いたしますからご了承下さい。

カトリツク編集部

七月

一日（火）　我が主のいとも貴き御血の祝日

教区司祭月例集会の日

二日（水）　聖マリアの聖エリザベート御訪問の祝日

〝主の御母が私を訪問して下さつたのですか、これはどのことが、どうして私に恵まれたのでしようか〟

六日（日）　聖霊降臨後第六主日

カルメル会で着衣式

〝われこの群衆をあわれむ〟聖体の秘蹟は、力弱きわれらに対する主のおんあわれみの表われである。

今日から一週間　ロンバン会司祭年の黙想会（於福岡大神学校）

十三日（日）　聖霊降臨後第七主日

悪魔は非常に悪がしこい。余程の注意が肝要である。しかし自己愛そのものも、劣らず危険な敵である。うぬぼれはその一つである。

十六日（水）　カルメル山の童貞聖マリアの祝日

十九日（土）　聖ヴインセンシオ・ア・パウロ証聖者

ラザリスト修道会と愛徳の童貞会の創立者で、貧者救済事業の保護者と仰がれる。

廿日（日）　聖霊降臨後第八主日

肉に従つて生きること、世間的精神に従うことは、キリストの十字架の精神によつて生きることと相反する。

廿二日（火）　聖女マリア・マグダレナ痛悔者

廿五日（金）　聖ヤコボ使徒

廿六日（土）　聖マリアの御母聖アンナの祝日

廿七日（日）　聖霊降臨後第九主日

神の恩寵に反抗する者、軽んじる者は遂に、神から捨てられる。

卅一日（木）　ロヨラの聖イグナチオ証聖者

八月

一日（初金）　使徒聖ペトロの鎖の祝日

三日（日）　聖霊降臨後第十主日

謙遜の真髄を悟ることはむつかしい、それを実行することは更にむつかしい。それは神の偉大さを充分に知らず、自らの惨めさの認識に徹していないから。

四日（月）　聖ドミニコ証聖者

説教者会または乞食の会とも呼ばれる修道会の創立者

浄水通教会で堅振

六日（水）　我が主イエズス・キリストの御変容の祝日

深堀司教様御霊名の祝日　教区司祭月例集会の日

九日（土）　聖ヨハネ・マリア・ヴィアンネ証聖者

十日（日）　聖ラウレンチオ助祭殉教者

聖ラウレンチオは聖ペトロ、聖パウロと並んで特別に崇敬されている殉教者

十五日（金）　**聖マリア被昇天の大祝日**

（守るべき祝日）

われらの母なるマリアの天への凱旋を讃える。

十六日（土）　聖マリアの御父聖ヨアキムの証聖者

十七日（日）　聖霊降臨後第十二主日

日本の最上位の保護者

廿二日（金）　**聖マリアの汚れなき御心の祝日**

廿四日（日）　使徒聖バルトロメオの祝日

廿八日（木）　聖アウグスチノ司教博士証聖者

卅一日（日）　聖霊降臨後第十四主日

第二回宮崎地区布教委員会

過去一年の総決算を

ローソク行列など審議

宮崎教区布教委員会では去る五月廿五日聖霊降臨の大祝日に午後一時より第二回集会を開き指導司祭ダニエリ師のもとに、田野、都城、高鍋、延岡、日向、宮崎など諸教会から十九名の委員が参加した。

まず開会の辞において佐藤利男副委員長が、当委員会が誕生して一年目になるが、この期間中には地区委員会としては強力な活動はなかつたが、各教会においてその信者に、当委員会の目的や意義などを周知させるよう努めたこと、今日は各地の困難や、すでに実行してきたことなどを発表して、将来へのはげましとしたことを述べた。

ついで赤波江委員長が「信徒使徒職の責任と形成」と題して、如何に生き、如何に動くべきかと云う人生の目的を使徒職の立場から検討した。

このあと各教会代表によつて活動の具体的状況を披瀝し、経験が発表された。

役員の改選ではいずれも今迄通りの委員が更に一年再任と決定。

委員長赤波江愛次郎。副委員長金子辰美、佐藤利男。会計黒水陽子。書記森瑞枝。

北地区役員（延岡、日向、高鍋田野）赤波江愛次郎。南地区役員（都城、日南）金子辰美

ついで議事審議に移り、まず十一月九日前後に予定されている聖母ローソク行列は、午後三時半県公会堂に集合し、司教ミサのあと橘通りを通つて教会まで行列を行い、聖体降福式を以て解散とする

行列の成功のため各教会では聖歌練習にはげみ、できるだけ多く信者が参加するよう運動すること信者は一戸五〇円以上を負担すること。

議事の第二は公教要理の通信教育を拡める件で、希望者を見つけて、多くの人が通信教育による教理研究をできるよう運動すること

最後に指導司祭ダニエリ師のすすめの言葉があつて、午後四時半散会した。

熊本恵楓園で

第四回聖体行列

恵楓園の聖体行列

熊本県菊池郡西合志村国立癩病院恵楓園では、去る五月廿五日聖霊降臨の大祝日に永久聖体礼拝と第四回聖体行列を挙行した。当日は気づかわれていた天気も雲一つない上天気に恵まれ、聖コロンバ外国宣教会熊本地区長ハンター師以下七名の司祭、附近のカトリツク少年の町の児童達五十名、健軍、手取、隈府、琵琶崎など諸教会の信者および琵琶崎のマリアの宣教者フランシスコ会修道女ら約五十名それに地元療養所の患者で結成されている暁星会員中約八十名が行列に参加、御聖体は少年の町の指導司祭兼院長ベラス師が捧持して美しい木立に囲まれた療養所内をつた。

ちなみに暁星会員百十三名中信者は八十三名で、求道者も十名を数えている。教理勉強には毎週土曜日琵琶崎修道院よりテクラ、フランチエスカ両童貞が出張し、レヂオ会員らが後援している。尚暁星会員中九名がレヂオ会に入つている。

唐津地区教委員会役員改選

唐津地区布教委員会では五月廿一日会合を開き、左の通り役員を改選した。

会長　関井末太郎（呼子）
副会長　藤松　正（唐津）
書記　牧山　満安（呼子）
会計　牧山秀之進（呼子）
指導司祭　山田成章師（呼子）

堅振のよろこび

〔杵築教会〕六月八日十六名受堅

〔博多キャンプ〕六月十三日イエズスの聖心の祝日午後七時から廿名受堅

〔水俣教会〕六月十五日廿一名が受堅

岩村清太師司祭叙品

カナダでレゼ枢機卿から

福岡教区所属のニコラオ岩村清太師は去る五月廿一日四季の土曜日に留学先のカナダ・モントリオール市の大司教座聖堂において、パウロ・エミール・レゼ枢機卿より司祭の聖位にあげられた。翌六月一日聖三位一体の祝日に同市カルチエ・ヴィルの聖心病院附属聖堂にて壮厳初ミサを捧げ、留学中の日本人神学生数名がミサ奉仕した。

岩村師は長崎県南松浦郡有川町出身で昭和三年生れ。十六年泰星中学（福岡小神学校）に入学廿一年四月福岡大神学校に移り廿六年八月カナダ・モントリオール大学の神学科に留学。渡加一ケ月後に病におかされて三年以上療養生活を送つたが、現在では健康も完全回復し、めでたく叙品のよろこびを得た。

師は来る九月より同神学科大学院で研究をつづける。ちなみにレゼ枢機卿は福岡大神学校の創立者であり、大名町教会の主任もなされた方である。

アンドレ・ベニエ師

司祭叙品廿五年

飯塚教会主任アンドレ・ベニエ師（パリ外宣会）は七月二日聖母マリアの御訪問の祝日に司祭叙廿五年の銀祝を迎えた。

アンドレ・ベニエ師は一九〇八年一月十二日フランス・パリに生れ、一九二六年パリ外国宣教会大神学校に入学。司祭叙品後の一九三三年十月廿日に来日。戸畑、大牟田、大江、崎津、湯川などの諸教会を経て現在に至つている。

二宣教師賜暇帰国

福岡市の那珂町教会主任バーレツト師（聖母献身会員）は六ケ月の予定でアメリカに帰国する。出発は七月十日羽田発。後任には前徳島教会主任デーリー師。

熊本市手取本町教会のマーチン・コイル師（コロンバン会員）も七月廿七日熊本発、八月十五日羽田発米国経由でアイルランドに向う。来年十月頃帰日の予定。

なお聖コロンバン外国宣教会では日本管区長ドイル師の管区長職満期辞任により左の二師がそれぞれ新任された。

管区長ーオドネル師（千葉市コロンバン会支部附）、副管区長ーオブライエン師（藤沢教会主任）

小倉新聖堂の工事開始

司祭館はすでに完成

福岡教区北九州地区の教会中もつとも長い歴史をもつ小倉市香春口のカトリツク教会（主任トクフフ師パリ外宣会）は、終戦直前、強制疎開のため取り壊され、終戦直後当時の主任であつた棚町正刀師によつて仮聖堂が建てられて現在に至つたのであるが、市および教会の発展に伴つて新聖堂建設の要望が高まり、その準備をすすめてきていた。この程工事開始のめどがついたので、まず司祭館を完成去る六月廿三日より竹中工務店の手で、一六五坪の鉄筋コンクリート建新教会の工事が始まつた。

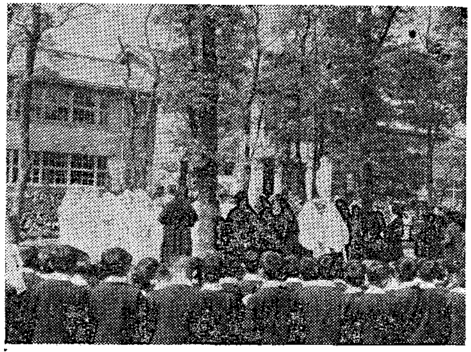
完成予定は十一月末、設計は大阪在住の東畑氏。

なお新司祭館は木造二階建七七坪で、JOC（カトリツク青年労働連盟）の集会室二つがふくまれている。

明治学園で

平和祈願の

聖母行列



戸畑市中原の明治学園では五月廿一日世界の元后をたたえ、世界平和を祈願する恒例の聖母行列を挙行。十字架を先頭とする千数百名の全校生が中学生男子の奏するトランペットにあわせて聖母讃歌をうたい、ロザリオをとなえながら緑の森をぬつて行列し、楠の木立にかこまれた聖母像にバラの花冠を戴冠した後、一ケ月間心をこめてつくつた祈りと犠牲の霊的花束を、クラス毎に聖母像のみ足の下にささげた。青空のもとにくつきりと佇み給う聖母はほほえみ給うかと思われる程に美しく、深堀司教の聖母をたたえる説教と祝福をもつてこの日の盛儀を閉じた。のち全校生代表がゆりと霊的花束を贈つを司教に感謝した。

式には北九州地区の司祭、修道女のほか父兄多数が参列して例年にない壮厳な行列であつた。

尚行列に用いたバラの花は慰問の手紙にそえて、数ケ所のサナトリウム、養老院におくつた（写真は明治学園の聖母行列）

佐賀教会でも

佐賀市松原町の教会（主任ロツキ師ーミラノ会員）では五月中毎晩ロザリオと説教、聖体降福式を行つて聖母への信心を高めてきたが、六月一日（日）午後七時より特別ミサを行い、ローソク行例を挙行した。

イタリアから送られたマリア像を中心に、信者、未信者約四百名が手に手にローソクを持つて、照明のゆきとどいた教会のまわりを聖母讃歌をうたいながら廻つた。

有安神学生、ワシントン大学に留学

福岡サン・スルピス大神学校神学科二年のフランシスコ有安宗治神学生（福岡教区所属）は米国ワシントン・カトリツク大学の神学科セント・メーリーズ・カレツジから三年間の奨学資金をうけたので、神学科二年に編入のため八月末頃空路当地に向う。

有安神学生は佐賀県呼子町出身有安高義氏の次男。昭和十年生れ。呼子中学、福岡小神学校を経て、廿四年福岡大神学校に入学して今日に至つたもの。（写真は有安神学生）

学生・教職関係者のための黙想会

一、とき　自八月二十一日（木）午後五時
至八月二十五日（月）午前十時

一、ところ　福岡市小笹聖パウロ会修道院
（筑肥線小笹駅又は西鉄バス博多駅ー小笹ー檜原線小笹駅前下車。丘上に見える鉄筋四階建ビル）
宿舎は男子は聖パウロ会修道院。女子は隣接のビエデイセポレ修道女会修院）

一、資格　カトリツク信者または求道者の男女大学生及び教職関係者

一、指導　小神学校附川口康願師（但最終日は深堀司教様）

一、会費その他　会費六百円（食費五百円雑費百円）
持参品　米一升五合　身廻品　シーツ（女子）

参加希望者は十円切手同封、左記宛七月三十一日迄に御通知下さい

福岡市浄水通三九番地　福岡司教館気付
福岡カトリツク学生会

大友宗麟特輯号

大分県地方史研究会から

大分県地方史研究会（大分市駄原大分大学学芸部国史研究所内）ではこの程大友宗麟は両豊・両筑・両肥及日向、伊予半国の大領主として、またキリシタン大名として海外にまで宣伝された大名で、天文二十年聖フランシスコ・ザビエルから教えをきいて以後、死に至るまで専心宣教師を保護し、廿七年以後に入信している。

特輯号には上田保大分市長が序文を寄せているが、主なる内容は左の通り

大友宗麟の社寺破却政策に就て（文学博士濤原貞雄）一五八五年レツヂオ版天正遣欧使節記ー解題訳文（岡本良知）大友宗麟伝雑考（別大講師久多羅木儀一郎）大友宗麟と臼杵・津久見・佐伯（医学博士増村隆也）大友時代末期の豊後臼杵（大分大学教授渡辺澄夫）大友氏没落について（大分市中島小学校教官小田正衛）大友宗麟と茶道（大分県地方史研究会常任委員立川輝信）その他となつている。

米軍楽隊が日南教会で演奏

各地を親善演奏航海している米海軍の軍艦が、去る六月一日宮崎県の油津港に入港したが、その日は艦内を市民に見学させ、翌二日朝ミサに与かるために士官たちが日南教会を訪れた。当日の出港は午前九時で士官たちは多忙であつたが、教会の主任司祭デイ・ナポリ師（ザベリオ会）の懇願をいれて、市民のために演奏会を開いてくれることになり、この旨が市の宣伝カーで市民たちに伝えられると、市長はじめ約二千人もの人が演奏をききに集り、出港前の短かい時間であつたが日米の親善に一役買い、また市民にカトリツク教会を知つてもらうにもよい機会であつたと、教会の関係者はよろこんでいた。

聖パウロ書院
カトリツク出版物紹介

回勅シリーズ
①レオ十三世回勅（労働者の境遇について）
レールム・ノヴァルム　￥一〇〇
②ピオ十一世回勅（結婚の倫理について）
カスティ・コンヌビー　￥一〇〇
解説および訳・岳野　慶作　新書判

世俗に生きる聖者
ルケシオ夫妻
田中峰子訳
フランシスコ第三会の第一番目の会員福者
変形判・七〇頁　￥五〇

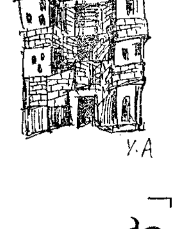
クローニン著
竹内道之助訳
美の十字架　￥290
城砦（上）￥220（下）￥220
帽子屋の城　￥420

蟻の町の奇蹟　価二七円
松居　桃楼　著
蟻の町のマリア　価二八円

霜山　徳爾　著（上智大学心理学助教授「夜の霧」「愛の死」の訳者）
明日が信じられない
（幸福の条件）
￥130

カトリツク関係書籍　雑誌　リフレット
一般文芸良書その他
家庭用祭壇　十字架　聖画像
聖パウロ書院
福岡市万町電停前
電話(4)四五八八

古い伝統　声　新しい内容
七月号発売中
（教会論、紀行文、実話、随筆写真集等々）
内容富豊で新鮮な家庭雑誌「声」を是非あなたのお家にもお備え下さい！
一部五十円　〒四円
大阪市東区北浜五ノ三二
発行所　声社
振替大阪一〇六五八



「われに従え」⑪

節制の徳

深堀　敏

❶ 節制の徳は、キリスト教的な自己抛棄と犠牲の実行によつて完成される。この徳は欲を抑える努力（殺すことでなく）、自分に対する観察、働きかけがなければ維持できない。われわれの心のみだれは非常にひどくて、ありきたりの精神修養だけではとても直すことはむつかしい。自分を捨てること、それ自体禁じられていない楽しみからさえも離れるような勇気を、平生から養つておかねばならない。

快楽に中庸を保つて、行過ぎのないようにするには、許された楽しみでも、自発的に犠牲する程の覚悟がいる。

凡てにおいてひかえめであることが節制の徳の一つの特徴である。

❷ 自分を捨てるとは、神と隣人に対する完全な愛に邪魔になるものはみな、意識 して 排除すること。

犠牲的な人は、神の愛に今すぐに妨げとならないものでも、我慢してさしひかえる、それは神の愛を実行するのがもつとむつかしい状態におかれる時のことを慮つて準備しておくためである。

❸ 自分を捨てること、傲慢な意志を捨てることなど内的な抛棄は感覚的な望みを捨てる外的抛棄に優る。

しかし内的抛棄だけで、節制の徳が修められるわけではない。外的にコントロールされない生活は精神をまひさせ、外的な犠牲は精神を強める。

真の謙遜に基かず、神から目を離して犠牲を実行していると、精神の利益とはならない。

自分を捨てるのは、精神の傲慢を挫くためである。しかし精神が謙遜に神に服従するには、やはり五官の抑制が必要である。

❹ 神が摂理を通じて送り給う苦しみは、われわれの浄化にもつとも貴重なものである。何故なら神への服従が純粋に、いささかも私意をさしはさむ余地なしに要求されるからである。このような苦しみは浄化の火であつて、五官と精神を鍛練する。

神の試練はわれわれに大きな犠牲を強いる。自発的な犠牲によつて、準備できている者のみが、それを不平なく、雄々しく受けとめることができるだろう。

「神から課せられる試練（受身的浄化）なしに、自ら選んだ犠牲だけを（積極的浄化）実行している者は、我意の満足におちいることが多い。但し、神が摂理を通じて与え給う犠牲の機会を待つのみであつてはならない。自らの努力によつて、意志が苦しみに慣らされている必要がある」。

みんなのための聖書

(23)

聖書と聖母マリア

聖マリアの霊的母性

太陽に包まれた婦人―黙示録―

ヨハネはその幻視のなかで、天にある神殿がひらけて、契約の櫃が現われるのを見ますが、その次に〃それから壮大なしるしが天にあらわれた。太陽に包まれた婦人があり、その下に月があり、その頭に十二の星の冠をいただいていた〃と記しています。（默十二の一）

この神秘的な婦人は、一体誰のことでしようか。旧約聖書で婦人とは神の民を示すイメージに使われています。所で默示録が書かれた頃には、古いイスラエルは新らしいイスラエル即ち教会に代つておりました。ですから婦人とはメシアの出身民族であつた古いイスラエルと、その後つぎとなつた教会の両方を指しています。

尚この古い民が、自分の中の一人の婦人を通じてメシアを生んだのですから、ヨハネの見た婦人というのも、民という集団を指している外に、特定の個人その民の母とも呼ばれる者を指していると いうことが できます。

以上のことをもう少しくわしく探索して見ましよう。

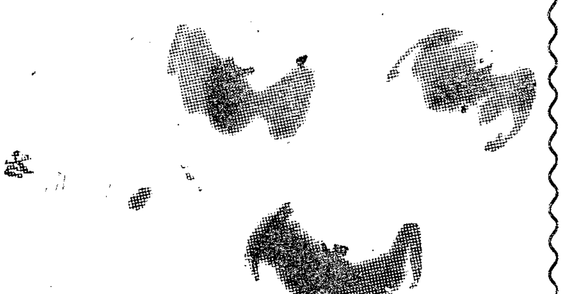
1、婦人は孕つていて、出産のなやみと苦しみのために叫びをあげていたとありますが（同二節）キリストはその終末的説教のなかで（ルカ廿一章）教会が最後の光栄にあげられる前に、種々の苦しみを味うべきことを予言しておられます。ですから孕つている婦人とは、まずイスラエルの後つぎであり、迫害にさらされているキリストの教会を指していると考えられます。

2、教会を悩ますものば〃七つの頭と十の角をもち頭に七つの冠のある赤い龍であり〃（同三節）〃悪魔またはサタンと呼ばれ全世界を迷わすあの昔の蛇〃（同九節）であります。これは人祖エワと蛇の関係を思い起させます。〃龍は出産しようとする婦人の前に立ち〃産むのを待つてその子を食おうと構えた。婦人は男の子を生んだ。この子は、すべての異邦人を鉄の杖で牧するはずの者であつて神とその王座のもとに上げられた（同四―六節）

この男の子とは、勿論光栄のうちに昇天されたメシア・イエズスを指しています。ですから婦人とは教会という集団を指している外に、自分のうちに全教会を要約しイスラエルと全人類の名においてメシアを生んだ者を指していることがうなずけます。

3、しかしヨハネの考えでは、婦人とは第一には迫害を避けて荒野に逃れる教会を云つているようです〃龍は婦人に対して怒り、その子らの残りのもの、即ち神の誡めを守り、イエズスの証明をもつ者に挑戦しようとしてでてゆく〃（同十七節）

でもメシアの母たるマリアはここで 除外されては おりません。マリアは全イスラエルを代表するものであつたように、全教会を代表する者であり、その教会の子らの母であります。即ちマリアはイスラエル人としてメシアを生み、この民族の使命を達成なされたあとで、十字架の下ではメシアと共に苦しんで新しいイスラエルの母となり給うたのです（ヨハネ十九の廿六―廿七）ですからこの婦人とはメシアの母であり、全教会の子らの母にて在すマリアも指していると 考えられるので あります。



俳句

残花みな摘み捨てて紫つゆ艸　冬心
紫の山を映して鮎舞へり　きみ女
あじさいを水中花とす若さかな　牧泉
夏座敷あるじなき侭通されて　恵女
樹々わたる風通りゆく夏座敷

天主様を愛すること

なでしこ

新米の信者は三ツ四ツの子が何事でも、すぐお母様、之どうして之なあに、と聞く様に私も不思議な事ばかり、分らない事ばかり。十年も求道生活をしながら何にも分つていやしない、猫の子が目があいた時の様に、霊的世界に、薄目のあいた、この新米信者は分り度い事ばかり。全心、全霊をつくして天主様を愛せよ、と言われても、字句は読めるし、意味も分るが扨、どんな事をしたらよいのだろう。

「映画、汚れなき悪戯」のマルセリーナの様に、毎日々々、自分のパンを、スープを犠牲して、イエズス様に捧げることも、この大人になれば、仲々 出来る 事ではない。

サア、全心全霊をつくして、イエズス様をお愛し申すには、とブツプツつぶやきながら草ボウボウの庭に出て、草取りをはじめた。びわ、目の前にうすく色づいた、びわが落ちている。ふと見上げると、びわが沢山すずなり、こんなところにも、御業はなされていて、濃い緑色だつた実が、黄ばんでいる。おいしそうに、みの虫や、毛虫が、お先に頂戴している。今日は草取りどころじやない、ふみ台を持ち出して、ひねた実をつみ取り、みのむし、毛虫を取り、さびた葉をどけて日当りをよくし、風通しもよくした。

とうとう今日半日過ぎてしまつた。けれども、清々しくなつて、暫く、木の下に立つて見上げていると、何だか御業のお手伝いが出来たようでうれしくなつた。母の手伝いをした昔迄思い出しながら

全心全霊をつくして天主様を御愛しすることは、遠くに存在する六ケしいことの様に思えていたことが、手もとに、足もとにあることを知つて、そうだ、御恵の最も大きな現れである、わが子が、ボンクラでも、ノロマでも、出来るだけの方法を考えてその子の持つ能力を最大限にのばしてやることも、結局、天主様のお役に立ち御国のみさかえの一端ともなればやはり、それでいいんじやないかしら。

S33・5・26

フランシスコ第三会について

一、どんなものか

アシジの聖フランシスコは、最初男子のために小さき兄弟会という修道会を、あとで女子のためにクララ会を創立した。フランシスコの第一会および第二会とよばれるものである。所が世間に生活していながらも自分の身分に応じた方法で福音の精神を実践したい人のためにも一定の規則を与えたこれが フランシスコ 第三会である

一、誰が入会出来るか

「年令十四才に達し、品行善良、協力一致の精神に富んで、信仰の命ずるところをよく実践する者、教会と聖座に対して従順である者」と「戒律」の冒頭に あげられている。

様々の事情から正規の修道会に入ることができない世俗信者で、天主により完全に仕え、自分の救霊をより安全にし、また一層容易に完徳に達しようと熱意に望む人

入会の許可が与えられると、二三ケ月の志願期ののち、スカプラリオと帯が与えられ、一年の修練期がある。

一、第三会員がなすべきこと

毎日――出来るだけ 御ミサに与る。主禱文、天使祝詞、栄誦を十二回誦える。食事前後に祈りをする。晩、良心の糾明をする。

毎月――告白する。聖体 を拝領する。集会に出席する。貧しい人々と祭式とのために身分に応じたほどこしをなす。

毎年――十月三日と 十二月七日に大齋をなす。巡察者が課する償を果す。

何時も――スカプラリオと腰ひもをつける。天主と教会との掟を守る。快楽、ダンス、危険な観物を避ける。善き手本を与える。節制を実践する。愛を保持する。不和を鎮める。不正な計画、あるいは過度の遊化を避ける。悪書を読まず又他人にも読ませない。

適当な時――誓約をなす。第三会のすべての死者のためにロザリオを唱え、聖体を拝領する。出来るだけ葬式に参列する。

一、教皇のおすすめ

レオ十三世――「第三会の普及のために活動的に働こう。それこそ世を再生すべきものである………社会改革について語る時、特に聖フランシスコの第三会を指摘したい。」

ピオ十二世――「愛する子らよ、イエズス・キリスト御自らが、その不肖なる代理者たる教皇の口を以てこの道に入るよう勧め給うのである。」

尚第三会について詳しいことを知りたい方は、福岡市高宮下町十一番地。フランシスコ会修道院までお問合せ下さい。

わがもとに来りて飲め

目まぐるしいスピードと混雑にさわぎたてられて、ごみごみしたこの世代に生きる我らの生活はまた、目まぐるしい程にせわしい。人は人生の潤いなく、清水の泉なき殺風景、熱風にあふり立てられた砂塵に、息つまる吐息を続けて、ようやく生命を保つている心の姿がほのみえている。砂塵の中に苦しむ心はひそかに憩の場所を探し、渇きを癒やす清き泉を求める。

ごみごみした世代にいき苦しく生きている私の人生の疲れと渇きをいやす清き泉は何処にひそんでいるであろう―世の何処の深山幽谷に見出せるであろう。

それは世を一歩たちのいた聖堂のその祭壇の聖櫃の中に「永遠の生命の泉なるイエズスの聖心」は在す。これぞ我らが飲んで渇きをいやされる清き水、疲れを治される 生命の水の 溢れいずる泉である。「われら皆その溢れを 掬れるイエズス の聖心」

そして信仰の光は、世の砂塵にくらむ国にもこの在所を示してくれる。信仰は世のいかなる騒音の中にも、この在所を告げきかしてくれる。

日々の生活の重荷に、激しい労働に、誘惑との戦に、心身共に疲労し弱れる我らの唯一の憩いの場所は、聖心の泉をおいて他の何処にもない。

主の聖心こそは、我らが渡りゆく人生の砂漠の中のオアシスなのだ。しかもこの生命の泉、人生のオアシスなるイエズスの聖心は、我らを愛するの余り世の終りまでそこに留まり、日々恩寵の水をこんこんと我らに浴びせ、我らの心を新鮮にし、重荷を軽くし給う。「我に来れ、すべて労苦して重荷を負える者よ、我なんじを回復せしめん」―マテオ十一の廿八

されば渇ける人は、行つてイエズスの聖心の清泉に飲め「渇ける人あらば、わがもとに来りて飲め……わが与える水を飲む人は永遠に渇かず」。

疲れたる人は、行つてイエズスの聖心の木蔭に憩え。

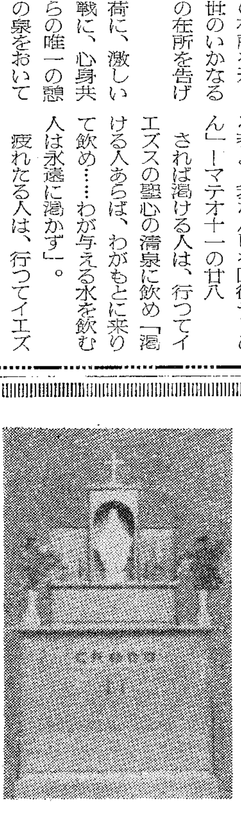
聖心の使徒

七・八月合併号

七月の意向　性も神の賜……安田貞治
住宅難、アフリカにも……窪田芙英子
黙想　真の往服者……真田信男
七月の聖人　国民の母……坂本八重子
信仰の法悦……野村久康
写真特集バロック建築
八月の意向　汝らの敵を知れ……佐久間彪
共産主義の謬とは……A・ゴルドン
目ざめ行くアフリカ……千寿利久
病気と迷信に戦つて……粕谷源蔵
仇敵同志……戸川啓一訳
まちがつた炎……T・メルトン著　須賀敦子訳
静かなる独裁者……K・ヘツク著　安斎仲訳
聖書の時間　サロモンの栄華（下）……H・チースリク
ラテン語教室……T・ベチコフエル

一部　¥30　〒5
一年分　300　〒50

日本礼禱の使徒会発行
東京都千代田区紀尾井町七



家庭用祭壇（十字架台付）
礼拝台　和洋家具一切

暁の星製作所

福岡市箱崎飛鳥町四一一四

ルルド便り

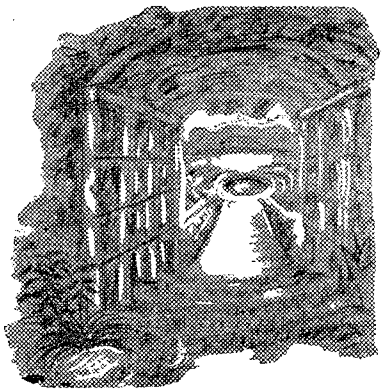
B・S

大変ながい間御無沙汰致しました。パリーへ行く途中ルルドに二日泊り、マリア様の洞窟の前に毎日五、六回通いました。本当は旅行のことを悉しく書きたいけれど手紙では思つた様に書けません。何といつても帰つてからでなければ満足のいくお話は出来ません。今日はルルドの事だけ簡単にお知らせ致します。

先ず私達はルルド主任司祭のおられる教会に行きました。駅から十分の所です。ここが私達の宿。でも教会の司祭館ではなく、教会敷地内にある一家族内に泊めて頂きました。生れて始めてフランスの家庭を詳しく見る事の出来たのは何よりの経験だつたと思つています。

此の教会は二百年位前に建てられた石造りの聖堂で、ベルナデツタ一家の所属していた教会です。納室のすぐ傍に、昔、何とかかんとかいつてベルナデツタをいじめた主任司祭の墓があります。私は毎朝ここの大祭壇でミサをささげましたが、聖体拝領者だけでも五、六百名はありました。チボリウムがすり鉢の様に大きく、又重いので全く閉口させられました。二、三百名位授けていると、左手がばかになりそうで、どうなる事かと思つている所に他の神父様が一人助け船に来てくれましたので、やつと全部おえる事が出来ました。あんなに大勢の信者に聖体を授けた事も始めてですが、あんなに大きなチボリウムを持つた事も始めてでした。

ベルナデツタの家は教会と洞窟の中程の所。二階建ですが内部は貧女の家よりせまかつた様です。ベルナデツタの生れた部屋、ベツト手紙類 等、ちやんと 残つていました。ここでも巡礼団が後を断たず、いろいろの病人がベルナデツタのベツトの上に寝かせられ、一心に奇蹟を求めているいたいたしい姿が見られました。昔、父親がガーブ川にすえ付けていた水車もそのままここの地下室におかれています。



さて、今度は洞窟の話。以前に考えていた程大きくなく、全部一つの岩だと思えば大体間違なし、マリア様の御像もあまり立派な貴婦人の御顔ではなく、お母さんらしい優しさが見られました。ただもう相当古くなつたからでしようか、「立派だな」という感じはしませんでした。岩も下で絶えず点されるローソクの灯りで真黒、上の草木も皆真黒で、自然的には、びつくりする様な事は何もありませんでしたが、霊的には本当に何とも表現出来ない感動を覚えました。あの岩、あのほら穴に、実際にマリア様がお現れになつたのかと思うと自然にひざまずいてしまいます。

私の滞在中、ルルドに集つていた病人は全部で百五十人程で、国籍も病名も多種多様でした。午後四時半から毎日彼等病人達の為に聖体行列が行われます。此の行列前に病人等は皆ルルドの水で入浴をすませ、三輪車にのせられて広場の両側にきちんと整列させられます。昔は行列の場所も相当広かつたらしいですが、今ピオ十世に奉献された大きな聖堂が造られておりますので、狭い範囲内で行われていました。やがて午後五時十五分頃、彼等病人達一人一人に対して御聖体による祝福が行われます。病める者も附添う者も群集もかたずをのんで此の静寂な場面を見守つて居ります。昔は奇蹟の大部分が入浴によつて行われていたそうですが、現在では殆んど例外なく此の御聖体の祝福を受けた瞬間行われる由、すべての瞳が各病人の上に注がれているのも当然の事でした。然し私達の二日間の滞在中には奇蹟は一度も行われませんでした。私の知つているフランス人は一度生れつきの小児まひが完全に治つたのを見たといつておりました。いきなり三輪車からとび降りて広場を走り廻つた時の様子は何時までも忘れる事が出来ない。あの時は深い感動の為に自然に涙が一ぱい出て仕方がなかつたと

午後八時半からローソク行列。これは巡礼者達の行列です。幸い宿の奥さんが私達の為にもローソク（きまつた形）を買つて来てくれましたので胸をおどらせながら静かに静かに行列に加わりました。約一万五千人位の群集が五、六列に並んできまつた場所をアヴエアウエを歌いながらゆつくり歩くのです。この行列に参加出来た丈でも十分にルルドに来たかいがあつた様に感じました。一心にマリア様をたたえつつ、人種、言葉、習慣を異にするあらゆる人々が一ケ所に集つて、同じ行列を作つて歩く様を見ると、本当にすべての人がマリア様の子供である、という事を強く感じさせられます。午後九時半頃長い行列も遂に終り再び広場に全員集まり、各国の巡礼団代表がそれぞれ英仏独伊スペイン語で簡単な話をし、最後に二人の司教様が一緒に壇上から全員を祝福されました。ルルドの洞窟の上の方にある小さな山はカルワリオといわれ山全体が十字架の道行になつています。イエズス様や兵士やポンシオピラト等の像は六尺以上の大きなもの。第一留に通ずる階段は約五十段、一段ずつひざまずいたまま祈り乍ら登る事になつています。老人や病人はとても登れません。又みじかい洋服を着た女性は直接ひざで登ることになります。苦業の為ですがそれでもやはり相当大勢の人々が此の道行をしておりました。私達は大分疲れておりましたので第一留に行かず真直ぐ第二留の方に行きましたが、第一留と第二留の間は約百米位もあり、山の頂上が十四留ですがとても上までのぼれませんでした。ルルドには一日丈泊る予定を変更して二日泊つてよかつたと思いました。一日だけでしたら洞窟だけで他は何も見られなかつたでしよう。

マルガリタ

罪もたぬ鳥もまなこを瞑じて死ぬ
小さきいのちのつつましきかも

休み日の朝に早く街ゆけば
踏まれぬ果実はまろき影もつ

テレジア

むしあつき風吹き通りし病床に
友はね入りぬ一人まゆげぬく

からし焼きの赤き火の子の打ち上るを
窓ごしに見し一人なりし夜
（玲美子誕生）

二　丈

爆雷に艦体はふるえ死は去りぬ
声なくすくみし汗まみれの生命
（海戦映画を見て）

青少年の指導者トツ・テイハメツト著
青少年のすすめ
① 純　潔　¥180
『ふかい研究と経験との結晶からできた本書はたくみに、簡明に、注意ぶかく青少年に正しいみちを教えてくれる』

人生と写真

アロイジオ

ある日、写真の焼付けをしていた時の感想である。印画紙が現像液の中で、一分か一分二十秒位で形がきれいに現われてくる。このことが、人生の終り——死——とよく似ていると思つた。

写真の焼付けとは、白い印画紙にフイルムを とおして 光をあてる、フイルムのすきとおつている所は、光がよくとおるので黒く、フイルムの黒い所は、光がその度合に従つてとおるので、黒くあるいはうすく出る。しかし黒く出るのは、現像液に印画紙をつけてからあらわれる現象であつて、光をあてただけでは、全く白く、紙に変化は現われない。

この印画紙を現像液に一分か一分三十秒位入れると、きれいな形が出る。これを今度は停止液、ひきつずき定着液に入れる。ここまでくるともう光にあたつても、何も感じない。これを二十分位ですますとあとは水洗。これで「いつていた薬は水で洗いながされて、これで皆が云う写真となるのである。

まず、袋からとり出した印画紙は、まだ光があたつていない真白なもので、これは人生では、洗礼をうけ、原罪のない有様とでも云おうか。人生を経ていく度に光にあたり、黒くなる原因をつくつて行く。しかし生きている間は、我々はその罪の大きさ、その黒さを知らず、印画紙がまだ真白であるように、まだ自分は白いと思つて生きている。

ところが死がおとずれると、もうこれ以上光のあたることはなくなる。と同時に、今迄白かつた印画紙が現像液の中で、形があらわれて来るように、自分が一生のうちに犯した罪の質と量により、あるいは黒く、あるいは白く現われてくる。

この時は、あの時はあんなに白かつたのになどくやんでも始まらぬ。現像液の中で白い紙が、だんだん形を現して行く。どんなのが出て来るかと云うことは、現像中では大きなたのしみであるが、これが死後、こんなことも出て来たら大変だろうと思う。

現像後の定着。もうどうもならぬ。たよりになるものは人々からの祈りである。

暗室の中で、赤い電燈をぼつんとつけ、一人で写真を焼付けていた時、心にうかんだことである。

ぶつく がいど

完徳の道

聖テレジア著
カルメル会訳

人から受ける愛について

彼等は人々が自分に対して持つ愛は聖主から来たものであると知つて居ります。自分には少しも愛される価値がないのに人々から愛情を受けるのは、ただただ聖主御自身が自分を愛して下さるからだと思つて居ります それ故彼等はひたすら感謝の負債を払うことを聖主に委せ奉りこの目的で祈ります。そしてその後は、恰もそういう事は少しも自分に関係がないかのように自由です。よくすべてを観察した結果、完全な善に達するように私共を援け得る人々からの愛を除いては、他人から愛されたいと望む事は、一般に深い迷蒙であると私は度々思います。

（七章）

名誉心について

人々から敬いを表わされ、又注意深く優しくされたりする時にはそのようにされる訳がないと言いましよう。実際この世で人から重んぜられるのは全く道理に合わない事ですから……。併しこの侮辱については、というよりも私達が侮辱と呼ぶものと訂正した方が宜しいでしよう誰も私達にそのような事をする人はないのですから。

（十四章）

病気について

私の考えでは、自分の身体を大切にすればする程、聖主は病気を送つて下さるものです。少くとも私に対しては聖主はそうなさいました。それは本当に大きな御憐みでした。いろいろと身体を楽にするような方法を私は探し求めていましたので、聖主はそれを理由あるものにして下さろうとして、病気を送つて下さつたのです。（十一章）

生命を軽んずべきことについて

私達の父である昔の聖なる隠修士の事を考えましよう。私達はその生涯に倣いたいと望んでいるのですから……。全く弧独の中に彼等はどれ程の苦しみを耐え忍んだことでしよう。寒さ飢え、日光、景気等を、神以外には誰にも嘆きすがる人もなしに忍び続けたのでした。彼等は鉄の人であつたと思いますか、いいえ彼等も亦私達と同じように繊細な か弱い人 だつたのです。死と健康の喪失を全く度外視し切らない中は決して何も出来ません。死が 何で ありましよう。身体がこのように度々私達を嘲けるのに、私達の方から時々なりと身体をあざ笑つてやれないものでしようか。実際、聖主の御援けによつて自分の身体を少しづつ制禦しようと努めてこそ、その支配者となる事が出来るのです。この強敵を打ち倒す事はこの生涯の戦いを勝ち抜くのに非常に大切な事です。聖主にこのお恵みをいただきましよう。聖主にはそれがお出来になるのですから……。この戦いの利益は既に勝利を味つた者のみしか知る事が出来ないと私は思います。もし人々がそれを知つたなら、この愉悦と支配とをかち得んものと、如何なる労苦の前にも誰一人として後退りする者がないでしよう。それ程これは貴重な事なのです。

（十二章）

至聖三位について

どのように貴女方の考えが動き廻つても構いませんから、この御子と御父の間に居るようにお努めなさい。そうすれば必ず聖霊を見つけ奉るに決つています。（二十九章）

（一二〇円、岩波文庫）（M）

SSD
コンサイス英和辞典 380円 革500円
コンサイス和英辞典 350円 革470円
辞書は三省堂
新版 広辞林 1200円
チエルテナム
メチウム
明解国語辞典 380円
SSD

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価一部十円

教皇新回勅〈メミニッセ・ユヴアト〉を発布

沈黙の教会のために祈れ

教皇ピオ十二世聖下は、去る七月十五日「メミニッセ・ユヴアト」と題する新らしい回勅を全世界に向つて発布なされ、神の浄配たる教会が種々の危険におびやかされている今日、聖母の力強いお取次ぎに確信して、全信者が祈るよう力説された。次にその要点を列記する（全訳についてはカトリツク新聞第一五六七号を参照）

1、人間のもろもろの決定、力および制定というものは、もし神の権威が無視されるか、または正当な地位を与えられないか、または抑圧さえされる場合には、必然的に失敗に帰する運命にある。

2、キリスト教のみが十全な真理また憎悪と怨恨と敵対心とを除去するところの、神的愛による完全な正義を教える。キリスト教のみが救主から「道と真理と光」を委托されたのであり、そしてキリスト教は全力を尽してその三つのものが、確かに実行されるようにせねばならないのである。

3、少らなかぬ国において、キリストの掟が必要な考慮を払われないことに不安と苦悩をおぼえる。非常に屢、真理がゆがめられ、そして誤つた恥べき事柄が公然提示されている。従つていかに多大の損害が社会そのものにもたらされ教会に加えられているかを知ることが必要である。

4、カトリツク教会が、多くの国で種々の重大な艱難によつて抑圧されているのを見て、私の心は極度の苦痛にさいなまれる。司教は司教座を追われ、カトリツク出版物は沈黙させられ、学校は閉鎖されて無神論が教えれている。しかしそれにも拘らず、信者の大部分は、全力を尽して父祖伝来の信仰をあくまで守つているのを見て、私は大きな慰安にみたされている

5、かつて使徒時代に、どこかでキリスト信者が特別な迫害をうけると、他のすべての信者は、愛の絆に結ばれ、兄弟的和合のもとにあわれみの神に切願を捧げた。それと同様に今日、あなたたちが懇願する助と神的慰安とが、欧洲と東アジアの諸地方で長いあいだ逆境で試練されたすべての人に欠けることのないように希望する。

6、そして私は、童貞聖マリアの慈愛深い御取次ぎに大いに信頼するものであるから、世界各地でカトリツク信者が、通常聖母被昇天の大祝日の前に行われる九日間の祈りのあいだに、苦難をうけている人々のために特に公けの祈りを捧げてほしい。

7、すべてのキリスト信者が、カトリツク教会を愛するその優しく熱烈な愛を通して、単に敬虔な祈りを天にあげるのみでなく、どうか彼らが痛悔の感情、有徳な仕業犠牲、悲しみ、あらゆる苦痛と辛さ、およびこの世の生活の必要な一部分であらゆる艱難、ならびに人が時々自由に且つ寛大な精神をもつて服せねばならない艱難を捧げるように。

世の光

殉教者の精神

〝殉教者はキリスト信者の種子である〟とテルトリアヌスはほこらしやかに言つた。

信者は困難に勇気を必要とする場合に「殉教者の事を想へば…」と自分にいいきかせて忍耐に留るはげみとする。

とにかく、迫害のくらい雲行きを見ても、おびえずに教えの忠実さを教示してくれる考えに殉教の思想ほど力強いものはない。

歴史は、地上のいたる処の国々で、既に十分な程このテルトリアヌスの言葉を実証した。迫害がその強さを増すだけ、又その期間の長さを永引かすだけ、信仰の新たな芽は、同じ土地につぎつぎに萌え出で、結局は迫害者の方が疲れてしまうまで、キリスト信者の方で地上から姿を消すことはない。クリゾスムは、このことを「キリスト教の最も輝かしい勝利」と呼んでいる。

アウグスチノはその神国論の中に、二つの国の宿命的な対立を次のようにのべている。

「神への愛が嵩じて、地上の軽視にいたる時に神の国があらわれ、地上への愛が嵩じて神の軽視に及ぶとき、地上の国が出現する」と。

神の御子によつて地上にもたらされたこの生命力は、自らの勢を持つておわりの日の実現につきすすみつつあるのだが、殉教はまさしく、極部的に現われる神の国の生命力の火花なのである。

キリスト教的信仰とか善徳に対する憎悪が、地上の国の力を集結して、最も生命力に満ちた人々の心に対してぶつつかる時の強力な火花は、やがて全地を覆いつくす神の光栄の力なくしては考えられない。

殉教はある人々が考える様な狂信者の痴事ではない。主のために生命を奉献する事は、最も自由な人格的所作でなければならない、

彼等は、身を殺して魂を殺し得ざるものと、魂と身をおわりなき死にいたらしめるものとの間に、冷静な選たくをする人々である。

老幼、男女、教養や気質のちがつた多くの人々を一律の行為に追込む原因が人格のない狂信状態である事は不可能である。

殉教者に対して、地上の生に飽きた人々が簡単に自殺してゆく心理をあてはめる事も説明とはならない。殉教者は罪を自分の生命の損失以上に憎んだ人たちである。自殺は神がきびしく戒められる罪の一つである事を信者は心得ているものである。

殉教の行為は少くとも素材的には勇徳の行為であり、人の力を超えたヒロイズムである事に疑いはない。しかし乍ら、聖ポーロが宣言する如く、如何なるヒロイズムも愛がなければ神よりよみせられる価値がない。

「わが身を焼かるるためにわたすとも愛なければ、いささかもわれに益なし」（コリント前一三の三）

実に殉教の輝きは、死をも辞せざる神への愛に外ならないのである。そして、初代教会から聖人崇敬の風習に第一位を占めていたのはこの殉教者達への思慕であつた事も当然だと考えられる。

又、殉教は愛の行為であると同時に、洗礼や悔悛の秘蹟と同様に愛徳と恩寵を生ぜしめるものであるとは教会の教えである。血の洗礼と呼ばれる殉教は、秘蹟の様に未信者の志願者にも愛徳の完成をなさしめた。熱心な信者だけでなく、ためらい乍ら信仰を保つている人々にも、瞬時にして大聖人の愛を完成する力を考えるならば、フランシスコや、テレジア、カタリナなどの神秘に導かれる魂の中に殉教への憧憬が、幼い心にも殉教の可能な地へ趣かしめる様な衝動を起し得るのであろう。

普通の信者にとつてはことに殉教は一つの恩恵として考えられるのも以上の様な理由からである。

一般にひとは日常生活のうちに神より離れる力が強くて愛徳がさまたげられる。天主がその御あわれみの御心を動かしてこの人を瞬時にして愛徳の勇者にし上げる事を望むのは決して邪道ではない。

「誰もその友のために生命を棄てることより大きな愛がある人がない」（ヨハネ一五、一三）

キリスト信者の生活の中心をなすのはこの愛であり、この愛の極致が彼の至福につながるものである場合、殉教者は彼にとつて最もあきらかな、キリスト教生活の華と考えられるのは当然であろう。

日本に於ける殉教者の数は無数だといわれる。私たちは殆どその一人一人の生活を知らない。しかしながら、彼等の地上の生活はわれわれの血の中に鮮かに書かれているといえよう。

愛徳がこの血の中に通つた時に初めてこの国の上にも神の祝福がゆきわたる事になると思われる、九月の日本致命者の記念の多い月に、殉教の精神について反省して見たい次第である。（伊東）

聖ペトロの献金

（六月廿九日）

福岡教区	
大名町	五、一五八円
浄水通	二、〇二〇
地行町	二、〇〇〇
西新町	一、一〇〇
簑島	一、三三〇
高宮	二、四三〇
那珂町	一、四〇〇
吉塚	三、一〇〇
箱崎	七七五
茶山	五五〇
大楠	六四二
二日市	九三〇
今村	三、八七〇
本郷	一、八〇〇
久留米	二、二二五
大牟田	一、八〇〇
古賀	三七四
呼子	一、五六〇
馬渡島	二、二〇〇
佐賀	一、七二七
唐津	五〇〇
鳥栖	五〇〇
伊万里	四〇〇
鹿島	一〇〇
門司	二、二〇〇
小倉	四、〇〇〇
湯川	七〇二
戸畑	一〇、八〇〇
若松	一、九五〇
八幡	一、四二〇
八王子	一、七〇〇
黒崎	二、一五〇
水巻	一、三二〇
直方	一、二〇〇
飯塚	三、三五〇
田川	三〇五
行橋	一、〇〇〇
新田原	四、五〇〇
手取	四、〇〇〇
健軍	一、二二六
琵琶崎	七、一五三
八代	二、〇四四
人吉	一、五五〇
水俣	七二三
隈府	一、四七九
玉名	四八〇
本渡	三〇〇
大江	一、五〇〇
崎津	一、〇〇〇
計	九六、四三三
宮崎教区	
宮崎	四、二四一
田野	一、一〇〇
都城	三、〇〇〇
日南	二、六〇〇
延岡	七〇〇
高鍋	五〇〇
富岡	四〇〇
大分	二、〇〇〇
別府	四、三五〇
中津	一、七二五
大貞公園	一、二〇〇
日田	二、六〇〇
杵築	四〇〇
佐伯	一二〇
坂市	六〇〇
臼杵	一、五〇〇
計	二七、〇三六

信仰の擁護者　聖ピオ十世教皇

永久聖体礼拝 九月

第一日曜　西新教会
第二日曜　新田原教会
第三日曜　福音の光修道院（那珂町）
第四日曜　田野教会
最終　マリアの宣教会（人吉）

祈禱の使徒会 九月

【一般の意向】諸国の議会や国際会議における神の尊重

【布教の意向】アジア・アフリカの大学生

【布教委員会の意向】聖母マリアのおとりつぎによる布教精神の昂揚。

神学講座のお知らせ

一、日時　九月十三日（土）より毎週土曜日 午後二時―四時（二講義）
一、会場　福岡双葉学園
一、資格　カトリツク信者希望者
一、会費　二五〇円
一、科目　対神徳論（平山高明師）福音入門（深堀　敏師）
問合せ先　福岡市浄水通三九司教館内

深堀　敏

九月

日本殉教者の月

一日（月）　今日より六日まで司祭年の 黙想＝邦人司祭（於福岡大神学校）パリ・ミツシヨン会司祭（於八幡同会本部）

三日（水）　日本の福者ヒエロニモ城等殉教者
ピオ十世教皇証聖者
一八三五年貧しい家庭に生れ、主任司祭、神学校長などを経て、一九〇三年教皇に選ばれた。生前から聖人の誉たかく、第一次世界大戦の阻止に全力を尽し、その勃発一ケ月後に歿した。

七日（日）　聖霊降臨後第十五の主日
日本の福者トマ辻等殉教者

八日（月）　童貞聖マリア御誕生の祝日

十日（水）　日本の福者カロロ・スピヌラ等殉教者

十二日（金）　聖マリアのいとも聖なる御名の祝日

十三日（土）　日本の福者アポリナリス等殉教者
深堀司教様は神戸で黙想会御指導のため 今日より一週間離福

十四日（日）　聖十字架称讃の祝日
聖霊降臨後第十六の主日
十字架は信者にとつて悲しみと同情の対象であるばかりでなく、誇りとよろこびの因である〝かれにおいて、われらの救いと生命と復活がある〟

十五日（月）　聖母マリアの七つのお悲しみの祝日
マリアはキリストとの共同の贖罪者として十字架の下に立ち「殉教者の元后」と呼ばれ給う。

十六日（火）　日本の福者カミロ等殉教者

十七日（水）　アシジの聖フランシスコ証聖者聖痕の祝日
この聖人はキリストの最大の模倣者といわれる、その生涯の終り頃に、キリストの御受難の御傷にもあずかることができた。

廿一日（日）　使徒福音史家聖マテオの祝日
聖霊降臨後第十七の主日
使徒マテオはもと収税吏として罪の生活を送つていたが、主に召され、のち第一福音書を著わした。
水巻教会で堅振

廿二日（月）　ヴイラノヴアの聖トマ司教証聖者
貧民救済に挺身したスペイン・アルカラの大司教。一五五五年帰天

廿三日（火）　秋分の日
佐賀県武雄教会祝別

廿四日（水）　メルセスの童貞聖マリアの祝日

廿八日（日）　聖霊降臨後第十八の主日
人は天のふるさとに帰るまで、さすらい人の淋しさと不安を味う。主こそのこの弱さをいやして、われらの足を支え給う。〝主を待ち望むものに、平安を与え給え〟
本郷教会（午前九時）と板付キャンプ（午後七時）で堅振

廿九日（月）　日本の守護者大天使聖ミカエルの祝日
古代より大天使ミカエルは教会の保護者として尊崇されている。我が国も聖フランシスコ、ザベリオによつて聖ミカエルに献げられた。

上田大分市長
聖母被昇天の佳日に受洗

猿で名高い大分高崎山を一躍日本有数の観光地にして名を馳せた上田保大分市長は夫人の美苗さんと共に、聖母被昇天の佳日に深堀福岡司教兼宮崎教区長の手から洗礼をさずかり、大分教会信者一同の心からなる慶びをうけた。代父母は最高裁長官田中耕太郎氏夫妻であったが、出席できないため代理者が立てられた。

上田市長は聖フランシスコ、ザリオ日本宣教四百年祭の頃からカトリックに対して関心をもち、先年はローマを訪問して親しく教皇聖下に謁見を賜り、キリシタン文化施設建設の遠大な計画実現のため竹のロザリオを製作。過日はキリシタン大名で知られた大友宗麟の等身大の銅像を、市内に復元した名市長である。昭和廿二年市長公選により市長となり連続十二年の古顔で、大分市民のよき代表者として一般から親しまれているので、大分教会今後の活躍は各方面から期待されている。

尚当日大分教会では洗礼式、ミサ、聖体降福式ののち、午後七時半より教会横広場において聖歌合唱、フォークダンス、スイカ割競争など盛沢山の夏のリクレエーションを展開し、午後九時半楽しい一時を過した。

（写真は深堀司教より受洗する上田大分市長夫妻）

SVP第廿二回 福岡 理事会例会

七月廿日午後二時より佐賀カトリック教会において、聖ヴインセンシオ・ア・パウロ（SVP）会第廿二回例会が開催され、福岡、熊本、太刀洗、久留米、明光学園さらに地元の佐賀の各協議会から代表者約四十名が参集した。

会議は開会の祈り、霊的読書ののち、指導司祭代理岩永師の講話佐賀教会主任ロツキー師のユーモラスで含蓄のある挨拶につづいて各協議会の活動状況報告があり、更に八月廿三日の大阪での全国総会への代表派遣の件、それへの提出議題その他が議せられた。

会議終了後、全員ベネデイクシヨンにあずかり、佐賀協議会の好意により準備された懇親会に列席して和やかな交歓を楽しんだ。

浦口均師ローマから帰朝

ローマで勉学中であったアントニオ浦口均師は、去る八月十七日神戸入港のフランス船カンボジヤ号で八年ぶりに帰朝した。

浦口師は長崎県南松浦郡玉の浦町井持出身。大正十五年生れ、昭和十六年泰星中学（当時の福岡小神学校）に入学、終戦の翌年福岡大神学校に進み、廿五年八月神学研究のためローマのプロパガンダ大学に留学した。廿八年十二月司祭に叙品されたのち、同大学で四年間聖会法を研究、去る六月博士号を獲得したが、その間ローマ市内の教会で司牧にも当った。

ちなみに師の令兄の一人は北海道トラピスト修道院の司祭である。

（写真は浦口均師）

ムルア師（マリア会員）帰国

マリア会司祭、福岡泰星学園教諭F・ムルア師は病気療養のため八月十一日〝あさかぜ〟で博多出発、本国スペインに向った。

ムルア師は昭和廿三年来日、東京のマリア会本部と修練院附を経て、廿八年九月以来泰星学園附となり、道徳科を担当したが、視覚および消化器管の病気のため、本国で療養することになった。なお後任は久松浅右衛門師

ムラトリ師（ミラノ会員）ブラジルへ

佐賀県鹿島教会主任ムラトリ師は、ブラジル在住日本人移民の信者司牧のため、九月八日横浜港からブラジルに向うことになった。

ムラトリ師は一九五二年一月来日以来佐賀県で布教に従事し、唐津、伊万里、鹿島などの諸教会を歴任した。

わが教区の愛する諸子に

私の霊名聖ドミニコの祝日に当りましては、心よりのお祝辞と霊的花束を沢山ささげて下さいまして、まことにありがとうございました。これは私個人としてばかりでなく、上はキリストより教皇につながる司教に対する、皆さんのカトリック信仰の精神の発露に外ならないのであります。不肖ながら私は、天主から托せられた家族なる教区の長として、皆さんと心を一つにして、皆さんのために天主に感謝し、皆さんを天主に奉献いたしました。

今後ますます一なる主、一なる信仰に固く結ばれて、主の御光栄のために努力して参りましょう。

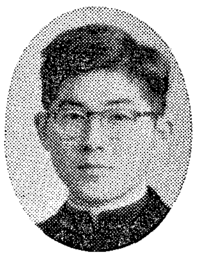
ここに取りあえず紙上を以て、主キリストにおける愛子皆さんの上に、感謝の祝福を送り、御礼に代えます。

福岡司教ドミニコ　深堀仙右衛門

本多神学生（ドミニコ会員）香港へ

仙台市原町ドミニコ修道会の十字架の聖ヨハネ本多正照神学生は香港の同会修道院で哲学研究のため、三ケ年の予定で去る七月末横浜港から出発した。

本多神学生は昭和四年生れ、長崎県南高来郡出身、長崎高商卒業後九大文学部で哲学を専攻。昭和廿八年福岡浄水通教会で受洗。一年間大牟田明光学園に勤務、昨年三月仙台のドミニコ会に入会、四月に十字架の聖ヨハネの修道名で着衣した。



（写真は本多神学生）

学生 教職者 夏季黙想会
四十八名が参加して盛会

恒例のカトリック学生・教職関係者の夏季黙想会は、教区内の各地および長崎などから四十八名（男子十五名、女子廿三名）が参加、福岡市小笹の男子聖パウロ修道院で八月廿一日夜より廿五日朝まで、四泊五日で行われた。総指揮司祭は福岡小神学校の川口康頼師で、深堀司教および戸畑教会助任ジヤロ師も説教を行った。

会場に当てられた聖パウロ修道院は、同会の小神学校をも兼ね鉄筋コンクリート四階建で、一切の設備が申し分なく整い、環境もきわめて閑静、男子はここに寝とまりし、女子は隣接のビエ・デイセポレ女子修院に宿舎を与えられた。

五時半起床から九時の就寝まで、説教四回、自己反省、ロザリオ、聖歌練習などプログラムに従って一同真剣な修練を行った。廿四日夜には司教司式の聖体行列が会場の屋上でくりひろげられた。

尚黙想者の受け入れ準備一般を献身的に奉仕された修院当局に対して、参加者一同から深く感謝されている。

佐賀、大分に二教会新設

古い温泉町で有名な佐賀県武雄市に教会が新設され、来る九月廿三日秋分の日に祝別される。教会は駅前の高台の民家を改造したもので、敷地六百八十一坪、建物は百五十六坪。

大分県北海部郡坂の市町にも教会が新築完成されたが、主任司祭ロレンチ師が病気入院のため祝別式の日取は未定。

宮崎教会にルルドの洞窟

ルルドにおける聖母御出現百年祭の記念事業として、宮崎教会ではさきにルルド洞窟の建造を決議七月十三日より八月十三日まで毎日曜日信徒が労力奉仕を行って、聖母被昇天の大祝日に完成した。

洞窟は縦五米、横三米、高さ四・五米、洞窟の岩には常に水が流れるようになっており、岩松、コケ、ツツジ、カタバミ、白ユリ、野バラなどが植えられ、底部は噴水をつけた池となっている。

これを建造するため日南海岸に珍らしい形の岩をさがし、綾川、大淀川の上流の渓谷に川の自然岩をもとめ、トラック、オート三輪も信者のもので運び、設計担当の信者の指示で工事が進められた。岩石四十トン、セメント二十俵を使用し、奉仕人員は延百九十人に達した。

佐賀教会に案内所

佐賀教会ではじめて教会を訪れる人々の便宜のために、教会前に案内所を新設して多大の効果をあげている。

（写真は佐賀教会案内所）

司祭異動

邦人司祭地区

大名町教会助任　牧山重光師
任司教館附
司教館附　平山高明師
任大名町教会助任
大楠教会助任　竹森　道師
任久留米教会助任
久留米教会助任　田川清美師
任大楠教会助任
浦口　均師
任司教館附
泰星学園附　ムルア師
帰国

パリ外宣会地区

小倉教会助任　アルツス師
任東京JOC本部附
日本語学校　バイヨ師
任小倉教会助任
日本語学校　フイリベル師
任黒崎教会助任

コロンバン外宣会地区

手取教会主任　コイル師
帰国
館山教会主任　プレンチフイルド師
任手取教会主任
本部附　ドイル師
任大江教会主任
少年の町附　ダイモンド師
任崎津教会主任
崎津教会主任　ドウーリー師
任琵琶崎教会主任
日本語学校　ハンター師
任荒尾教会主任
日本語学校　オドワイエ師
任健軍教会助任
日本語学校　ラウアレ師
任荒尾教会助任

ミラノ外宣会地区

日本語学校アクワヴイウワ師
任佐賀教会助任
東京本部附　マルチノ師
任鹿島教会主任
佐賀教会助任　ガツザルヂ師
任武雄教会主任

福岡教区信者状況　1958年6月30日現在

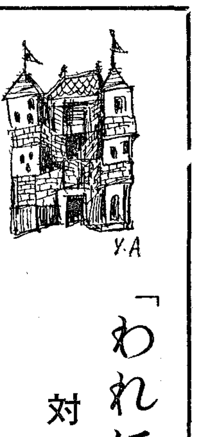
	種類 教会	洗礼				求道者	転入者	転出者	信者総数	
		臨終外		臨終時					1957年	1958年
		大人	子供	大人	子供					
邦人司祭地区	大名町	17	15	1	3	8	25	215	531	372
	浄水通	1	6			35	5	104	352	259
	地行町	9	8			11	54	335	476	210
	西新町	5	8			7	21	32	317	318
	簑島	8	7		1	4	8	38	146	132
	茶山		1				353			353
	大楠		4				131	2		133
	高宮	5	11	37	8	95	26	107	289	267
	那珂町	17	11			13	7	25	201	210
	吉塚	68	10	6	2	44	68	33	220	335
	箱崎	3	4			6	95			102
	古賀	10	4			12	4	3	80	92
	二日市			1		8	10	2	67	74
	今村	2	32		1		4	11	1,384	1,401
	本郷	1	15			3	15	12	653	668
	久留米	21	26	7		85	31	16	1,052	1,106
	大牟田	19	6	5	1	130	25	13	359	397
	呼子	3	24				18	2	563	600
	馬渡島	3	37				6	4	1,038	1,076
ミラノ会地区	佐賀	26	17	1	1	45	11	74	504	478
	鳥栖	5	6	1		15	1	5	81	86
	唐津	6	9		1	5	25	23	200	216
	伊万里	4	5			6	27	25	187	196
	鹿島	2	8			4	174	38		144
パリ・ミッション会地区	門司	15	7			24	23	21	337	359
	小倉	41	36	3		65	171	65	1,350	1,526
	湯川		14			1	77	10	448	527
	戸畑	64	26			50	38	83	868	909
	若松	13	5			15	20		200	237
	八幡	8	11			16	13		356	388
	黒崎	45	17			30	12	26	743	788
	飯塚	1	8	1		13	23	8	352	377
	直方	8	2			8	13	9	172	184
	田川	4	1			4	30	14	211	231
	行橋	20	5			7		32	247	238
	新田原	4	43	1		10	51	12	1,562	1,635
	水巻	5	11		1	14	33	4	301	346
	八王子		5			8	14	3	103	119
コロンバン会地区	手取	32	14	55		5	21	68	937	944
	健軍	19	2	3	1	16	63	24	221	281
	琵琶崎	13		18	8	90	18	56	353	323
	八代	4	4	18	1	15	3	28	336	329
	人吉	14	15	38	5	14	11	20	410	445
	水俣	6	2			5	14	9	104	117
	玉名	3	1	1		4	3	3	39	44
	隈府	6	3	4		21	24	22	200	207
	本渡	1	3	2	1	11	17	32	83	80
	大江	9	37		1	9		10	832	854
	崎津		12			2		19	453	443
合計		570	568	203	35	1,039	1,836	1,688	19,920	21,176

増加数　1,256

宮崎知牧区信者状況　1958年6月30日現在

ザベリオ会地区	宮崎	57	21	29		84	17	7	1,244	1,350
	都城	16	12	2		10	6	6	256	283
	田野	1	9			3	8	6	175	185
	高鍋	49	3			38	13	5	447	499
	日南	15	1	5		29	20	2	56	90
	延岡	5	5	1		18		24	223	207
	~~富岡~~ 日向	3	2			5	4	4	87	92
サレジオ会地区	大分	25	5	13	3	25	16	13	401	429
	別府	52	7	22	4	20	7	118	924	838
	中津	8	5		1	15	12	7	257	274
	大貞公園	15	5			26	18	57	292	271
	日田	8	3	1		16	4	2	73	86
	臼杵	3	1	1		3	4	3	51	56
	坂の市	14	2	2		10	19	3	72	104
	杵築	11	4			3	7	12	76	86
	佐伯	10	1	11		18	11	8	56	76
	鶴崎									
合計		292	86	87	8	323	116	277	4,690	4,926

増加数　236



「われに従え」⑫

対神徳（信・望・愛）

深堀　敏

❶ 三位一体との親しき交わり

信、望、愛の三つの対神徳とは倫理徳のように、人にこの世で正しい生活を送らせるために、規範を与えるものではない。その直接の目的とするのは、神と人間との間に、一種の会話、交わりを行わせることにある。従つて対神徳はわれらの住む世界をよくするとか人をその内的完成に導くことでなくて、反対に人を自分自身から引きはなして、神に直接に向わせること、三位一体の生命にひき入れることである。

❷ 信仰によつて人が神の御言葉を肯定するその前に、神はこの人が、御自分の愛と永遠の幸福の真理にあずかることに承認を与え、信仰の聖寵をそそぎ給うたのである。

望徳によつて人が超自然的な幸福に向うその前に、神は御自分に対する希望の心をそそぎ給うて、御手を伸ばし給うのである。

人が神の愛の中に自分を投げ出すその前に、神は人を御自分の子供のように抱きしめ、結びつけ、聖寵によつて御自分の生命と愛を分け与えて下さつたのである。

かく神と人との親しき交わりにおいて、イニシアシブをとり給うのは常に神の方である。神のみが神に応答する力を起させ給う、彼のみが、この新しいそして口にいい表わせない情感を、われらの心に湧かせ給う。彼のみが、世嗣の霊を以て、われらの心をゆり動かし、大胆なしかし甘味な叫びをあげさせ給う〝アツバ、父よ〟。

❷ キリストに従うこと

対神徳はわれらを神との交わりに入らせる、しかしそれは、われらの真理、道、生命なるキリストに於て、またキリストによつてなされる。

われらの師であり光であるキリストに対する信仰

彼は人に向けられた御父の永遠の御言葉であり、神の真理の宝をわれらに開き給うた〝父のほかには子を知る人はなく子または子がのぞんで啓示した人以外には父を知る人もありません〟（マテオ）

永遠の幸福への道なるキリストに対する希望

贖罪と復活の玄義はわれらの希望を固める。〝神はその大なるあわれみにより、イエスス・キリストの死者の中からの復活によつてわれらを新たに生れさせ生き希望をいだかせ給うた〟（ペトロ前）

われらの生命なるキリストに対する愛

彼のみが愛の霊をわれらに遣わし、御父の生命を与え給う。〝子もまた、自分ののぞむ者たちに生命を与える〟〝父は生命を自分のうちに有し給うように、子にもまた生命を自分のうちにもつことを得させ給うた〟（ヨハネ）

このように対神徳は、われらの教師、救主、友なるキリストとわれらとの関係を密接にし、キリストに従うことを可能にする。対神徳を賜うことによつて、この〝従い〟をわれらに要求する。対神徳によつて生きるとは、キリストに従うことに他ならない。

みんなのための聖書

(24)

教会の誕生

❶ 使徒行録によれば、最初の信徒たちの集りは、敬虔な人望のあるユデヤ人のグループでありました。かれらは聖書を奉読したり、昔からの儀式に与かつたりして、ユデヤ教の命ずる生活を送つて、この宗教に属した熱心な信心会の一つであるかのように思われていたのです。これが周囲の人々のうけた印象であつて、われわれも聖書のこの部分を読みますと、同じ印象をうけますが、真実はこれとは可成違つたものがありました。

このグループの内部では、兄弟的一致とよろこびという二つのきわめて特徴的な色彩が、われわれの目をひきます。そして外部に対しての特徴としては、布教活動が目立つています。

❷ 以上のような団体であれば周囲の環境から身をひいて、脱俗的な生活を営むことができたし、兄弟的な睦しさのよろこびの中で自分のことだけ考えて暮すこともできたと思われますが実際には彼等が、聖霊降臨の日以来、布教活動に挺身してゆくのを見るのであります。

使徒的な活動を自分たちの召命、本質的な仕事とみなしていたのであります。何故ならかれらとしては〝見たこと、きいたことを黙つているわけにはいかなかつた〟（使四の廿）からであります。

どんな障碍にぶつかろうと、全人類のたすかりを告げることを神から委任され、このメッセージを伝えることをイエズスから命ぜられていたからです。

〝あなたたちはイエルザレム、全ユデヤ、全サマリア、地の果まで私の証人となるであろう〟（使1の8）

❸ 生れたばかりの教会は、伝統的なユデヤ教を変革しようなどとは夢にも考えていませんでした。勿論、異端・離教的態度をとる積りは毛頭ありません。しかし新らしい時代、生命とたすかりの時代が、メシアにして救主にて在すイエズスによつて開かれたことを、公言することだけは止めませんでした。それでかれらは、生粋のユデヤ人や異邦人をも、自分たちのうちに引き入れようとします。ユデヤ教はイエズスによつて完成されたこと、それは伝統に余計なものを附け加えたのでなくて、ユデヤ教が常に待ち望んでいたもの即ち、メシアが与えられたことを教えていたのであります。

イエズスが神につかわされたものであること、彼によつて神の啓示が全うせられ世の終りの時期に入つた（使2の17）という確信に基いて、新らしい時代が到来したことを悟りました。こうして自分たちの中の誰も、また周囲の誰も気付かないうちに、この団体はユデヤ教から独立した存在となつてゆくのであります。

❹ 自分の生れ環境からの分離がキリスト教の全世界への普及と、真の解放の時期を示しています。生れたばかりであるが、既に全国民を征服しようとするキリスト教にとつて、その母胎であつたユデヤ教からの離脱が必要であることは当時誰も考えていなかつたのでありますが、生命と行動の要求が、キリスト教の力と富、そしてその将来の独立性を示してゆくのであります。

暑中吟

庭石のこけはげ落つる暑さ哉
盆燈籠常の無沙汰を詫びかわし　恵女
岩めぐる水大西瓜冷しをり
水着して乙女二人や峡真昼　牧泉
空びんの値を問ひ返えし昼寝人　冬心

祈禱の使徒会について

一、おこり

一八四四年フランスのウアールのイエズス会神学院で霊的指導司祭ゴートレル師が、神学生に向い、祈りと善業により、教会の使徒的聖役をたすけることを目的として、祈禱の使徒会を作つた。現在全世界に四千五百万の会員がおり、聖会内の最大の信心会となつている。

一、本質と目的

この会は、自己のたすかりのために生活するのみならず、使徒的祈りと犠牲とを以て、地上にキリストの神秘体を建設し、その御国を拡張するために働く、信者の敬虔な共同体である。

全生活を、キリストと共に御父天主に奉献することによつて、キリストの聖心の意向に従つて祈りまた犠牲をささげる。

一、祈禱の使徒会とイエズスの聖心の信心

キリストとの一致においてささげられるわれらの奉献は、愛の精神によつてなされねばならない。愛は、われらを天主とふさわしく一致させる唯一の手段である。それで祈禱の使徒会は、至聖なるイエズスの聖心に対して、特別な信心を有し、会員にこの信心の実践をすすめる。

一、実践事項

次にあげる実践事項は、一つ残らず全会員に課せられている訳ではない。しかしその全体はキリスト教的生活の真の規範をなしまた完徳の最上の原則を含んでいる。

❶ 日々の奉献

会員は毎日、キリストと一致しつつ、またキリストが神秘体の頭として切に求め給い、われらのために犠牲として御自分を献げ給うたその聖心の意向に一致しつつ、自分のすべての祈り、行い、喜び悲しみを主に献げる。この自己奉献はまた同時に、地上におけるキリストの代理者である教皇によつてきめられた毎月の意向（一般および布教の意向）のためにも、ささげられる。

❷ ミサ聖祭と償の聖体拝領

日々の奉献は、聖体の犠牲との一致によつて、始めて完全なものとなる。だからできるだけ深くミサの犠牲と一致すると共に、われらの罪によつて背かれ給うた永遠の御父をなだめ奉り、イエズスの聖心に加えられた侮辱を償うためミサに与り、与ることができない時には、意向をもつて、全世界で捧げられるミサに心を合せるようにする。

❸ 聖母マリアに対する信心

聖母は、その御取次によつて、われらの祈りに特別の効果を与え給う。だから聖母の汚れなき御心によりすがり、日々の奉献を聖母を通して、イエズスの聖心と御父に献げる。

会員は毎日少くともロザリオ一連を唱える事が強く要望される。

一、組織

総会長はその時のイエズス会の総長で、本部はローマのイエズス会本部におかれる。

各校区と教区内の支部（小教区教会、修道会、学校など適当な所）に指導司祭が任命される。国または地方に会長があり「聖心の使徒」などの刊行物を発行し総会長と教区、支部の指導司祭との相互連絡をする。

日本本部は東京都千代田区紀尾井町七。会長はチースリク師。

福岡教区支部は福岡司教館で、指導司祭は深堀敏師。

Aさんへの手紙

久し振りにAさんとの御会合——やはり人の世には安住の地はないものだと悟られた二人が心ゆくばかりの清談に、初秋の夜をふかしましたとのお便りに接しては、二人のお姿が眼前に浮び、動と静、大と小の御声が耳辺にひびくようです。

人の世は住みにくいものと経験による悟りの壁にぶつかつた所に、あきらめの達観が生れ、更に新らしい世を求むる理想——わが魂の無限安住への思慕が現われているのではないでしょうか。しかしかりに人の世に真の安住があり得るとして、これを求めて地の果から果へとさすらい廻るには、われらの人生は余りにも短かく、それかと云つて安住の一念を断つて捨てるには、わが生命は余りにも貴く、また生命への執着は余りにも強い。かく求めて得られず、断つこともかなわぬ所に、人生の矛盾と苦悩、人間のもだえがひそんでいるようです。

この矛盾と苦悩がある人の思考と頭のうちに交錯、集積して川の流れの上にむすぶ一連の水泡のように、一連の思想体系、即ち哲学となつて芽生えるのではないでしょうか。そうすれば哲学は人間本性の欲求である無限安住への郷愁の片りんを、知的に表現したものに他ならないようです。

しかし本性の欲求は知的に表現されるだけで満されるものではない。哲学にしても人間の郷愁を満たしうるものではない。満たされないからといつて、魂はあきらめてそれ以上なす所なく停止するものでもない。却つてこれを出発点としてもだえ泣き、平和安住の境地である永遠無限のありかを探して、再び郷愁の旅に上る。旅にさすらう心は、やがてわが行く道はこの地上につきず、わが求むる永遠は世を超えた彼方にあることを見出す。しかし見出したからとて、わが郷愁の一念は消えず、衰えず、却つて強まるのみで、遂にわが生涯をあげての追求にまで熱する。つまり人間の一生は、永遠の安住を求めてさすらう旅にすぎないのです。

ここにキリストのイミタチオの「我をほかにしては、汝が求めて地の果から果へとさすらい歩こうとも、安住の地はないものだ…」の警告がわれらの魂にひびき、聖アウグスチノの「神よ、おんみを見出さざる限り、わが魂は安らわじ」の人間本性の声がきこえて参ります。

詩

白蛾

「死」

地行　マリア・テレジア

ちゝいろのもやのなかに
ひつそり
夜の精が病室をかこむころ
きまつて
ためらいがちに戸をたゝくおと
すりガラスごしに
しろい光りをあつめ
はた、、、と
羽をすりあわせては入りたげな
白蛾のようす
とおいとおい黄泉（よみ）のくにの
トオウネラを越えて
今夜も
おまえは花嫁を待つている
しばし　お待ちよ
わたしは
白いヴエールに
白い花をかざり
やさしくおまえを迎えよう

聖心の使徒
九月号
表紙　湖畔の説教
（R・ゼーワルト）
政治家の祈……ピオ十二世
九月の意向　神なくして平和なし…粕谷源蔵
今日の学生、明日の指導者……窪田芙美子
黙想　真の暴力者……真田信子
信仰と実践　神の礼拝…塚本昇次
写真特集　神に光栄あれ
僕はミサ典書をもつているが……千寿利久
原始人の信仰……M・グジンデ
獄中の叙品式……オツト・ピーズ
聖書の時間　予言者(上)　H・チースリク
新本めぐり……
ポスト……
ラテン語教室……T・ペチコフエル
日本祈禱の使徒会発行
一部 ¥30 〒5
一年分 ¥300 〒50
東京都千代田区紀尾井町七

家庭用祭壇（十字架台付）
礼拝台　和洋家具一切
暁の星製作所
福岡市箱崎飛鳥町四一一四

詩

「夏」

草取の、ほどよい疲れを
カーテンを通り抜けた風が
ここちよく私を息づかせる
柿の葉は、すばらしく青く
その合間の小さな柿の実も
「私もここに存在するのよ。」
と目立たなく、ほほえんだ。
暑い、暑い夏！
でも私達は、
限りない夢と実行力で
正確に夏を過すことだろう。
柿の葉の間からげんとうのように
もれる、強い日射しは……やがて
赤い淡色になつて来たようだ。

澪　子（中二）

おばさんの言うこと

なでしこ

私の家の手伝いのおばさんは、私と同じ年で五十一　今日迄　数奇な運命にもてあそばれて、小説の様な人生を歩んだ様でした。

そのおばさんが、ボツリ　ボツリと話すのをきいて見ますと、二度も結婚に失敗して、今は親もなく、子もなく、兄弟もボツボツ死んで、女姉妹丈け残つている淋しい人生の由で、私の様な不仕合せな者は居りますまいとよくもらします。

そのおばさんが、最近「奥さん奥さん方の話しをジーツと聞いていると、キリスト様つて有難い、勿体ないお方ぢやね」

「私はここに来たはじめ、何のために西洋の神様をおがみなさるか、といつもいつも思つていましたが、みんなで話しござるのを、ジーツときいて居ると、たつた今迄自分はよい自分は正しい、結婚にしくじつたのも相手が悪いからと思い込んで居りましたが、考えれば考える程、聞けば聞くほど、わたしは罪深い女ぢやつた。悪い女ぢやつたねえ、おそろしくなつた、どうしたら、罪がつぐのえるかね、どうしたら、神様から許してもらえるだろうか」としきりに尋ねます。

そして又いかにも不思議相に、今迄いわなかつたけど奥さんの広島においでたるすに足が痛んで痛んで台所仕事がされない程痛んで来たバツテ、奥さんが留守では寝もされず、その晩「すみませんバツテ　イエズス様、私の足をば直しておくれ、このまんまぢや、奥さんの留守中　働けんで困るけんどうか直しておくれと、おねがいして寝たら、不思議ぢやねえ、朝起きたら、一チヨも足が痛まんとよ、そしてこうして、ふんでも、痛くない、もう一週間以上になるバツテ痛まんとよ」と、足をトントンとふんで見せます。

そして申しますには

「亭主にさからつて、その上貰つた子迄捨てて　かへつて来た様なわがままな私にも　お願いした事は、チヤンときいて下さる。イエズス様とは有難いお方ヂヤネ、奥さん方が信仰なさる筈タイ、どうしたら私も信者になれる？」と問います。小学校を出た丈けで、大した学問もして居りませんけれども、公教要理を渡しましたら、大至急用事をすまして一生懸命声を立ててよみ、且反省して、日記をつけて居ります。手があくと、ノートをひろげて　コンタツを繰り、ロザリオを唱えて居ります姿をよく見かけます。

私共も、軒端を貸して主屋を取られない様に注意しなくては、と反省して居ります。このおばさんは、私共に与えられた信仰へのムチとなつて居ります。

一九五八年八月十五日

『解　放』

アンナ

顔、顔、顔、汽車の窓から見えるお友達のどの顔も、とてもうれしそうだ。

そして今から始まる二カ月間の夏休み生活に対する抱負を語るかの様に誰の瞳も輝いている発車のベルがなつた。〃さよなら、さよなら〃〃お元気でね〃〃お便りをきつと〃〃また九月〃等々、思い思いの別れの言葉が合言葉のように次々に聞えて来ては消えてゆく。やがて手やハンカチをしきりに振る友の姿はだんだん小さくなつてとうとう見えなくなつてしまつた。車内は割に空いている。窓から涼しい風が入つて来ては汗ばんだ肌を気持よく撫でて行く。笑いがこみ上げてくるような浮き浮きした自分を、窓側の席に落着かせて、窓外に顔を向けた。七月の暑苦しい太陽は少し西に傾き、沿線の景色を強く照らしている。

こうしていると数時間前、答案用紙と必死になつてとつ組んでいたことが夢のようにも又何か遠い過去の出来事のようにも思われる。試験からのこの解放感は経験者でなくては決して味わい得ない気持であろう。聖週間が明けた後、アレルヤの鐘の響きに胸を躍らせる御復活の朝の喜びにも似た、あのいわば第一級の喜びだ等と考えたりもした。空はからりと晴れ、あちこちに積雲が浮んでいる。つぎつぎに奇妙な形に変つてゆく雲をじつと眺めていた。と、何だかすぎ去る地上のものがみんな小さなものに見えて来て、この世のもののすべてが、あじけないものに思われてきた。そして〃ああ神よ、御身は我等を御身の為に創り給えり、されば御身の中に憩うまで我が心安からじ。〃といつた聖アウグスチノの言葉を思い出した。うつろいやすい現世にあつてひとり永遠と関連をもつ人間――聖三位なる神の御生命に参与する事によつて天主と共に永遠に生きる特権を与えられている人間――の偉大さ、幸福さを思い、この世の旅路を終えた暁、神に忠実な者を待つ真の故郷――〃眼も之を見ず耳も之を聞かず人の意にも上らざりしを、神己が霊をもつて我等に之を顕わし給いし天国――をしみじみと懐しんだ。〃天主、彼等の目より涙を悉く拭去り給い、此後は死あることなく、悔みも叫びも苦しみも更に之あらざるべし〃とのこの世からの解放は、考えるだに私を喜びにみたす。斯く得もいわれぬ幸福な身分をもつ人間にして真面目に人生について考える人のどうしてかく少ないのであろうか。この車中の人々はきつと各自旅の目的をもつている。それなのに大切な人生の終点、人生の目的を認識している人は幾人いるだろうか。〃主よ聖国の来らんことを！〃汽車は西へ西へと進んでいる。私はこの世の試練の後、深い静かな永遠の休みに入る日の、さつきと違つた喜びを感じ、我が中に在す神に感謝を捧げた。そして自分の永遠への歩みはどうであろうか、とひそかに目を伏せて、車の一隅にて黙想すると共に、人々の救霊のために祈るのであつた。

折れた万年筆

A　生

勤め先きについて、鞄を開けた私は思わず小さな驚きの声を出してしまいました。アルミニユームの固いおべんとう箱と厚い数冊の本の背にはさまれて私の黒い万年筆がキヤツプをはめるネジの所からものの見事に折れてしまつていたからです。もう使う事も出来なくなつた万年筆を手にとつて、自分の不注意をあやまりたい様な気持でしばし物いわぬ万年筆をみつめてしまいました。

私は今でもそれを買つた日の事をおもい出せます。大学一年に入学して、何かの事情で手に入つた二千円程の金を手にして、戦後はじめて売り出した金ペン付の万年筆売場に入つて行つた私の姿、いつもなら店員さんのさし出す最初の品を調べもせずに買つてしまう私が何本も何本も外見を調べ、ペン先を試み、あげくの果にどれが良いかわからなくなつてしまつて途方にくれてしまつたこと、家に帰つてからも少しでもインクの出が悪くなるたびに買い損なつたのではないかと気に病み、電車に乗る前に、そして、降りてから一々胸に手を当てて固い感触に安心したこと。貧しかつた私にとつて金ペン付の万年筆は唯一の財産だつたのです。神さまもそんなに迄いぢらしい私をさぞかしかわいそうに思われたのでしよう、それ迄はいくら買つても失くなしてしまう位万年筆に運のなかつた私が大学四年間の膨大なノート整理に使つてもインクもれ一つせづにすんできました。

大学をおえて就職しまがりなりにでも自分でお金をとれるようになるとそんな気持も次第にうすれて、やれセビロだやれ靴だと新奇な物を求める様になりそれにつれて万年筆も胸のポケツトからいつしか鞄の中に投げこまれ、それも場合によつては幾日も手もふれられずにすごす様になつてしまつたのです。

折れた万年筆の残骸を手にした時、私はそれがうつり気な私の気持をせめている様な気がしてなりませんでした。人間は誰れでも新奇なものを大事にするものです。でもなれるに従つていくらそれが高価なものであつてもあまり気にしない様になります。それはそれで良いのでしよう。あまり神経質になつては暮らしていけませんから。でも私達はたとえば親子、夫婦、兄弟、師弟の間に於ける愛情の奉仕等について少しなれつきりになつてしまつているのではないでしようか。そして、それ以上に告白、御聖体等の秘蹟の尊さを忘れてしまつているのではないでしようか。

短　歌

山　丈　二

山肌は道にけずられ目にまぶし
　光ただようここの真名子は
脊をこえるかやくぐぬけ登り来し
　深江の山は秋立ちにけり
左手の見上ぐる山は杉きそい
　その先の空青すきとおる

ぶつく　がいど

修道誓願の尊崇

ルイ・コラン　著
カトリツク文化研究所　訳

修道誓願の尊崇、それは一般信者には何のかかわりもない書物ではない。イエズス様は、我々が、天父の全きが如く全からんことを望み給うた。たとえ、修道者の生活をそのまま行うことができなくとも、少くともその精神は有したいものである。

今この書の全貌を紹介することはできないが、その一部を、特に清貧の誓願についてとりあげながら一緒に考えてゆきたいと思う。現代は快楽主義の時代である。いつの時代にもこの傾向は人間の中にあるとはいえ、特にこれが無軌道に行なわれている我が国に於ては、清貧ということは最も必要な精神であると思う。

清貧とは、何も持たないことではない。もしそうだとすれば乞食は皆清貧であろう。たとえ王侯であつても、自己の所有物に執着していないならば、立派に清貧でありうるし、乞食とても、その所有欲にみたされているならば、清貧の精神から相距たること遠いのである。とはいえ、清貧には物質的欠乏はつきものである。それ故何不自由のない生活をしている人でも、自分の所有物に執着することをさけて主に於てのみ貧しくあるために、自発的に欠乏の状態をつくりだすのである。

持てるものにして、貰わざりしもの何かある。我々が所有しているものは、すべて神からの頂きものである。究極的には神に属するものである。その意味に於て、清貧は真理であるといつてよい。傲慢はすべて、自分が何かを所有していると思うところから生じ、謙遜はすべて、自分が何も持たないと認めるところから芽生える。己の虚無に徹してこそ、おのずと礼拝の精神も出て来るであろう。

御誕生において貧しく、十字架において最も貧しくあり給うた主イエズス、キリスト。貧しいことは人間の自然性にとつて嫌なことである。金に不自由して生きることは金がものいう此の世の中では、いかにわびしく苦しく、首をくくりたいような思いをせねばならぬことか。だが主の祝福し給うのは、そのような貧困ではなく、それに対する自発的愛である。金がないために、買いたいものも買えずに辛棒しなければならないし、欲も制しなければならない。金さえあれば解決する問題も、それがないために無数の嫌な結果をうけねばならない。世俗の精神からは、貧しいと馬鹿にされ、能力が足りないと軽侮される。そのような状態にあつても呟かず、それを主にあやかるための手段として、甘んじて受けること、そこにこそ主の祝福し給う清貧がある。清貧こそは諸徳の源であり、その守護者である。

裸となつて裸の主に従うとは聖イエロニモのモツトーであつた。裸となつて、地上の一切のものを糞土の如く見なしうるのは、神を知るものの有難さである。この時にこそ、貧しくありながら富んでいるとの逆説的な表現が用いられ、この時にこそ幸なるかな天国はおまえのものであるとの、主の御言葉を自分の耳下に、しかと聞き得るのである。

（四〇〇円、中央出版社）

（下）

SSD
コンサイス英和辞典　380円　革500円
コンサイス和英辞典　350円　革470円
辞書は三省堂
新版　広辞林　1200円
チエルテナム
メチウム
明解国語辞典　380円
SSD

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価一部十円

教皇、中国の聖職者・信者を激励し給う

迫害のうちに堅忍不抜たれ

晴雲に包まれた中国

中国におけるカトリツク教会は前教皇ピオ十一世の希望通り、多くの司祭、宣教者たちの努力により、幾多の障碍をのり越えて、すばらしい実効をあげてきた。最近予が中国の司教制度を確立した時にも（中国人の枢機卿が任命された時）イエズス・キリストの王国の拡大への広い道が開かれるのを前途に展望した程である。

しかるにそれから数年たつて、一天にわかにかきくもり、多年にわたつて栄えてきた中国の教会の頭上に、悲痛な時が訪れた。大司教や司教、教皇庁公使をふくむ多くの宣教師たちは、国外に追放され投獄され、あらゆる抑圧や苦難を蒙つた。

非難に対する反駁

われらは一九五二年回勅を発して、宣教師は特定の国民の利益をはかるものではなく、世界各地から渡来し、ただ神の愛によつてのみ結ばれている人々であるから主の王国の拡大以外の何ものをも求めるものではないことを述べた。

それから約二年おいて、中国の教徒に向けられた非難を反駁してカトリツク教徒はその祖国愛と忠誠において何人にも劣るものでないことを、公けに宣言した。またいわゆる「三自律思想」はその考案者が考えるようなものである限り、その理論においても、その実際的結論においても、それは教会の本質的一致から人心をはなすものであるから、カトリツク教徒はそれに賛同できないことを警告した。

愛国心の美名のもとに

ところが中国の情勢は、謀略や欺術によつて益々悪化し、まちがつた思想は、いまや最終段階に近づきつつある。なぜなら特に巧妙な術策によつて、中国に愛国と名乗る一団体が組織され、カトリツク教徒は極力この団体に加入するようあらゆる手段がとられている

愛国心という美名をかりて、この種の団体は、カトリツク教徒が次第に、無神的唯物論の思想をいだくように狙つているのである。また平和擁護という美名の下に、司教のみならず教皇庁そのものに対しても、疑惑の念を喚起し、あたかも教会は、世界支配の野望をいだき、人民から血税をとりたてることに加担し、ついには予定の計画にもとずいて、中国人に敵対行為を示すかのように中傷をあびせかける。

基本的人権の無視

かれらは宗教においては完全な自由をもつことが最も肝要なことであり、またこれは、教会と国家との相互関係を容易にすると宣言しながら、その実は、教会の権利を排除し無視して、教会を国家に全く屈従させようとしているのである。即ち聖職者や一般信徒が正当な司教につくすべき服従心をさまたげて、教皇庁から分離されたカトリツク教徒団体のみを認めようとしている。

かれらはこの原理を徹底するためには、暴力や迫害をいとわず、無数の大会や集会への参加を強要し、幾週間も幾月も、同じような講義や討論の連続で、知力意力をすりへらさせ、いわば精神錯乱的方法で賛同がもぎとられる。

これらの暴行は、基本的人権を侵し、神の子らの神聖な自由を害するものである。

真の平和

愛国心という美名を独占しようとするこの団体の利益を増進したい人々は、美辞麗句をつらねて平和のことを語り、平和確立のため全力をあげるようにカトリツク教徒にも戒告する。これらの美辞は表面上は、すぐれた正しい言葉である。平和を招来し確立すべき道程を準備する人こそ、最も称賛に価するからである。しかし平和は言葉だけにもとずくものでない。

真に平和という名に価する平和は、愛と正義との原理にもとずくものである。教会がその樹立を望んでいる真の平和は、安定・正義・民族などのすべてを、また第一に最高立法者たる神の権利という堅牢な帯で、ついで相互的兄弟愛と協力との帯で結合する正しき秩序に、立脚するものである。

同情と祈り

抑えがいた同情の一念から、いかに親愛の心をこめてわれらが諸君に近づくかを、ここに披瀝することをゆるされたい。諸君の心身をやつざきにするこれらの苦難、とくにキリストの最も勇敢なる証人たちの蒙りつつある苦難が、われらの念頭をはなれない。すべてこれらの苦難を、われらは日々祭壇において救い主にささげ、全教会の祈りと苦難とも、これと一諸にささげるものである。

堅忍不抜たれ、そして「思い煩うところを悉く神にゆだね奉れ、神は汝らのために慮り給えばなり」とある通り、神に信頼をよせ給え。神は諸君の苦悩苦難を明らかにみ給い、司教・司祭・修道者・一般信者がひそかに流す涙と悲しみとを嘉納し給う。

× × ×

われらはこの希望に勇気づけられて、諸君ならびに諸君に託された信徒の群に対して、神の賜物のきざしとして、またわれらの特別な親愛の情をこめて、主において教皇掩祝をおる。

聖ペトロのローマより。教皇登位第廿年、一九五八年、六月廿九日、聖ペトロ・パウロの祝日に

教皇ピオ十二世

（本稿はカトリツク新聞第一五七二号よりの抜粋）

王たるキリストに光栄と讃美

世の光

御摂理

〃御摂理のはからいにあやまちなき主よ、願くば、有害なるすべてをわれらより遠け、有益なるものをわれらに与え給え〃

（七月の一主日の集禱文）

教会のこの公式祈禱は、天主の御摂理に対する伝統的な信仰宣言である。

すきとおるような洞察と、平安にあふれた委托を、これほど短的に表現した祈禱文はめづらしい。

信者がこの祈りをとなえる時には、抽象の世界で取りあつかわれる摂理の論議など、その念頭から消え去つて、現実の世界にこそ摂理の主である神の御手のぬくもりを感ずるのである。

およそ、摂理に対するこのような感覚は、信仰者でなければ理解しにくいものを含んでいる。

苦しみの中から、信者が自分につぶやく言葉、「天主様のおはからいだ」というのは、不信者には無気力なあきらめにひびくものであるが、それはもっと積極的な何ものかである。気休めにそう言つたとて、なまな苦しみが消え去るものでない事はたしかであろう。救主が苦難の園で祈られた、〃わが望のままならで、おぼしめしは行われかし〃（マテオ二六）の精神を神秘的に生きる時間なのである。

又よろこびに心が軽い時、「天主様のおはからいで……」と言い得る時にも〃然り、父よ、おんみこそかく望み給う〃（マテオ十一の26）との主の祈りの再現なのである。

この二つの主の祈りこそ、摂理のすべてを掌中に持つていられる天主の御子の実感より出たものである。

創造主なる天主の主宰は現実の世界で行はれる。御摂理の道は具体的な形を取つて被造物の内からも外からも、おごそかに働くのであるが、摂理についての抽象的な思想しか持合せない人間は、ひとりよがりな想像の中に、人間の了簡を基盤にした具体的な摂理を予想しようとして、そのくいちがいにつまづいてしまうのである。

非現実の予想を、現実の世界にのぼせる事が出来るのは創造者の全能なる御意志だけである事に気づかねばならない。実に、天主さえお望みならば、奇蹟さえも摂理の道に加えられるのである。

もともと、天主の摂理とは、その主宰の遂行の事であつて、二つの事を含んでいる。即ち第一に、各被造物に特有の目的を与えること、第二に、この目的に向つてそれ等を指導する事である。

第一の場合には、被造物のおのおのに与えられた特性が、保持され、本性の内部に於て自主的に目的へおもむく力も保持される。第二の面では、造被物の環境を整えて目的へ至る具体的な指導となつてあらはれる。しかも、その指導技術は、完全な教育者のそれの様に、天主の力強い御智恵と、優しい愛の雰囲気でなされる事をさとらないものに、摂理を云々する資格は見とめられない。

〃天主の智恵は、力強くて極より極におよび、万物を優しくととのえ給う〃（智書八の1）

〃天主を真に愛するものには、万事が働いて、彼のために益とならぬものがない〃（ロマ八の28）

信者は摂理の問題に関して、奴れい的な制約を感ずるのではなくて、天主の家の子の父のもとにおける自由を謳歌するであろう。

この家長は、子供達に自分の計画を明かされる。摂理は間違いなくこの線に沿つて展開される。人間の救霊に関するあらゆる啓示が父からの愛の秘密なのである。信仰は、父に向つて、〃然り父よ、おんみはかくかく望み給う〃……〃然あれかし。アメン〃ととなえる子供の雀躍りなのである。彼等は基盤にむかつて必勝の定石を教えられたものの安心感をもつて、勇敢に人生の戦いに布石していく人の様である。

積極性を失う危険は、とりもなおさず、思想の型骸だけを頼りに怠惰な安息を夢みる人のためにだけあつて、そこでは天主に対する愛の片鱗もない。

天主は単なる思想ではなくて、慈愛の父である。そして、その摂理を語るものはよろしく、地上の出来事の中に、彼の慈愛をよみ取るべきである。

「天主様のおはからいだ」と云う時に、感謝と信頼の念をこめて言えるかどうかを調べて、私たちのこの道における道しるべとし度いものである。

（伊東）

◇

◇

永久聖体礼拝　十月

第一日曜　呼子教会
第二日曜　崎津教会
第三日曜　臼杵教会　カルメン会
第四日曜（最終）　高宮教会　手取教会

祈禱の使徒会　十月

【一般の意向】旅館、飲食店等の従業員

今日では旅行は日毎に盛んになり、公用や商用また科学の研究のためだけでなく、慰安の旅に出かける人の数は、年々増加の一途を辿つています。

従つて観光事業はますます発展し、それと同時にこの仕事に従事する人も夥しい数に上つてきました。しかしこれら人々の信仰生活はどうでしょうか。ことに海や山の行楽地で働く人々、ホテルや飲食店の従業員たちは、日曜日は却つて平日よりも忙しく、主日の務めから遠ざかり、道徳的にも危険な環境におかれています。

【布教の意向】邦人司祭養成への協力

多くの布教活動の中でまず大切なことは、その国で働く司祭の養成です。教皇も度々回勅を通して司祭の召命の増加を切望しておられる。なぜなら神の国の拡張は、まず聖なる司祭が多く出ることによつて達成されるからです。信者は自分の力に応じて協力しなければならない。私たちは祈りと働き経済的援助によつて、邦人司祭の養成のため熱心に協力しなければなりません。

【布教委員会の意向】ロザリオの共誦と積極的愛徳の実践

十月　ロザリオの月

一日（水）　雙葉学園で司教ミサ

二日（木）　守護の諸天使の祝日

雙葉学園創立記念式（司教列席）

三日（金）　**幼きイエズスの聖テレジア童貞**

テレジアの「小さき道」とは努力のいらない、やさしい道であると考えてはならない。キリストと共に苦しむ熱望、剛毅の精神なくしては進むことができないものである。

四日（土）　アシジの聖フランシスコ証聖者

五日（日）　聖霊降臨後第十九の主日

〃古い人間を脱ぎすてよ〃自分の生き方、自分の主義、自分の性格、自分の善意に対してさえも執着してはならない。キリストとの真の一致に達するためには。

那珂町教会で堅振（午前九時）

七日（火）　**童貞聖マリアのいと聖きロザリオの祝日**

ロザリオを誦えながらキリストの玄義を黙想する。この玄義に隠された聖寵は、実にロザリオを以て聖母のお取次によつて与えられる。

教区司祭月例集会の日

十一日（土）　天主の御母なる聖マリアの祝日

聖マリアの最上の称号を讃美する。

十二日（日）　聖霊降臨後第二十の主日

生涯各瞬間を善の実行のためによく利用せねばならない。この瞬間が永遠を得させてくれるのであるから。

古賀教会で堅振

十三日（月）　**茶山教会でファチマの聖母像祝別式（司教司式）**

十五日（水）　アヴィラの聖女テレジア童貞

十八日（土）　福音史家聖ルカの祝日

十九日（日）　聖霊降臨後第廿一の主日

布教の日

ルルド百年記念司教荘厳ミサ（於別府教会）聖体行列（於別府明星学園）大分地区信徒布教大会

廿日（月）　カンチオの聖ヨハネ証聖者

廿四日（金）　大天使聖ラファエルの祝日

廿六日（日）　**王たるイエズス・キリストの祝日**

聖霊降臨後第廿二の主日

政治、経済、教育そして日常生活の一切がキリストの精神によつて生かされる時、キリストは真にわれらの主にて在す。この理想への道は遠くても、それに向つて常に努力してゆきたい。

久留米教会で堅振

廿八日（火）　聖シモン、聖ユダ両使徒の祝日

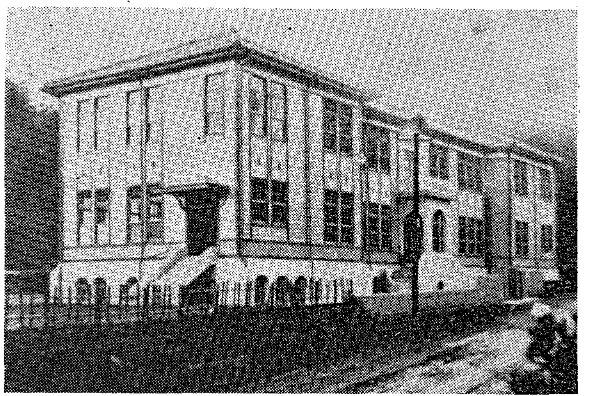
福岡雙葉学園
創立廿五周年を迎う
新校舎落成を期して祝典

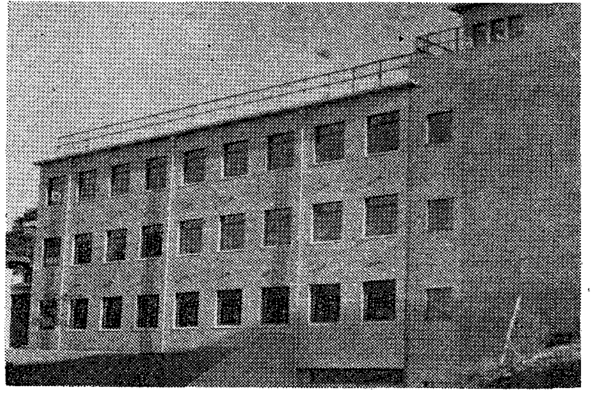
福岡市御所ケ谷の雙葉学園では創立廿五周年に当り、十月二日（木）深堀司教、サンモール日本管区長メール・エンマヌエル童貞ほか教会および官庁関係者、父兄ら多数の出席のもとに記念式典を挙行した。これにさきだち九月廿五日（木）新校舎の祝別式が深堀司教によつて行われ、十月一日(水)には在校生のため講堂において司教ミサが献げられ、四・五の両日には文化祭とバザーが開かれた。

福岡雙葉学園は女子教育を目的とするサンモール修道会の経営で（総本部はパリ、日本本部は東京）昭和七年十月ゲブリアン福岡小神学校として建てられた校舎をゆずりうけ、翌年二月女子商業学校（乙種実業学校）として文部大臣の認可をとり、四月から開校。初代校長はメール・セン・シユヌヴイエール童貞。当時修道女は四名、俗人教師は六名、生徒数八十八名であつた昭和十一年に甲種実業学校となり戦後、福岡雙葉高等女学校と変り廿二年には中学校をも設置、廿六年学校法人福岡雙葉学園と改称され、廿九年には幼稚園、小学校をも含めて、ついに幼―小―中―高の綜合学園となつた。

「その間昭和十五年メール・セン・エンダ童貞（現福岡修道院長）十八年に小野敎氏（現京都洛陽学園副校長）廿四年にメール・エンマヌエル童貞がそれぞれ校長に就任卅年十一月以降はマダム・セン・ピエール童貞がその重責に当つている。

この度新築された校舎は鉄筋コンクリート四階建、延建坪五三四坪で、外部は人造力洗い出し内部廊下はテラゾー。十二教室（うち普通教室九、特別教室三）を含んでいる。建築担当は大林組。（写真上は創立当時の校舎、下は新校舎）





台風廿二号の犠牲者のために

去る九月廿六日東日本一帯をおそつた台風廿二号によつて災害を蒙つた同胞に、救援の手をさしのべるために、只今、福岡・宮崎両教区では、各教会単位で義損金ならびに救済物資を集めておりますので、信者各位におかれましては、この運動に厚く御協力下さいますようお願い申上げます。

一九五八年九月廿八日

福岡 司教
宮崎教区長 ドミニコ　深堀仙右衛門

米カトリック婦人会
司教館を訪問

板付キャンプ所属の米軍家族のカトリック婦人で結成されている天の元后会のメンバー十七名は、軍隊附司祭ネイル・オツコーナー師と共に、九月十二日福岡市内の各教会を訪問ののち、司教館で深堀司教に敬意を表した。司教館では映画「光をもとめて」を鑑賞。ついで浄水通教会で司教司式の聖体降福式にあずかつた。（写真上は司教館を訪れた天の元后会員）

馬渡島教会にも
ホーリー・ネーム会員ら廿二名

同じく板付キャンプのホーリーネーム会員（男子のみ）十五名と天の元后会員四名は、九月廿日オツコーナー師、平田勇師、ラバレ師と共に佐賀県の馬渡島教会を訪問折から開かれていた海の星小学校の秋季運動会に姿を現わして、「魚つり」に興じ、育児院などを廻つて午後三時貸切の便船で帰福した。

武雄市に新教会
主任にガザルディエ師

温泉町として有名な佐賀県武雄市の大字富岡にこの度待望のカトリック教会が誕生。去る九月廿三日秋分の日に深堀司教により祝別され、イエズスの至聖なる聖心に奉献された。祝別式にはミラノ外宣会日本管区長サルデイ師、年默想中の同会佐賀地区の全司祭、市助役ら地元有力者、佐賀県の信者百数十名が参列した。

武雄教会にあてられた家屋は杵島炭坑の前社長高取氏の別荘を購入したもので、建坪一四六坪の純日本様式。床の間に祭壇がおかれた外は何等手を加えられていない。国鉄武雄駅から徒歩三分の高台に位置して、神の家にふさわしい。敷坪六八一坪。

新小教区に所属する地域は、武雄市を中心に杵島郡の一部で北方町大町町、塩田町、山内村などを含み、信者は約五十名。主任司祭はこれ迄佐賀教会助任であつたガザルデイエ師。

グリーフイン師
豪洲へ

水俣教会主任トーマス・グリーフイン師（聖コロンバン会員）はオーストラリアのメルボルン大司教区内に滞在するアジア留学生（大部分はフイリツピン人、ごく少数の日本人）の団体の霊的指導司祭に任命されたので、来る十月十四日羽田発で新任地に向う。ニユーマンクラブに類似したこの団体はすでにシドニー大司教区に創立され、六千名のメンバーが数えられている。

グリーフイン師はニユージーランド出身。一九四八年来朝後和歌山教会をへて水俣教会主任となつた。尚ハンター師（熊本地区長ハンター師の令弟）が主任代理をつとめる。

司祭異動

日本語学校　シユナイダー師
任高宮教会助任
水俣教会主任　グリフイン師
任帰国
ハンター師
任水俣教会主任代理
日本語学校　ローヤー師
任那珂町教会助任

コロンバン会
管区長来福

六月末聖コロンバン外宣会の日本管区長に就任した、ヘンリ・オドネル師は九月廿二日来福。三週間の予定で熊本県下の各教会を視察する。

日田教会で聖母行列と慈善音楽会

大分県日田教会では、ルルドの聖母御出現百年祭を記念して、聖母被昇天の大祝日の夜に聖母行列を行つた。当夜は午後からの雨が遅くあがつたため最初の予定であつた玖珠川での屋形船を使つての行列をとり止め、各戸提灯を手にして聖母の御像を中心に主任司祭マンガネリ師の指導のもとに、信者、求道者、幼稚園々児と父兄たち約二百五十名が繁華街を讃美歌ロザリオをたからかに唱えながら進んだ。

同教会はこれより先に、百年祭行事の一つとして慈善音楽会を催したが、主任司祭自らの独唱のほかに、鳥栖教会のサルヴイ師の独唱などもあり、又器楽合奏、幼稚園々児の遊戯などあつて盛会であつた。

ファチマの聖母像祝別式

この度一米軍人の御好意によりまして、当教会の境内にファチマの聖母像が建設されました。つきましては左記の通り祝別式を行いますので、多数御参列下さいますよう御案内申し上げます。

記

一、日時　十月十三日（月）ファチマの　聖母御出現記念日午後六時
一、場所　福岡市田島茶山教会
一、司式　深堀司教
一、式次第　聖母像祝別
聖母を讃えるローソク行列
聖体降福式

以上

一九五八年十月一日
茶山カトリツク教会主任　棚町正刀

コングレガシオン・ド・ノートル・ダム
総長戸畑へ
修院・明治学園を視察

戸畑市中原の明治学園を経営するノートル・ダム修道会（本部カナダ・モントリオール市）の総長セント・マリー・コンソラトリス童貞は日本の諸修道院を視察のため副総長セン・ジヤン・ドミニツク童貞をともなつて八月廿六日来日したが、九月廿日〃かもめ〃で西下門司駅で戸畑修道院の修道女と学園生徒たちに迎えられた。

尚、深堀司教は神戸からの帰途隅然同一列車に乗り合わせた

セント・マリー・コンソラトリス童貞は一九五二年総長就任。カナダ、米合衆国、日本で教育事業に当つている同会修道女数は三、五二〇名生徒数は九五、〇〇〇名。わが国では福島市で桜の聖母学院短期大学と桜の聖母学院（高、中小）を、戸畑市で明治学園（高、中、小）を経営。尚東京都調布市にも修院がある。

（写真は門司駅に着いた総長一行と出迎えの人々）

聖小崎育児園におてつだい
明治学園生徒卅五名

戸畑明治学園高校二年生卅五名は、七月廿一日から八月卅日までの四十日間、六班にわかれ、一週間交替で黒崎聖小崎育児園に奉仕。泊りこみで早朝のミサから、夜の就寝まで子供たちと生活して有益な休暇を過した。

佐賀教会信者
川上河畔にキャンプ

佐賀教会では今夏二回にわたつて勝遊の地、県立公園川上河畔でキャンプを張つた。第一回は七月廿六、七日、第二回は八月廿三、四日、何れも土、日曜両日、好天に恵まれて盛会であつた。参加者はそれぞれ約廿名で、土曜日の午後天幕、炊事用具などを自動車三台に満載して現地に到着、天幕を張り終えると一同思い思いに魚釣りに興じたり、スケツチを楽しんだり、或る者は泳ぎに涼を求め、さては碁に熱中して日頃の煩さを忘れ、夕食には心尽しのカレーライスに舌鼓をうち、夜は西瓜割りキャンプファイヤー、讃美歌の合唱などなごやかな集いであつた。

翌日曜日にはロツキー師がミサのためにキャンプ場に出張。青空のもと朝日をうけて敬虔にミサを拝庁。朝食は神父をかこんで和気あいあい、夕日が西山に沈む頃までつづけられ、来年も是非と別れを惜しみながら家路についた。

（写真は、キャンプ場で日曜のミサにあずかる信者たち）

堅振のよろこび

【水巻教会】九月廿一日(日)
受堅者廿名
【本郷教会】九月廿八日(日)
受堅者十五名、なお司教ミサ後小神学校附の川口康頼師により司祭召命についての説教が行われた。

八巻　頴男著
マシジの聖フランシスコ
￥ 100

イエズスのマリア・ルイサ・デウラルデ著
垂水愛徳カルメル会
パウロ・エグリ　共訳
聖母の愛娘
￥390

モスト著
神の母
―これは私の母です―
￥ 300

志村　辰弥編著
ルルドの出来事
￥ 180

ユニヴアーサル文庫
ル・フォールの名著
新刊発売中
⑭ ピラトの妻
山村直資・吉田　操共訳
一〇六頁　八〇円
⑮ 永遠の女性
山村　直資訳
二一八頁　一五〇円

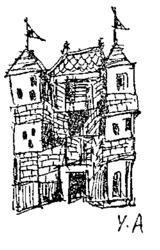
国松・斉藤・三浦訳
何故と問うなかれ
結核療養所を背景に愛と信仰を語った美しく哀しい物語
￥ 三三〇

カヴイーツエル著
斉藤・三浦訳
永遠の誓
不幸な女主人公の苦難の遍歴を描きながら、愛と信仰の問題、それに故郷というもののもつ深い意味、そして結婚の誓いのことを感動深く語ります
￥ 三五〇

ドミニコ会員　渡辺　吉徳著
ロザリオの信心
二四〇円

フイリツパール著
山下房三郎訳
聖母マリアの御像はいづこに
二〇〇円

フルトン・シーン司教著
ロザリオの祈り
￥ 30



「われに従え」⑬

罪・神の愛の拒絶

深堀　敏

（一）現代の最大の罪は、人々が罪の観念を失つたことからはじまつている。（ピオ十二世）

多くの現代人にとつて、罪悪感とは過失に対する病的なコンプレツクス、人間心理に有害な幻影にすぎない。罪悪感をともなわない道徳を樹立すべきだと、かれらはいう。

罪とは何かの正確な答は、理性の光によつてではなく、信仰の光のもとに神御自身から教えられなければならない。

（二）罪を犯した者をキリストの十字架のもとに引きもどすのに、理づめの論証は殆んど何の役にも立たない。われわれの犯した罪の意味は、キリストがそれをあがなうために血を流し給うた十字架のもとにおいてしか啓示されない。

罪の意味がわからなければ、キリストの御托身、御受難、御復活などの諸玄義もまた本当に理解はできない。

御托身は罪人なる人間を御自分に和睦させようとの御働の第一歩である。神と人との間の深い溝はエンマヌエル（われらと共なる神）によつて取り除かれる。十字架での御死去は、従順と愛とのすぐれた行為であつて、アダムの不従順を消滅させるものである。キリストの御復活は、罪とその結果（苦と死）に対するキリストの勝利の記しである。

（三）キリストは罪の現実のおそろしい姿を見きわめておられ、人を罪から解放しようとされる。イエズスがもたらし給うたたすかりの最大のお恵みは、罪のゆるしである。〃これは多くの人のために罪のゆるしを得させるために流す契約の私の血である〃

（四）キリストは罪を審き給う者審きそのものである。

神がその御独子をつかわし給い御子を通じてその愛の御計画を明らかにし給うたのであれば、御子を拒絶するとは、おそるべき向う見ず、弁解の仕様のない不埓というべきである。（ヨハネ、十五の22—24）

キリストにおける神の愛の証明の光をあてられて、罪は遂にその真相をばくろする。罪とは神の愛の御意志に対する憎悪にほかならない。

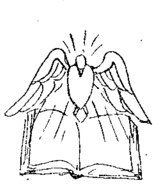
キリストの御来臨によつて、人は今迄とは比較にならない程の聖寵の高さにあげられた。それだけに、この高みから落ちることは、目をおうわしめる惨状を招く。

キリストを拒絶すること以上に恐るべき悪が、ほかに考えられるだろうか。

みんなのための聖書

(25)

救いのよろこび



❶ キリストの最初の信者たちの集りを支配していたものは、よろこびと兄弟的一致という二つの目に見えない力でありました。（使二の44—47参照）たすかりについて語る使徒たちの教えをきくよろこび、洗礼をうけて共同の生活のなかに生きるよろこび、キリストのために迫害を忍びつつ、証人となることのよろこび。このよろこびについては、使徒行録のなかだけでなく、新約聖書のいたる所にみうけられます。

でもこのよろこびは、貧しさや迫害や苦しみのさなかで味あわれたのでありますので、普通の人間感情としてのよろこびとは全く違つた種類のものといえます。

❷ ではどこからこのような深いよろこびが湧きでて来たのでしよう。その源を見出すには、聖書そのものをたどらねばなりません。

これに似たよろこびを経験した者は、エジプトから解放されたイスラエル人でした。長い苦しい沙漠の放浪生活を終つて、約束の地に入れることはかれらにとつて得もいえぬ大きなよろこびだつたのです。長い間渇望していたものが遂に手に入つたからであります。

しかし 寄せては返す 外敵の侵入が 平和と安定をみだし、選民の生活を暗くします。その長い斗争の悲劇的大詰は、五八六年のイエルザレム陥落とバビロンへの流滴でありますが、やがて神は民にまたよろこびを返えし給うたので、新らしい神殿を中心に、かりそめの平和を楽しみます。

でも国民に対する試練は次々と姿を変えておそいかかり、敗北、失望、不安などがかれらを悩まします。この地上のイエルザレムは遂に、どんな人間的救済であつても予言者によつて述られた完璧なよろこびを与えることはできないということを悟るに至りました。自分たちは待望のうちに生きる民であり、そして自分たちが待望しているものは、主の御名によつて来り給うメシア以外にないことを知るのです。

❸ ユデヤ人のこの宿命を眺めることによつて、キルストの弟子たちの小さな団体が、どうして真のよろこびを見出したか、その理由がわれわれにも理解されるのです。かれらは聖霊において洗礼をうけた時、自分らの祖先が約束の地にたどりついた時に味つたと同じよろこびを、心の中にしみじみと感じたのです。それは満ち足りあふれるよろこびであつて、もう何者をも待つことなく、唯一のものを所有したのであります。

❹ 神の御国、霊的御国、ダブイドの王国はその前徴にすぎなかつたものが、実際に建設されその民として受けいれられたのです。使徒たちの団体のよろこびは、実はかれらが、遂にたすかりに達しえたという確信から生れたものであつて、ダヴイドはすでにそのことを予言しているのであります。〃私の心は喜び、私の舌はこよなくうれしく、私の体は希望のうちに休むのである。あなたは生命の道を私に示し、御顔を見せて私を喜びで満して下さるだろう〃（使二の26—28参照）

初秋吟

部屋部屋の灯し子供等に栗を焼く
吾が屋敷芙蓉群らざく向うまで

恵女

大窓に秋山見えて落成す
新涼やフランス調の階降る
病人の気分よき日の花芙蓉

牧泉

明日の日もある安けさに日南ぼこ

冬心

「蟻の街のマリア」を読んで

今村公美

私は今度の英語弁論大会での文章の題材として、「蟻の街のマリア」を選んだ。

先日、知り会いの本屋さんに、頼んでおいたその著書が、今日になつて、届けられたので、すぐ読み始めて、そのかなり厚い本を、一気に読み、今本を閉じたところである。

何というべきであろうか。元来心の冷い冷血漢の私なのに、今は夢中で、何だか急にこの週記に鉛筆を走らせる気になつた。

私は、この中で彼女のことを、しやべれるのを、この上もなく誇りに思う。そして又、これを決して、私の原稿の材料だけには、終らせたくないと思うのである。恐らく、私だけでなく、この本を読んだ時、どんな人でも、その心にキリストの愛の精神を思い浮べることであろう。二千年後の、この混乱した日本で、一人の女性の中に燃え上つた愛のほのおは、世の冷血漢の心を高ならせ、たぎらせ平和の先がけとも、成り得るであろう。

彼女は聖人から生まれた特別の人ではない。私たちと同じ一日本人の女性だ。むしろあの環境に入つて行くには、困難であつたろう。大学教授の令嬢という境遇にあつて、世間の人は、一応彼女にある種の敬意を払つていたろうしおよそ、バタヤ部落の人々とは、縁のないような彼女。しかし、彼女の心に満ち溢れていたものは、ただ同情心だけではなく、愛の心から、わき起る強い勇気が、あつたのだ。又、彼女が、人のために尽す時、命を惜まないということ否、積極的に自分の生命を投げ出して、それとひきかえに、人を救うというキリストの教えに生きようとし、それを遂に実現したということは、どこまでも強い彼女の信仰を感じさせるのであつた。

〃ほほ えみ〃、彼女の生涯のモツトーともされていた言葉、〃Smile〃、なんと、日本語にしても、英語にしても、優しくて、柔和なのだろう。世の多くの人達は、なぜもつと、まず最初にこのことを、実行しないのだろう。もちろん、この「世の多くの人達」の中の筆頭に立つものが、私であることは、いうまでもなく明らかな事である。私の笑顔は、この〃ほほえみ〃であろうか。きつぱりといつて、ノウだろう。心の天気のいい時は、猫にまで、ほほえみかけたくなるが、しかし、これは彼女の言うそれとは違う。悲しい時、苦しい時、その他あらゆる困難の時に、その苦悩を、喜こびに変えようとして、努力をし、その結果、心の奥底から、泉のようにわき出てくるもの、これを、〃ほほえみ〃と定義すべきと思う。この奥底というのは何であろう。私の知り得る限り、それは、「愛」であると思う。実によく分るものの正体であり、又測り知れない神秘の本体、それは、何と美しく、尊く深いのだろう。

【明治学園高等学校生徒】

身辺雑感

親の恩と水の恩

なでしこ

サラサラとお米を洗いながら、流れ出る水に、ふと亡くなつた祖母を思い出しました。

私の祖母は、八十三で亡くなる少し前迄井戸端へ出て、朝の洗顔をする位、元気な人でした。その祖母が、水を使うたびに

「光チヤン、昔からね、親の恩と水の恩はかへされないというがこの年になると、つくづく本当だと思うよ」と、度々もらしたものでした。

親の恩と水の恩　ほんとうだ、空気だつて同じ事、こんな事を思いめぐらして行くと、一番目に見えないで、一番大きい、天主様の御恩、之は限りなく頂いていながら、万分の一でも、おかえしすることが出来るでしようか。

又主を愛するがために、人をもわが身のごとく愛せん。

毎朝毎夕唱えながら、果してどれ丈け、人を愛しているだろうか心を新にして明日といわず、今日から、わが身のごとく、人を愛そう。

自己中心に、おち入り易い、自分の心を、二つに割つて、わが身のごとく人を愛する心を、まん中にはさみ込まなくては、自分勝手が、まん中にのさばつて来る。

天主様、どうぞ、この弱い私をお導き下さいませ。

詩

秋の夜ふけ

しんとして
何も聞えない……。
さきほどまで
夜つゆを求める虫の声が
美しいハーモニーをかもしていた。
今はもうそれもとだえて、
えんぴつの音のみ
他には何も聞えない
いつたい今、何時だろう
だれが……
何をしても
しんとしている秋の夜だ。
ただ…
星の音のしような
またたきばかり。

（澪子十四才）

忘れられたロザリオ

教皇様は今年聖母のルルド御出現百年に当り、すべての信者は聖母に信頼にあふれる強い信仰を新たにするようにと勧めておられる。

教皇様の右のお勧めは正に聖母の御意を現代に新たに伝え、曽て聖母がルルドの洞穴でベルナデツタに 呼びかけ給うた 御声「改心しなさい」「罪人の為に所りなさい」を人の心にこだまして響かしている。御声に聞く我等の心にはロザリオが浮び之を誦うるささやきが聞こゆる。それはその筈である。ルルドの洞穴で始めて聖母に会つた時ベルナデツタはすつかりおじ気ついて他に何することも知らず、その場にひざまづいてロザリオを手に取り誦えだした。すると聖母も右腕にかけていられたロザリオを手に取り一緒にお誦えになつていなれる様子が見られ特に栄唱を一緒に誦えられたのである。この通りにベルナデツタが御出現の聖母に何よりも先に献げたのはロザリオの祈であり、聖母が罪ゆえに亡びゆく人類の上を憐み、その改心を望み給う慈母の御意を、心単純にして謙遜深く信仰厚いベルナデツタに伝え、之と一緒に誦えられたのはロザリオであつた。この事実は、天主の御母聖マリアとロザリオとは切り離せない関係にあること、我等はロザリオに依て聖母に親しく結ばれることロザリオに我等が善に改まるため又罪人のため、ひいては世の救いのために献げる祈りの中でも、聖母の御意に最も適うこと従つて聖母のお取り次ぎのお恵を蒙むるには、ロザリオを誦うるにしくはなしということを我等に教えている。

恩をひそむれば今はすばらしい科学の進歩と同時に神の光は物質主義の暗雲に被はれた暗の中に肉体の崇拝と快楽、生活の安逸のみを追い求むる罪深き世代である。罪深き現代は祈りを大いに必要としている、ルルドの聖母は「改心と罪人のたちかえりを世に呼びかけ我等に祈りなさいロザリオを誦えなさいと勧めていられる。

さて私の忘れられたロザリオは今何処に！　時は十月正にロザリオの月である。心の余りにも奥深い片すみにしまつていたわがロザリオを取り出しませう　―― ポケツトの中のロザリオを手に取りませう。――聖母は御自分のロザリオを右手に取つてあなたが誦え出すのをお待ちになつていられます。

家庭用祭壇（十字架台付）
礼拝台　和洋家具一切

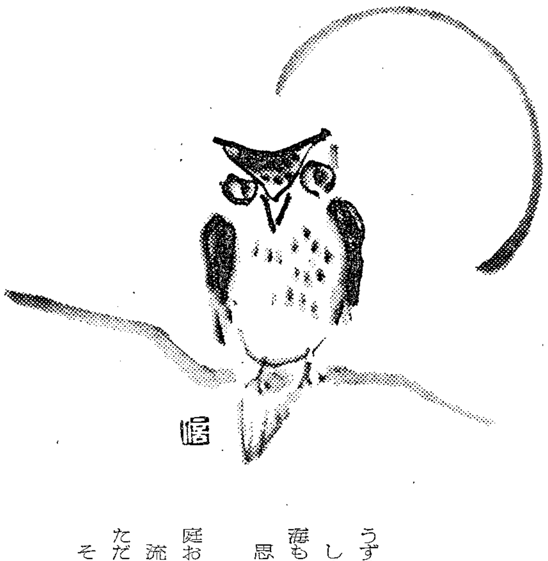
暁の星製作所

福岡市箱崎飛鳥町四一一四

聖心の使徒
九月号

表紙　王たるキリスト（ステインド・グラス部分）
……H・ゼーゲル作
平和の国
十月の意向　求女給—
神の国へ……千葉　大樹
僕は大司教さまになる
……千寿　利久
黙想　真の信者………真田　信男
奇抜な脱走…山際　省吾
信仰と実践　聖人の崇敬…
……塚本　昇次
写真物集　天堂の聖人たち
二十世紀の聖者
ばてれんと茶道……
……原尾　悟
聖書の時間　預言者（下）
…H・チーストリク
ポスト
ラテン語教室……
…J・ベチコフェル

日本祈禱の使徒会発行
一部　¥30　〒5
一年分　¥300　〒5
東京都千代田区紀尾井町七



短歌

庭

二丈

うずくまる石のならびと油土壁の
　しみに声なし夏日ひたさず
海もあり島もくせくる波もあり
　思い呆けてこの庭を見る
（竜安寺）

庭おくの三つの石のたき水は
　流れせかれて白砂の瀬に
ただにただに白き砂のみ目を立てし
　その波がたは海と思えよ
（大仙院）

ポール・クローデル寸描

石　進

ポール・クローデルは一八六八年八月六日（明治元年）エーヌ県ヴィルヌーヴ・シュール・フエール・アン・タルドノワというパリの東北方およそ一二〇キロの小村に生れた。父は登記吏で、一家はそこの主任司祭であつた大伯父を頼りに暮していた。しかし、一八八一年、姉のカミーユが彫刻家ロダンの弟子になつたので、家族はパリに移住し、ポールはルイ・ル・グラン高等中学に入学した。彼が一三才の時である。その後ポールは法科大学に進み、一八九〇年外交官試験に一番で合格したが、学生時代に受けた教育と社会の風潮はどちらかと言えば科学偏重に傾いた自然主義的色彩の強いものであつて、カトリック的信仰に目覚めるに適わしいものではなかつた。しかしポールは、八六年の夏、天才詩人アルチユール・ランボーの作品に接した頃から詩作に対する大きな関心を覚え、やがて、パスカルのパンセ、ボシユエの福音默想録、ダンテの神曲、イミタチオ・クリスチ、アリストテレスの形而上学などを読み耽けるようになつた。だが、彼がそのような傾向を辿るようになつたのは決して偶然ではなく、ある内面的な重大契期があつたからである。それは、後年、みずから述べているように、生涯忘れることの出来ない精神上の大事件が、八六年の降誕祭の際に起つたのである。二五日のパリのノートル・ダムの晩禱式に参列していた彼（一八才）は一種異様なある霊感に打たれた。それはー神がみずからを説明されることのない汚れない永遠の幼児にましますーという信仰であつて、それが何物にもゆるぐことのない強いものとなつて彼の一生を決定したのであつた。

周知のように、その後クローデルは、アメリカ、中国、ドイツ、ブラジル、日本、ベルギー、バチカンと世界の各地を遍歴して長い外交官生活を送つているが、なかでも中国には一八九五年から一九〇八年までの一五年間、日本では大正大震災の前後五年間を過していて、東洋に対して驚くばかりの深い理解と認識を持ち、幾多の著作を書き残している。

今日までわが国に翻訳紹介されている作品はまことに僅少であるが、彼が古今を通じて傑出した西欧の大詩人であり大劇作家であることは多くの識者の一致した見解である。今や彼の存在と業績は揺れないものである。しかし、否、それ故にここに注意しなければならないことがある。それは彼の存在が大きければ大きいだけ、真実の姿がわからくなるということである。中国で領事をしていた頃聖職者になろうとして失敗した彼は文筆活動に自己の使命を見出したと言われる、事実、クローデルの作品には隅から隅まで見えないものの姿がひそんでいてそれが読者を打たないでは置かない。彼は常に神を瞑想し、神と語ることによつて筆を運ばせていたと言われている。われわれはこの偉大な詩人の作品に接する場合彼の示そうとするものをひたすら追い求めて、世俗的讃辞をつつしまねばなるまい。

ー静かに死なせて置いて下さい。私は神様の処にゆくのが恐くないのですからーと言いながら消えるがように息を引取つたこの偉大な人の臨終くらい神を求めて止まなかつた思索と努力につらぬかれた八七年の生涯を偲ばせるものはあるまい。（九大仏文科助教授）

山行き

A・A　鬼木保之

前も後も五ー十メートルしか視野がなく、あとは灰色の世界。少さい水滴が、目の前をよぎり全くの雲の中である。時々雲がきれると、前方にある山がわずか姿を見せ、やがてすつときえる。

砥石山より三郡山の途中で標高八〇〇メートルをこすと、雲にまきこまれてしまつた。

今朝、ふと思い立つて、用意をして家を出た。どこに行こうか、など考えながら。とにかく博多駅まで出る。丁度筑肥線は出たあとなので、その方の山をあきらめ、バスの方を見ると、飯塚行が出かかつていたので、三郡山に行くこととなる。勿論いくつかの山行きの当はあるので地図は用意してある。

この三郡縦走は普通若杉山より入るのであるが、一度ショウケ越まで下るので、折角、上つたのをおりるのは勿体ないと、始めから下ることを倹約して、七曲の下の所から上ることにする。

雲を気に しながら 上る。風は南西。ちぎれ雲が空を相当のスピードで横切る。その度に日がかける。縦走路の前半分、砥石山までは雲がかかつていないが、それから先は雲が下りていて、思いやられる。三郡ー宝満は上の方は完全にかくれていた。

ショウケ越より三角点までは、また天気にめぐまれ、西は福岡方面、東は竜王山より飯塚方面がよく見えた。それが、だんだん高度が高まるにつれて、雲の中に入りこみ、風が強くなるとともに、さつきのべたような、何も見えぬ状景となつたのである。

折角、登つたからには、新らしい景色も見たいし、日頃、眺めてどんな所かと思つている山容もきわめたい。それが何も見えんではすつたりである。

道が急で、岩に手をかけて登る所は、まだ山の気分が出るが、平らな所で、オート三輪も通れそうな所になると、これはふもとと同じではないか。山と下と全くかわらんと云つた気になる。

こんな道をたどつていると、ふと人生もこんなものかな？ と云う考えがうかんだ。

現在おる所より過去はわずかしか見えず、また未来もほんの少ししかのぞけぬ。多分きりのむこうは、日の照つている所だろう。また、山のふもとは日が照つてたらしかつたと、将来に希望をかけ、過去をなつかしみ、現在の苦労多き道をたどつている。

あるいはきりが晴れる時もあろう、その時は、今が楽しい時である。雨がふれば、不幸のきわみかも知れない。

また一段きりが濃くなり、道だけかたどれるだけになつてくる。それに大分つかれて来た。地図の上では、あと六十メートル登ると三郡の頂上と云う地点に来た。一休みとなる。汗をふき、元気を回復すると、再びのぼる。

今、毎日、市内に通勤する行きかえり、朝空にむらさきにけむり夕空に、山かげに黒いひだをおとす、この三郡連山を見る時、またその山嶺の上り下りを見る時、つらかつたこと、楽しかつたこと、景色が見えず、雲中をあるいたことなど、なつかしく思い出すのである。

こんなこと

ルチア

夏休みの或る日のこと、Tさんと私はとある近くの村に一人の身寄りのない貧しい老婆を訪ねることにして意気揚々と出かけたのでした。バスを下りると一面の青田を分けて小石のごろごろした二米位の巾の小道が、向うに見える村の方にずつと延びていました。

〝何といつて入りましようか〟

〝老人に死のことはあまりはつきり云えないわねえ〟

道を歩きながら色々話し合い考え合つているうち、この頃読んだ聖人伝からヒントを得て、私の頭に一つの提案が浮びました。

〝布教成功の為、小石を靴の中に入れて痛さを捧げない？〟

〝ええいいわ〟

Tさんはすぐ賛成しました。しばらく行くと遂にそれらしい家の前につきました。薪の切れ端みたいな表札に名前をやつと読みとると未知の世界に入る様な不安と、何か偉大な事をする時の様な誇りとで胸のときめきを覚えつつ、そつと障子に手をかけました。

〝ごめん下さい〟

ガタガタきしむ障子をやつと開けると、四畳半程の座敷の中央辺にいたお婆さんは力のない不審そうな眼差を二人に向けました。

〝おばあさん、お一人で淋しいでしようと思つて私達遊びに来ましたの〟

お土産のお菓子におばあさんは少し安心したという様に入口に近よつて来ました。敷居を入ると、中は一米位の巾の土間で隅の方にお鍋を載せた七輪と薪が五、六本おいてあります。

〝上らんとね〟

〝いいえここで結構です。〟

二人は力を入れて答えました。というのは座敷に上るのは何か気持が悪いからでした。土間も二人で一パイです。

〝おばあさん、いいお話してあげましようか。〟

二人は早速仕事にとりかかろうとしました。

〝ああ冥土の土産にな、何か話してやんしやい。〟

〝冥土〟という言葉に二人はしめたとばかり、目で合図して、小石の犠牲の効果を感謝しつつ話し出しました。ところがこの時、足にもぞもぞ這い上るものがあります。のみでした。何時も痩せこけた老人と同居している彼等は私達の来訪を大いに歓迎したのでしよう。今こそこのピチピチした足から大いに栄養をとつておこうというように盛んに這い上り刺し始めたからたまりません。

〝神様は私達をお創りになつて…………〟

かゆくて話は上の空です。

〝ありがとうございます。ナムアミダブツ〟

おばあさんは手を合わせて有難がつていますが、二人はもういたたまれません。話を早々に切り上げて這々の体でおいとましてしまいました。

家についた私は、あちらこちら赤くはれ上つた足をメンソレータムでこすりながら、何事も計画をたてたり、云つたりするのは易しいけれど実行するのは難しいものだ。ゼノさんや小さい姉妹方はほんとうに偉いなあと、つくづく考えさせられました。

ぶつくがいど

十字架の聖ヨハネ霊的勧告集

カルメル会訳

決して他人の弱点について耳を傾けるな。もし、他人の弱点について、汝に不平を訴えに来る者があつたならば、それについて何も語らぬよう、謙遜に懇願せよ。

十字架の聖ヨハネの霊的勧告集の中にある言葉。この言葉のみが三六五の断章からなる箴言と勧告集の中に於て隣人に対する愛についての一二六番と沈黙についての二八七番に、二回繰返えされている。偶然か故意にかは知らないが面白いことと思う。実は他人の弱点について耳を傾けることは大変嬉しいことである。霊魂がくすぐられる思いがする。なんという浅間しさ、なんという惨さであろう。人が他人の弱点について話すのを聞くことは愛徳に反しないとでも思うのであろうか、それどころか他人には愛徳にそむかせる恐れがあると共に、自分の心にも愛徳に対してひびを入れせしめることに なるのでは なかろうか。だからこそ他人の弱点について、汝に不平を訴えに来る者があつたならば、それについて何も語らぬよう。謙遜に懇願せよとの言葉がのべられるのである。次の二八八番には人について不平を云うなという言葉がある。よく聞く事柄のように思われるが十字架の聖ヨハネの言葉としてここに置かれると妙に重味をもつて感ぜられる。誰某と一緒に仕事をすることに耐えがたいとか、共に居ることだけでも大きな犠牲であるとか平気で述べられる恰も自分の存在が人に喜ばれて居り自分の談話や仕事が人を楽しませるとでも錯覚しているのであろうか。それは全く他人の愛徳と好意の賜であることには往々にしてちつとも気付かないことがある程とかく我々は自惚れ高いのである。二九〇番には、話すべき必要と理由を超えて、それ以上他人と語ることは、対者がたとえ聖人であつても、決してためにならないという言葉がある。これは少しどうもきびしすぎるように思われる。我々は話すことによつて多くの知識をうける。かえつて用件以外の一見無駄話と思われるもの、中に種々[illegible]ることがあるように思われる。それにもかかわらず、たとえ対者が聖人であつてもと[illegible]いる。これには何か理由がある[illegible]に相違ない。聖人とい[illegible]完全 さはつきまとう[illegible]る。そのような被造物[illegible]があるなら、どうして[illegible]比較にならないほど[illegible]天主と語らないのかと[illegible]あろう。ましてや人と[illegible]よつて多くの知識をう[illegible]いうが、それが一体何[illegible]つのか、というのであろう。

この勧告集の中には[illegible]・キリストの模倣につ[illegible]う項から最後の心の清[illegible]てという項までここに[illegible]ている。今その中の沈[illegible]てという項から思いつ[illegible]二、三を拾つて考えて[illegible]の勧告集に述べられて[illegible]は、あまりに高遠なと[illegible]抱かせることがあるか[illegible]いが世俗の思想や感情[illegible]に何時のまにか沈面し[illegible]ている我々には、その[illegible]りで表明されている真[illegible]理性が清められる思いがする。

（八〇円ドン・ボスコ社）

（M）

SSD
コンサイス英和辞典　380円　革500円
コンサイス和英辞典　350円　革470円
辞書は三省堂
新版　広辞林　1200円
チエルテナム
メチウム
明解国語辞典　380円
SSD

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価一部十円

教皇ピオ十二世聖下の御治政の意味

教皇ピオ十二世聖下の御治政廿年の本当の意味は、どこにあつたのであろうか。

教皇御自身一九五四年のクリスマスのメッセージのなかで（即ち御登位十五年後に）御自分の職務が、奈辺にあるかを述べておられる。今その演説を引用して、〃地上に生きるイエズス・キリスト〃たるの使命を理解するために、簡単に説明することにしたい。

教皇は万人共通の父である。彼は諸国民に天国の世嗣となることを約束し給うたイエズスと、同じ職務をもつている。真の父として子等の苦しみ、高い職務にあげられた者にふさわしい強さをもつて、人類の試練を感じるのである。

教皇はわけても全カトリック者の父であり、霊魂に必要な食物を分け与えねばならない。信者たちが遭遇する種々の障碍を、慈愛をこめていたわり、神は日々の試練を通じて、われらを導き給うことを教えようとするのである。

神が悪を許し給うのは、それから、より大きな善を引き出すためである。このキリストの御教えの重要点を、教皇はたえず経験している。事実、全能の神は人類を悩ます数多くの悪からさえも、善を引き出すことを得給うことを固く信じて、決して楽観主義を失うことはない。

さて、以上のことを考慮にいれて、御自分の治政の深い意味を説明しておられるメッセージをよんでみたい。

〃見よ、我その上に平和の河の如く流れしめん〃。イザヤ予言者によつて告げられたこの約束は、新しきエルザレムである教会において、人となり給える神の御言によつて、神秘的意味で成就されましたが、この約束が今一度、全人間家族の上に、鳴りひびくことを、クリスマス前夜の皆様へのお祝いとして、厚く希望するものであります。世界に平和の河を！　これこそ私が長い長い間、心のなかに抱きつづけた願いであり、そのために心をこめて祈り求めて参りました。諸国民を天国の世嗣に約束し給うた御者の代理者として、全民族の共同の父という、高い恐るべき任務にあげられたその日から、この願いのために献身してきました。

教皇登位以来の過ぎ去つた年月を、私に負わされた普遍的父たるの任務の面からふりかえりますと、神の御摂理は、気長なしかも根気のいる努力によつて、人類を平和の道に導くという特別の使命を、私に委託する御計画であつたと思われます。

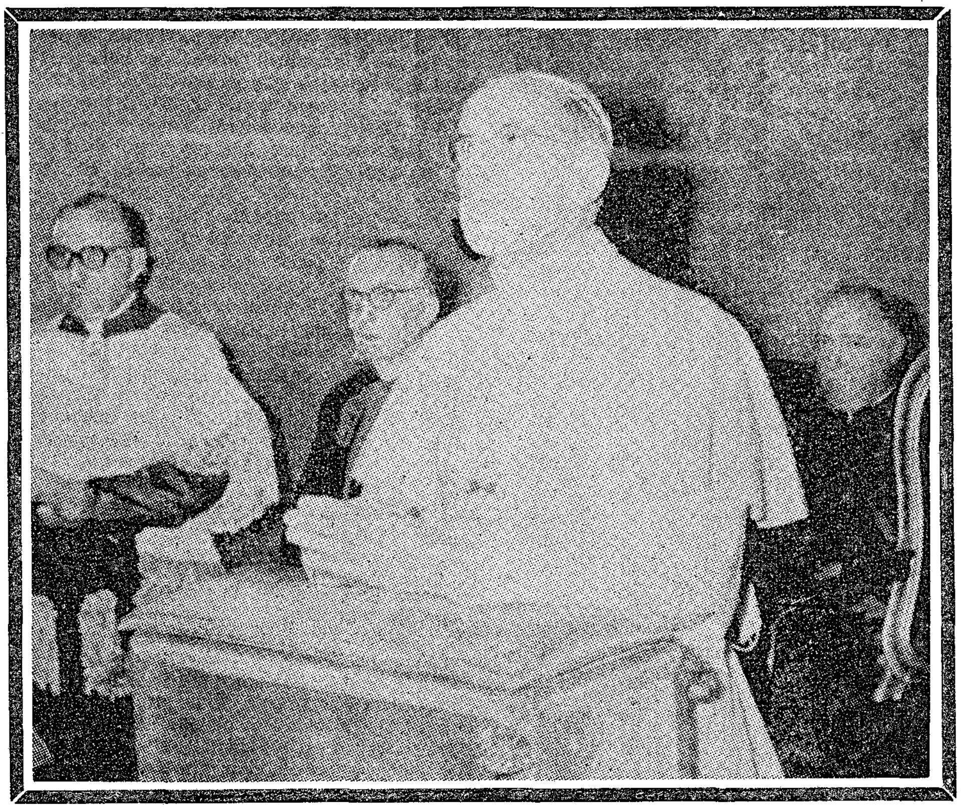
クリスマスを目前にして、平和の王のうまやに近づき、御心にめす献げ物として、手をとり合い、全くただ一つの家族に結び合つた人類を、お捧げするということが私の切願する所でありますが、私の治政の最初の六年間は、武器を手にして、お互いの殺戮に常規を逸した人々によつて、形容できない程の苦悩にみたされていました。

この憎悪と復讐のいがみ合いがおさまつて、できるだけ早く平和のとりきめの時がくるのを、私もまた多くの人も希望していたのであります。所が反対に、冷戦とよばれる危険で不安な状態が、何時終るともなくつづいております。

真の平和と共通したものがほとんどないか、またはあつても極く僅かしかなく、一寸したショックでも破れるような一時の休戦状態に似たものだからであります。

今年もまた贖主のうまやに戻つてまいりましたが、苦悩と不安の悲哀にみちた献げ物をしか、捧げることができませんが、正しい道を人々に示して、平和への勧告をやめない為の必要な勇気をそこにくみとろうとの、強い希望だけはしつかりと抱いているのであります。〃

〃正しい道を人に示して、平和への勧告を止めないこと〃これこそ教皇ピオ十二世の全治政を要約する言葉だろうと思います。



教皇ピオ12世聖下の最後の御写真

去る10月5日正午、ロザリオの元后の聖堂での〝嘆願〟の終りに撮影されたもの。（写真はオッセルヴァトーレ・ロマーノ紙のフランス語版　N.41（460）から転載）

世の光

死の意味

死地をもとめて、雀踊りしながら殉教の国サラセン人の国境まで行こうとした七才の時のテレジアの話は有名である。

幸い、城外に出た処で叔父につかまつてしまつたので、志は果さなかつたが、少女は淡々と自分の行動の申し開きをして云つた〃神さまにゆき会うためには、死ななければなりません〃と。

人々に苦笑を禁じ得なかつたであろうこの子供らしい仕草のなかには、死についてのキリスト教的真理がふくまれている。

そこでは、だいいち自殺者の思いあまつた憂うつさが少しも見当らない。自殺者は、死の中に何も求めようとはしない。みたされない欲求への不満を内向させるだけである。ところが、テレジアにとつて「神さまに行き合う」という明かな意志が、未知の殉教の苦しみさえものともさせない。

この事は子供の浅はかな智慧だと云つてしまえるものだろうか？

人智にとつて、死は謎を含んでいる。

ひとの生涯のはてに、必ず待ちうけているこの現実を憶いながら古人は、苦味にみちたこの淋しい運命を不可解なものと観念していた。このあきらめは死の説明ではない。

科学が、これは、ひとの生命力の限界点での、あたり前の現象に過ぎないと説明したところで、ちつとも私たちを幸福にしてはくれない。

英雄の死をたたえ、よき人の葬儀を花で埋めつくしても、死は愛すべきものとはならない。

人間の本性の中には死に対して宿命的な反撥が脈打つている。

それなのに、〃私にとつて死ぬとは利益を意味する〃（フイリッピ一の22）との聖パウロの言葉は何処から出てくるのか？

〃一粒の麦地に落ちて、死せずば一つのままに残る。死すれば多くの実を結ぶ〃（ヨハネ十二の24）

〃私は復活であり、生命である。私を信ずる人は、死すとも生きるであろう〃（ヨハネ十一の25）

イエズスの御教えは、逆説的な思想の遊戯ではない。死について彼が語られる時、彼は死の真相をその根もとからあばかれる。彼こそは死の原因である罪に対して立てられた唯一の人の子であられた。

原罪によつて人の世に入り来つた死は、彼の御人性にとつても、ふるえあがるようなにが味をたたえていたのである。

〃父よ、能うべくんば、われよりこの杯を取りさり給え〃

〃父よ　なんぞわれを捨て給いしや〃

御苦難の時のこれらの御言葉には罪に対する仕様のない反撥が聖心の中でばくはつしているようである。

私たちが死に対して感ずる仕様のない嫌悪を、御主はその原因である罪に対して、最高の光の下で体験され、そのために、死ななければならなかつた程に、死の苦杯をなめられたのである。

復活は勿論、御自分の権利に属する事柄であつた。

〃私には生命を与える権利がありまたそれをとりもどす権利もある〃（ヨハネ一〇の18）　そして救主はこの復活の権利を全人類のものとして下さつた。

〃子を見て信ずる人々にみな、永遠の生命を得させ、終りの日に私が彼等を復活せしめることが父の御旨である〃（ヨハネ六の40）

「復活につながる死」これが本当の死の意味となつた。

〃主に於て死するひとは幸である〃（黙十四の13）とキリスト者は光栄に輝く面持をもつて死に対面する筈である。

ひとの心を混乱させる死の思想の前にもゆるがない平安を保ちながら、主と共に己をささげる最大の行為を修錬するために「月の静修」と呼ばれる霊的修業がすすめられる。

死を信仰の光の下で默想することは、信仰生活を整えるために欠くことの出来ないものであろう。

死は盗人のようにやつて来る。しかも万人にとつて一度きりの崇高な時間である。人間性の宿命的な恐怖のもとでは、誰も即席でこれに善処する事は不可能と思はれる。

そこでは、罪に対する救世の勝利が、キリストの御苦難の玄義の中で光栄に変化させられる。

聖パウロが「利益」と呼ぶものが永遠に下賜される最上の時である。

実に主に於て死するひとは幸である。　（伊東）

永久聖体礼拝

—十一月—

第一日曜　那珂町教会
第二日曜　大江教会
第三日曜　杵築教会
　　トラピスチヌ修院
第四日曜　琵琶崎教会
第五日曜　玉名教会
　　日向学院

祈祷の使徒会

—十一月—

【一般の意向】　信者の使徒的精神

今日では種々のカトリック・アクションと信者の使徒的活動の範囲が広くなつてきました。カトリック・アクションとは、全人類をカトリック信者とするための活動です。教皇様も平信者の使徒的働きに大きな期待をかけておられます。というのは、現代の複雑な社会情勢のため、教会は司祭の直接の布教だけでは、その使命を果すことができないからです。

しかし布教援助のために司祭と協力して献身的に働いている信者たちは、はたしてしつかりした霊的訓練を身につけているでしょうか。充分な内的生活の基礎がなければ、本当の外的生活はできません。私どもは教皇様の御意向に心をあわせ、今月は特に使徒的生活に必要な内的生活の充実に力を尽しましょう。

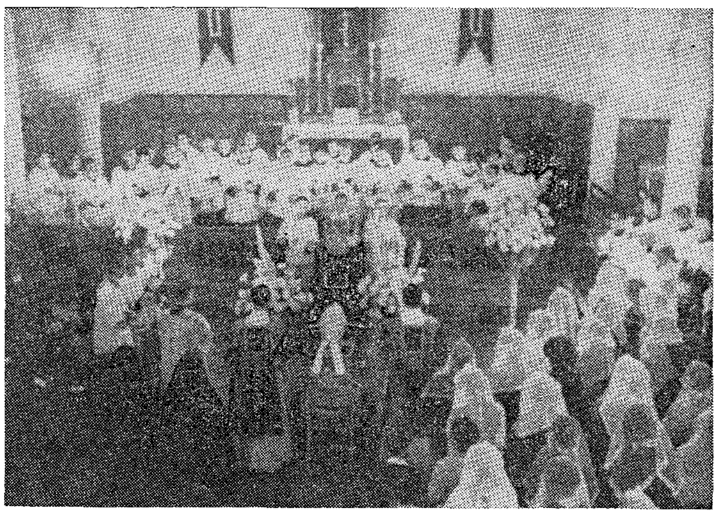
【布教の意向】　南米における宗教、道徳の危機

【布教委員会の意向】　死に臨める信者が終油の秘蹟をうけ、善き最後をとげるため

十一月

煉獄の霊魂の月

一日（土）　諸聖人の大祝日
今日われらは有名、無名の天国の市民を祝いながら、われらが最後に達すべき理想の国を仰ぎみる。
大名町教会で堅振（午後七時）
二日（日）　聖霊降臨後第廿三の主日
世間のことのみを味うものは、超自然のことを味うことができず、キリストの十字架の敵だと聖パウロにはいう。
墓参　（大橋の墓地は午後二時より）
三日（月）　諸死者の記念日
文化の日
われらは平常苦しみの教会の兄弟たちのことを忘れ勝ちである。われの愛はすでにこの世を去つた魂たちにも及ばねばならない。
隈府聖母幼稚園祝別式
少年の町聖堂祝別式
四日（火）　聖カルロ・ボロメオ司教証聖者
ルーテルは教会を改革するとの口実で教会からはなれた。ボロメオは教会とかたく結ばれて、教会の改革事業を進めた。
教区司祭月の集会日
五日（水）　日本の福者パウロ・ナヴァロ等殉教者
九日（日）　ローマの救世主大聖堂の記念日
聖霊降臨後第廿四の主日
救世主の大聖堂はラテラン大聖堂とよばれ、教皇座聖堂であり全世界の教会の母とみなされる。
大牟田教会で堅振と聖体行列
十一日（火）　聖マルチノ司教証聖者
十三日（木）　本渡教会のルルド洞窟祝別式（司教司式）
十四日（金）　本渡市で殉教祭（司教司式）
十五日（土）　聖大アルベルト司教博士証聖者
十六日（日）　聖霊降臨後第廿五の主日
神の御言葉の種子は〃誰にも気づかれないように、人の心にまかれる、患難にめげずこれを育成することはわれらのつとめ
宮崎地区ルルド百年記念祭（司教司式）
十八日（火）　ローマ聖ペトロ・聖パウロ大聖堂奉献の祝日
福岡サン・スルピス大神学校で教皇公使大司教による荘厳ミサ
廿一日（金）　童貞聖マリアの御奉献の祝日
廿二日（土）　聖女セシリア童貞殉教者
廿三日（日）　聖霊降臨後第廿六最後の主日
勤労感謝の日
神の審判は世の終りにおいて行われるに先立つて、すでに今日霊魂のうちで行われている、神を拒絶するものは神に呪われる。
唐津教会で堅振
廿四日（月）　十字架の聖ヨハネ博士証聖者
廿七日（木）　日本の福者レオナルド木村等殉教者
卅日（日）　待降節第一の主日
今日から吾主の御降誕の準備がはじまる。
小倉教会祝別式



教皇追悼ミサ聖祭

各地区でも盛大に挙行

ピオ十二世教皇聖下御逝去の報が伝わると、深堀司教は直ちに教区追悼ミサを十月十七日の午後司教座聖堂に於て挙行し、尚福岡・宮崎両教区の各地区でそれぞれ追悼ミサを施行するよう指令を発すると共に、全聖職者が故教皇の御霊魂の安息のため少くとも一つのミサを捧げ、全教区民が熱心に祈るよう希望した。

教区追悼ミサ

深堀司教司式の追悼ミサは、十七日（金）午後四時から約六十名の司祭、福岡駐在アメリカの領事、芦屋米軍司令官、同副司令官および従軍司祭らの来賓、市内と近郊からの信者多数出席のもとに、大名町教会で行われた。

ミサは、司祭長平田惣五郎師、名誉助祭牧山師と岩永師、助祭深堀師、副助祭川口師が司教をたすけ、荘重な雰囲気のなかで教皇の永遠の安息を求める祈りが捧げられた。故教皇の偉徳をたたえる追悼説教を司教が行つたのち射禱式に移り、各自ローソクを手にした司祭団が霊柩をとりかこんで最後の訣別がなされた。尚聖歌は、福岡大神学生によつて奉仕された。

（写真は大名町教会に於ける追悼祭）

地区別追悼ミサ

各地区は、十月十九日日曜日午後に追悼荘厳ミサを行つた。

【筑後地区】午後五時より久留米教会に於て、青木師司式、竹森、堤両師の補祭、聖歌は糸永師の指揮で太刀洗教会聖歌隊

【北九州地区】午後六時より戸畑教会でデシヤンプ師司式、説教は深堀師。

【佐賀地区】午後四時、佐賀教会に県下の全司祭が集り、市長も列席し、教会は信者であふれた。説教は山田師、佐賀大学の音楽部員がサルヴイ師指揮で二部合唱ミサ曲を歌つた。ミサはNHKによつて録音放送された。

【熊本地区】ハンター師司式、フイツシヤー、カラン両師が補祭で午後七時より、信愛女学院生徒が聖歌を奉仕。ルツター教会の牧師一名、教師二名が参列した。

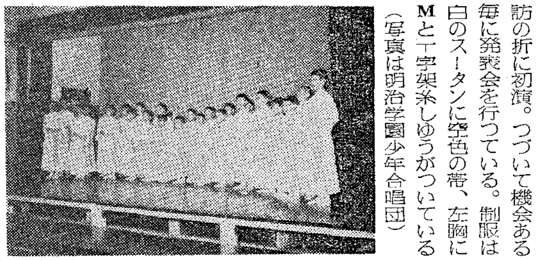
【大分・宮崎両地区】十七日から十九日にかけて、二・三の教会合同で、または教会別に行われた。

◇

明治学園

少年合唱団

戸畑明治学園の小学生男子廿六名で合唱団が結成され、メール・セント・セシリアと来栖先生の指導のもとに練習をかさねていたが先日ノートル・ダム修道会総長来訪の折に初演。つづいて機会ある毎に発表会を行つている。制服は白のスータンに空色の帯、左胸にMと十字架糸しゆうがついている



（写真は明治学園少年合唱団）

ルルド百年記念祭と大分県信者大会

別府教会

宮崎教区大分地区に於けるルルド百年記念祭は、秋晴れの十月十九日深堀司教司式のもとに別府教会で盛大に挙行された。午前十時大分県下の各教会から参集した司祭・信者が聖堂に満ちあふれるなかで、ロザリオの元后を讃える司教荘厳ミサが捧げられた。ミサ後一旦休憩に入り午後二時第二回大分県信者大会が同教会講堂に於いて開かれたが、先づ大分教会所属の福永俊之氏司会の下に聖歌を斉唱、各教会単位に紹介を行い一堂に会した喜びがお互に支流した。

次いで別府教会助任金子師よりアクション・カトリツクについて具体例を引用して講話がなされたが、信仰の一致、教会との一致、愛徳の一致が特に強調された。この時深堀司教が御臨場されて訓話をなされた。

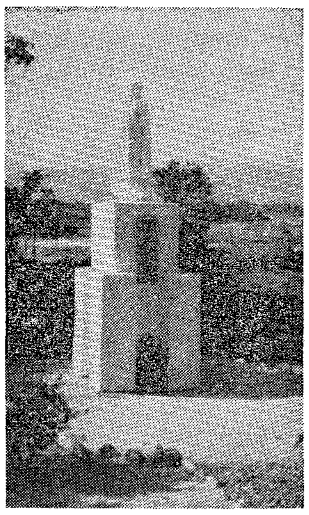
大会は来年度の信者大会開催について討議ののち指導司祭の指示をうけ、本年に引きつづき第三回の大会を持つことを拍手の裡に決議した、尚日程その他は未定である。

次いで十一月一日、二日、三日にわたる連休を利用しての長島巡行の日程、経費その他の説明が行われ、午後三時大会の幕を閉じた。全員直ちに同聖堂に於て司教司式の聖時間に与り、ルルド百年祭にふさわしい静修の形をとつて、午後五時盛況裡に終了した。

尚大在教会、中津教会などは貸切バスで会場に乗り込むという熱心さで、カトリック意識の昂揚に見るべきものがあつた。

茶山にファチマの聖母像

福岡市茶山のカトリック教会境内の一隅に建立されたファチマの聖母像は、聖母御出現の記念日である十月十三日午後六時から、地元および近隣の信者の参列のもとに、深堀司教によつて祝別された。当日は、御像を寄附した板付米軍キャンプ所属のテリエ氏も姿を見せていたが、故教皇の喪中に当つていたため、予定されていたローソク行列をとり止め、御像前で一同ロザリオを誦え、聖堂で聖体降福式に与つた。



（写真はファチマ聖母像）

王たるキリストを讃え四教会で聖体行列

恒例秋の聖体行列は王たるキリストの大祝日を期して、久留米・太刀洗・新田原および人吉など四教会で盛大に挙行された。

まず久留米教会では午前中の堅振にひきつづいて、午後二時から市内目貫通りを通つて聖体行列を行つた。聖体は福岡泰星学園マリア会司祭久松師に奉持され、聖心聖母両幼稚園の園児と父兄ら、大牟田明光学園生徒も参加し、深堀司教は正装で天蓋の前を進み、聖母幼稚園運動場の仮祭壇で青木師が説教を行い、四時半終了した。

太刀洗教会では、本郷教会信者福岡小学校生徒、福岡地行町教会レジオ会員らが地元信者に合流して、約二千名が刈入れをまつばかりの豊作の稲穂の間をぬいながら伊東師の奉持する聖体に心の讃美を捧げ、清心慈愛園前の仮祭壇で福岡小神学校長畑原師が司祭職について説教を行つて、四時過ぎ散会した。

新田原教会では北九州地区の全教会から司祭廿名、信者千五百名が参集して午後二時から行われたルリエ師とベルナルド師にたすけられてデシヤンプ師が聖体を奉持し、中津ドン・ボスコ学園のブラスバンドが行列の先頭を進み、途中二カ所の仮祭壇を通過、福岡小神学校の川口師が説教を行つた。

人吉教会では、八代教会のグリーン師と司教館のラバリ師の応援をえて午後三時から、教会と修道院の間で行われた。朝からの小雨も行列中だけは殆んど止み、幼稚園の運動場で降福式が行われた。

ジャロ師九大で仏文学

戸畑教会助任ジャロ師は九州大学文学部の要請で週一回仏文学を講じる。同文学では三年前からヴアンドリユ師、ベルトラン師、アルツス師らが仏文学を担当し、ジャロ師は四人目である。

ロッキ師賜暇帰国

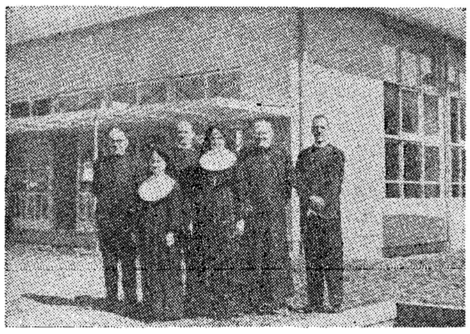
ミラノ外国宣教会佐賀地区長ロツキ師は賜暇帰国で十月廿二日佐賀を出発。十一月十二日横浜から故国イタリーに向う。地区長代理は唐津教会主任スワノニ師。なお佐賀教会主任代理はマーグリン師。ロツキ師は来年十月帰日の予定。

九州代表に今村公美さん

戸畑明治学園高等学校二年生今村公美さんはアメリカン・フイルド・サービス奨学生選考に合格し九州代表候補者としてこの程上京する。

隈府に聖ヨゼフ会

米国カンサス州のワイチタ教区に本部をもつ聖ヨゼフ修道女会は（日本では京都市）、この度熊本県菊池市隈府カトリツク教会隣接の地で幼稚園を経営するため、マチルダ院長（米人）とバーバラ童貞（日本人）を派遣。すでに修道院も幼稚園も完成しているが、幼稚園は来年四月開始の予定。ともに十一月三日深堀司教によつて祝別される。



（写真左からコンロバン会日本管理区長オドノネル師、バーバラ童貞、ベラス師、マチルダ院長、ドノフー師、ハンター師）

マルチーノ師講演

佐賀県鹿島カトリツク教会主任サルバドル・マルチーノ師は去る九月十一日鹿島警察署員に一時間半にわたり修養講話を行つた。尚この講話の速記は納富署長の序文付きでパンフレットに作成され県下の警察署員全部に配布された。

第三回鳥栖合唱団音楽発表会

鳥栖カトリツク教会の主任サルヴイ師によつて今年はじめ結成された鳥栖合唱団では、去る十月十九日、午後一時から三時半まで、第三回音楽発表会を市内専売公社ホールで開いた。指揮はサルヴイ師。ターマーの神とともにいまして、ヘンデルの喜び歌、アルカデルトのアヴエ・マリア、シユーベルトの菩提樹などの合唱曲のほか佐賀旭高等学校の戸山綾子さん（ソプラノ）がシユーベルトの魔王、ヴルディの勝ちて帰れを、佐大音楽部長平野雄三氏がラーフとボルディニのヴアイオリン曲を演奏し、サルヴイ師自身や丸山繁夫氏らの独唱、九楽団の谷口純徳氏によるチエロ独奏もあり、きわめて多彩なプログラムで千余の聴衆を魅了した。尚純利益金はカトリツク貧民救済事業に当てられた。

本渡教会ルルド祝別式 天草殉教祭 御案内

福岡教区司祭・修道士・信者各位殿

此の度、郡市の観光協会の御支援により、本渡教会に大きなルルド洞窟が完成いたしました。

これにつきまして、その祝別式と殉教祭を兼ね左の如き行事を盛大にとり行う事に成りましたので、皆様方には遠路の所誠に恐縮に存じますが、御多忙の方も万障御繰合わせの上御出席下さいますよう御案内申し上げます。

記

（一）ルルド祝別式

日時　十一月十三日　午後五時より
場所　本渡カトリツク教会
式順
1. 祝別
2. 祝辞
3. 堅振の秘蹟
4. 壮厳ミサ
5. ローソク行列（市中巡廻）

（二）殉教祭

日時　十一月十四日　午前九時より
場所　本渡市本渡町　千人塚
式順
1. 祝辞
2. 講演　「天草の乱について」　片岡長崎純心短大教授
3. ミサ
4. 聖体行列
5. 聖体降福式（ルルドに於て）

昭和三十三年十月一日
本渡市本渡町大門口　カトリツク教会
主任司祭　ライル神父

（附）ルルド祝別式及び殉教祭に御参列下さる方々の宿泊その他の件について

1. 宿泊所　後日連絡
2. 宿泊料　一泊二食付　二百円
3. 船の旅費割引（多人数の場合は貸切の船が用意されます）
4. 所持品　祈禱書、聖歌集、ヴエール
5. 当日の聖歌（番号 223 439 267 307 341 348 407 508 552）
6. 十四日の昼食は準備いたします。

宮崎地区ルルド百年祭開催について

日時　十一月十六日（日曜日）　午後三時三十分
場所　宮崎市県公会堂
式順　深堀司教荘厳ミサ　聖母ローソク行列（公会堂―橘通―市役所―教会）

お子様方の最適のよみもの
「少年少女文庫」がNo. 6まで発刊されました。
1°. 日本キリシタン物語　片岡弥吉　一五〇円
2°. ピノキオ　C・コローデイ　二〇〇円
3°. 光の子　宮本さえ子　二〇〇円
4°. 美しき旅　ミルリー・ダントロ　二〇〇円
5°. おとぎのかね　粟林明子　一五〇円
6°. きつね悪知恵　ゲーテ　一五〇円
近刊
小さなヨハンナ
灰色のねずみ

新しい布教材料として
布教便箋ができました
野の百合　25円
いつくしみ　30枚綴
聖画と御言葉がたくみに組合わせられております。
友人に、姉妹にどうぞ
▼教会・修道院関係には十五冊以上御注文の場合二〇％割引

今年は、趣きの変つたクリスマス・カードを輸入しました。
クリスマス・カード
◎十円から各種あり◎
優雅な純日本趣味のカードもいろいろと取揃えてございます。

ユニヴアーサル文庫
新刊
⑭ピラトの妻　G・ルフォール著　山村・吉田訳　80
「ポンショピラトの管下にて苦しみを受け」とすべてのキリスト信者は信仰を宣言する。神人キリストを卑怯にも十字架刑に処した夫を持つ深刻な苦悩！
⑮永遠の女性　G・ルフォール著　山村直資訳　150
存在にまつわる有限の悲しみの中に永遠の光をたたえる女性こそは……「時の中にある女性」「時を持たぬ女性」とを綴る女性論、他の書と並べることのできぬ唯一性を有する作品である
近刊
⑯マグデブルグの婚宴
⑰現代に生きて
⑱フランシスコの立琴
⑲ポンペイ最後の日

教皇様を偲びて

福岡司教 深堀仙右衛門

教皇ピオ十二世聖下逝かれて早くも半月、しかしその御生活、英智深き御言葉は、今に、我等のうちに生きて聞こえる。

世に在りてこれ程広く世界に知られ、カトリック信者、未信者の別なくすべての人、すべての国、民族の父として、これを愛し、また万民から高い尊敬と愛とをもつて親まれた教皇は歴史の上にも稀である。世を去つてはまたこれ程万国万民に惜まれ、全世界に淋しさを与えた人もあるまい。また「人逝いて真の姿現わる」の格言の通りに世に多くの偉大な業績を遺された人類の牧者の真価真相は、その世を去られるや一層大きく、広く世界の表面に浮び出で、世界の心に喰い入るもの あるを覚ゆる。

そのよつて来る所以は、教皇が地上におけるキリストの代理者という聖位と権威にあるはいうまでもないことである、即ちピオ十二世聖下は、救主イエズス、キリストが世に持ち来たり給うた永遠の真理と平和と、人の救霊の御教の誤りなき詮解者、神の啓示の忠実な伝達者、人生に信仰と希望の光を与え、人に神の愛の道を示し、これを守らしめ以て救霊に導き地上に神の平和を打ち立てることに生涯を絡始されたのである。一言にしていえば永遠の生命をさして進みつつある人類の善き牧者、また案内者として生涯を終られたのである。

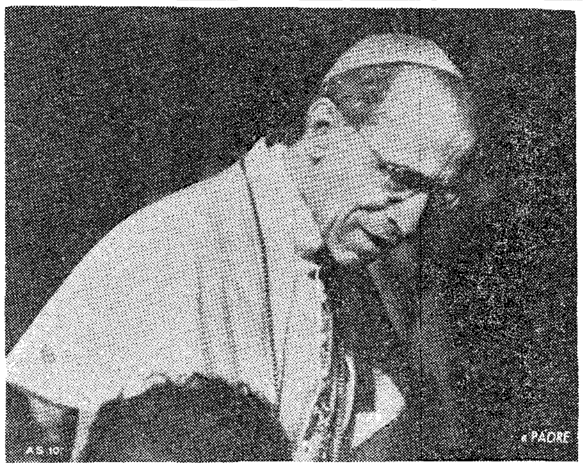
さりながら思いを潜めて内を見れば教皇の生涯は聖籠の中にあつて実に絶間なき祈と苦業、自制克己の御生活であつたのである。苦業と祈とによつて神との一致、天よりの光と英智を蒙り、これを世に伝え以て世を照らし、万民を教導されたのである。いいかえれば教皇の御生活は人の世にありて世の生活ではなくて霊の生活、肉体に於ては自己に活きながらも心は神の聖意を活くる一致の御生活「われ肉体に活くと雖も最早我にあらず、キリストこそ我に於て活き給うなれ」（ガラチア二ノ二〇）の御生活であつたのである。その二十年間の統治、その教導、言行はすべてが天よりの啓示、聖なる智、聖ペトロの磐石の上に建てられた権威を以て万民の心に生命の水を与え、眠れる世を目覚ましめ亡びの危険に瀕する世を生かし支えられたのである。「生かすものは霊なり」の御言葉を自分の身に実現し、世にこれを示されたのである。而して教皇は自ら度々仰言つていられるように祈と苦業によつて天よりの恩寵を得、自己聖化せられたのである。かくて御自分の聖なる御生涯を以て世にも亦聖なる感化を与えられたのである。

我等はこの智深く徳高き大なる教皇の死を深く悼むものであるがしかし徒らに歎くのではない。却て祈と苦業と戦の生涯を経て今や天国にありて永遠に光栄のうちにただサンツス、サンツスを歌いながら至聖三位一体の神を拝礼讃美していられる凱旋の御姿を仰ぎ見て喜ぶ者である。「我を遣わし給いし神にわが帰える時は来れり。されど汝等は神を讃美し、その総ての偉業を語れ」（トビア一二ノ二〇）の御言葉に、神に帰えられた教皇の御心が読まれるようである。

今や神は無視され、信仰は薄くただいたずらな音たてながら地の表面のみを浅ながれしている現代の危機が憂えられる秋、かつての個人的拝謁の折、親しく「霊的生活、霊的生活、霊的生活」と三度繰返してその重要性と共に霊的生活が我等の聖化と布教活動の力の泉であり、欠くべからざる必要条件であることを示し給うた教皇聖下のあの澄み切つた御声が私の心には今新たに強く響く。聖徳と永遠の光栄に輝やく御霊魂の上に思いを馳せては我に優しく語り給うた静かな、尊いあの御姿が目に浮び、含み多いあの御言葉が新たにわが耳辺にささやくを聞き「見ゆるものはこの世に限れども見えざる霊の御言は永遠なり」（コリント後書四ノ一八）と想い合せては更に永遠無量の感慨を深くせしめられるのである。

教皇聖下、世を去られたとはいえ、今尚われらの中に活くるその聖なる御生 涯を偲びながらここに更めて敬悼讃仰の祈を捧げ、わが追憶の筆をおく。

「主よ永遠の安息を彼に与え、絶えざる 光を彼の上に 照らし給え」。（十月廿三日）



写真上は 信者の訴えに耳を傾けられる教皇
下は 子供を祝福される教皇
右は 聖母被昇天の教義宣言を読み上げられる教皇

おことわり

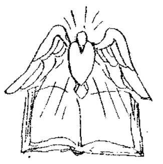
『我に従え』と『俳句』は故教皇の特集のため、今月は休載いたしました。

編集部

みんなのための聖書

(26)

人の子(一)



この蛆虫なる人の子

主キリストが公生活中に、御自分のことを〃人の子〃といつておられて、メシアとか神の子とか呼ばれるのを禁じ給うたことは周知の所ですが、この呼び名は非常に神秘的なにおいを含んでいるものであります。特に人の子が神の右に坐すとか、世を審くために雲に乗つて来り給うなどといわれる時、イエズスは必ずしも、御自分を卑下なさるためにだけそれをお使いになつたのでなく、それよりももつと深い意味が含まれているように見えるのであります。

❶人の子という云い方は旧約聖書ではどのように使われているのでしょうか。始めは人間ということと同じですが、それに人間特有の弱さのニュアンスが含まれています。ある時には意志の弱い偽りを口にする人間として、不変忠実そのものなる神と対立して、使われおります。

〃天主は、人の如く偽ることなしまた人の子の如く変ることなし〃（民数廿三の19）

サムエル書やイザヤ書では、人間家族のメンバー、即ち人間そのもの。詩篇やヨブ記などでは、その弱さをせおつた、それにも拘らず神に限りない慈愛をかけられている被造物、人間を指しています。〃朽つるものなる人、蛆虫なる人の子は如何にぞや〃（ヨブ廿五の6）

人間の小ささ、貧しさを表わしていて、神が如何に高く引き上げ給うたかを示しています。

〃人そも何者なれば、汝之を記憶に留め給い、人の子また何者なれば、汝之を御心にかけ給うや〃（詩篇八の5）

❷ しかし人の子とは多くの場合罪の状態にある人間、アダムの子孫、罪の結果たる死に脅やかされた、はかなき存在たる被造物を指しています。

〃わが生存うるが如何なるかを憶い給え、そもそも汝いたずらにすべての人の子を造り給えるにや〃（詩篇八九の48）

❸ イエズスが御自身を人の子と呼び給うた時、御自分があわれむべき人間に属しておられることを強調しようとされたのでありましょうか。教父たちは、イエズスが御自分の人性とその外貌のいやしさを表わすためにこの云い方を使われたのであると考えていました。

それを裏書きする最も強い証拠として、聖パウロのフイリツポ書第二章六節―十一節を挙げております。

神の子にして主なるイエズスの光栄の最大の理由の一つは、主が人間の一人となり〃肉〃をとり、ある意味で〃罪〃となり給うたこと、即ち人の子たるの二つの悲しむべき特性を具え給うたことにあつたのであります

この見方はたしかに一面の真理を含んではおりますが、イエズスが人の子という称号をおとりになつた、もつと重要な理由は、別にあつたと思われます。

☆ ☆

教皇御逝去と世界の反響

▼AFAはモスクワのタス通信からの報道として、ロシヤ離教教会の大主教がカトリック教会に哀悼を献げる次のような声明を発表したことを伝えている。

〃神によつてその御国に招ばれた聖父は、その御高座から数回にわたり、地上の平和について信者に呼びかけられ、軍事目的のための原子力利用に対して、常に抗議してこられた。我らは、神の贖いの御摂理に対する深い信仰を以て、故教皇の後継者がローマ・カトリツク教会の信者たちから、民族間の平和と人類間の繁栄に対する努力を得られることを強く希望するものである〃

▼カイロのアラビア語新聞は、ピオ十二世の逝去後の儀式に関するローマのニュースを大きく報道し、遺言書の全文を掲載した。

▼国連の総会議長チャールス・マリク氏は

〃教皇の御逝去は、現代の最も悲しむべき事件の一つである。彼は最も偉大なる教皇の一人であり、我々の時代の最も偉大なる人物の一人である。ピオ十二世は民族間の平和と理解のために、如何なる政治家よりも多くのことを果されたた。この人類の偉大なる指導者、カトリツク教会のこの頭、この聖者に対し、心から哀悼 の意を表す〃

▼イスラエル国の外務大臣ゴルダ・メイル女史は

〃教皇ピオ十二世聖下の御逝去に対して、全世界の人々と悲しみを共にいたします。戦争と不和に苦しむ時代にあつて、彼は平和と敬虔の最高理想を主張されました。ナジスの恐怖時代、我々同胞が塗炭の苦しみに あえいで いた時、教皇は迫害者をなじり、犠牲者に対する憐れみの情を吐露されました我々の時代の生活は、日毎の争いの混乱の上に、道徳上の大真理を指示する声によつて富まされたのであります。我々は平和の偉大なる僕の 死を悼む ものであります。

▼イスラエル出身の前フランス首相メンデス・フランス氏は

〃一九五五年教皇が重病から立直られた少しのち、フランスからのお祝いを申し上げる光栄を得ましたが、私は教皇の温かい歓待とわが国に対する明白な愛情、我々の問題と困難に対する深い御理解に厚く心をうたれた。教皇に近づいた者は誰でも、彼の政治家としてのすぐれた才能に打たれたものである。

▼福岡市在住の一教外者から深堀司教に捧げられた敬弔の辞

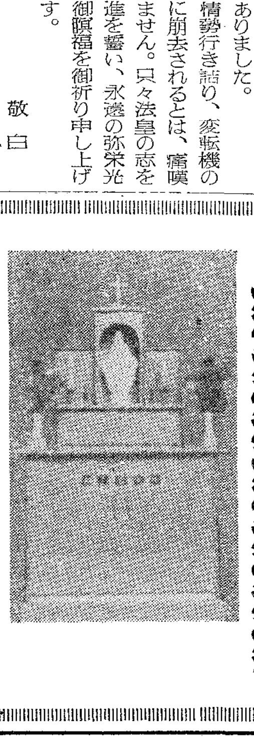
〃謹しみて、ピオ十二世法皇の御崩去を悼み奉ります。私達日夜人類の平和、福祉の増進建設に努力致しておりますものにとりまして在世中のピオ十二世法皇の存在は世界の指導者としてかけがえのないものでありました。

今世界情勢行き詰り、変転機の重大時局に崩去されるとは、痛嘆極りありません。只々法皇の志を察し、邁進を誓い、永遠の弥栄光のうちに御冥福を御祈り申し上げる次第です。

敬白

昭和卅三年十月十九日

杉山 龍丸



家庭用祭壇（十字架台付）
礼拝台 和洋家具一切
暁の星製作所
福岡市箱崎飛鳥町四一一四

聖心の使徒
十一月号

表紙 ケルン 聖母の聖堂
生命への門…………
十一月の意向 あなたも使徒…………下山 正義
南米に迫る危機…………粕谷 源蔵
黙想 真の自由…………真田 信男
アトムと人道…………
写真特集 現代の教会建築
信仰に生きる実存…………野村 久康
典礼ノート…………
布教熱に燃えるキリシタン…………品川 勝郎
天国泥捧…………窪田美美子
オーストリアの名首相…………A・タンスイ
聖書の時間 神の選民の悲劇…………H・チースリク
ポスト…………
新本めぐり…………
ラテン語教室…………J・ベチコフエル
講読会員費
一ケ月三十円送費 五円
一ケ年三百円送費五十円
発行所東京都千代田区紀尾井町七 祈禱の使徒会本部

短歌

アロイジオ　丈二

なぞなぞを問いきく子らに答して
眼をかえし間に夕餉とはなり

ほのぐらきみ堂にひびくレキエムに
司教の冠の白きかがやき

ほのぐらきみ堂にロウソクのゆれ動き
その中に立つ司教冠の白

（教皇追悼ミサ）

「霊獣物語集の版画」より

犬

ポール・クローデル

石　進　訳

犬にあつてひときわ私の気にいる点は、人間的尊敬の完全な欠如です。それを犬儒主義だとでもおつしやるのですか？　いや、決してそうではないのです！　シニズムとは偽善の特殊な形態にほかならず、二本足の動物に限られたものです。ところが、この謙譲なわれわれの協力者には、そのほかなんと多くの尊敬すべき美点があることでしよう！　たとえば、心の美しさは、犬の名声をもつとも明白に証明しています。それから、あの忠実さと献身は美徳や悪徳、あるいは、如何なる種類の長所よりも、さらに深く一段と本質的なわれわれの裡にあるあるものに話しかけるのです。われわれの足に注がれるあの情愛深いまなざしは、われわれを検討して止むことをしらず、われわれに出くわした場合の跳躍は、熱愛の感激にあふれています。それから、とりわけ、あの警戒心、たえず目覚めている注意力、存在に対する関心、発見への情熱、発散物とよきものへの侵しがたい信頼！あの敏捷さ、聖なる現実への全生命の順応。犬にはショペンハウエル的なものも、エマニユエル・カント流なものも皆無です。どんな時でも耳までさけている口ばかりでなく、体の他の末端にあつていともひそかな感情のうごきまで表わさずにはおかないアンテナとでもいつた尻つぽ。上気嫌を表わすために、自然は何という手段をこの友達に与えていることでしよう！　ところで、皆さんは、番犬に関するかぎり私に反対なさるかも知れません。お黙んなさい！　それは細心の注意を払つて本原的な防禦の義務に没頭している大芸術家達に向けられる非難と同じなんですよ。

それから月！　犬がいないとすれば月は一体どうして昇るでしよう？　太陽を起すのは雄鶏だといわれていますが、それには私も同意します。でも、馬鹿者共が眠つている間におもねるような賞讃の吠え声を たがいに伝えあうさまざまな毛並みをした犬達が地平線のいたるところにいなかつたならダイヤナ（註1）が東の空から素足をふみ出すのをどうしてためらつたりするものですか。ところで性悪の女と同程度に犬を嫌らうと神がいつていられるデウテロノーム（註2）の一節を読めばどうして悲しまないでいられましよう。それは、勿論、私も近東で目撃した飼主のない犬共のことですが、それらは、名状しがたい岩屑の上で相争つています。犬達にとつて誰れのものでもないということほど悲しい境遇があるでしようか！　無神論者の犬！　ところで、いま一つの犬、トビ（註3）の犬は皆さんのお気に召すでしようか。私は、もしもあの若者が箒のような尻つぽを持つた小犬をつれて識別のために備えていなかつたなら、見知らぬ許嫁を尋ねてどうしてメジヤの奥地に出掛けて行つたろうかと思います。たとえ天使ラファエルがいたとしても充分ではなかつたでしよう。守護の天使、それはもちろん結構ですが、われわれのうちにある一般に考えられているほど馬鹿気ていない　動物的本能の話をしていただきたいものです。

さて次は老トビの話ですが、最初に彼の両眼から燕のうんこを取り除いた忠犬の舌がなかつたら、魚の胆汁がにぶくなつた瞳にどうして有効に働いたでしようか。

ロマン・ローランは、いま私が読んでいる書物の中で、ある老婦人がジユネーヴの聖司教メルミロツド卿に彼女の病犬を祝別して貰いたいと頼んだことを話しています。司教はためらわずその犬に十字を切つてやられました。それをロマン・ローランは憤慨しています。私はそうではありません。

（三八・一〇・八日わが家のリッツの死の追憶に）

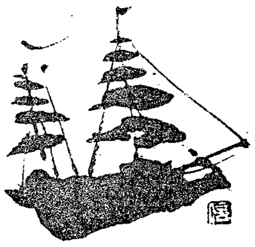
註1　ダイヤナはギリシヤ神話のアルテミス、月の女神で狩猟を好む。本文はいざよい出る月に遠吠えする犬の詩的表現。

註2　デウテロノームはパンタチユーク即ちモーゼの五書の最後に当る。

註3　トビはネフタリ族のユダヤ人、信仰厚く、老後盲目となり天使ラファエルの勧めで息子に癒される。

親子

A生



「吾れに友なし」という問に答えて、本、放送或は通りすがりの人々の会話でもなんでも良い、それらがある時の自分の心を慰さめ励げましてくれるならばそれらはその時のあなたの本当の友人であるというような事を誰れかがいつていた。そうすると朝の通勤電車の中で見かけた二人ずれの貧しい親子も私にとつて友であり、教師であつたのかも知れない。

私はその朝、あまりおだやかならぬ心持で釣革につかまつていた。というのは、折角早く家を出たのに横から割込まれて席を奪われてしまつた事の口惜しさ、又これから一時間もの満員電車の乗り心地の悪さ、そんなものがもやもや心の中に立ちこめていたからである。仕様事なしに目を左右に遊ばせていた私は親子らしい二人連れの姿に注意をとらえられた。子供は小学校二、三年程度、電車通学とみえて勉強道具を入れた鞄を肩から下げていた。母親は年の頃四十前後、これから働きにでも行く身ごしらえであつた。私には清潔ではあるがあまり上等とはいえない着衣から二人があまり裕福でないことはすぐに読みとれた。

このどこからみても平凡な目立たない二人の向い合つている姿にそれでいて、なんともいえない幸福そうな温いものを私は感じた。お母さんが子供のえりのおれた所をのばしてあげるいとしそうな目付、その母の手のほうたいのほどけをみつけて結びなおしてあげる子供のぎこちない手付。何か泰西の名画をみているようなのどかな気持になつてしまつた。しかし、そんなのんきな私の気分は母親に話しかける子供の声を聞いた時一度に破られてしまつた。子供は、アア、ウウ、としかいえないおしであつたのだから。私はこの電車がろう学校の附近を通る事を思い出した。

不具の子供程余計に可愛いいということが云われている。しかしそこで強調されている愛情は何かわざとらしい、そして、悲壮な感じがする。しかるに、この親子の愛情はまるでそんな不幸がないかのようにあくまでも自然であり、他人を意識しないという点では自由である。とはいつても、おしに生まれたという事はあくまでも厳然たる事実であり、不幸である。子供は気づかなかつたとしても、母親がそれを嘆き悲しまなかつたとは考えられない。幾日の幾月もの苦悩を乗りこえて、あくまでも自由に、自然に愛情を表現する母親の姿に私は頭の下がるものを覚えた。

聖書のどこかに、不具の人をキリストに連れて来た人が、この人の不幸はこの人の罪の故かと問うたのに、キリストは、それは誰れの罪の故でもない。この人を通して神の栄光が現わされるようにしつらえられたのであると答えられて、ただちにその人をいやされたと記してある。このおそらくは未信者であろう母親と不具の子供を通して愛情の何たるものかを私は教えられたように思えた。そしてこれからの浮世の波風を乗り越えて行くこの二人の親子にとつて、不具に生まれついたということがのろうべき不幸ではなくて、神の栄光を現わす手段となるように秘かに私は祈りを捧げた。

身辺雑感

台所仕事にもお恵みが

なでしこ

手伝いのオバサンが、上京して二人分を一人でしなくてはならない明け暮れ、大分いそがしい。

その上、今日は、水曜日、夕方から出かける日、少し早目に夕飯にしなくては、サア何から手をつけようか、そうだ、枝豆を切つてレンタンにかけておけば、つくろい物の間に煮えてくれる。

パチ　パチ　パチン　はさみの音も心地よく枝豆は、枝をはなれる、毛むくぢやらな肌の豆でも、煮えた時の味は、忘れられない。

よく、もみ洗いして、火にかけて、さてこれで一つすんだ。

ミシンに坐つて、次男の　つくろい物、身体も大きく腕白さも、長男とちがう、よく破ること、すり切ることなど思い乍ら、シャツのあちこちに、ミシンをあてる、つくろい物は、煩はしいが、出来上つた時は、新品とまちがう、うれしさがある。序にパンツも

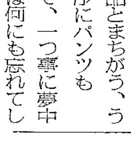
私の悪いくせで、一つ事に夢中になると、あとは何にも忘れてしまう。

二十八年も、使う、このミシンだが、気持よく針がはこぶこと御苦労さん、私の半生の苦楽をみんな知つているこのミシン、などといい気になつてぬつていたら、

ブーン　と枝豆の煮えた　におい。あつ　そうだ、枝豆を煮ていたんだつた、台所へとんで行く。

イエズス様、有難うございます、ぼんやりの私に、においを以て　おしらせ下さつて、こがさずにすんで　有難うございました。

台所仕事に迄、天主様は　御恵み下さる、只々感謝の外はありません。



ぶつく　がいど

聖霊

グドルフ著

我は父の約し給えるものを、汝に遣わさんとす。汝等天より能力を着せらるるまで市中に留まれ（ルカ二四の四九）　これはイエズス・キリスト様が御昇天直前に使徒達になさつた、忘れることのできない御遺言である。天よりの能力を着せらるるまで、我々人間は地上的であり、動物的で少しでもお祈りが長くなると退屈だなどと思う。聖霊のみが、我々の心を天上に高め、愛に溢れさせる。如何に霊的読書をし、默想をしても、人間の力や知恵によるのみでは無益である。人間同志の心さえ充分理解できない我々が、どうして無限の神の奥義を極めることができようか。我々に神の奥義を教え、導き給うのは神御自身であるから、我々の心のうちに住い給う聖霊に、ひたすら祈り奉るようにしよう。

天主は三位にして一体であることは、信仰を有する者の誰でも知つていることである。しかしながら聖アウグスチヌスに現われた天使の喩をして、三位一体のことは玄義であるから、考えても分らない、ただ信じてさえいればよいのだという風に、誤解しがちである。天主が三位にてましますことを默想することは、我々の生活のアルファでありオメガであらねばならぬ。天主の三位の各々を、又その連関を默想するより霊魂にとつて重大なことはない。この書は聖霊のみに関して、各方面より一書にまとめられているので、三位一体の玄義について默想する上に極めて参考になる。その点邦語信心書中、類稀なものだと思う。

聖霊は我々に新しい真理を教え給わず、キリストの宣うた処を、我々の心に深く理解させ味わせ給うのである。キリスト御在世中は、キリスト御自ら我等を教え給うたが、今は聖会がキリストに代つて我等を教え、聖霊が霊的に悟らしめ給うのである。（四頁）

聖霊の愛は、童貞聖マリアの御胎内を借り、神人の御肉身を取り給うて、我等を主の愛へ帰らしめ給うたのである。しかして我等に愛の霊によつて天主の子たるの地位を与え、即ち我等をして天主をアバ（父）と呼び奉り得る者となし給うたのである。更に聖霊は我等の神的生命が、永遠の生命に成長するまで愛において我等を養い給うのである。（十六頁）

聖霊は聖父と聖子の同一の霊である故に、我等は聖霊によつて聖父と聖子に結ばれ、終に三位一本に結ばれるのである。（五十三頁）

我等は天主の霊を被つているから、もはや天主の召使であるよりも、最も親しい朋友に相当している。それは天主が御自身の心を、即ち最も親密な宝である愛の霊をその朋友に与え給うたからである。（七十二頁）

堅振の秘蹟は、召命の秘蹟である。洗礼は自分一個人のためにうける恩寵であるが、堅振は共同的にうける恩寵にして、その結果連帯使命をおびるのである。（八十七頁）

堅振の秘蹟と司祭職の関係は至つて緊密にして、又厳然たるものである。受堅者は王者の如く塗油された。（九十頁）

キリストは教会の外部的支配を使徒達及びその後継者に委嘱し給い、内的な指導のために聖霊を遣わし給うた。（百二十七頁）

（六十円、中央出版社）（K）

古い歴史・新しい内容

コンサイス英和辞典　革　三八〇円
コンサイス和英辞典　革　三五〇円
コンサイス英英辞典　革　四五〇円
デイリーコンサイス英和辞典　革　三〇〇円
新クラウン英和辞典　縮刷版　D　大型版　四八〇円　八五〇円
ジェム英和・和英辞典　一五〇円
明解英和辞典　三五〇円
中学英和新辞典　二三〇円
初級コンサイス英和辞典　一七〇円
初級コンサイス和英辞典　特価　一五〇円
三省堂独和新辞典　三五〇円
コンサイス独和辞典　四〇〇円
コンサイス仏和辞典　新版　五〇〇円
コンサイス露和辞典　六〇〇円
日西大辞典　二、〇〇〇円
商業英語活用辞典　六五〇円

辞書は三省堂

辞海　縮刷　背革特装版　二、〇〇〇円
新版広辞林　一、二〇〇円
広辞林　九〇〇円
新小辞林　三〇〇円
明解古語辞典　改訂版　四八〇円
小辞林　三〇〇円
新修国語小辞典　一五〇円
音訓両引き国漢辞典　三五〇円
新撰漢和辞典　七〇〇円
明解漢和辞典　三五〇円
三省堂大六法全書　一、一〇〇円
模範六法　三七〇円
明解六法　一五〇円
学習百科事典　八〇〇円
明解日本語アクセント辞典　五〇〇円

東京・大阪
名古屋・福岡
三省堂

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価一部十円

祝・ヨハネ二十三世御即位

「正義と和合による世界の平和を」

新教皇最初の演説

去る十月廿八日午後の教皇選挙投票で、ヴエニス総大司教アンゼロ・ジョゼツベ・ロンカリ枢機卿が第二百六十二代の教皇に選出されヨハネ二十三世の名を選ばれた。次いで十一月四日聖カロロ・ボロメオの祝日に、ローマ聖ペトロ大聖堂において戴冠式が盛大に挙行された。福岡教区ではこの同じ日に感謝の司教荘厳ミサを福岡市浄水通教会で献げ、新らしい教会の首長の上に天主の御加護を祈つた。ヨハネ二十三世聖下は教皇選出の翌日（十月廿九日）はじめての演説を行い正義と和合による世界の平和の確立を全世界の良識者に訴えた。以下その一部を掲載する（カトリック新聞第一五八〇号より）

▽神秘的な神の御摂理により教皇職位の極めて重い責務が私に課せられて私の霊魂を殆んど破壊せんばかりに圧しつける今この不安な時に当り、私はまず何よりも神に切願の祈りを捧げ、そして神が無限の善意をもつて私の弱点と無能力を強め、私の理知を照らし、かつ私の意志を堅固にし給うように乞い奉るのである。

▽私はすべての人に次のことを知つていただきたい。即ち私がかれらの（迫害を受けている人々の）悲しみ、艱難および苦悩を共に分かつているということ、および私が、一切の善き事物の施し手である神に向つて、そのような非人間的な迫害を将来いつか終らせ給うよう乞うて いるということである。実に非人間的迫害こそ、それらの人々の真の平和と繁栄を損なうのみでなく、さらに現代の文明と、長い間かかつて獲得された人権とに全く反しているのである。

▽この機会に、種々な人民の運命と願望を掌中に握つている万国の支配者たちに訴えることを許されたい。即ち、なぜ分裂と意見の不一致が、公正な基礎の上に立つていつまでも解決されないのか。なぜ、人間の工夫の才能と天然資源との力が、非常にしばしば、兵器―死と廃墟とをもたらす破壊道具―の生産に向けられるに抱らず、あらゆる階級の人々、ことに赤貧のうちに生活する人々の繁栄を増大することに向けられないのであるか。

▽従つて、勇敢に確信に満ちて行動を取れ。そして天よりの光が諸君の銘々に与えられ、神の助けが諸君に与えられんことを、諸君に託されんことを。諸君に託された人民に注視し、そして彼らの声に耳を傾けよ。彼らは何を求め、何を諸君に 切願して いるか。それは、現代の生産したところの兄弟殺しと一切のものの絶滅とを引き起しうる途法もない新兵器ではなく、「平和」である。さよう、全人類がそれによつて自由に生活し繁栄し得る平和なのである、そして彼らは「正義」を求める。その正義によつて、社会の諸階級は、それぞれの相互的権利義務を、公正な標準に従つて調整し得るであろう。そして最後に、彼らは「平穏な調和」を求める。その名にふさわしい繁栄を招き得るのは、平穏な調和のみである。なぜなら最高の芸術が栄え、人間の才能がふさわしい目的のために結合一致し、そして公私の資力が増加され得るのは、一人一人の合法的権利が基礎とされ、そして兄弟愛によつて支えられたところの平和だからである。

▽真の平和は、もしそれが、まず最初に霊魂に与えられなければ、個々人、人民または国民に与えられない。内的平和なくしては、万事が不安定であり、動揺し、よろめくのである。従つて平和を助成し強め樹立し得るのは、神のいとも聖なる宗教のみである。

▽願わくば、私がローマ市と全世界とへ、非常な熱愛をこめて授けるところの教皇掩祝が、この真に完全な平和、およびその他の天よりの賜物のしるしとなり、そしてそれらを天より引き出さんことを

ヨハネ二十三世教皇

○一八八一年（明治十四年）十一月廿五日に、十三人の兄弟姉妹の三番目の子として、北イタリアのベルガモ教区内のソット・イル・モンテ村に生まれた。

○十一才の時ベルガモ教区神学校に入学し、十九才でローマの大神学校に入学。四年の勉学ののち神学の学士号をうけた。

○一九〇四年モンテ・サントの聖マリア教区で司祭に叙品され聖ペトロ大聖堂で初めてミサを捧げた。

○一九〇五年から一九一四年までベルガモのラディニ・テデスキ司教の秘書。かたわら母校ベルガモ神学校で教会史、護教学、そして教父神学の教授を勤めた。

○第一次世界大戦中イタリア衛生部隊の軍曹となり、次いで陸軍病院付き司祭となる。

○ベルガモに初めての「学生ハウス」を設立。

○一九二一年イタリア信仰弘布会々長に任命。

○一九二五年ピオ十一世によつてブルガリアの教皇庁特派巡察使に任命され、同年三月十九日アレオポリスの名儀大司教に叙階された。一九三〇年同国への教皇庁使節となる。

○一九三五年トルコおよびギリシヤの駐在教皇庁使節となり、さらにコンスタンチノープルのラテン式代牧教区を司つた。

○一九四四年十二月ピオ十二世より駐仏教皇庁大使に任命された。

○一九五三年一月十二日に枢機卿に、つづいてヴエニスの総大司教に任命された。

世の光

人間の尊厳

数年前ある養老院附属の病院を訪問した時、一人の婦長が院内の設備をくまなく案内して貰つたことがあつた。その途中とある病室の前で目くばせして、そつと入口の扉をおし内部をのぞかせてくれた。何の予想もつかぬままになかを覗きこむと、相当年輩の老婆がほの暗い室の片隅で、何本かの管にしばられたような風で眠つている。何のことか解らないで看護婦を見返えすと、この婆さんは二、三年前から不明の病気で昏睡状態にあり、一度も意識をとり戻さないとのこと、それで栄養液を注射したり色々と手を施して命を保たせているとのことであつた。

殆んど人生の終着点に近く、たとい意識をとり戻したにしても生きる価値がないように見える老婆に対して、至り尽せりの看護がなされているのを見て、人間尊重の実践に心を打たれたのである。

ある国の政策に従えば、社会の足手まといにこそなれ何の役にも立たないこんな者は、真先に抹殺されてしまうであろう。

一人の人間の価値を、社会に役立つかどうかで決めようとする思想はある特定の国に限つて見られるものでない。人間をその才能や地位、技術、能率などだけで判断し尊重する 風はどこにも 見られる。つまり人間の値打を外部的なもので決めて、内面的な価値をおろそかにする。このことは裏を返せば上にあげたような能力をもたない者は、人間扱いにしなくてもよいと言うことである。ましてやこんこんと睡り続けるだけの老人を養うのは、厩馬を生かしているのに等しいと考えるのである。

このような考え方と全く軌を一にした人間観は、口にこそ出して言わなくても当り前のようになつているではないだろうか、人間の尊厳とか品位とかが、実際には何に基いているのか理解しないのである。人権の尊重を公言しながらも、人間と動物とどこが違うのか確信を以て答え得ないのである。

人間が動物と違う所は、頭脳がより優れていること、創意や工夫によつて生活を向上させることができることに尽きるのであろうかもし誰か知能が低く、人間並の生活ができなければ〃裸の大将〃にはなれても、一人前とは見なされないものか。精薄児や社会に何の貢献もし得ない、却つて重荷になるものは動物並に取扱つてよいものだろうか。

もし人間と動物との間に根本的な違いがなければ―両者に何の共通点もないと言うのではないが―何故人間だけが万物の霊長と呼ばれ得るのであろうか。進化を早く遂げた人間種の傲慢な主張なのであろうか。もし兇暴で手に負えない精神病者の長男を、なやみの挙句に父親が打殺した場合、殺人罪に問われなくてすむであろうか。もし根本的な相違がなければ、有害な動物として処分して構わない筈である。

人間を人間たらしめるものは知能の発達程度の相違ではない。長い経験と進化の末に手に入れたものでなくて、人間にだけ始めから与えられているもの外面的なものでなくて内面的なもの、肉体的な力でなくて精神的なものによつて、人間は動物とは本質的に違うものとされているのである。従つて外面的には動物と同じ生き方としても、動物より劣つた能力しかなくても―赤児やかの病院の老婆のように―彼らを常に人間として尊重しなければならない。

動物から人間を本質的に区別するものは精神的な実体であつて、目には見えなくても実際にあるべき筈のもの、人間尊厳の根拠であるもの、それを「霊魂」と呼ぶのである。

科学の進歩したこの時代に、霊魂の存在を主張するとは、全く古臭いお題目を引つぱり出したものだと苦笑される方もあろう。しかし人間が肉体とその能力によつてのみ生きているとすれば、人間と動物との間には実際の区別はないことになり、もしそうであれば、現在の人間社会の秩序が根本から覆えされることになることは、今迄に見てきた通りである。

人間が万物の霊長であることの根本理由をつかむことは、自分の人間としての品位に目覚めて、自分と他人を尊重するため、また社会的に無能力者と見える者にも、単に同情的な援助でなくて、確信的な愛徳を実践するためにも必要である。人格の尊重とその向上は現代人の合言葉である。しかしそれは空なる叫びであつてはならない。人間には何物にも代えられない貴重な宝を持つているのである生れながらにして与えられているこの宝を大切にし、完成させてゆくことが人間の義務でもある。

人間には肉体の他に霊魂があること、そして霊魂は肉体に遙かに優るものであることを認めることに、人間世界の真の救いがある。

（深堀　敏）

永久聖体礼拝　十二月

第一日曜　二日市教会
八代パウロ会

第二日曜　本渡教会
幼きイエズス会（久留米日吉町）

第三日曜　聖母扶助会（別府野口原）

第四日曜　唐津教会
聖小崎育児園
中津教会

祈禱の使徒会　十二月

【一般の意向】各国のカトリツク映画協会のため
【布教の意向】台湾の教会のため
【布教委員会の意向】クリスマスの正しい理解と粛正

昭和卅四年度福岡小神学校
生徒募集について

一、**願書受付**
高校の部　一月十日から
中学の部　二月一日から

一、**選考日未定**

一、**選出方法**　書類選考及び面接書類選考は、主任司祭推薦状と、出身学校長の報告書による。
但し、高校、中学の編入については未定。
入学御希望の方は、左記宛御連絡下さい。

福岡市浄水通三八
福岡小神学校
畑原富雄神父

十二月

十一月卅日　深堀司教はマニラにおけるアジア司教会議に列席のため離福

一日（月）　使徒聖アンドレアの祝日　聖アンドレアは聖ペトロの兄弟で、最初にイエズスに召された使徒の一人

三日（水）　布教の守護者、聖フランシスコ・ザベリオ証聖者
スペインのザベリオ城主の長子、ついでパリ大学の花形教授。キリストのより大いなる光栄のために一切を捨てて、キリストの十字架の宣教者となつた。
日本渡来は一五四九年
福岡大神学校で叙品式（山口司教司式）

四日（木）　日本の福者イエロニモ、シモン袁甫殉教者
江戸で殉教した五十名を記念す。

六日（土）　聖ニコラオ司教殉教者小アジアのミラの司教、三五〇年頃帰天

七日（日）　待降節第二の主日
クリスマスが近づくにつれて、世間はさわがしくなる。われわれは沈黙のうちに降り来り給う神の御子を、迎える準備をととのえる。
邦人司祭養成の日（今日の献金は神学校のため）

八日（月）　童貞聖マリア無原罪の御孕りの祝日
罪の汚れが全くなく、この世のものならぬ美しさに輝き給う聖マリアを讃美しそれにあやかるようお恵みを祈り求める。

十三日（土）　聖女ルチア童貞殉教者

十四日（日）　待降節第三の主日
喜びは望んでいたものを実際に手に入れた時に感じられるしかしキリストの御来臨が近いこと、その確実さの故に、われわれの心はすでに喜びの鼓動を感じないでいられない

十七日（水）　四季の水曜日

十九日（金）　四季の金曜日
大斉と小斉

廿一日（日）　待降節第四の主日
主の御来臨をお迎えするわれわれの心の準備はいかに。

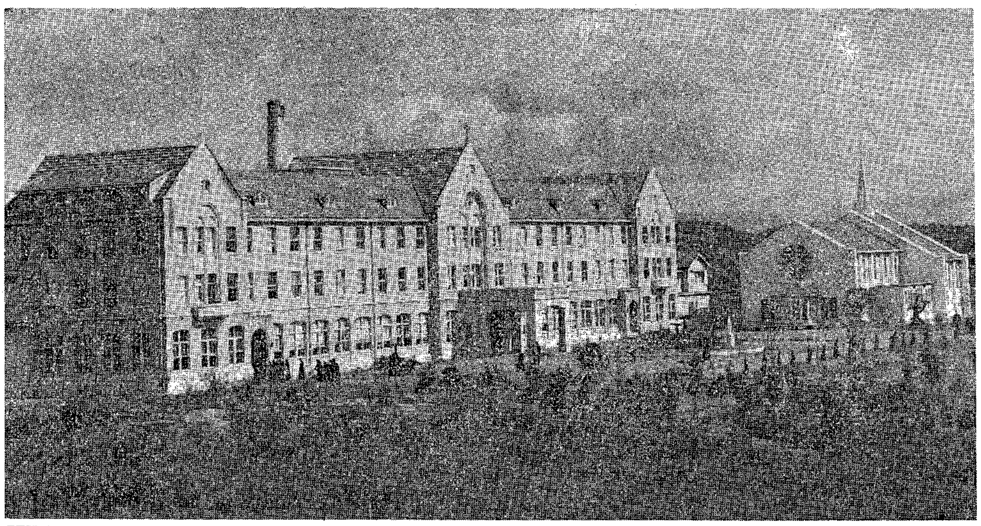
廿二日（月）　使徒聖トマの祝日
聖トマは無信仰者ではない。ただその信仰がまだそれ程強くなかつたのである。今彼はキリストの御言葉によつて大きく成長する。「我が主よ、我が神よ。」

廿五日（木）　我主イエズス・キリストの御降誕の大祝日
神の御子はわれわれを罪よりあがなうために、われわれに「御自らを与え給う。」今や「神はわれわれと共に在し」われわれのものとなり給う。
夜中大名町教会で司教荘厳ミサ

廿六日（金）　最初の殉教者聖ステフアノの祝日
キリストが神の御子たることを生命をかけて証明した教会最初の殉教者。

廿七日（土）　福音史家使徒聖ヨハネの祝日
聖ヨハネは〃人となり給える神の御言の使徒〃と呼ばれるその福音は御子たる天主の高遠なる御姿と、人となり、われわれの友となり給うたその同じ神人キリストの愛の御心を伝えている。

廿八日（日）　罪なる聖嬰児等殉教者
罪なきみどり児たちは、生れ給うたばかりのイエズスのかたわらで、救主の前途を自分達の血をもつて予告する。

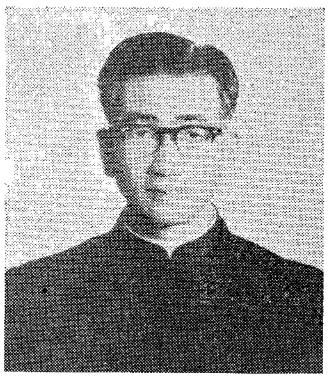


聖座から返電

深堀司教は、ヨハネス廿三世聖下の教皇選出の報に接すると直ちに、司教および福岡・宮崎両教区民の名で祝電を送つたが、去る十一月十四日左の通り返電が司教宛にとどいた。

教皇聖下は、その教皇選出に当たり閣下とその信者によつて献げられたる忠誠あふれる祝詞に非常に感謝され、熱烈なる愛をこめて教皇掩祝を送られました

国務長官代行
ダルディニ



教区初のブラジル宣教師

木村義巳師（馬渡主任）

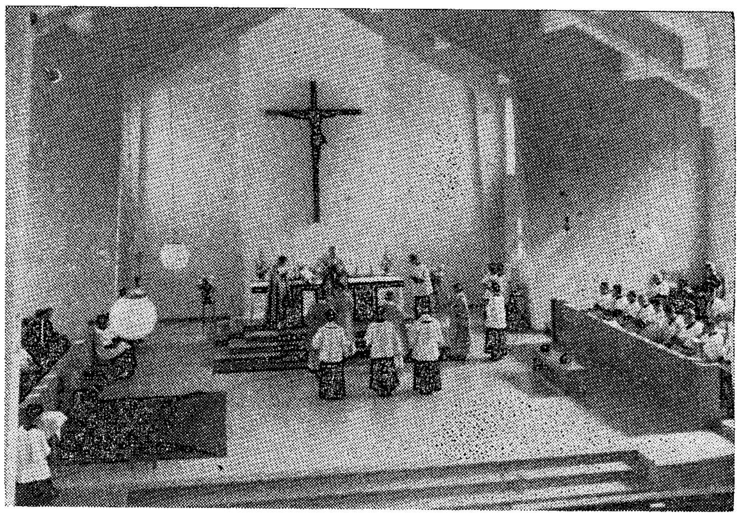
在留邦人の司牧と布教のためブラジル・パラナ州マリンガ教区のゴエリ司教から指名要請を受けていた馬渡島教会主任兼海の星小学校長木村義巳師は司祭信者多数の見送りのうちに去る十一月十九日博多発急行玄海で神戸経由上京、廿二日午前十時発のパン・アメリカン機でブラジルに向つた。

木村師が受持つ小教区にはすでに数十世帯の信者が定住しており教会も建設されている。最近馬渡島から移任した人々もある。ゴエリ司教からの要請はブラジル駐在教皇庁大使から日本駐在教皇庁公使を通じて、深堀司教の許に正式に回送されたものである。

教区初のブラジル宣教師となつた木村義巳師は、長崎県北松浦郡鹿町町褥の出身で大正三年生れ。尊父大吉さん（八一）は病床にあるが母堂イヨさん（八〇）は健在。師は昭和九年長崎海星中学校卒業後、福岡予科神学校を経て十二年四月東京大神学校に入学。十六年三月十六日司祭に叙品せられた。しばらく馬渡島教会助任として働いたのち門司教会主任となり、終戦の前年から今日まで馬渡島教会主任を勤めた。終戦直後同島に海の星中小学校を創立してその校長となり、種々の辛苦困難のうちに信者の司牧と子女の教育に献身してきた。（写真は木村義巳師）

サン・スルピス会 日本創立廿五周年を祝う

神学校設置の苦難を偲びつつ



聖スルピス会の来日廿五周年を記念する祝典は、十月十八日駐日教皇庁公使M・フルステンベルグ大司教、山口長崎、深堀福岡、荒井横浜、里脇鹿児島の各司教をはじめ、東京、仙台、九州各教区などから約八十名の司祭の列席のもとに福岡大神学校（福岡市片江神松園）で盛大にくりひろげられた。

感謝の壮厳ミサは教皇庁公使司式、ラプラント校長司祭長、ボア師と平田勇師が名誉助祭、牧山藤房師助祭、畑原富雄師副助祭で捧げられ、ミサ中深堀司教が説教を行つた。尚当日の祝典のため、ローマ教皇聖下より特別の祝福が与えられ、ローマ布教聖省副長官、アカジヤニアン枢機卿から、またカナダ・モントリオール大司教レゼ枢機卿より祝辞が送られた。

カナダ・スルピス会に属する二名の宣教師レゼ・プレボ両師が教皇ピオ十一世の希望とブルトン福岡司教の要請によつて、我が国に来朝したのは昭和八年十月五日で、将来の福岡大神学校は福岡教区の五名の神学生をもつて大牟田カトリツク教会内で孤孤の声をあげ、以後司教館、大濠の旧聖アンナ修道院（現在の訪問童貞会修道院）で哲学科神学校として成長していつた。昭和十六年十二月戦争勃発によつてカナダ人会員が監禁されたが唯一の邦人会員平田三郎師によつて二年間継続され、遂に閉鎖のやむなきに至つた。

しかし終戦直後の十月には現在の福岡小神学校で再開され、新らしい自由と大いなる希望をはらませて急速に進展していつた。昭和廿三年七月廿八日ローマより九州諸地区大神学校設置の許可が下り、長年の計画が遂に現実化されるめどがついた。まず現在の二万坪の地に校舎が建てられ、廿六年三月に移転を行い、翌年新聖堂が完成して神学生養成の大殿堂は、その容姿を整えた。

歴代校長はレゼ師、ロビヤール師、オーブリ師、ラプラント師で会員現在数は八名（一名はカナダに在学中）専任教授および講師は十四名である。神学生は六十二名で、九州と沖縄の五つの教区から集つている。（写真上は大神学校全景下は感謝のミサ）

学士会十一月例会

福岡カトリツク学士会十一月例会では、九州大学に特別講義のため来福中の相良惟一氏（京大教授—教育行政学担当、ユネスコ日本代表）を招き、勤務評定、道徳教育などの問題について、学士会と懇談した。参加者十八名

宮崎地区ルルド百年記念祝典

司教ミサと聖母行列

宮崎地区のルルド百年記念祭は福岡から深堀司教を迎えて十一月十六日午後四時より宮崎市県公会堂で壮厳ミサ聖祭を行い、つづいてローソク行列をもつてルルドの聖母マリアのお恵みを称えた。

定刻前、宮崎県下の全教会から信者が ぞくぞくと 式場につめかけやがてマテオ・リツコ師—宮崎教会助任—の指揮の一六〇名の四部合唱大コーラスの中におごそかにミサが始められた。

ミサ後司教が教皇掩祝の電報を読みあげ、直ちにローソク行列に移つた。五時半出発の合図の花火を合図に、延岡緑ケ丘学園生徒を先頭に全員千七百名がローソクを手に高らかに〃あめの門〃を歌い世界平和のためにコンタツを誦えながら、橘通—百貨店前ロータリ—郵便局—市役所—教会のコースを進み、最後に聖体降福式をもつて盛典の幕をとじた。この行列の間有線放送によつて讃美歌、他ルルドのメツセージや宮崎県下の教会の所在地などが放送された。

尚当日の午前十時から宮崎教会で百五十二名の信者が堅振の秘蹟をうけた。

恒例の聖体行列

大牟田教会で

大牟田教会恒例の聖体行列は、十一月九日日曜日午後二時より地元信者、明光学園生徒ら千二百名の参加のもとにおごそかに挙行された。金松、村岡両師にたすけられた深堀司教が聖体を奉持し、市役所、郵便局など教会の周辺を廻つて幼稚園運動場の仮祭壇にもどり、司教の説教をもつて終了した。尚九時のミサにおいて十三名が堅振の秘蹟をうけた。

牧山聴師ローマで司祭叙品

昭和廿九年九月以来ローマ・プロパガンダ大学神学科で司祭職への勉学と修徳に精進していた福岡教区所属牧山聡師は、去る八月十五日に副助祭、九月廿九日に助祭に叙品されたが、十一月廿三日ローマに於てアカジヤニアン枢機卿からキリストの司祭職にあげられた。同師の叙品式は十二月廿一日行われる予定であつたが、アカジヤニアン枢機卿がマニラのアジア司教会議に教皇特使として列席することになつたため変更されたものである。

福岡地区 布教委員会

第十八回福岡地区布教委員会は十一月九日司教館で開かれた。指導司祭平田師の挨拶と、全国布教委員会会議中、信者に関係ある点につき説明があつた。

一、「こじか」子供向—日曜学校などに使用したら良い。

一、「ブツククラブ」をつくり、年千冊良書を推せんする。そしてクラブに入つている者は三割引で良書を買うことが出来る。

一、求道者むきの祈があれば知らせて欲しい。

ひきつづき議事に入り、昨年来の「クリスマスたすけ合い運動」は十二月一日より十四日迄行う。この間各教会は、もよりの地点で街頭募金を行うことに決定。

またクリスマス運動では昨年同様、ポスター、パンフレットなどを信者の手より、出来るだけ多く配布することに決定した。

新墓地で諸死者の記念ミサ

秋晴れの十一月三日諸死者の記念日当日佐賀カトリツク教会では今夏開設された佐賀市金立町黒土原約七百坪の教会墓地で、マーグリン師とアツクワヴイヴア師司式ミサを行い、埋葬をまつていた遺骨七体がそれぞれの墓に埋葬された。この日参列した信者は約五十名で、その祈りと聖歌は秋の爽やかな微風にのつて田園を流れ、死者も亦主を讃美するかと思われた。終つてそれぞれ持参の弁当を開き秋の日差しを楽しみながら死者を偲んだ。（写真は墓地でのミサ）

カルデン師来福

JOC（カトリツク青年労働者連盟）の創立者であり霊的総指導司祭であるモンセイニヨール・カルデン師は、マリア・メールスナーさんを伴い、日本における同運動の視察のため十一月はじめ来朝したが、ムルグ師（日本における創立者）の案内で八日正午空路来福して深堀司教と会談したのち、数名の司祭にJOCについて質疑応答を行つた。翌九日午後パリ外宣会北九州支部でも指導司祭達と意見を交換し合つた。

司祭異動

福岡邦人地区

大名町教会主任　伊東誠二師
任馬渡島教会主任
馬渡島教会主任　木村義巳師
ブラジルへ
地行町教会主任　平田正喜師
任大名町教会主任

宮崎ザベリオ会地区

宮崎教会主任　ダニエリ師
帰国
本部附　チモリナ師
任宮崎教会主任
都城教会主任代理　アレキサンドリニ師
任延岡教会主任
神戸本部附　マルチネリ師
任延岡教会助任
神戸本部附　ムナリ師
任都城教会主任
延岡教会主任代理　ペルリニ師
任小林教会主任

小倉市民芸術祭で入賞

文化祭の際開かれた小倉市民芸術祭展示会において、二百点余の作品から明治学園高等学校二年生の二名が、各々次のように入賞した。

洋画の部芸術賞小林和子（作品「教会」）書道の部精励賞大西千子

今村公美さん渡米試験に合格

アメリカン・フイールド・サービス奨学生九州代表として東京での最後的選考をうけた明治学園高等学校二年生今村公美さんは、全考査に合格したので、来夏渡米することになつた。

福岡聖パウロ書院案内
福岡市大名町一ノ七六
電話④四五八八

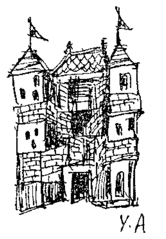
お子様方の最適のよみもの
「少年少女文庫」がNo.6まで発刊されました。

1°.	日本キリシタン物語	片岡弥吉	一五〇円
2°.	ピノキオ	C・コローディ	二〇〇円
3°.	光の子	宮本さえ子	二〇〇円
4°.	美しき旅	ミルリー・ダントロ	二〇〇円
5°.	おときのかね	粟林明子	一五〇円
6°.	きつねの悪知恵	ゲーテ	一五〇円

新しい布教材料として
布教便箋ができました
野の百合　25円
いつくしみ　30枚綴
聖画と御言葉がたくみに組合わせられております。
友人に、姉妹にどうぞ
▼教会・修道院関係には
十五冊以上御注文の場合
二〇％割引

クリスマス・カード
今年は趣きの変つたクリスマス・カードを輸入しました。
◎十円から各種あり◎
優雅純日本趣味のカードもいろいろと取揃えてございます。

ユニヴアーサル文庫
近刊新刊
⑭ピラドの妻　G・ルフォール著　山村・吉田訳　80
「ポンショピラトの管下にて苦しみを受け」とすべてのキリスト信者は信仰を宣言する。神人キリストを卑性にも十字架刑に処した夫を持つ深刻な苦悩！
⑮永遠の女性　G・ルフォール著　山村直資訳　150
存在にまつわる有限の悲しみの中に永遠の光をたたえる女性こそは…「時の中にある女性」「時を持たぬ女性」とを綴る女性論、他の書と並べることのできぬ唯一性を有する作品である
⑯マグデブルグの婚宴
⑰現代に生きて
⑱フランシコの立琴
⑲ポンペイ最後の日



「われに従え」⑭

キリストへの改心

深堀　敏

待降節に入ると改心への強い訴えがひびいて来る。〝悔い改めよ神の国は近きにあり〟〝自分のみじめさを自覚した罪人はたすかり〟への希望に心を躍らせて、このよろこばしいキリストの御告ー福音ーに耳を傾ける。

（一）　福音が告げられた時、全人類は一人残らず罪の状態にあつた。ユダヤ人もギリシヤ人もみな罪の下にあり、昔の律法は罪に対して無能であり、キリストへの信仰、服従によらなければ罪から解放されることができなかつた。

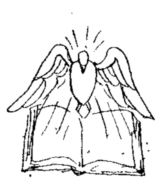
改心への聖寵の勧めは、ユダヤ人と異邦人には同じように向けられなかつた。イエズスはすべての人に改心、全面的な方向転換を命じ給うたが、自分の正しさの上に腰を下しているフアリザイ人といわゆる罪人と思われている人々に同じように話しかけてはおられない。

（二）　福音を注意深く読むと、キリストが改心を説いておられる語調の強さにおどろかされる。掟を文字通りに実現している義人には、行状を改革せよとは要求し給わないが、心の転換を断行し神の国に従うことを命じておられる。それは自分を正しいと信じているものを困惑させる。しかし心の奥に神の援助の必要を痛感しているものは、神の国を受ける準備ができている。だから彼らは正しさに自惚れた義人よりも神の国に近いのである。

（三）　聖パウロも皆が改心の必要のあることを繰返し勧告する。この謙遜な自覚が持てない限り、たすかりは不可能である。聖寵に基ずく正しさを持つには、ひとりよがりな形式主義ー掟一点張りーを放棄せねばならぬ。

改心はなまぬるい信仰に堕している信者、特に神の国を自分の過ちの為に失つたものに必要である。改心への努力が遅れると堕落のふちが深まり、立ち戻ることができなくなつて了う。改心への招きは身を持している熱心な信者にも向けられる。改心とは一回ぎりの行為でなくて、持続的な状態であるから。

〝この世に倣うな。却つて神の思召は何か、神の御前に善であること、よみせられること、完全なこととは何かをわきまえ知るために、考え方を変えて、自分を改めよ〟（ローマ十二の2）



みんなのための聖書

(27)

人の子　㈡

審き主たる人の子

人の子という言い方は、旧約聖書のある箇所では人間そのもののみじめさと罪を背負つた人間を指していますが、別の箇所では特定の人物、神から特殊の召命をうけた者を指しているようです。

❶　詩篇七九

〝汝の御力をふるい起し、汝等を救わんために来り給え。天主よ、我等を連れ戻し、我等の救われんために汝の御顔を晴れやかならしめ給え。万軍の天主よ汝の民祈れるに、汝いつまでも怒らんとし給うや。願わくは汝の御手、汝の右手の人の上に、汝が御自分の為に強くなし給える人の子の上にあらんことを〟

神の右手の人とされたアダムの子〝人の子〟を神が助け給うよう忠実なイスラエル人が祈り求めているのであります。この詩篇は恐らくアツシリア軍が北イスラエルに侵入してきた時に作られたものですが、バビロンの流滴から帰つてきた者のみじめな生活状態を暗示しているもののようです。そうしますと人の子たるヤウエの右手の人とはゾロバベルを指していると考えられます。それはさておき、この詩篇が言わんとしているために御自分の選び給うた〝人の子〟を用い給うということです。

❷　ダニエル書

人の子についてもつとも重要なテキストはダニエル書であります。この書は紀元前一六五年頃アレキサンダー大王の後継者によつてひどく苦しめられていたユダヤ人に勇気をもたせる為に、神はこれらの迫害者をどのように取扱い給うかを見せようとしているのです。パレスチナを次々と占領したバビロン、メド、ペルシヤおよびアレキサンダーの後継者らの帝国はここでは海から上る四つの怪物の姿で表わされます。この動物は神の審きの前に出頭させられて処罰されてゆきます。この時神秘的な人物が出現します。（七の31ー14）

〝私は又夜の幻のうちに見ていると、見よ、人の子のようなものが天の雲に乗つてきて、日の老いたるもののもとに来ると、その前に導かれた。彼は主権と光栄と国とを賜り、諸民、諸族、諸国語の ものを彼に 仕えさせた。その主権は永遠の主権であつて、なくなることがなく、その国は滅びることがない〟

外敵の圧政は終り、迫害者アンチオクス・エピフアヌスは姿を消すであろう。人の子に似た人物のかなたに、ダニエルは苦しむイスラエルのために神の国の到来を希望するのであります。

ところでこの人物はイスラエル民族を象徴するものに過ぎずして、来るべき一人の救主を指してはいないのではないでしょうか。人の子とは聖なる神の民が待ち焦れた特定の指導者を指していると断定してよいものでしょうか。

著者の考えははつきりしておりません。そして解決の糸口を見つけるには、ダニエル書のもつとつつこんだ研究が必要ですし、ダニエル書に近いヘノク書などにも目を通さねばなりません。

本渡教会にルルド洞窟

地元観光協会が全面奉仕

熊本県天草の本渡カトリツク教会では、地元観光協会の支援のもとに教会境内にルルドの洞窟を建設。その完工・祝別式が十一月十三日深堀司教によつて行われた。午後五時司教と原田観光協会長の手によつて除幕式がなされたあとフランスのルルドからわざわざ送られてきた聖水が洞窟にそそがれた。感謝状授与ののち十一名に堅振の秘蹟がさずけられ、続いて 主任司祭 ライル師司式、ドイル師助祭、ダイモンド師副助祭で荘厳ミサが捧げられたが、ミサの開始部で大雨となつたため聖堂に式場を移した。ミサ後 なお降りしきる 雨をおかして、千人塚までローソク行列を行つたが信者および市民約千名が参加した。

洞窟は岩と土を積みあげた高さ八メートル、長さ一五メートル＝八二〇平方メートル、二五〇坪＝のもので、白セメント製の高さ一メートルの聖母像が安置され、洞窟の前に日本式の池が作られその中央に聖女ベルナデツタの跪き像がおかれている。

ルルド洞窟建設の発案者はライル師であるが、本渡市と同観光協会が全面的に協力を申し入れ、六十万円をそれに当て、資材の搬出、設計、現場監督など一切を奉仕したものである。一般市民が洞窟建設のため、これ程献身した例はまことに珍しい。

写真上はルルドの聖母像。下はベルナデタ像

千人塚で殉教祭

本渡観光協会主催天草殉教祭は前夜の祝別式につづいて、十四日午前十時より城山公園の千人塚前でカトリツクの儀式によつて挙行された。天候が定まらず開会が遅れたが、信者多数が列席し値賀市長、原田観光協会長、信者代表の祝詞、片岡長崎純心短大教授の講演「天草の切支丹ーマリアと聖体に対する信心」のあと、深堀司教司式、助祭 竹森 道師、副助祭堤敏雄師で荘厳ミサが捧げられた。聖歌は地元の水声合唱団が奉仕。ミサ後市中を練つて聖体行列を行い、キリシタン殉教の島はしばし聖歌と祈りで包まれた。

晩秋吟

素香

ひともとのコスモスゆらぐミサの祭
蔦紅葉ルルドの像に入日さす

恵女

部屋三つそれぞれ灯し秋更くる
手あぶりの運ばれ茶屋の鵙高音
筑紫路の湖水に写るはぜもみぢ
切株に憩えば落葉親しくも

牧泉

都府楼趾 小さき畑の 麦芽かな
時雨るるや熱きお茶出すお石茶屋

悔い改めよ

初冬の夜空にはるかな星を仰ぎながら、人生の旅をゆく心の耳をそばだつれば、洗者ヨハネがユデヤの荒野の奥から世に呼びかけた〝救主の来り給う時は近きにあり。汝ら悔い改めの業を以て、主の来り給う道を平らにして主をお待ち申せ〟との一言は、二千年の歳月をはなれて今われらの心にきこえる。

時は正に救主の御降誕を待つ待降節である。主をわが中に迎えまつるために心を整えるべき時である。しかし自分の心のうちをひそかにのぞいてみると、罪のために大穴があいてはいないか、大小のでこぼこができてけわしくなつていないか、罪への執着、抑制されない情欲のためにただれ、けがれ、ゆがめられたままではあるまいか。かく糺明し、主の来り給う道を平らにせんとする心には、ユデヤの荒野から二千年の流れにのつて世紀をつらぬく冷厳な警告が、又新たな力を以て迫るものあでるであろう。

救主は早くも汝の心の入口に立ちて、汝が悔い改めの業を以て心を潔め、平らにし、主をお迎えする時を待ち給うのだ。汝おのが悔悛と主の来り給う道をいそぎ平らにせよと。

布教日の献金

（十月第三日曜）

福岡教区

大名町	四、四二一円
浄水通	一、〇〇〇
地行町	一、〇〇〇
蓑島	一、〇六〇
西新町	一、一三〇
高宮	三、一〇〇
那珂町	一、〇〇〇
吉塚	一、二〇〇
箱崎	ー
茶山	七七〇
大楠町	四六六
二日市	四〇〇
今村	九、三〇〇
久留米	四、四一一
大牟田	二、〇〇〇
古賀	三七〇
呼子	二、一一九
馬渡	ー
佐賀	二、八〇〇
唐津	五〇〇
鳥栖	五〇〇
伊万里	一、七一〇
鹿島	四一三
武雄	三〇〇
門司	一、六〇〇
小倉	四、五〇〇
湯川	四、〇五〇
戸畑	九、〇〇〇
（明治学園）	一三、〇〇〇
若松	一、二〇〇
八幡	一、三一〇
八王寺	一、一〇〇
黒崎	三、三〇〇
水巻	一、九四〇
直方	一、二〇〇
飯塚	一、九〇〇
田川	二五〇
行橋	一、一〇〇
新田原	四、〇〇〇
手取	三、二〇〇
健軍	一、一三〇
琵琶崎	六、〇〇〇
八代	二、一〇〇
人吉	一、〇〇〇
水俣	ー
隈府	一、六〇〇
玉名	八一〇
本渡	六五〇
大江	二、〇〇〇
崎崎	二、五〇〇
計	一一六、八六〇

宮崎教区

計	二四、五三〇

二十二号台風義捐金

九月末東日本を襲つた台風二十二号の罹災者のため福岡・宮崎両教区で義捐金と救援物資を集めました。佐賀、久留米その他の教会では街頭募金が行われ、その熱意の程がうかがわれました。なお物資は殆んど全部罹災地に直送され義捐金も司教館を経ずに送られたものがありました。左は司教館取扱いの義捐金の分であります。

福岡教区　一九三、二二四円
宮崎地区　三〇、六四六

福岡教区の皆様

このたびの横浜教区内の風水害罹災地に対しまして、多くの義捐金及び、お心ずくしの救済品の数々をいただきましたことを、教区一同、心から感謝致しております。

この紙上をお借りし、御礼の言葉を述べさせていただき、主における兄弟として、皆様および皆様の教区の上に、天主様の御保護のますます豊かにならんことをお祈り申上げます。

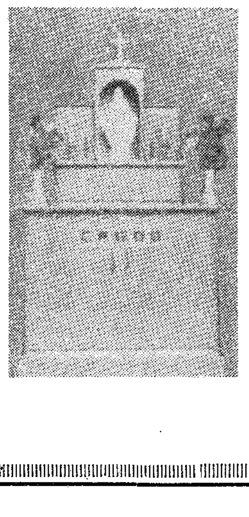
横浜教区

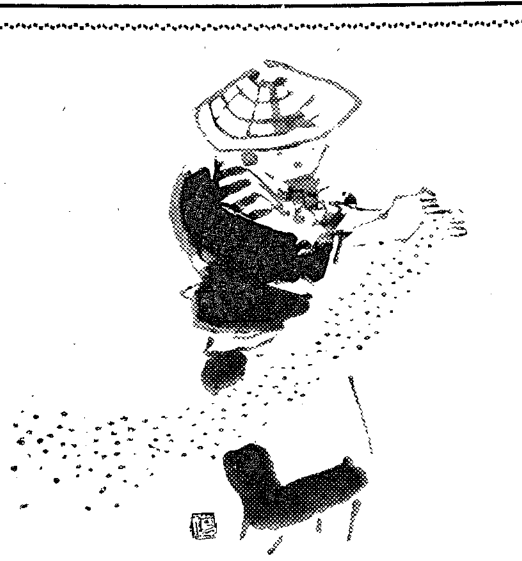
聖心の使徒
十二月号

表紙　クリスマス……G・シエーレル作
十二月の意向　スクリーンのうらおもて……H・エルリンハーゲン
台湾の教会……粕谷　源蔵
黙想　真の自由……真田　信男
クリスマス・ツリーの由来……吉田　淳
写真特集　クリスマス・ツリーの今昔……
真理と恩寵……三木　次郎
わたくしとあなたのクリスマス・ツリー……池淵　鈴江
青い玉の鎖……F・オースラ
写真コンテストについて……
枢機卿と市長……安斎　伸訳
未智の国へ……H・世良
ピオ十二世と祈禱の使徒会……H・チースリク
聖書の時間　神の選民の悲劇(下)……H・チースリク
ポスト……
新本めぐり……
ラテン語教室……J・ベチコフエル

講読会員費
一ケ月三十円送費　五円
一ケ年三百円送費五十円

発行所　東京都千代田区紀尾井町七
祈禱の使徒会本部


家庭用祭壇（十字架台付）
礼拝台　和洋家具一切
暁の星製作所
福岡市箱崎飛鳥町四一一四



遠足にて

二丈

くま笹をあるけばさやと葉ずれして
　くねぎならん黄の葉前にあり
道に散るもみじ落葉に息はずませ
　つり橋はどこど子供らはきく
谷あいの朱ぬりの鳥居古じみて
　老人二人そをくぐりぬけて行く
しぐれもよい堂の中の乙女らは
　平安仏の前に声をたてており

今村の聖体行列に加って

なでしこ

雨に明けた十月二十六日

端間に下車すると、ピカピカ、と薄日がさし、宝満川の流れは、キラキラと、金色に光つています

豊作の稲田の間を、バスにゆられて、十二、三分、伊東神父様がバスの窓から、「教会は、あれですよ」、と指差される方を見ると赤レンガの高い塔が二本そびえている。こんな稲田の中に

私達の考えも及ばない、美事な塔が、そして細い道を右に折れ更に右に入れると、車窓から見た、塔のみならず、いよいよ考えも及ばなかつた。大きな聖堂がそびえている

この間夢に見た、聖堂そのままで、何か神秘感に打たれました。

聖堂に入ると又その美事さ、荘麗さ、どうして、こんな美事な聖堂がここに、聖歌隊席の落ついた気分、今迄かつて見た事もない立派なオルガン、鐘桜の高さ六十尺とか、そしてその鐘のひびきの、温かさ。

この間の夢に、「聖母マリア様は、一年に一度、全世界を通じて只一ケ所、恵みの露の反省賞という賞を下されます。そして、その賞は、今年は日本の名もない片田舎の教会に下されます。日本人の前で、こんな事をいうのも、どうかと思いますが、日本人の信仰は歴史は浅いが誠をつくしての信仰で、大した物です」。と言う御言葉を耳にしました。その御言葉を伺つた場所は、誠にこの通りの教会の横庭でした。

鐘がなりひびくと、布製の日除けの様な物が入口から静かに出て来ました。それに天使がえがかれていました。

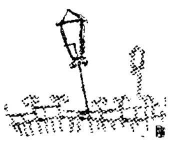
今日の聖体行列にも、鐘の鳴ると共に、その様な、おおいが、聖体を、おおい奉つて、静かに聖歌のひびく 中を、行列は 始りました。いよいよ、神秘感は身にせまり、畏敬の念に恐懼しつつ、生き且しろしめし給う 主に、従い奉る思いで、二時間余の聖体行列に祈り且聖歌を歌唱しつつ、加わらせて頂きました。

御行例に加わつた人数は、三千を下らなかつたと思われます。家の門にベールをかぶり土下座してつつましく、コンタツをつまぐり聖体の御通過に、十字を切る。老婆の姿もここならでは、と、眼底（まなぞこ）深くきざまれました。

それぞれの晴着に身を よそおつて、一年一度の 御聖体のお出ましに お供しようと集う老若男女の面には、かがやかしい喜びの色がみなぎり、聖歌隊の聖歌は、きよくゆるやかに流れて 誠に御聖体の渡御にふさわしい情景でした。

伺えば、この祭壇の下こそ 殉教の尊い血を以てあがなわれた。聖地であることを知りいよいよ御はからいの偉大さに胸打たれました。

「聖国の来らんことを」と真心を以て祈り通された。そしてそのためにころ 生命迄も捧げつくされた。殉教のあがないとして、今村には、正に、一村挙げて聖国が形成されている事を、目のあたり見せていただいて、私達も信仰を深め、心を高く天に揚げて濤く祈り且精進しなくてはと、自責の念にかられつつ、本郷教会に聖体を訪問し奉り、夕暗に閉ざされた中を、聖き一日の喜びに、ひたりつつ、福岡へと、帰りました。



「おきんこになくこ」

アントニオ

福岡県の名産におきうとというものがある、おきうと草という海藻を煮て、つくつたものだそうだが、福岡に育つた人には、なつかしい 郷土の味 というものである。

どこに行つても、この郷土の味ば忘れられぬと見えて、現在ではこれを干物にして、東京でも売つているとか。これを水にもどして食べたら どんな味が することやら。

形はこんにやくに似ていて、色はうす茶に黒をまじえたような。海の香がただよつて、いいものであるが、たべつけぬと、名物にうまいものなしである。

毎朝、くらいうちから「おきうとー」との呼声がする。私の子供の時代は、このおきうと一本槍で「おきうとわーあい、おきうとわい」と売りに来ていたのであるが近頃はせち辛くなつて、一つだけでは収入が足らぬし、また納豆がははをきかせて来て、うり声まで「おきうとになつとう」となり、はなはだしいのは「おきうとになつとうにもろみー」と三つ並べて叫んでいる。

うちの子供たちは親に似たせいか、どうも寝ぼすけである。よその子供のことをきくと、親をおこす子も居るとか。大したものと思う。

それで子供たちを起すのに、この味び声をつかつている。

「おきうとになつとう」

「おきん子ーになくこー」

これをくりかえすと「ちがう」といつてふとんから頭をあげる

「おきうとになつとう」と子供たちがいう。

おきうとやさんは早くおきているから、子供たちとはちがう。お前たちは、寝ぼすけだから

「起きんこうやる」というと下の妹が

「おきうとになつとうにもろみやんねえ、兄ちゃん」と兄に合ずちを求める。

「べらべらなくから、泣く子ーでねぼすけだから、起きん子ーたい」

このおきうとと起きんこ問答をすると、やがてはのこのこ起き出す。

おきうととなつとうだけは、いいかえがきくが、最後の「もろみ」だけは、これに似た良いいいかえがなく、今の所、お手あげである。

そして、本当はおきうととなつとうで、良い子たちは、ちゃんといえるが、ねぼすけや泣く子は、起きん子に泣く子と聞こえると説明する。子供たちは、それぞれ納得する。

ほめること、おだてること。そして自分で出来るという自信をもたせること。

こう思いながらの毎朝の一風景である。

ヘルマン・ヘツセ著

「車輪の下」を読んで

明治学園中学校三年　三井　昭子

ハンス・ギーベンラートは彼の小さいシユワイツツルトの町に落ちてきた神秘的な火花であつた。少くとも町の人や先生、父親などからそう期待され、特別な存在として取り扱われていた。そして彼は過去八百年もの間、かつて能才とか天才とかを生んだことのないこの町から「州の試験」ー国家が地方の秀才を選抜する為に例年行なつているところのーに送り出される唯一の代表者でもあつた。

そのために彼が取組んでいる勉強というものは全くすさまじい限りであつた。規定の学業の他に夜も牧師さんや数学の先生の処へ通い、彼の世界は明けても暮れても験試の鬼に責めたてられているような有様であつた。

ーどこでも同じだ、と私はハンスの境遇に同情を感じる。しかし同時に彼に対して、というよりも彼がそうした窮地に追い込まれずにいられなかつた事態に対して、強い反ぱつも感じたのである。私も彼のように高校入試を数カ月先きに控えて、毎日補習のため早起きし、夜更けまで勉強する。模擬テストの度にほつとしたり、がつかりしたりする。

周囲から天才扱いをされ、特別な尊敬の注目を浴びていたハンスはどんなに 不安だつたこと だろう。こうした彼には「激しい勉強のために情操を閑却し、枯渇させてはならないというので、聖書の授業に出ること」が先生方に許されていたし、「数学も一見値打がないようにみえる複雑な比例法は実際は倫理的な能力を養い、一切の明快で冷静、適確な思考の基礎となるものである」からきわめて重要な意味をもつていた筈であつたが、ハンスは切角のその「若いものの心に宗教的なさわやかな息吹きを吹きこんでくれる」大切な聖書講義の時間にさえ、ギリシヤ語やラテン語の単語とか練習問題を書きつけた紙切れを持ちこんだりして、全然自分の精神的なものの必要を 満たそうとは しなかつた。こういうことがやがて、どんな結果になるかということも彼には考えつかなかつたのではないかと思う。

やがて州の試験にみごとな成績で合格した彼に、輝かしい将来が約束されているかのように見えながら、憧れの学校生活の途中で、彼のせまく固く堅められていた天才の道は砕かれ、冷酷な運命の犠牲者として消え去つてしまうのである。

彼のあれほどまでの苦しい努力の最後には何が残つたろう。運命という車輪の下にうち砕かれてしまわなければならなかつたハンスと私自身のことを考える、私の方が彼よりもはるかにましだと思えるものが一つある。それは彼が無視したものを私は却つて大切に拾い上げ、その価値を認めることができたことである。

天国で与えられる幸福というものは真理そのものでいらつしやる天主様を直接に眺めて限りない喜びに浸されることであり、苦労して勉強する目的も知識欲も皆「人生の真の目的、と深い関係があることを教えられた倫理の時間から私の勉強生活の中には天主様に対する信仰と愛と憧れがはいつてきた。これがハンスが見失なつたもので私の拾い上げたものなのである。だからハンスの先生方がハンスに与えようとした知識や教養の数々は、この本を読んだお蔭げで私の信念の保証となつた。

ぶつくがいど

生活が単調で、機械的、味気なく思われるような時には、ミサ典礼書を開かれたらいかがでしようか。長い信心書は読むに物憂いような時でも、これの一日分は短いものなので、さして億却にもなりません。しかもこれは特定の個人によつて書かれたものではなく、全く客観的な教会の典礼そのものであるので何か底の知れない力強さを感じさせます。一見無感動のように思われるこれらの文章が、ある時には何と しみじみとした情感をもつて迫つてくることでしよう。まさしくこれは神の御言葉の有難さとでもいうのでしよう。そそくさと六日間を過して日曜日の聖堂、まだ御ミサまでには間のあるという時間、静かに御聖体の前にぬかづいて、開いたミサ典書のその日の入祭文が、一週間のたまつた労苦を溶かし流す程、ぴつたりと胸にくることがしばしばあります。全く今の自分のために語られている御言葉ではないかと思い、思わず目がしらがあつくなることさえあります。その点長江恵訳のミサ典礼書は、訳文といい、体裁といい、値段といい、類書中の出色の出来栄えだと思います。

例えば試みに開いた、御公現後第五の主日の箇所を、拝読してみましよう。まず目につくカツトの素晴らしいこと、気のきいていること、うつとりとしてしまいます。その下にその日の典礼の大意が述べられていますが、これが又実に要領よくまとめられて居ります。教会の理想的姿は、本日の書簡に描かれているような愛の支配する美しいまどいでなければならないが、

ミサ典礼書

長江恵 訳

悪の存在にも失望してはならない。天主は人間自由のが産み出す悪をさえ、善のために役立たせ給うから、という意味のことが五六行でかつきりとまとめられておりま。

今、光明社発行チト・チーグレル訳と長江恵訳の比較をしてみましよう。

入祭文

主の天使達よ、皆主と拝み奉れシオンは聞きて歓べり、且ユダの女等は大いに楽しめり、主は治め給う、地は喜び躍り、多くの嶋々は歓ぶべし。

天主を礼拝せよ、天主のすべての天使たちよ。シオンは聞きて悦べり。しかしてユデアの 娘たち は悦びおどり。主は治め給いたり。願わくは、地は悦び、多くの島々は楽しまんことを。

意味は全く同じでありながら後者の訳は如何に小さな処まで神経が行き届いているかが分ります。天主を礼拝せよが冒頭にきており、悦の字が使われ、主は治め給いたりと継続の意を表す、強い調子をもつた助動詞が使われております。一読して意味がぴんとき、訳者の共感がこもり、しかも 口調 がよいのです。それは聖体拝領誦の只の一句をみても分ります。

人皆、天主の御口より出る奇しき事に驚けり。

かれら皆、天主の御口より出ずる麗わしき言葉に驚きたり。

奇しき事が麗わしき言葉にかわつただけで、その感銘の度合がずつと違つてくることは驚く程であります。麗わしい言葉の又何と麗わしいことでありましよう。

紙数も残り少なくなりましたが、福音の毒麦さえも抜き給わない天主の御慈悲を考えながら聖パウロの、人に対して苦情あらば互に宥恕し、主のなんじらに赦し給いし如く。なんじらもまたしかせよ。なおこの一切の事に加えて愛を有せよ。愛は完徳の結なればなり、との書簡の御言葉を何度も口ずさむのであります。

（一七〇円、エンデルレ）（M）

古い歴史・新しい内容

コンサイス英和辞典	三八〇円	革 五〇〇円
コンサイス和英辞典	三五〇円	革 四七〇円
コンサイス英英辞典	四五〇円	革 五五〇円
デイリーコンサイス英和辞典	二〇〇円	革 三〇〇円
新クラウン英和辞典	縮刷版 四二〇円 D版 四八〇円 大型版 八五〇円	
ジエム英和・和英辞典	五〇〇円	
明解英辞典	二五〇円	
中学英和新辞典	二五〇円	
初級コンサイス英和辞典	一七〇円	
初級コンサイス和英辞典	特価 一五〇円	
三省堂独、和新辞典	五二〇円	
コンサイス独和辞典	四二〇円	
コンサイス仏和辞典	新版 五〇〇円	
コンサイス露和辞典	六〇〇円	
日西辞典	二、〇〇〇円	
商業英語活用辞典	六五〇円	

辞書は三省堂

辞海	縮刷版 一、〇〇〇円 背革特装版 二、〇〇〇円
新版広辞林	一、〇〇〇円
広辞林	九〇〇円
新小辞林	三〇〇円
明解古語辞典 改訂版	四八〇円
小辞林	三〇〇円
新修国語小辞典	一五〇円
音訓両引き国漢辞典	三五〇円
新撰漢和辞典	七〇〇円
明解漢和辞典	三五〇円
三省堂大六法全書	一、一〇〇円
模範六法全書	三七〇円
明解六法	一五〇円
学習百科事典	八〇〇円
明解日本語アクセント辞典	五〇〇円

SSD
東京・大阪
名古屋・福岡
三省堂